25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語学入門 210						
教員名	教員　未定						
科目№	125131100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、英語学の基礎について学びます。英語という言語を、音韻論、形態論、統語論、意味論などといった言語学の各分野の視点から分析します。また、日本語をはじめとする他の言語との比較を通じて英語の特徴を明らかにします。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の２点を到達目標とする。
・英語の仕組みや特徴を言語学の概念を用いて説明できるようになる。
・英語の多様性や、言語・文化・社会に関する深い理解を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：言語とは、英語とは	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第２回	音声学・音韻論１	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第３回	音声学・音韻論２	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第４回	形態論 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第５回	形態論 2	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第６回	形態論 3	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第７回	統語論 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第８回	統語論 2	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第９回	意味論 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第１０回	意味論 2	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第１１回	語用論 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第１２回	語用論 2	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第１３回	英語の多様性、言語・文化・社会、最終テスト	授業内容を復習するとともに、発表の準備を行うこと。	120 分
第１４回	学生による発表・ピアレビュー、最終テストの解説	学期中に学んだ内容を復習し、発表の準備を行うこと。	120 分

〔授業の方法〕
本授業は、講義とグループディスカッションを交えて進める。毎回の授業の終わりには、その日の内容を確認するための小テストを実施する。小テストは履修者の理解度を確認することが目的であり、授業に出席し、小テストを受けた場合は満点とみなす。なお、最終回は講義を行わず、学生による発表・ピアレビューと最終テストの解説を実施する。

〔成績評価の方法〕
小テスト（40%）、ディスカッション（20%）、最終テスト（5%）、口頭発表（30%）、口頭発表のピアレビュー（5%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。
・英語の仕組みや特徴を言語学の概念を用いて適切に説明できるか。
・英語の多様性や、言語・文化・社会に関する深い理解を身につけているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
適宜、資料を配布する。

〔参考書〕
授業内で必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語史Ａ312						
教員名	田辺　春美						
科目№	125131220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
英語という言語がどのようにして発達してきたかを概観する．　どの言語も時の流れの中で変化するが、英語が被った変化は目覚ましく、他のヨーロッパの言語には見られない方法で、疑問文や否定文、進行形を作る。語彙の多さも類を見ない。本講義では、印欧祖語から古英語、チョーサーの中英語、シェイクスピアの初期近代英語を経て現代英語へと時代が変遷するにつれて生じた、発音，スペリング，形態，文法，語彙の変化とそのメカニズムについて学ぶ．
　英語の歴史について学ぶことは現代英語をよりよく理解することにつながるので、選択科目ではあるが英語英米文学科の学生の多くに履修してほしい。

〔到達目標〕
DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-2（教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。
（１）英語の始まりから現代英語までどのような変化があったか概略を理解する。
（２）標準英語がどのように成立したのか理解する。
（３）発音、語彙、形態、文法の変化はそれぞれ英語という言語の内的なメカニズムと文化的な事情により、個別に発達していることを理解する。
（４）標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について考察を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の紹介 国際語としての英語	【【予習・復習】『英語の歴史』第１章国際語としての英語、配付資料を読み、内容を理解する。	60 分
第２回	英語のルーツ 印欧祖語、グリムの法則	【予習】『英語の歴史』第２章英語のルーツ、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第３回	英語史の概観ー古英語・中英語時代	『英語の歴史』第３章語彙の増大１英語史の概要、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題に取り組む。	６０分
第４回	古英語の豊富な語尾変化（1−1）格変化、名詞、指示代名詞の活用	【予習】『ファンダメンタル英語史』第５章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第５回	古英語の豊富な語尾変化（1−2） 人称代名詞、動詞	【予習】『ファンダメンタル英語史』第５章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第６回	古英語の語彙 ヴァイキングが英語に与えた影響	【予習】『英語の歴史』第 3 章　1 古英語期、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】課題、練習問題に取り組む。	６０分
第７回	中英語の語彙 The Canterbury Tales からの抜粋	【予習】『英語の歴史』第 3 章　2 中英語期、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】課題、練習問題に取り組む。	６０分
第８回	語順の変化	【予習】『ファンダメンタル英語史』１０章を読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第９回	否定文・疑問文の do の発達	【予習】【予習】『ファンダメンタル英語史』１２章を読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１０回	助動詞の意味変化	【予習】『英語の歴史』第４章　綴り【予習】『英語の歴史』第４章、綴り字・発音・文法の変化、２文法を読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１１回	綴りと発音の不一致 大母音推移	【予習】『英語の歴史』第４章　綴り字・発音・文法の変化、１綴字と発音のずれを読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１２回	標準英語の発達ージョンソンの辞書と規範文法	【予習】配布資料を読む。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１３回	現代の英語に見られる変化	【予習】『英語の歴史』第６章現代の英語、３差別撤廃運動、４性差とフェミニズムを読み、内容を理解する。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１４回	到達度確認試験実施	【復習】教科書や配布資料を見直し、復習する。	１２０分

〔授業の方法〕
教科書、配布プリントをもとにした講義と練習問題。
補助教材として、DVD 教材であるメルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』、BBC の『ストーリー　オブ　イングリッシュ』を視聴しながら、楽しく進めたい。

〔成績評価の方法〕
平常点と到達度確認試験による。授業への積極的参加、クイズ、コメントシートなどの平常点が６０％、到達度確認試験が４０％。

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。次の点に着目し，その達成度により評価する。
（1）英語の始まりから現代英語までの歴史の概略を説明できる。
（2）標準英語がどのように成立したのか説明できる。
（3）英語の発音、語彙、形態、文法の変化のメカニズムを理解している。
（4）標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について概要を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：英語学入門
関連科目：英文法、英語音声学、社会言語学

〔テキスト〕
寺澤盾『英語の歴史』(中公新書)、中央公論社、902 円、ISBN 978-4-12-101971-4 {Kindle あり]

〔参考書〕
「購入の必要なし」
家入葉子『ベーシック英語史』ひつじ書房、1600 円＋税、ISBN 978-4-89476-349-4
P. グッデン『物語　英語の歴史』田口孝夫監訳、悠書館、2600+税、ISBN 9784-9-03487-52-6
児馬修　『ファンダメンタル英語史　改訂版』　ひつじ書房、1728 円、ISBN 4894768771
西光 義弘他『日英語対照による英語学概論　増補版』くろしお出版、1999 年、2750 円、　ISBN 978-4-87424-169-1 C3081
堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解 --- 納得して英語を学ぶために』中央大学出版部、950 円、ISBN 978-4805727041
堀田隆一『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社、2376 円、　ISBN 978-4-627-40168-9
唐澤一友『英語のルーツ』春風社、2000 円、ISBN 978-4-86110-283-7
宇賀治正朋『英語史』（現代の英語学シリーズ８），開拓社，3500 円，ISBN 4-7589-0218-6.
メルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』アーティストハウス，1800 円．ISBN 4-04-898174-9.
R. McCrum , W. Cran and R. MacNeil, The Story of English, BBC Publications, ISBN 0-563-20620-9.
David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, Cambridge: CUP, ISBN 0-521-40179-8.
David Crystal, Evolving English: One Language, Many Voices, British Library, ISBN 978-0-7123-5098-3.
DVD メルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』
DVD　『ストーリー　オブ　イングリッシュ』

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	English Around the World 314						
教員名	ジャマール　モーリス						
科目No.	125131240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
This course introduces students to the story of English and its role in today's world. We explore some of the core issues concerning English such as its history, its varieties and its status among native speakers. We will also consider political and social issues surrounding English such as its positive and negative impacts on other languages and cultures. By the end of the course, students will have a deeper, richer understanding of English around the world.

〔到達目標〕
In addition to content goals (see below), students will develop the following skills:
· Independent learning
· Discussion and argument-building skills
· Group and teamwork management
· Time management techniques
· Critical thinking development
The course will be taught in accordance with Seikei University's Diploma Policy goals, Nos. 1, 2, 3 and 4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Course overview	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第２回	. The Story of English (1) The history of the origins and spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第３回	. The Story of English (2) The history of the origins and spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第４回	English varieties: Comparison of grammatical and lexical differences between English varieties.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第５回	The Sounds of English: Comparison of phonological differences between the dominant English varieties.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第６回	Standard English (1)? An overview of the debate surrounding 'standard' English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第７回	Standard English (2)? Language and power; features that convey high and low status in English varieties	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第８回	Krachu's Model: English users around the world.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第９回	Linguistic Imperialism: The negative side/consequences of the spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１０回	Language Ownership: Who owns English? Who gets to say what's 'correct' and what's 'bad' English?	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１１回	Cultural Politics and English as an International Language	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１２回	English and its contribution to Language Death.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１３回	Language and Identity: At the national, local and individual level.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１４回	The Future of English as the World's Language: Will /Should English continue to be the world's dominant language?	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes

〔授業の方法〕
The class will comprise of a balance between teacher-led instruction and pair and group work discussions and debates.

〔成績評価の方法〕
· Classwork: 50%
· Homework: 25%
· Reflection Sheet: 25%

〔成績評価の基準〕

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
Materials will be provided by the teacher

〔参考書〕
A reading list will be provided by the teacher.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
Questions are accepted immediately before and after class.
Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.

〔特記事項〕
Most of the time, teacher and students will use English.

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	対人関係の言語学 315						
教員名	ジャマール　モーリス						
科目No.	125131250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
The aim of this course is to help student have a deeper understanding how English is used in real life, in the real world, in real communication situations. The course takes you beyond simply vocabulary, grammar, structure and 'speaking skills'. It will give you a richer knowledge about HOW people communicate through the language choices they make and how you can make those choices. As well as English, this course will also give you a better understanding of how your own language, Japanese, works as well.

〔到達目標〕
By the end of the course, you will be able to understand:
1. the meaning and mechanics of social contexts.
2. Language and social roles.
3. how politeness works in English.
4. how politeness works in Japanese.
5. how language changes depending on cultural contexts.
The course will be taught in accordance with Seikei University's Diploma Policy goals, Nos. 1 and 4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Course introduction/meeting the teacher and other students.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第２回	What is communication 1?	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第３回	What is communication 2?	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第４回	Choosing the right words (1)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第５回	Choosing the right words (2)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第６回	Language and social context: who are you talking to? (1)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第７回	Language and social context: who are you talking to? (2)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第８回	How we organise conversation: The work os H.P. Grice	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第９回	How to be polite (1): Saying exactly what you mean.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１０回	How to be polite (1): Saying exactly what you mean. (2)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１１回	Language and Culture: The work of Milton Bennett.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１２回	Pragmatic tools: implicature and entailment	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１３回	Pragmatics and the voice: pronunciation and intonation.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１４回	Course Review/Test	course reflection sheet	60 minutes

〔授業の方法〕
There will be some teacher led classes but most of the time, students will work in pairs and small groups.

〔成績評価の方法〕
Classwork: 50%
Homework & Assignments: 25%
End of term test & Reflection sheet: 25%

〔成績評価の基準〕

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Diploma Policy Regulations, especially:
DP1-1
DP1-2
DP1-5

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
None.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the teacher. There is no set textbook.

〔参考書〕
A reading list will be provided at the beginning of the course.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Questions are accepted immediately before and after class.
Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.

〔特記事項〕
The class will be taught in English. However, there will be references to the Japanese language and some discussions will be conducted in both English and Japanese.

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会言語学 316						
教員名	森住　史						
科目№	125131260	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
私たちが毎日使う言語は、私たちの住む社会や文化、価値観の影響を受けています。そして、その逆もまたしかり。社会言語学は、実際に使われている言語（書き言葉、話し言葉）を分析し、様々な角度から社会と言語の関係をとらえる学問です。授業では英語圏における「社会と言語」のトピックを幅広く扱い、社会言語学とは何か学ぶ機会を設けるとともに、実際に、自分たちが使っている言語、目にする・耳にする言語についても批判的に捉えられるようになることを目標とします。
さまざまなトピックを扱うため、その後のいろいろな授業での学びや後の卒論にも応用できるような知識や関心を養うことも期待できます。

〔到達目標〕
DP1, DP2, DP5, DP6　に沿って以下を到達目標とする。
1.　英語で書かれた社会言語学のテクストを読み、理解し、解説できるようになる。
2.　社会言語学の基本的な概念・アプローチ、用語を身につける。
3.　自分の身の回りの言語事象・言語活動に対し、客観的で批判的な捉え方ができるようになる。
4.　毎週の課題を通して、自分でリサーチしたり考えたりしたことをわかりやすく論理的に伝えられるようになる。
5.　グループワークを通して、人の意見に耳を傾け、理解し、それに対して自分の見解を述べられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Introduction Ch. 1: Why study language? 言語と社会の研究について	指示に従って予習・復習・課題をすること。	60 min
第２回	Ch, 1: cont. Ch. 2: Language, thought, and representation	指示に従って予習・復習・課題をすること。	60 min
第３回	Ch. 2:　cont. 言語分析の方法の１つを紹介	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第４回	Ch. 3: Language and politics 1	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第５回	Ch. 3: Language and politics 2	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第６回	Mid-term review 持ち寄り Library #1 （社会言語学）	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第７回	Ch. 6: Language and gender 1	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第８回	Ch. 6: Language and gender 2	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第９回	Ch. 7: Language and age	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１０回	Ch. 9: Language, class, and symbolic capital	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１１回	Ch. 9: cont. Ch. 10: Global Englishes	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１２回	Ch. 10: Global Englishes	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１３回	持ち寄り Library #2（テーマを決めて）	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min
第１４回	Review （受講生の興味のあるテーマ 追加で）	指示に従って予習・復習・課題をすること。	90 min

〔授業の方法〕
＊教科書は初回から使用。手元に準備して臨みましょう。
毎回の授業は、「気付き」のシェア、あるいはリフレクションや課題の発表からスタート。
また、毎週何らかの課題（ネット上のリサーチや自分の経験について書くこと）が出されるので、欠席した場合には CoursePower で授業資料を確認し、他の受講生と同様に提出をすること。授業中のディスカッション（話し合いの時間は多いです）も、この課題の中のトピックが中心になります。
関連した本や論文を読んで他の受講生に説明する機会もあります。
また、毎回の授業内容は、受講生の興味・関心により変わる可能性がありますので、これも毎回の授業資料を確認してください。
なお、やむなく欠席をする場合にはなるべく事前に担当教員までメールで連絡をしてください。

〔成績評価の方法〕

授業への積極的な参加・貢献　42%
毎週の課題（提出物を中心に）　58%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
Seminar 400 < 6 > および Seminar 500 <7>, Seminar 600 <7> の受講生はぜひこの授業もとって欲しいと思います。セミナーの授業だけではカバーしきれない基礎的な社会言語学のアプローチや概念について知るために非常に良い機会です。また、「対人関係の言語学 315」も関連の深い授業なので、この授業と一緒に取ることでそれぞれの授業の理解がより深まることが期待できます。

〔テキスト〕
Mooney, A. and Evans, B. (2023). Language, society and power: An introduction, 6th edition. Routledge.
ISBN 978-0-367-63844-3

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
ICT 活用

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語学研究基礎A317						
教員名	町田　章						
科目№	125131270	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では，ことばと認知の関係，さらには，ことばと文化の関係について学びます。その際，特に，日本語との比較を通して英語話者のものの見方や思考法，文化の違いについて考察します。

〔到達目標〕
身近に潜んでいることばの不思議に気づくことができる。
気づいた言語現象を自らの力で分析することができる。
そのような能力を使い社会の様々な現象を考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	教科書の目次に目を通してくる。	60 分
第２回	経験科学としての言語学	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第３回	意味とは何かⅠ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第４回	意味とは何かⅡ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第５回	用法基盤モデルⅠ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第６回	用法基盤モデルⅡ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第７回	プロトタイプ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第８回	メタファー・メトニミー	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第９回	概念メタファー	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１０回	主観性Ⅰ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１１回	主観性Ⅱ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１２回	間主観性Ⅰ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１３回	間主観性Ⅱ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分
第１４回	まとめ	教科書の指定された箇所を読んでくる。	60 分

〔授業の方法〕
授業はパワーポイントを用いた講義式ですが，頻繁に隣近所の学生同士でディスカッションを行います。
試験は，授業内で論述式の小テストを行います。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパー）50%，小テスト 50%。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
『AI 時代に言語学の存在意味はあるのか？』，町田章，ひつじ書房，2200 円，ISBN: 978-4-8234-1207-3

〔参考書〕
『認知統語論』町田章（他），くろしお出版，4500 円，ISBN: 978-4-87424-888-1

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語学研究基礎Ｂ318						
教員名	教員　未定						
科目№	125131280	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、日本人の英語学習を心理言語学の観点から捉え直します。心理学における科学的アプローチ（問題提起、実験デザイン、データの収集と分析、考察）を通じて、学生が理論的背景から自身の外国語習得と使用の経験までについて主体的に思考を深め、客観的に分析する体験を提供します。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・心理言語学における主要な概念および実験研究の基本的な考え方を理解することができる。
・自身や身近な英語学習の現象を、心理言語学の理論や知見に基づいて客観的に分析し、考察することができる。
・学習行動全般を多角的に捉え、創造的かつ柔軟に課題解決に取り組む姿勢を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：英語学習と心理言語学	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第２回	技能としての英語学習 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第３回	技能としての英語学習 2	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第４回	英語学習の各側面：音声・音韻 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第５回	英語学習の各側面：音声・音韻 2	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第６回	英語学習の各側面：語彙 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第７回	英語学習の各側面：語彙 2	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第８回	英語学習の各側面：文法 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第９回	英語学習の各側面：文法 2	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第１０回	英語学習の各側面：談話・会話 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第１１回	英語学習の各側面：談話・会話 2	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第１２回	英語学習における知情意の発達 1	授業内容を復習するとともに、授業中に指定した次回の内容を予習すること。	60 分
第１３回	英語学習における知情意の発達 2、最終テスト	授業内容を復習するとともに、発表の準備を行うこと。	120 分
第１４回	学生による発表・ピアレビュー、最終テストの解説	学期中に学んだ内容を復習し、発表の準備を行うこと。	120 分

〔授業の方法〕
本授業は、講義とグループディスカッションを交えて進める。毎回の授業の終わりには、その日の内容を確認するための小テストを実施する。小テストは履修者の理解度を確認することが目的であり、授業に出席し、小テストを受けた場合は満点とみなす。なお、最終回は講義を行わず、学生による発表・ピアレビューと最終テストの解説を実施する。

〔成績評価の方法〕
小テスト（40%）、ディスカッション（20%）、最終テスト（5%）、口頭発表（30%）、口頭発表のピアレビュー（5%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。次の点に着目し、その達成度により評価する。
・心理言語学における主要な概念および実験研究の基本的な考え方を理解しているか。
・自身や身近な英語学習の現象を、心理言語学の理論や知見に基づいて客観的に分析し、考察することができるか。
・学習行動全般を多角的に捉え、創造的かつ柔軟に課題解決に取り組む姿勢を身につけているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
適宜、資料の配布を行う。

〔参考書〕
授業内で必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語史Ｂ412						
教員名	田辺　春美						
科目№	125131320	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
<中英語ロマンス Sir Orfeo：愛、忠誠、異界と妖精>
Sir Orfeo は、１３世紀末にロンドンで書かれたロマンスで、妖精に連れ去られた妻を探しに異界へと旅する騎士 Orfeo の話である。Orfeo の妻を思う気持ちに誰しも心を揺さぶられるだろう。日本にもイザナギがイザナミを黄泉の国から連れ戻そうとするこれと似た話がある。
この話は、中世ヨーロッパでは、ヴィルギウスの『哲学の慰め』などを通して広く知られていたが、イギリスではケルトの影響を受けて楽しく明るい結末となっている。この授業では、原文の中英語で作品を読み、踊りを踊る妖精、異界の王との取引、約束を守ること、別離と再会、王としての資質などの中世のモチーフを学ぶ。これらがシェイクスピアの作品にも引き継がれていることはとても興味深い。授業ではあまり知られていない、他の中世ロマンスも紹介する。
中英語の原文でしかも１３世紀と聞くと難しそうな印象があるかもしれないが、語彙も構文ものちの時代のチョーサーよりわかりやすい。前提知識がなくても学部生に簡単に読みこなせるレベルなので安心してとってほしい。

〔到達目標〕
DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-2（教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。
（１）中英語の文法、語彙、発音などの概略を理解する。
（２）中英語と現代英語の違いを知り、分析できるようになる。
（３）Sir Orfeo の文化的な背景について考察を深め、ヨーロッパ中世の文化を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Sir Orfeo の紹介 文化的背景と写本	シラバスを読む Sir Orfeo に関してどのような作品があるか調べて見る	60 分
第２回	Sir Orfeo の紹介 フランスのブレトン・レイとイギリスの妖精譚の違い Sir Orfeo の注意すべき文法	配布資料を読む	60 分
第３回	Sir Orfeo 講読　ll. 1-38	配布資料を読む	60 分
第４回	Sir Orfeo 講読　ll. 39-82	配布資料を読む	60 分
第５回	Sir Orfeo 講読　ll. 83-119	配布資料を読む	60 分
第６回	Sir Orfeo 講読　ll. 120-174	配布資料を読む	60 分
第７回	Sir Orfeo 講読　ll. 175-225	配布資料を読む	60 分
第８回	Sir Orfeo 講読　ll. 226-280	配布資料を読む	60 分
第９回	Sir Orfeo 講読　ll. 281-348	配布資料を読む	60 分
第１０回	Sir Orfeo 講読　ll. 349-404	配布資料を読む	60 分
第１１回	Sir Orfeo 講読　ll. 405-465	配布資料を読む	60 分
第１２回	Sir Orfeo 講読　ll. 466-520	配布資料を読む	60 分
第１３回	Sir Orfeo 講読　ll. 521-604	配布資料を読む	60 分
第１４回	まとめ 達成度確認試験	授業で扱ったところを復習する	120 分

〔授業の方法〕
授業は講義形式だが、受講者の人数によっては演習方式により行う。

〔成績評価の方法〕

平常点（毎回の授業への参加、貢献と課題）５０％と授業最終回の到達度確認テスト５０％により、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語学入門
イギリス文学史
「英語史 A312」でも中英語は学習するが、回数も少なくテキストを読むわけでないので、後期からの受講でも差し支えないように、ゆっくりと解説をする。

〔テキスト〕
特になし。必要な資料は配布する。

〔参考書〕
授業中に紹介する

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英文法 414						
教員名	石井　透						
科目No.	125131340	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
生成文法に基づいて、英語の多種多様な構文を分析し、従来の学校 テーマ・概要 文法だけからではわからなかった、人間の言語がもつ複雑で興味深い特性、そしてその背後で作用しているさまざまな普遍的原理・人間の言語処理のしくみについて学びます。

〔到達目標〕
(1) 英語の各構文を分析してその性質を正確に理解し、自分でも使えるようにする。
(2) それらの構文の背後で作用している普遍的原理・脳の言語処理のしくみについて、深く理解し説明できるようにする。
以下のディプロマポリシーを到達目標とします。
DP1-1　　英語英米文学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。
DP1-2　　文化的他者とのコミュニケーションにおいて基礎的な技能となる英語力を修得している。また、そのために必要な言語・社会・文化・歴史・芸術・思想に関する専門的な知識の中から個人の関心に応じて必要なものを修得している。
DP1-5　　第一・第二外国語習得論や語用論等、英語教育に必要な実践的知識や技能を修得している。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 生成文法理論の基本的な考え方、特に生得仮説(innateness hypothesis)について学ぶ。	生成文法理論の基本的な考え方について、テキストの Chapter 1: What is Linguistics? (p. 5 – p. 7, l. 16; p. 8, l. 18 – p. 11)を復習する。	60 分
第２回	生成文法理論の背景について学ぶ。	生成文法理論の背景について、テキストの Chapter 5, Section 5.1: Some Background Concept (pp. 143-148))を復習する。	60 分
第３回	英語の Yes/No 疑問文、及び助動詞と本動詞について学ぶ。	英語の Yes/No 疑問文、及び助動詞と本動詞について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 148-156)を復習する。	60 分
第４回	主語の概念について学ぶ。	主語の概念について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 156-163)を復習する。	60 分
第５回	統語的構成素について学ぶ。	統語的構成素について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 163-168)を復習する。	60 分
第６回	統語的構成素テストについて学ぶ。	統語的構成素テストについて、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 168-173)を復習する。	60 分
第７回	構造的多義性と不連続な依存関係について考察し分析する。	構造的多義性と不連続な依存関係について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 174-179)を復習する。	60 分
第８回	句構造規則、回帰性、変換規則について理解する。	句構造規則、回帰性、変換規則について、テキストの Chapter 5, Section 5.3: A More Formal Account of Early Transformational Theory (pp. 187- 194))を復習する。	60 分
第９回	依存関係、特に Wh 疑問文について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特に Wh 疑問文について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198)を復習する。	60 分
第１０回	依存関係、特に受動文と繰り上げ文について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特に受動文と繰り上げ文について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198)を復習する。	60 分
第１１回	依存関係、特にコントロール動詞について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特にコントロール動詞についてテキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198) More on Dependencies (Control Verbs) を復習する。	60 分
第１２回	照応形と束縛原理について学び分析する。	照応形と束縛原理について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 198-200), Chapter 11, Section 11.4 Special Topics (pp. 493-494)を復習する。	60 分
第１３回	句構造規則と変換規則の発展ついて学ぶ。	句構造規則と変換規則の発展について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 200-201), を復習する。	60 分
第１４回	原理とパラメータ理論について学ぶ。 小テスト	原理とパラメータ理論について、テキストの Chapter 11, Section 11.4 Special Topics (p. 492, pp. 424-426)を復習する。	60 分

〔授業の方法〕
テキストに沿って講義形式で行います。前の授業で学んだことを前提に次の授業が進んでいきますので、授業には毎回出席するようにして下さい。ある程度以上出席していないと成績評価の対象になりません。

〔成績評価の方法〕
学期末に「到達度確認小テスト」を行います。「到達度確認小テスト」70%、平常点(授業への参加状況)30%で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語学入門

〔テキスト〕
Akmajian, A. A. Farmer, L. Bickmore, R. Demers, R. Harnish (2017) Linguistics: An Introduction to Language and Communication (Seventh Edition), MIT Press. Chapter 1: What is Linguistics? (pp. 5-11), Chapter 5: Syntax: The Study of Sentence Structure, Chap

〔参考書〕
授業の際に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化入門 220						
教員名	遠藤　不比人						
科目№	125132100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
英語圏の文化研究の基礎を学びます。テーマは、ジェンダー、階級、セクシュアリティ、人種などです。これらの概念は「差異」と呼ばれますが、それらは社会をマジョリティとマイノリティに分断します。ジェンダーでいえば、男が前者、女が後者、人種でいえば、白人が前者、有色人種が後者にあたります。このような権力関係を分析するための理論を学ぶことになります。
それらの理論を学んだ後で、英語圏の映画をそのような視点から分析します。おもにハリウッド映画やディズニー映画が分析の対象になります。

〔到達目標〕
英語圏の文化研究における基礎的かつ領域横断的な教養を習得し（DP2-3）、国内外の映像テクスト（映画やアニメーションなど）に潜在する不可視の欲望や葛藤を理解することにより英語圏の文化研究の理論を実践的に作品の解釈に応用し（DP1-4）、卒業論文における文化研究のための基礎的な理論の習得とその実践的な応用をすることが目標です。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	シラバスをよく読んでおくこと。	30
第２回	ジェンダー理論 1	前回の授業で触れた内容をよく把握すること。	60
第３回	ジェンダー理論 2	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第４回	ジェンダー理論 3	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第５回	セクシュアリティ 1	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第６回	セクシュアリティ 2	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第７回	人種 1	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第８回	人種 2	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第９回	階級 1	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第１０回	階級 2	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第１１回	映画の分析 1	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第１２回	映画の分析 2	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第１３回	映画の分析 3	前回の授業で触れた内容をよく把握すること	60
第１４回	授業内の最終試験	これまで触れた内容をよく把握すること。	120

〔授業の方法〕
100 分のうち講義時間は 50 分程度で残りは毎回 reaction paper を提出してもらいます。提出されたものにはすべて講義中にフィードバックします。毎回の提出は出欠の管理としても使用します。評価は、これらの reaction paper の内容と最終試験の点数で決まります。

〔成績評価の方法〕
平常点（reaction paper）40%、最終試験 60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
購入の必要なし

〔参考書〕
購入の必要なし（講義中に適宜紹介する）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティヴ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 321（精神分析）						
教員名	遠藤　不比人						
科目№	125132210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
人間の発言はもちろん、様々な文化テクスト（小説や映画など）には「無意識」の領域があります。これは、発言をした本人、小説や映画を作った人でも自分では知ることができない心の領域です。しかしこの「無意識」が知らぬまに人の発言や作品を支配しています。これらを真に理解するためには、無意識へのアプローチが必要になります。そのための理論が精神分析です。この講義では、特に人間の「夢」がこの無意識によって紡がれている構造を学び、それを具体的な映画の分析に応用することを目指します。講義によって基礎知識を得た後で具体的な映像分析をする予定です。対象テクストにはジブリ映画などを考えています。

〔到達目標〕
精神分析という英語圏の文化研究における基礎的かつ領域横断的な教養を習得し（DP2-3）、国内外の映像テクスト（映画やアニメーションなど）に潜在する不可視の欲望や葛藤を理解することにより英語圏の文化研究の理論を実践的に作品の解釈に応用し（DP1-4）、卒業論文における文化研究のための基礎的な理論の習得とその実践的な応用をすることが目標です。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	フロイトの精神分析とは何か？	シラバスを読みこの授業の意図を理解する。できれば精神分析についてネットなどで情報を得る。	６０分
第２回	フロイトの夢理論について１	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第３回	フロイトの夢理論について２	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第４回	空飛ぶ夢	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第５回	消去できない音	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第６回	重層的な時間構造	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第７回	夢における知	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第８回	エディプス的欲望と葛藤	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第９回	反復する欲望	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１０回	夢と転生	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１１回	夢と語り	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１２回	具体的な映像分析１	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１３回	具体的な映像分析２	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１４回	具体的な映像分析３	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分

〔授業の方法〕
指定したテクストの内容を理解するために、毎回 Powerpoint を使用し、その要点について 40 分程度の講義をする。それと同時に、双方向の授業を実現するために、残りの時間では受講生が講義を受けた内容についての質問、コメント（意見は反論）をする。講義担当者はそのそれぞれに丁寧に応答し、interactive な教育効果を目指す。また、このタームの講義の締めくくりとして、受講者は習得した精神分析の夢に関する基礎理論を応用し、具体的な映像分析を自ら試みることを要求される。

〔成績評価の方法〕

平常点（６０％）、学期末の term paper（４０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
担当者が毎回 Powerpoint にして資料を提供する。

〔参考書〕
新宮一成『夢分析』（岩波新書）ISBN: 4-00-430653-1 を参考にする場合が多々あるので、各自で購入すると学習効果が増大することが期待できる（絶版なのでアマゾンなどで古本を購入することもできる）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティヴ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 322（コミュニケーション）						
教員名	小野　尚美						
科目№	125132220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
基本的には講義形式で行う。授業では、テクストを輪読しながら、授業の内容を理解していきます。講義の中で学生各自がコミュニケーション論の分野で興味を持った話題について調べ、学期末 presentation の機会を使って、理解を深めていきます。他の学生の発表も注意深く聞きながら、あらゆる側面から異文化間コミュニケーションについて考察していきます。教員の講義、他の学生の発表などを踏まえて、授業の振り返り試験で知識のまとめを行います。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）及び DP４（表現力・発信力）を実現するために、以下を目指す。
1）世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。
2）多様な文化背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解することができる。
3）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の方法と成績評価の方法について説明する。 授業：　「偏見・差別」について考える。	Chapter 6（偏見・差別）を読んでくる。	60 分
第２回	「偏見・差別」について考える。Discussion	Chapter 6（偏見・差別）を読んでくる。	60 分
第３回	言語と文化について考える。Discussion	Chapter 1（言語と異文化間コミュニケーションを学ぶ理由）を読んでくる。	60 分
第４回	言語と文化について考える。Discussion	Chapter 2（言語と社会化の過程）を読んでくる。	60 分
第５回	言語と社会化の過程について考える。Discussion	Chapter 2（言語と社会化の過程）を読んでくる。	60 分
第６回	文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力について考える。　Discussion	Chapter 3（文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力）を読んでくる。	60 分
第７回	状況における言語、コミュニケーション、文化、力について考える。Discussion	Chapter 3（文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力）を読んでくる。	60 分
第８回	非言語コミュニケーションについて考える。 Discussion	Chapter 4 を読んでくる。	60 分
第９回	非言語コミュニケーションについて考える。 Discussion	Chapter 4 を読んでくる。	60 分
第１０回	異文化における言語とアイデンティティについて考える。 Discussion	Chapter 6 を読んでくる。	60 分
第１１回	学期末 Presentation (1)	学期末 Presentation の準備をする。	60 分
第１２回	学期末 Presentation (2)	学期末 Presentation の準備をする。	90 分
第１３回	授業の振り返りテスト	振り返りテストの準備をする。	120 分
第１４回	授業の総括：授業全般を振り返り、学んだことについてまとめる。	授業のノートをよく読んでくる。	60 分

〔授業の方法〕
基本的には講義形式で行う。授業では、テクストを輪読しながら、授業の内容を理解していく。講義の中で学生各自が興味を持った話題について調べ、学期末 Presentation の機会を使って、理解を深めていく。他の学生の発表も注意深く聞きながら、あらゆる側面から異文化間コミュニケーションについて考察していく。教員の講義、他の学生の発表などを踏まえて、授業の振り返りテストで知識のまとめを行う。

〔成績評価の方法〕
授業参加（学期末 Presentation、ディスカッションへの積極的な参加、宿題など）50%、学期末振り返りテスト 50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。①授業の内容（教員及び他の学生の発言も含む）を注意深く聞いて理解することができる。②説得力のある Presentation を Power Point を使って行うことができる。③異文化間コミュニケーションについての様々な問題について理解し、それらについて自分の意見を持つことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
Jackson, Jane. (2020). Introducing Language and Intercultural Communication (2nd eds.). London: Routledge.
ISBN 978-1-138-48161-9

〔参考書〕
Masahiko, Minami. (2011). Telling Stories in Two Languages. Charlotte: Information Age Publishing, Inc.
直塚玲子. (1994). 『欧米人が沈黙するとき』 東京：大修館書店.
南雅彦. (2013). 『言語と文化』 東京：くろしお出版.
ヴァーカス・マジョリード. (1987). 『非言語コミュニケーション』 東京：新潮選書.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 323（ジェンダー）						
教員名	小林　英里						
科目№	125132230	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本授業では、ジェンダー論やフェミニズム批評を補助線にして、19 世紀のイギリス・ロマン派から 20 世紀後半にかけてのイギリス文学の作品を読む。ジェンダー非対称な社会のなかで、このことに敏感に反応した（男女を問わない）作家たちが、どのような文学上の戦略をとりながら、いかにして平等な社会実現へむけた試みをおこなったのかを考察していきたい。

〔到達目標〕
本学のディプロマポリシー【DP1-1】（専門分野の知識・技能）、【DP1-4】（専門分野の知識・技能）、【DP1-5】（専門分野の知識・技能）、【DP2-3】（教養の習得）、【DP2-4】（専門分野の知識・技能）、【DP3】（課題の発見と解決）、【DP4】（表現力、発信力】の実現のため、以下の事柄の修得を目標とする。
①イギリス文学の作品に精通する。
②批評理論（ジェンダー論、フェミニズム批評理論、ガイノクリティシズム）の基本概念を理解する。
③学術論文に必要な議論の仕方を学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：フェミニズム批評、ジェンダー批評、ガイノクリティシズムとは何か？	あらかじめシラバスに目を通しておく。	60 分
第２回	Mary Shelley, Frankenstein (1818) ①	授業内容を確認する。	60 分
第３回	Mary Shelley, Frankenstein (1818) ②	授業内容を確認する。	60 分
第４回	Mary Shelley, Frankenstein (1818)③	授業内容を確認する。	60 分
第５回	Mary Shelley, Frankenstein (1818)④	授業内容を確認する。	60 分
第６回	Mary Shelley, Frankenstein (1818)⑤	授業内容を確認する。	60 分
第７回	Mid-term　Review	授業内容を確認する。	60 分
第８回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ①	授業内容を確認する。	60 分
第９回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１０回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ③	授業内容を確認する。	60 分
第１１回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ④	授業内容を確認する。	60 分
第１２回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ⑤	授業内容を確認する。	60 分
第１３回	End-term Review	授業内容を確認する。	60 分
第１４回	総括	授業内容を確認する。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式。毎回、コースパワーを通じてレスポンス・シートを提出する。学期末はコースパワーを通じてレポートを提出する。

〔成績評価の方法〕
コースパワーを通じたレスポンス・シートおよび学期末レポート（80%）、平常点（20%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
近代以降のイギリスの歴史についての基本的知識があることが望ましい。

〔テキスト〕
特になし。(資料はコースパワーを通じて提示する。)

〔参考書〕
以下は、購入の必要はないが、参考にしてほしい。
メアリー・シェリー、『フランケンシュタイン』（光文社古典新訳文庫）
マーガレット・アトウッド、『侍女の物語』（早川書房）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ICT 活用

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 324（人種）
教員名	権田　建二

科目№	125132240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
奴隷制とそのインパクトーアフリカ系アメリカ人の歴史
19 世紀半ばまでアメリカ合衆国南部に存在していた奴隷制の歴史をアメリカ建国から廃止までたどると同時に、その影響として現代におけるレイシズムについて考えます。奴隷が書いた手記（slave narratives）や１９世紀半ばの文人たちの奴隷制に対する反応等の文学テクストを読むだけではなく，奴隷制を支持する南部知識人の擁護論や裁判の判決や新聞記事等の社会的・文化的言説を通して、また現代における人種問題について語ったテクストを通して、多角的に奴隷制とその影響を見ることになります。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする
1）アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史について理解を深める。
2）歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。
3）様々な種類の英文を読解する力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクションー黒人の歴史・アメリカの歴史	【復習】 今回分資料を再読。	60
第２回	黒人の歴史・アメリカの歴史	【復習】 今回分資料を再読。	60
第３回	黒人に対する補償ー奴隷制という過去 新世界における奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第４回	黒人に対する補償ー現代の貧困 合衆国における奴隷制の発展	【復習】 今回分資料を再読。	60
第５回	黒人と経済的格差ーGated Community	【復習】 今回分資料を再読。	60
第６回	新世界における奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第７回	合衆国における奴隷制の発展	【復習】 今回分資料を再読。	60
第８回	合衆国憲法と奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第９回	独立革命と奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１０回	トマス・ジェファソンと奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１１回	奴隷制廃止運動	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１２回	奴隷州と自由州の対立	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１３回	南北戦争とリンカーン	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１４回	まとめとセルフ・レヴュー	【予習】 セルフレヴューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60

〔授業の方法〕
講義形式による授業です。
毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。
プリントは CoursePower を使って配布する予定です。
また、毎回授業中もしくは授業後にリアクション・ペーパーを書くことが課されます。
これも CoursePower を使って配布・回収します。
授業後にリアクション・ペーパーを書いて提出することが課せられた場合は、提出の期限は当該授業日の 23:59 までになります。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクション・ペーパー（80%）と学期末のセルフ・レビュー（20%）によって判断する。
リアクション・ペーパーは単に授業の感想を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものです。
毎回特定の課題を出しますので、それについて授業で学んだことに基づいて説明をし、さらに自分の考えを述べることになります。
毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度を確認します。
授業に出席しないことには、リアクション・ペーパーは評価の対象になりません。
また、リアクシ

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使いません。必要な文献等は毎回プリントにして配布します。

〔参考書〕
本田創造『アメリカ黒人の歴史』新版（岩波書店，新版 1994 年）
荒このみ『アメリカの黒人演説集』（岩波文庫，2008 年）
ベンジャミン・クォールズ『アメリカ黒人の歴史』（明石書店，1994 年）
アイラ・バーリン『アメリカの奴隷制と黒人：五世代にわたる捕囚の歴史』（明石書店，2007 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化研究基礎A325						
教員名	小野　俊太郎						
科目№	125132250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
Horror や Gothic は単なる幽霊譚や怪奇譚を超えて広範囲な文化領域に影響を与えてきた。前半では、Nick Groom や Noel Carroll などを参照して、Horror や Gothic の歴史や扱われた主題に関する理解を深める。後半ではポーの「アッシャー家の崩壊」、エミリー・ブロンテの『嵐が丘』、ヘンリー・ジェイムズの「ねじの回転」の３作品がどのような問題提起をしているのかを考える。

〔到達目標〕
DP1-（専門分野知識と理解）、DP3-（課題の発見と解決）、DP4-（表現力・発信力）を実現するために次の３点を目標とする。
①歴史的文化的な背景を踏まえてホラーやゴシックの影響を把握できるようになる。
②ホラーやゴシックと関連する作品への応用や課題を発見できるようになる。
③文学や文化へのホラーやゴシックの影響を理解した上で的確な分析レポートが書けるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに：ゴシック的想像力	内容の復習と資料のチェック	60 分
第２回	建築と空間	内容の復習と資料のチェック	60 分
第３回	クロゼットの中の骸骨	内容の復習と資料のチェック	60 分
第４回	帰ってくる者たち	内容の復習と資料のチェック	６０分
第５回	Terror と Horror	内容の復習と資料のチェック	60 分
第６回	「人間以外」との関係	内容の復習と資料のチェック	60 分
第７回	五感と恐怖の関係 課題レポート第１回	レポートのための復習とチェック	120 分
第８回	ポー「アッシャー家の崩壊」	内容の復習と資料のチェック	60 分
第９回	館の崩壊と廃墟	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１０回	ブロンテ『嵐が丘』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１１回	『嵐が丘』における反復	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１２回	ジェイムズ「ねじの回転」	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１３回	心理的な恐怖　課題レポート第２回	課題レポートのための復習	120 分
第１４回	全体のまとめと振り返り	内容の復習と資料のチェック	60 分

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義を中心とする。この授業は完全ペーパーレスで、配布資料および、そのリンク先の英文などを見るために、授業中にもパソコンやスマホが必要となる。講義などで示された内容を復習し、どのように分析をするかという技法を習得すること。課題レポートは内容を咀嚼した上で的確に分析ができているのかを評価する。

〔成績評価の方法〕
２回のレポート提出（70%）、小テストの提出（30%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。ホラーやゴシックの歴史的文化的な背景を理解して、各作品を的確に分析できているかどうかが評価の対象となる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。連絡方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化研究基礎Ｂ326
教員名	下村　美佳

科目№	125132260	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本講義は、シェイクスピアの代表的作品に触れながら、その背景にある思想を学ぶことを目的とする。家父長制、亡霊観、自然観、妖精観などを学び、それらが作品、主に女性登場人物の表象にどのようにあらわれているのかを示していく。映像化されているものはできるだけそれを活用しながら、解釈のポイントを紹介する。

〔到達目標〕
DP2、DP3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①シェイクスピアに関する基礎的な知識を修得する。
②イギリス文学史全体の流れの中にシェイクスピアを位置づけ、その背景にある思想を理解した上でその特質や意義を説明できる。
③シェイクスピア作品の特質を理解し、自分の考えを述べることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 シェイクスピアについて、その概略を説明する。	（予習）　シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 （復習）　授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。	60
第２回	16 世紀のイギリス	（復習）　エリザベス朝について調べておき重要な用語は説明できるようにすること。	60
第３回	『ロミオとジュリエット』① －作品における家父長制－	（予習）　シェイクスピアの初期作品について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第４回	『ロミオとジュリエット』② －作品における女性像－	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第５回	『じゃじゃ馬ならし』① －女性登場人物の表象－	（予習）　シェイクスピアの初期作品について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第６回	『じゃじゃ馬ならし』② －女性登場人物の表象－	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第７回	『夏の夜の夢』① －森という非日常－	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第８回	『夏の夜の夢』② －妖精の存在－	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第９回	シェイクスピア四大悲劇① －作品における亡霊の存在－	（予習）　シェイクスピアの四大悲劇について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第１０回	四大悲劇② －作品における女性登場人物－	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第１１回	四大悲劇③ －作品における女性登場人物－	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第１２回	四大悲劇④ 作品における女性登場人物	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第１３回	前期授業のまとめ	（予習）　これまでの学習内容を確認する。	60
第１４回	到達度確認テスト これまでの学習内容について、理解度を確認するためのテスト	（予習）　到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。	120

〔授業の方法〕
講義形式で行う。各作品の学習後、小レポートを授業内で提出してもらう。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（６０%）、小レポート（４０%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①シェイクスピアに関する基礎的な知識を身につけている。
②イギリス文学史の流れのなかにシェイクスピアを位置づけ、その背景にある思想を理解した上でその特質や意義を説明できる。
③シェイクスピア作品の特質や意義を理解し、さらに自分の意見を述べることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
必要に応じてプリントを配布する。

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 422（複言語・複文化主義）						
教員名	小野　尚美						
科目№	125132320	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
言語と社会の関係についての基礎知識を身に付け、その知識を基に、日本の英語学習者が英語以外の複数の言語を学ぶ意義について考えていくことを目指します。Presentation を通して、学生の身の回りで起きている異文化のぶつかり合いが大きな問題に発展するのを避けるためにすべきこと、また社会全体で起きている異文化間の問題を解決する方法を模索していきます。そしてこの授業では、複数の言語を学ぶことの意義の理解に基づき、言葉と文化の多様性について考え、他者への寛容を養う異文化間教育について考えをまとめていきます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）及び DP2（教養の修得）を実現するために、以下を目指す。
1）多言語主義と複言語主義の違いについて理解する。
2）世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。
3）多様な文化背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解する。
4）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。
5）複言語・複文化主義的発想に基づくとどのように言語習得についての考え方が変わるか考える。さらに
6）複言語・複文化主義的発想になると、世界の言葉と文化の多様性に対してどのような思想を持つようになるか考察する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の方法と成績評価について説明する。 無文字社会について考える	多言語主義について事前に読んで基礎知識を付けてくる。	60 分
第２回	多言語主義とは何か（1） 台湾における日本語の役割と北京語の役割	台湾と日本の歴史について基礎的な内容を調べて来る。	90 分
第３回	多言語主義とは何か（2） アメリカの English Only Movement とは何か。	アメリカにおける英語使用についての歴史に関する資料を読んでくる。	90 分
第４回	多言語主義とは何か（3） アメリカの English Plus Movement とは何か。	アメリカにおける英語使用についての歴史に関する資料を読んでくる。	90 分
第５回	多言語主義とは何か（3） アメリカの言語事情について。	アメリカの言語事情について資料を読んでくる。	90 分
第６回	中間振り返り小テスト	中間振り返り小テストの準備をする。	90 分
第７回	第 1 回振り返り小テストの解説 ヨーロッパにおける言語政策（１） EU の試みについて	EU について資料を読んでくる。	90 分
第８回	欧州協議会とはどんな組織か。	欧州協議会について資料を読んでくる。	90 分
第９回	複言語主義・複文化主義とは何か Language learning and teaching Presentation (1)	配付テキスト Chapter 1 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１０回	複言語主義・複文化主義とは何か CEFR と CEFR-J Presentation (2)	配付テキスト Chapter 2 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１１回	複言語主義・複文化主義とは何か ヨーロッパの多言語主義から複言語主義への移行について考える。 Presentation （３）	配付テキスト Chapter 2 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１２回	複言語主義・複文化主義とは何か 複言語主義についての原書講読	配付テキスト Chapter 3 を読む。	90 分
第１３回	学期末振り返りテスト	学期末振り返りテストの準備をする。	90 分
第１４回	学期末振り返りテスト返却と解説 授業の総括	学期末振り返りテストの復習	60 分

〔授業の方法〕
講義と演習の形式をとる。教員は授業で扱う複言語主義・複文化主義の概念について講義を行う。学生は、授業で配付されるテクストの資料や他の参考文献を輪読し、自分の興味のある話題を選び、Presentation を行う。学生の Presentation に対し、意見交換を行いながら、授業の話題となっている複言語・複文化主義的発想に基づくと日本における言語教育はどのようになっていくか、日本の英語学習者は何を目指すことになるかについて 1 学期を通して各自考えをまとめることが期待される。授業では、中間小テストとして振り返り小テストと、学期末には 1 学期の間に考えたことについて学期末振り返りテストで確認する。

〔成績評価の方法〕
授業参加（Presentation、中間振り返り小テスト、ディスカッションへの積極的参加、宿題など）：50%、学期末振り返りテスト：50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
1）複言語主義・複文化主義と多言語主義の概念の違いを理解しているか。
2）多様な文化が存在する中で異文化間コミュニケーションにどのような課題があるかについて考えているかどうか。
3）日本社会で、英語以外の複数の言語を学ぶ意義について自分で考えているかどうか。
4）いずれの振り返りテストにおいても、自分の考えを理路整然と説明できるかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語圏文化 322（コミュニケーション）を履修しておくことが望ましい。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
Council of Europe. (2001). Common European Framework of Reference fo Languages: Learning, Teaching, Assessment. Strasbourg::Cambridge University Press.
欧州評議会 言語政策局（山本冴里訳）. (2016)『言語の多様性から複言語教育へ ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド』東京：」くろしお出版.
西山教行・細川英雄・大木充（編）. (2016). 『異文化間教育とは何か グローバル人材育成のために』東京：くろしお出版.
細川英雄・西山教行. (2010). 『複言語・複文化主義とは何か ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』東京：くろしお出版.
三浦信孝（編）. (2006). 『多言語主義とは何か』東京：藤原書店.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 423（ポストコロニアリズム）						
教員名	小林　英里						
科目No.	125132330	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本授業では、イギリス文学の正典作品と、それを（旧）植民地の立場から書き直した作品を併置して読んでいく。ポストコロニアル時代の作家たちが用いるヘゲモニー転覆のための文学的戦略とはいったいどのようなものなのか、このことを考察することで、「宗主国」対「植民地」、「男」対「女」、「中央」対「周縁」、そして「主体」対「他者」といった二項対立を崩そうとする言説の試みのなかに、平等な社会実現の志向とその可能性を探る。

〔到達目標〕
【DP1-1】（専門分野の知識・技能）、【DP1-4】（専門分野の専門分野の知識・技能）、【DP1-5】（専門分野の知識・技能）、【DP2-3】（教養の習得）、【DP3】（課題の発見と解決）、【DP-4】（表現力、発信力）に基づいて、以下の事柄の修得を目標とする。
①イギリス文学の正典作品とポストコロニアル文学作品に精通する。
②批評理論（ポストコロニアル理論）の基本概念を理解する。
③学術論文に必要な議論の仕方を学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	あらかじめシラバスに目を通しておく。	60 分
第２回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719) ①	授業内容を確認する。	60 分
第３回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe (1719) ②	授業内容を確認する。	60 分
第４回	J. M. Coetzee, Foe (1986) ①	授業内容を確認する。	60 分
第５回	J. M. Coetzee, Foe (1986) ②	授業内容を確認する。	60 分
第６回	Shakespeare, Romeo and Juliet ①	授業内容を確認する。	60 分
第７回	Shakespeare, Romeo and Juliet ②	授業内容を確認する。	60 分
第８回	Blackman, Noughts and Crosses (2001) ①	授業内容を確認する。	60 分
第９回	Blackman, Noughts and Crosses (2001) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１０回	Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) ①	授業内容を確認する。	60 分
第１１回	Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１２回	Caryl Phillips, The Lost Child (2015) ①	授業内容を確認する。	60 分
第１３回	Caryl Phillips, The Lost Child (2015) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１４回	総括	授業内容を確認する。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式。毎回、コースパワーを通じてレスポンス・シートを提出する。学期末はコースパワーを通じてレポートを提出する。

〔成績評価の方法〕
コースパワーを通じた課題の提出（80%）、平常点（20%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
近代以降のイギリスの歴史についての基本的知識があることが望ましい。

〔テキスト〕
特になし。(資料はコースパワーを通じて提示する。)

〔参考書〕
以下は、購入の必要はないが、参考にしてほしい。
ダニエル・デフォー、『ロビンソン・クルーソー』（岩波文庫、上下巻）
J. M. クッツェー、『敵あるいはフォー』（白水社）
シャーロット・ブロンテ、『ジェイン・エア』（岩波文庫、上下巻）
ジーン・リース、『サルガッソーの広い海』（河出書房新社）
エミリー・ブロンテ、『嵐が丘』（岩波文庫、上下巻）
小林英里、「「中央」と「周縁」のあいだで」、『二十世紀英文学再評価』（金星堂、2003 年）
小林英里、「帝国の失われた子どもたち」、『二十一世紀の英語文学』（金星堂、2017 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 424（レイシズム）						
教員名	権田　建二						
科目№	125132340	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
奴隷制とそのインパクトーアフリカ系アメリカ人の歴史
1865 年の奴隷制の廃止から 1960 年代までの、アフリカ系アメリカ人が、アメリカ市民としての権利の獲得を目指した歴史をたどる。1857 年合衆国最高裁は、「ドレッド・スコット判決」で、黒人は合衆国市民ではないと判断した。その後、奴隷制の存続を巡った南北戦争が終わり、議会による憲法の修正を経て、アフリカ系アメリカ人は、晴れて法的に合衆国市民となる。しかし、それは名ばかりで、19 世紀末から 20 世紀にかけて、黒人は法のもとで、白人社会から隔離され、白人と平等に扱われることはなかった。このような状況が大きく変わるのは、1954 年に合衆国最高裁が公立学校における人種の分離を違憲と定めた「ブラウン判決」によってだった。これ以降、アフリカ系アメリカ人たちは、自分たちの社会的権利の拡大を目指して積極的に運動していくことになった。
　この授業では、20 世紀半ばのアフリカ系アメリカ人による、公民権運動と呼ばれるこのような権利拡大のための運動を見ていき、アフリカ系アメリカ人の社会的地位がどのように変化したのかを確認したい。
1865 年の奴隷制の廃止から 1960 年代までの、アフリカ系アメリカ人が、合衆国市民としての権利の獲得を目指した歴史を学ぶことで、以下を達成することを目的とする。
1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。
2) 文化の多様性及び異文化交流の意義について理解する。
3) 合衆国の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする
1) アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史について理解を深める。
2) 歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。
3) 様々な種類の英文を読解する力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	【復習】 今回分資料を再読。	60
第２回	イントロダクション一人権・公民権・レイシズム	【復習】 今回分資料を再読。	60
第３回	合衆国における黒人の存在	【復習】 今回分資料を再読。	60
第４回	奴隷制における黒人の地位(1787-1865)	【復習】 今回分資料を再読。	60
第５回	奴隷制の廃止とレコンストラクション まで（1865-1877）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第６回	レコンストラクションに対する反動（1873-1896）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第７回	「プレシー判決」と分離すれど平等の原則（1896）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第８回	ジム・クロウの時代（1880s-1940s）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第９回	19 世紀末から 20 世紀初頭の人種関係（1895-1922）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１０回	ブラウン判決への道（1899-1950）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１１回	「ブラウン判決」と人種の統合　（1954）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１２回	人種統合に対する反発（1950s-1960s）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１３回	公民権運動–エメット・ティルから 1964 年の公民権法まで	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１４回	まとめ：セルフレヴュー	【予習】 セルフレヴューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60

〔授業の方法〕
講義形式による授業です。
毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。
プリントは CoursePower を使って配布する予定です。
また、毎回のリアクション・ペーパーも CoursePower を使って配布・回収する予定です。

〔成績評価の方法〕
毎回のリアクション・ペーパー（80%）と学期末のセルフ・レビュー（20%）によって判断する。
リアクション・ペーパーは単に授業の感想を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものです。
毎回特定の課題を出しますので、それについて授業で学んだことに基づいて説明をし、さらに自分の考えを述べることになります。
毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度を確認します。
授業に出席しないことには、リアクション・ペーパーは評価の対象になりません。
また、リアクシ

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使いません。必要な文献等は毎回プリントにして配布します。

〔参考書〕
1. Williams, Juan. Eyes on the Prize: America’s Civil Rights Years, 1954-1965. Penguin, 2013.
2. Hampton, Henry, and Fayer, Steve, eds. Voices of Freedom: An Oral History of the Civil Rights Movement from the 1950s to through the 1980s. Bantam, 1991.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 425（児童文学）						
教員名	小野　俊太郎						
科目№	125132350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
「児童文学」とは、大人が一方的に児童に与える作品群である。近代において、人間をどのように再生産するのかに関して、教育と娯楽の観点からテクストが生み出されてきた。前半は、Kimberly Reynolds や Peter Hunt などを参照して、児童文学が提起してきた問題設定を検討する。後半は、古典となったスティーヴンスンの『宝島』、バーネットの『秘密の花園』、トールキンの『ホビットの冒険』の 3 作品を取り上げて、児童文学の読みの可能性を探る。（※児童文学を分析する授業であって、楽しむ授業ではないので注意すること）

〔到達目標〕
DP1-（専門分野知識と理解）、DP3-（課題の発見と解決）、DP4-（表現力・発信力）を実現するために次の３点を目標とする。
①歴史的文化的な背景を踏まえて児童文学を把握できるようになる。
②児童文学及び関連する作品の主題や課題を発見できるようになる。
③文学や文化への児童文学の影響を理解した上で的確な分析レポートが書けるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに：児童文学と近代	内容の復習と資料のチェック	60 分
第２回	家庭は楽園か	内容の復習と資料のチェック	60 分
第３回	学校と教育	内容の復習と資料のチェック	60 分
第４回	都会と田舎	内容の復習と資料のチェック	６０分
第５回	別世界への扉	内容の復習と資料のチェック	60 分
第６回	動物物語と擬人化	内容の復習と資料のチェック	60 分
第７回	環境を踏まえて　課題レポート第１回	レポートのための復習とチェック	120 分
第８回	スティーヴンスン『宝島』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第９回	『宝島』と植民地主義	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１０回	バーネット『秘密の花園』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１１回	『秘密の花園』と神秘主義	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１２回	トールキン『ホビットの冒険』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１３回	『ホビットの冒険』とファンタジー課題レポート第２回	課題レポートのための復習	120 分
第１４回	全体のまとめと振り返り	内容の復習と資料のチェック	60 分

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義を中心とする。この授業は完全ペーパーレスで、配布資料および、そのリンク先の英文などを見るために、授業中にもパソコンやスマホが必要となる。講義などで示された内容を復習し、どのように分析をするかという技法を習得すること。課題レポートは内容を咀嚼した上で的確に分析ができているのかを評価する。

〔成績評価の方法〕
２回のレポート提出（70%）、小テストの提出（30%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。児童文学の歴史的文化的な背景を理解して、各作品を的確に分析できているかどうかが評価の対象となる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。連絡方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 426（英語教育）						
教員名	王　ウェイトン						
科目№	125132360	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
テーマ：第二言語習得論、学習ストラテジー、CEFR
概要：第二言語習得論に基づいた英語の学習法及び指導法に関する知識を学びます。学習ストラテジーについて基本的な考え方を理解します。外国語運用能力の指標として参照される CEFR の理念と内容を理解し、日本の英語教育での運用の在り方について考えます。

〔到達目標〕
第一・第二外国語習得論や語用論等、英語教育に必要な実践的知識や技能を修得している。(DP1-5)(DP2-1)
英語教育に関わる課題の本質を発見するために、社会調査等のデータを収集・分析することで、論理的な思考を行い適切な結論を導き出す能力を身に付けている。(DP3-4)
自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ明瞭に発信できる豊かな表現力を身に付けている。(DP4-1)
授業で他の受講生たちと協働して課題解決に取り組むことで協調性を身につけるとともに、他者との関わりのなかで自らの役割が認識できるようになる。(DP5-2)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエテーション（講義の内容、課題、評価方法、参考図書の紹介）	テキストを入手する。	90
第２回	第二言語習得理論の概要	第１回の Review sheet 第２回の予習課題	90
第３回	外国語教授法の変遷	第２回の Review sheet 第３回の予習課題	90
第４回	リスニングのプロセス、学習法、指導法	第３回の Review sheet 第４回の予習課題	90
第５回	スピーキングのプロセス、学習法、指導法	第４回の Review sheet 第５回の予習課題	90
第６回	リーディングのプロセス、学習法、指導法	第５回の Review sheet 第６回の予習課題	90
第７回	ライティングのプロセス、学習法、指導法	第６回の Review sheet 第７回の予習課題	90
第８回	文法・語彙知識習得のプロセス、学習法、指導法	第７回の Review sheet 第８回の予習課題	90
第９回	英語力の評価	第８回の Review sheet 第９回の予習課題	90
第１０回	学習ストラテジー(1)：自律した学習者とは	第９回の Review sheet 第１０回の予習課題	90
第１１回	学習ストラテジー(2)：ストラテジー指導と教材	第 10 回の Review sheet 第１１回の予習課題	90
第１２回	CEFR の理念と運用	第１１回の Review sheet 第１２回の予習課題	90
第１３回	学期末総合振り返りテスト	学期末総合振り返りテストの準備をする。	90
第１４回	学期末総合振り返りテストの返却と解説。	学期末総合振り返りテストの答えを確認する。	90

〔授業の方法〕
授業内容は、講義及び演習形式を組み合わせる。
毎回の事前課題に取組み、授業中ではグループ発表を行い、全体でディスカッションを行う。

〔成績評価の方法〕
総合評価（Review sheet 提出状況：40%、授業における取組状況：30%、学期末総合振り返りテスト：30%）

〔成績評価の基準〕

Review sheet・学期末総合振り返りテストでは、授業内容の理解度に基づいて評価する。
授業における取組状況では、授業での貢献度を評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
Marianne Celce-Murcia, Donna M. Brinton, and Marguerite Ann Snow. (2014). "Teaching English As a Second or Foreign Language (4th Ed.)" Oxford University Press.

〔参考書〕
Brown, H.D. (2014). ″Principles of Language Learning and Teaching.″ Pearson Education.
Lightbown, Patsy and Nina Spade. (2022). ″How Languages are Learned.″ Oxford University Press.
英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック（大学英語教育学会学習ストラテジー研究会）
中学校学習指導要領解説　外国語編（平成 29 年 7 月　文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　外国語編（平成 30 年 3 月　文部科学省）
小学校学習指導要領解説　外国語編・外国語活動編（平成 29 年 7 月　文部科学省）
必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術・文学入門 230						
教員名	庄司　宏子						
科目№	125133100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
英語圏芸術・文学フォーカスへの入門
英語圏芸術・文学、特にアメリカ社会、歴史、文化、小説、アートなど多様なトピックを取り上げ、それをどのように分析するか、その方法を学びます。現代を映し出すキーワードや現象を取り上げ、アメリカ社会や文化を分析し考察する方法を身につけてもらうことを目標とします。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP1（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・アメリカ社会で起こった出来事や文化的現象の重要なトピックについて知識を獲得し、自分の言葉で語ることができるようになる。
・歴史的事件や文化的現象はそれをどのように記憶し、記録するかという問題と密接に関わる。両者の関係を理解し、説明できるようになる。
・自分が関心をもつ事件や現象についてリサーチして分析できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	授業の内容と方法について説明します。	シラバスを読み、授業の内容を把握してください。現代アメリカに関するニュースや情報を集め、自身の関心を育んでください。	30 分
第 2 回	現代アメリカ社会（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第 3 回	現代アメリカ社会（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第 4 回	現代アメリカ社会（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第 5 回	アメリカの歴史とその記憶（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第 6 回	アメリカの歴史とその記憶（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第 7 回	アメリカの歴史とその記憶（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第 8 回	アメリカの文学（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第 9 回	アメリカの文学（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１０回	アメリカの文学（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１１回	アメリカのアート（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１２回	アメリカのアート（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１３回	アメリカのアート（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べて来てください。	60 分
第１４回	授業のまとめと授業内テスト	後期の授業で学んだことを振り返り、授業内テストに備えてください。	90 分

〔授業の方法〕
講義形式。授業では時折 CoursePower から Forms によるクイズを行いますので受講者は PC を持参してください。

〔成績評価の方法〕
平常点で成績評価を行います。平常点として、授業での時折のクイズ（20%）、授業内テスト（30%）、学期末の課題レポート（2,000 字程度で CoursePower から提出、50%）から総合的に評価します。上記の割合は授業の進み具合に応じて多少変わる可能性があります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
アメリカ文学史

〔テキスト〕
テクストなど用いる教材は PDF ファイルを CoursePower を通じて配布します。

〔参考書〕
参考文献は適宜授業で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
教員メールアドレスは CoursePower で連絡します。

〔特記事項〕
特にありません。

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカ文学史 331						
教員名	庄司　宏子						
科目No.	125133210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
アメリカ合衆国はどのような文学を生み出してきたのか。15 世紀の大航海時代ヨーロッパで想像された新世界〈アメリカ〉のイメージ、17 世紀初頭から 1776 年までのイギリス植民地時代、18 世紀末の独立戦争とアメリカ合衆国の建国期、19 世紀初頭から半ばの領土拡張時代（アンテベラム期）、1860 年代の南北戦争期まで、再建期から 20 世紀半ば、20 世紀後半から現代に至るまでのアメリカ文学史の流れを歴史と文化と関連させながら辿ります。ある国がどのような文学を生み出すかは、風土・地形・気候という自然環境的な要素、歴史・政治・経済などの社会的な要素が関わっています。授業では文学の中に刻印されたアメリカ的な理念や概念、アメリカ文学史に通底するテーマ、文学と国民国家の関わり等について講義します。また、移動、ダイアスポラ、記憶、歴史の語り直しというテーマやグローバリズムという国境を越えた人間や情報の繋がりを視野に、世界文学という視点からアメリカ文学を捉えてみたいと思います。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 6 点を到達目標とする。
・文学史とは、国民国家の歴史や文化と深く結びつきながら形成されることを理解する。
・文学に現れた時代の出来事を反映する要素、そこから生み出されるアメリカ的なテーマについて理解し知識を修得する。
・文学は、国民国家が提示する歴史や文化とは別の視点を提示しうる優れて批評的なメディアであることを理解する。
・アメリカ文学に触れながら、文学を歴史・社会・政治・文化と関連させながら読み解き、時代や社会をみる批評意識を養う。
・文学を通じて、異なる文化や他者の存在とその世界観への想像力を豊かにするとともに、自分で思考し批評する力を身につける。
・言語による世界の表象という観点から、歴史と文学、ファクトとフィクションについて考える力を育む。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：大航海時代、新大陸はどのようにイメージされたか――Jan van der Straet の絵にみる「ヨーロッパ」と「アメリカ」の出会いについて	シラバスを読み、アメリカ文学史Ⅰの授業で何を学ぶのか、自分は何に関心があり何を学びたいのか、考えてください。グローバリズムは 15 世紀に始まる大航海時代の到来から始まったといってよい。人、物、情報が国境を越えて移動するとはどういうことか、そこから何が生まれるか考えてみましょう。	30 分
第２回	植民地時代のアメリカ(1)：William Bradford, Of Plymouth Plantation を中心に	大西洋の荒波を超えて新大陸アメリカにやって来たピューリタンたちの目の前に現れた風景はどのようなものだったのか、彼らはそれをどのように表現したのか想像してみましょう。その風景が現代のアメリカ人の原風景を形作っています。	60 分
第３回	植民地時代のアメリカ(2)：Captivity Narrative と Native Americans の表象, Mary Rowlandson, A Narrative of the Captivity and Restoration of Mrs. Mary Rowlandson を中心に	植民地時代のアメリカにおいて入植者と先住民インディアン部族との間でしばしば抗争が起こります。その一つが 1675 年に起こる King Philip's War です。戦いのなかで捕虜となった女性が記した体験記からインディアンはどのように描かれているか当時のピューリタン社会はどのようなものだったか、考えてみましょう。	60 分
第４回	植民地時代のアメリカ(3)：ピューリタニズムとセイレム魔女事件	1692 年にマサチューセッツのセイレムで起こった魔女事件はアメリカ史上最も悲惨な事件であり、さまざまな文学のインスピレーションを与えています。こうした事件が起こる背景について考えてみましょう。この事件の終息のあと、時代は近代の幕開けを迎えます。	60 分
第５回	建国期のアメリカ（1）アメリカとは何か―Crevecoeur, Letters from an American Farmer と Thomas Jefferson の "The Declaration of Independence" と Notes on the State of Virginia を中心に	17 世紀初頭に始まって約 200 年の植民地時代を経てアメリカはイギリスとの独立戦争の後、1783 年に独立を遂げます。Thomas Jefferson が中心になって起草された独立宣言文書や Notes on the State of Virginia からアメリカの精神・理念を辿ってみましょう。また建国初期に書かれたアメリカ人論も読みます。	60 分
第６回	建国期のアメリカ（2） Charles Brockden Brown と Washington Irving の文学	Charles Brockden Brown や Washington Irving がどのような小説を書いたのか、調べてみましょう。	60 分
第７回	西漸運動と Manifest Destiny：James Fenimore Cooper, The Last of the Mohicans と Alexis de Tocqueville, Democracy in America	アメリカの荒野を描くロマティシズムの文学 James Fenimore Cooper の The Last of the Mohicans について調べてみましょう。また 18 世紀末に独立し、19 世紀半ばにかけて大西洋と太平洋にまたがる大陸国家となっていくアメリカの領土拡大について調べてみましょう。	60 分
第８回	アメリカ・ルネサンスの文学(1)：トランセンデンタリズム―Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau, Margaret Fuller	独立してから約半世紀を経てアメリカは初めて国民文学といえる作品を生み出すようになります。その中核となるのが Transcendentalism（超越主義）です。どのような思潮の運動か考えてみましょう。	60 分
第９回	アメリカ・ルネサンスの文学(2)：Edgar Allan Poe	Edgar Allan Poe の作品は恐怖に満ちたグロテスクなもの、軽妙なもの、理性的なもの、海洋冒険譚とさまざまあります。翻訳でよいので、何かひとつ Poe の短篇を読んでみましょう。	60 分
第１０回	アメリカ・ルネサンスの文学(3)：Nathaniel Hawthorne と Herman Melville	アメリカ文学史上最高傑作といってよい Nathaniel Hawthorne の The Scarlet Letter（『緋文字』）と Herman Melville の Moby-Dick（『白鯨』）を抜粋で読みます。どのような内容の作品か、調べてください。考えます。この作品の内容について調べてください。	60 分
第１１回	奴隷解放運動と奴隷体験記：Harriet Beecher Stowe, Uncle Tom's Cabin と Frederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass	19 世紀半ばのアメリカは、後にアメリカ・ルネサンスと呼ばれる独自の文学潮流を生み出す一方で、奴隷制度をめぐり北部の自由州と南部の奴隷州の対立が激化する時代でした。そのなかで奴隷制廃止を訴える文学が生まれます。Stowe, Uncle Tom's Cabin（『アンクル・トムの小屋』）と	60 分

		Douglass の Narrative of the Life of Frederick Douglass（『数奇なる奴隷の半生』）から当時の社会を考えます。この作品の内容について調べてください。	
第１２回	再建時代から 20 世紀半ばのアメリカ文学：Nella Larsen, Langston Hughes, Richard Wright, F. Scott Fitzgerald, William Faulkner などの文学	Nella Larsen の Passing は 1920 年代に数多く描かれる「人種の境界を越える（passing）」というテーマを描いた文学の代表作です。passing というテーマと時代との関わり、21 世紀における passing の概念について考えます。併せて Hughes, Wright, Faulkner の文学も概説します。	60 分
第１３回	20 世紀後半から現代のアメリカ文学：Toni Morrison, Colson Whitehead を中心に	現代アメリカ文学を代表する Morrison および Morrison の次の世代のアフリカ系アメリカ人文学の代表者 Whitehead の文学について概説します。	60 分
第１４回	授業内テスト	この授業で配布した handout から、作家や作品、作品に現れる重要なテーマと時代との関係などを振り返り、授業内テストに備えてください。	100 分

〔授業の方法〕
講義形式。授業内容の理解の確認や思考を促すため時折クイズを実施します。クイズは随時実施予定で CoursePower から Forms で行います。受講者は毎回の授業に必ず PC を持参してください。授業で取り上げる作品は受講者の理解度や関心に応じて、多少変わるかもしれません。期末レポートは授業内容に添いながら受講生の個々の関心に対応し、思考する力を育むことができるようなテーマにします。

〔成績評価の方法〕
平常点で成績評価を行います。平常点とは、クイズ（授業内に随時数回程度実施します）、14 回目に実施する授業内テスト、学期末に CoursePower から提出してもらう課題レポート（2,000 字程度）です。レポートの課題は授業で提示します。
(1) クイズ･･･20%
(2) 授業内テスト･･･30%
(3) 学期末課題レポート･･･50%
上記の割合は授業の進み具合に応じて多少変わる可能性があります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
教科書は使用しません。授業の教材や handout は CoursePower から配布します。

〔参考書〕
Peter B. High, An Outline of American Literature (Pearson Japan, 1986): ISBN: 978-0582745025
Emory Elliott, ed., The Columbia Literary History of the United States (Columbia UP): ISBN: 0231058128
Emory Elliott, ed., The Columbia History of the American Novel (Columbia UP): ISBN: 0231073607
Walter Benn Michaels and Donald E. Pease, eds., The American Renaissance Reconsidered (Johns Hopkins UP): ISBN: 0801839378
Paul Giles, American World Literature: An Introduction (Wiley-Blackwell, 2019): ISBN: 978-1119431787
Winston Napier, African American Literary Theory (NYU Press, 2000): ISBN: 978-0814758106
F. O・マシーセン『アメリカン・ルネサンス――エマソンとホイットマンの時代の芸術と表現』 上巻・下巻（ぎょうせい）
トニ・モリスン『白さと想像力――アメリカ文学の黒人像』（朝日選書）
渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』［入門編］（研究社）
大橋吉之輔『アメリカ文学史入門』（英語・英米文学入門シリーズ）（研究社）
巽孝之『アメリカ文学史――駆動する物語の時空間』（慶應義塾大学出版会）
諏訪部浩一他『アメリカ文学入門』（三修社）
亀井俊介『アメリカ文化史入門――植民地時代から現代まで』（昭和堂）
高野一良『アメリカン・フロンティアの原風景――西部劇・先住民・奴隷制・科学』（風濤社）
風呂本惇子他『新たなるトニ・モリスン その小説世界を拓く』（金星堂）
ヴァレリー・スミス『トニ・モリスン: 寓意と想像の文学』（彩流社）
庄司宏子『アメリカスの文学的想像力』（彩流社）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
教員メールアドレスは CoursePower から周知します。

〔特記事項〕
特にありません。

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	イギリス文学史 332						
教員名	教員　未定						
科目№	125133220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕

〔到達目標〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回			
第２回			
第３回			
第４回			
第５回			
第６回			
第７回			
第８回			
第９回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	音楽芸術研究基礎 333						
教員名	大友　彩子						
科目No.	125133230	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
This is an introduction to musicology, particularly focussing on Western music. It looks at instrumentation, genres, history, analytical tools and the complicated relationship between music, culture and society. Students taking this course do not need to have formal training in music, but simply an interest in the area and a willingness to learn.

〔到達目標〕
Students who undertake this course will learn about the history of Western music, as well as how music connects with culture in social contexts. They will learn basic music theory and how to understand and write about harmony, melody and rhythm. They will also learn to recognize works by famous composers from different periods and understand what makes them so special.
The aims of this course are in accordance with DP2, DP3 and DP4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	What is musicology? An introduction to ways to study and consider music and culture.	Listening/analysis work	60 min
第２回	Medieval music and the church	Listening/analysis work	60 min
第３回	The Renaissance music and arts	Listening/analysis work	60 min
第４回	17th century music 1 music in protestant regions	Listening/analysis work	60 min
第５回	17th century music 2 music in catholic regions	Listening/analysis work	60 min
第６回	18th century music 1 music and politics	Listening/analysis work	60 min
第７回	18th century music 2 music and commerce	Listening/analysis work	60 min
第８回	19th century music instrumental music	Listening/analysis work	60 min
第９回	19th century music vocal music and theatre	Listening/analysis work Start planning essay	60 min
第１０回	20th century music music and modernism	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１１回	20th century music Jazz	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１２回	20th century opera and musical	Listening/analysis work Finish final essay	60 min
第１３回	20th and 21st century rock and pop music	Review for exam	60+ min
第１４回	Final Exam (listening test, essay writing)	Self-review of materials and course	Own choice

〔授業の方法〕
The class will involve listening activities, group discussion and mini lectures.

〔成績評価の方法〕
Mini-tests and in class work 30 %
Essay 40%
Final exam 30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
There are no prerequisites for this course.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the lecturer.

〔参考書〕
A list will be provided to students in class and via Course Power.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Questions are accepted immediately before and after class.
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	視覚芸術研究基礎A334（映画）						
教員名	生井　英考						
科目№	125133240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
主題＝「アメリカ映画とポピュリズム」
　トランプイズムの抬頭で一躍耳にするようになったポピュリズム。「大衆煽動」や「大衆迎合主義」などと訳されますが、アメリカ映画（特にハリウッド映画）の歴史は“大衆の心を捉える”ための歴史だったといってもよいでしょう。とするとアメリカ映画（の歴史）は、トランプイズムそのものということでしょうか？
　授業ではアメリカ映画を素材にソーシャル・テクスト分析の方法を使ってポピュリズムについての観察と考察をおこないます。教材として使うのは劇映画・ドキュメンタリー映画で、ときにアメリカ以外の映画を使うこともあります。履修生のみなさんは「観る」ことと「感じる」こと、「考える」ことを 120%実践してください。

〔到達目標〕
　ソーシャル・テクスト分析は社会的コミュニケーションについての理解を促すものです。いわゆる「映画のお話の社会的背景」ではありません。視覚芸術としての映画についての「観る目」と、アメリカの政治文化をめぐる深みのある理解を身につけることが目標です。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに――クラスの紹介と授業運営、および講義の序章 01	事前に特別な準備は必要ありませんが、事後はコースパワーのリアペに必ず記入すること。質問、コメント、授業中に出された考察課題について。必須です。	60
第２回	ポピュリズムと反知性主義 その１	2 回目の授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第３回	ポピュリズムと反知性主義 その２	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第４回	ポピュリズムと反知性主義 その３	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第５回	アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析 その１	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第６回	アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析 その２	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第７回	アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析 その３	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第８回	アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析 その４	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第９回	ソーシャル・テクスト分析発展編その１	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１０回	ソーシャル・テクスト分析発展編その２	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１１回	ソーシャル・テクスト分析発展編その３	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１２回	ソーシャル・テクスト分析発展編その４	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１３回	フィードバックとまとめ	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１４回	まとめ	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。およびレポート作成の準備	120

〔授業の方法〕
　ポピュリズムや反知性主義についての理解は必須の前提なので、まずはそれについての講義と文献講読です。が、できるだけそこは素早く通過したい。できるかどうかはみなさんたちによります。つまり最初は“かなり厳しく文献を読む”ことから始まります。
　「映画のクラス？　楽しそうでいいじゃん。楽勝」と思った人はやめておいたほうがよさそうです、これはほんとに。でも反対に、映画を観るのがほんとに好き。それも映画館で観るのが好き！という人は、たとえ勉強が苦手でも参加してください。映画を観て、観て、観まくっている人なら必ず得られるものがあります（配信で見るのが便利でいい、スマホでたくさん見てます、という人にはオススメしません。これもほんと。スマホ映画は映画ではありません）
　授業期間中に何度か、映画作品を鑑賞する時間を設けます。その際は授業時間をはみ出してお昼休みに入ることがありますが、ひとつながりで観るのは大事

なことですので退室はできません。この点で差しさわりのある人には履修をお勧めしません（上映がいつになるかはクラスの進行状況によりますので、この欄の進行計画には反映されていません。鑑賞の際は事前に告知しますのでご心配なく）。

〔成績評価の方法〕
毎回の授業への参加（出席）は必須。コースパワー上でのリアペ、レポート課題などの成果を総合して評価します。授業中の発言は特に高い評価の対象となります。またリアペも必須。
授業への貢献（参加・発表・リアペ）――65%　課題レポート――35%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準 （学則第 38 条、39 条） に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
開講後、適宜指示します。

〔テキスト〕
教科書はありません。参考書にあげた 3 冊はどれも大学図書館以外に、地域の図書館にも所蔵がありますので、これを読んでおかないと授業についてこれない（講義の内容が理解できない）可能性があります。授業ではほかに役立つ本を適宜紹介します。

〔参考書〕
■映画についての文献
ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史――映画がつくったアメリカ』上下（講談社学術文庫）
あいにく版元品切れですが、初版（『映画がつくったアメリカ』として草思社から出ました）をふくめ、大学図書館や地域の図書館には多く所蔵されています。また古本でも購入する価値おおいにあり。
■ポピュリズムについての文献
森本あんり『反知性主義――アメリカが生んだ「熱病」の正体』（新潮選書、2015）
水島治郎『ポピュリズムとは何か――民主主義の敵か、改革の希望か』（中公新書、2016）
どちらも話題になった比較的新しい本。授業でも使用します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の最後または終了後に受け付けます。その場で答えられるものはその場で、長くなる時は次回の冒頭で回答します。またコースパワーでの質問も受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング（の変形）

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	舞台芸術研究基礎 336						
教員名	片山　幹生						
科目№	125133260	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
古典から現代の名作まで、戯曲を「知る」だけでなく、「読む」ことで新たな次元を発見し、演劇の深い魅力を体験しましょう！
この授業では、シェイクスピア、ベケット、三島由紀夫など、時代を超える名作をドラマティックリーディングを通じて生き生きと体験します。単に演劇史を学ぶだけでなく、登場人物の感情や葛藤、喜びを声で表現し、テキストだけでは見えてこない演劇の本質に迫ります。さらに、各作品の背景や劇作家の意図を深く掘り下げ、演劇を学術的かつ批評的に読み解く力を養います。

〔到達目標〕
1．演劇を「テクスト」としてだけでなく、「パフォーマンスアート」として理解する
2．時代や文化を超えた多様な戯曲に触れることで、演劇の普遍性と深さを学ぶ
3．声を使ってテキストを読み解くことで、これまで気づかなかった新たな視点を得る
4．演劇作品の講読を通じて、分析力や批判的思考力を養い、より深い理解を得る

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の紹介、授業で取りあげる作品の概要	授業で取りあげる作品の上演舞台などの情報を調べる	30 分
第２回	シェイクスピア『マクベス』: 戯曲の分析、作品背景の解説	授業で取りあげる作品の上演舞台などの情報を調べる	30 分
第３回	シェイクスピア『マクベス』: 日本語訳でのリーディング	授業で取りあげる作品の上演舞台などの情報を調べる	30 分
第４回	シェイクスピア『マクベス』: 舞台映像などの鑑賞。作品についてのディスカッション。	作品についてのリフレクションペーパー（約 400 字）	30 分
第５回	モリエール『町人貴族』: 戯曲の分析、作品背景の解説	授業で取りあげる作品の上演舞台などの情報を調べる	30 分
第６回	モリエール『町人貴族』: 日本語訳でのリーディング	授業で取りあげる作品の上演舞台などの情報を調べる	30 分
第７回	モリエール『町人貴族』: 舞台映像などの鑑賞。作品についてのディスカッション。	作品についてのリフレクションペーパー（約 400 字）	30 分
第８回	チェーホフ『三人姉妹』: 戯曲の分析、作品背景の解説	授業で取りあげる作品の上演舞台などの情報を調べる	30 分
第９回	チェーホフ『三人姉妹』: 日本語訳でのリーディング	授業で取りあげる作品の上演舞台などの情報を調べる	30 分
第１０回	チェーホフ『三人姉妹』: 日本語訳でのリーディング、ディスカッション	作品についてのリフレクションペーパー（約 400 字）	30 分
第１１回	三島由紀夫『サド侯爵夫人』: 戯曲の分析、作品背景の解説	授業で取りあげる作品の上演舞台などの情報を調べる	30 分
第１２回	三島由紀夫『サド侯爵夫人」: リーディング	授業で取りあげる作品の上演舞台などの情報を調べる	30 分
第１３回	三島由紀夫『サド侯爵夫人」: リーディング、ディスカッション	作品についてのリフレクションペーパー（約 400 字）	30 分
第１４回	講義の総括、授業で取り扱った作品についての教場レポート	これまで授業で取りあげた作品についての考察。	60 分

〔授業の方法〕
各作品について、まずその歴史的背景や演劇的意義を学びます。その後、グループリーディングを行い、参加者が順番に異なる役を演じることで、作品の理解を深めます。リーディング後のディスカッションでは、パフォーマンスを通じて浮かび上がった作品の深層を掘り下げ、演劇が提供する独自の表現の可能性について考察します。また、各作品についてのリフレクションペーパー（約 400 字）を Google フォームで提出してもらいます。最終授業では、講義内容を踏まえた教場レポート（約 1600 字）を提出してもらいます。さらに、授業期間中に関連する演劇作品の上演があれば、課外授業として観劇に行くことがあります。

〔成績評価の方法〕

各作品ごとのリフレクションペーパーが 70 パーセント、最後の授業での教場レポートを 30 パーセントとして、授業評価を行います。

〔成績評価の基準〕
各リフレクションペーパーおよび最後の授業での教場レポートを提出し、かつ 50 パーセント以上の点数評価を得ていることが成績要件となります。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
授業で配布します。購入の必要なし。

〔参考書〕
特になし。購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
ワークショップ

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術と文学研究基礎 337						
教員名	真野　貴世子						
科目No.	125133270	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
《アメリカン・ミュージカル研究》以下の作品の映画版(2001)とその舞台版脚本を比較検討することで、ミュージカルについての基本概念を知り、どのように作品分析で用いるか、学んでいく。
　舞台版に関しては脚本、監督、主演を担当したジョン・キャメロン・ミッチェル（John Cameron Mitchel）によるオフ・ブロードウェイ版（初代ヘドウィグ）を基本にしつつ、ニール・パトリック・ハリス(Neil Patrick Harris)（2014 年）とダレン・クリス(Darren Criss)（2016 年）によるブロードウェイ版を傍証する形式をとる。
舞台版記録音源(1998,2014,2016)に関しては適宜 Youtube やサブスクリションも利用予定
Hedwig and the Angry Inch (musical)(1998)
Hedwig and the Angry Inch (film)(2001) どちらも John Cameron Mitchel 主演

〔到達目標〕
#1　20 世紀から２１世紀の世紀末転換期に登場し,その後のアメリカン・ミュージカルおよびクィアスタディーズ（現 LGBTQ スタディーズ）にとってエポックメイキングとなった代表的なアメリカン・ミュージカル作品について、その成立の歴史、上演史、映画版との比較など作品の周辺事項を知るとともに、ミュージカルのフォーマットや典型的な作品構造などを知る。
#2　アメリカン・ミュージカルの特徴を知り、授業で扱った以外の作品を分析できるようになる。ミュージカル作品なので、サウンドトラックとしてミュージカルナンバーについても多様な視点から分析できるようにする。
これらの目標を達成することによって、DP1/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション： アメリカン・ミュージカルにおける『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』Hedwig and the Angry Inch のマッピング	扱う作品について調べておく	60
第２回	［映画鑑賞］『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』Hedwig and the Angry Inch (film)(2001)（2001 年・192 分）鑑賞	［課題］ジョン・キャメロン・ミッチェル(John Cameron Mitchell)について調べる	100
第３回	［映画鑑賞］『ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ』(続き)	-翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する	80
第４回	解説： 『ヘドウィグ』の古典性/革新性 -舞台版/映画版との相違点（変更点）など	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する	80
第５回	［テキスト精読］Hedwig and the Angry Inch　Authors' Note,(p.3),(pp. 7-12)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する	80
第６回	［テキスト精読］Hedwig and the Angry Inch　(pp. 12-17)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する	80
第７回	［テキスト精読］Hedwig and the Angry Inch　(pp. 17-20)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する	120
第８回	［テキスト精読］Hedwig and the Angry Inch　(pp. 20-24)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する [課題レポート(１)]Teams に投稿する	80
第９回	［テキスト精読］Hedwig and the Angry Inch　(pp. 24-27)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する	100
第１０回	［舞台上演鑑賞]intermission Broadway cast version 一部鑑賞 (2014,2016)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する	80
第１１回	［テキスト精読］Hedwig and the Angry Inch　(pp. 27-30)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する [課題レポート(2)]Teams に投稿する	80
第１２回	［テキスト精読］Hedwig and the Angry Inch　(pp. 30-34)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する	80
第１３回	［テキスト精読］Hedwig and the Angry Inch　(pp. 35-37,39-41)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する -翌週に扱う範囲のテクストを読み、該当箇所の解説ないし分析を Teams に投稿する	80
第１４回	［テキスト精読］Svich, Caridad. Mitchell and Trask's Hedwig and the angry Inch.(pp.15-30)	-前週のレスポンスを Teams に投稿する [課題レポート(3)]を Teams に投稿する 提出期限は別途提示する	120

〔授業の方法〕

講義形式。
［テキスト精読］週は、Microsoft Teams の「投稿」機能を使い、該当範囲についての語学上および内容上のレスポンスや質問を投稿したり、他の人の質問に回答をしてください。自分の質問に自分で回答することも可能です。この活動状況も成績を決定する観点の一要素となります。講義ではレスポンスに関するフィードバックや、レスポンスや質問には挙がらなかったけれど該当箇所で重要な部分について解説を行います。
人数によってはディスカッションを採り入れる事もあります。

〔成績評価の方法〕
毎回のレスポンスおよび的確な指摘等（基本点 7 点×11 回）: 77 点　80%
課題(3 点×1 回)課題レポート(1)~(2)（6 点×2 回）(3)(8×1 回): 23 点　20%
期末試験は実施しません。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
Text by John Cameron Mitchell and Music and Lyrics by Stephen Trask. Hedwig and the Angry Inch.Dramatists Play Service INC. New York,2003. www.dramatists.com
Svich, Caridad. Mitchell and Trask's Hedwig and the angry Inch. Routledge. London and New

〔参考書〕
日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）ISBN-13 : 978-4791772612
その他、講義で随時指示。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術・文学B432（ボディ・アンド・マインド）						
教員名	教員　未定						
科目№	125133320	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕

〔到達目標〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	宗教と芸術 435						
教員名	大友　彩子						
科目No.	125133350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
This course examines different forms of the arts including visual art, architecture, music, performing arts, literature and others within the context of the history of Christianity. It emphasizes the interrelation between these different genres in relation to a religious background which has been the foundation for the construction of a social context throughout Western history.

〔到達目標〕
Students who undertake this course will learn about the history of the arts and Western culture as related to Christianity, as well as how they can be connected with each other. They will learn basic critical approaches for analyzing arts within religious, political and social contexts.
The aims of this course are in accordance with DP2, DP3 and D4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Analyzing critically? An introduction to ways to study and consider arts in religious contexts.	revisions/analysis work	60 min
第２回	The Ancient World and the Birth of Christianity	revisions/analysis work	60 min
第３回	Early- to Mid-Medieval Religion and Culture	revisions/analysis work	60 min
第４回	Late Medieval Religion and Culture	revisions/analysis work	60 min
第５回	The Reformation The division between Catholics and Protestants	revisions/analysis work	60 min
第６回	The Renaissance Humanism and Christianity	revisions/analysis work	60 min
第７回	The late 16th and Early 17th centuries Christianity and politics 1	revisions/analysis work	60 min
第８回	The 17th century Christianity and politics 2	revisions/analysis work	60 min
第９回	The 18th century The Enlightenment and Christianity	revisions/analysis work Start planning essay	60 min
第１０回	The 19th century Europe and modernity	revisions/analysis work Working on essay	60 min
第１１回	18th- and 19th-century America	revisions/analysis work Working on essay	60 min
第１２回	19th and 20th centuries Beyond the Western World	revisions/analysis work Finish final essay	60 min
第１３回	20th and 21st century Christianity and the arts in the modern world	Review for exam	60+ min
第１４回	Final Exam (short-answer and essay questions)	Self-review of materials and course	Own choice

〔授業の方法〕
The class will involve analysis of the arts and the historical context, group discussions and mini lectures.

〔成績評価の方法〕
Mini-tests and in class work 30 %
Essay 40%
Final exam 30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
There are no prerequisites for this course.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the lecturer.

〔参考書〕
A list will be provided to students in class and via Course Power.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Questions are accepted immediately before and after class.
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	批評理論 436						
教員名	矢口　朱美						
科目№	125133360	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
批評理論上重要な５つの主題について概観します。
テクストの「内部」から
第一部：記号と物語
第二部：欲望と想像力
第三部：歴史と社会
テクストの「外部」へ

〔到達目標〕
批評理論とは、小説や詩・戯曲、そして広く芸術作品を鑑賞・創作する際に知っていると役に立つ、ものの考えかた・作品のとらえかたを抽象的な言葉でまとめたものですが、その内容はきわめて具体的かつ実践的なものです。講義では 20 世紀から現代までの「理論」を幅広く学びますが、それらについての単なる知識を得ることが目的ではありません。具体的な作品分析をとおして批評のプロセスも体感することで、今後卒業論文などで文学作品を論じる際、どのようなことを書けばよいのかということを実践的に学ぶ機会となります。これまで無意識に培われてきた自分のものの見方を再検討し、あるいはそれを意識化・言語化できるようになることが最終的な目標です。
これらの目標を達成することによって、DP1/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	テクストの「内部」から：ニュークリティシズム	予習：『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp.134-145）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第２回	第一部その１：物語論	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第２章「物語論」（pp.32-43）、および複数の文学作品を分析した配布資料を読む。 復習：講義で扱われた作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120
第３回	第一部その２：構造主義	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第１章「構造主義」（pp.18-31）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp.202-211）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120
第４回	第一部その３：受容理論	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第３章「受容理論」（pp.44-58）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp.167-177）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120
第５回	第一部その４：脱構築批評	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第４章「脱構築批評」（pp.59-72）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp.229-239）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120
第６回	第二部その１：精神分析批評	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第５章「精神分析批評」（pp.76-89）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp.31-40）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120
第７回	第二部その２：フェミニズム批評	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第７章「フェミニズム批評」（pp.104-115）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp.106-114）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120
第８回	第二部その３：ジェンダー批評	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第８章「ジェンダー批評」（pp.116-129）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp.297-306）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120
第９回	第二部その４：アフリカ系アメリカ人批評	予習：『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp.346-358）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１０回	第三部その１：マルクス主義批評	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第 10 章「マルクス主義批評」（pp.148-161）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp.58-66）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120
第１１回	第三部その２：文化唯物論／新歴史主義	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第 11 章「文化唯物論／新歴史主義」（pp.162-174）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料の前半（Critical Theory Today,	110

		pp. 259-263）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	
第１２回	第三部その３：カルチュラル・スタディーズ	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第 13 章「カルチュラル・スタディーズ」（pp. 189-201）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料の後半（Critical Theory Today, pp. 263-268）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	110
第１３回	第三部その４：ポストコロニアル批評／トランスナショナリズム	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第 15 章「ポストコロニアル批評／トランスナショナリズム」（pp. 217-230）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp. 393-404）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120
第１４回	テクストの「外部」へ：エコクリティシズム	予習：『批評理論を学ぶ人のために』の第 18 章「エコクリティシズム」（pp. 260-273）、および『グレート・ギャツビー』を分析した資料（Critical Theory Today, pp. 443-453）を読む。 復習：講義で扱った他の作品を読み、今回説明した文学理論の概念の理解を深めてください。	120

〔授業の方法〕
講義と演習を組み合わせた形式で行います。

〔成績評価の方法〕
平常点：50%
学期末課題レポート：50%
学期末課題レポートは、3000 字程度で、最後の授業において指示する課題に添ったエッセイを書いてください。その際、授業で学んだ特定の批評理論を実際に使ってみてもらいます。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。批評理論の基本概念を理解し、作品を読むにあたって適用できるかに着目して、その達成度を評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
F. スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』<I>The Great Gatsby</I>を読んだことがなければ、日本語の翻訳でよいので通読しておいてください。

〔テキスト〕
『批評理論を学ぶ人のために』、小倉孝誠編、世界思想社、2023 年。ISBN-13: 978-4-7907-1776-8
Lois Tyson, <I>Critical Theory Today: A User-Friendly Guide</I> 4th ed. (Routledge, 2023) ISBN-13: 978-0-367-70942-6

〔参考書〕
スコット・フィッツジェラルド、村上春樹訳『グレート・ギャツビー』（中央公論新社、二〇〇六年）ISBN-13: 978-4124035049 などの<I>The Great Gatsby</I>の日本語訳。
その他、テキスト『批評理論を学ぶ人のために』で挙げられている多くの文学作品。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。また、講義時に周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本文学研究の基礎						
教員名	小橋　孝子						
科目№	125211700	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
大学において文学を研究することの意味と方法を学ぶ。

〔到達目標〕
文学研究の様々な視点と方法を理解し、身につける。
DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】DP4【表現力、発信力】に関わる力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】 シラバスを読んでおく。 【復習】 授業の概略を確認する。	60 分
第２回	資料の収集について	資料の収集について実践的に確認する。	60 分
第３回	本文と書誌について	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第４回	改稿について	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第５回	語り手と視点について	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第６回	文体について	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第７回	時代背景・歴史的事象について	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第８回	作者と作家について	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第９回	比較研究について	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第１０回	典拠について	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第１１回	先行研究の検討１	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第１２回	先行研究の検討２	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第１３回	論文の書き方について	【予習】指定の資料・作品を読む。 【復習】授業内容を振り返り、考察を深める。	60 分
第１４回	振り返り	半期の学修を振り返り、今後の研究のデザインを考える。	60 分

〔授業の方法〕
講義、ディスカッション、課題の取り組みと提出を柱として授業を進める。
提出された課題については翌週、フィードバックする。

〔成績評価の方法〕
授業時に発表する課題およびリアクションコメント 75%
発言を含む平常点 25%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語研究の基礎						
教員名	岡部　嘉幸						
科目№	125211800	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
言語の研究には、言語に様々な側面があるのに対応して様々な研究分野が存在します。この授業では、音の側面から言語を扱う「音声学」「音韻論」、文字の側面から言語を扱う「文字論」、意味とそれを表す単位の側面から言語を扱う「意味論・語彙論」という側面から現代日本語の構造を理解し、日本語研究のための基礎知識を身に着けます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）実現のために、以下の３点を到達目標とします。
①日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関する基礎知識を習得できるようになる（→DP１）
②日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関して習得した基礎知識を用いて現代日本語の構造を理解できるようになる（→DP3）
③日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関して習得した基礎知識を他者にわかりやすく、論理的に文章で説明できるようになる（→DP4）

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 音声・音韻①：音声・単音	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第２回	音声・音韻①：音声・単音（つづき） 音声・音韻②：音韻・音素	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第３回	音声・音韻③：音節・モーラ	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第４回	音声・音韻④：アクセント	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第５回	小テスト① 小テスト①解説	第 1 回～第 4 回の授業内容を復習し、理解した上で、小テストに臨む。	90
第６回	文字①：文字の性格・漢字	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第７回	文字②：仮名・ローマ字・補助符号	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第８回	意味・語彙①：意味・意味の体系	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第９回	意味・語彙②：意味の諸相・意味の拡張	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１０回	小テスト② 小テスト②解説	第 6 回～第 9 回の授業内容を復習し、理解した上で、小テストに臨む。	90
第１１回	意味・語彙③：語構成	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１２回	意味・語彙④：ことばの位相	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１３回	授業の振り返りと補足	これまでの授業全体の内容について振り返り、理解が不足している点を明らかにしておく。	90
第１４回	授業のまとめ 授業内容の理解度の確認	第 1 回～第 12 回までの授業内容を復習し、その内容を理解しておく。	120

〔授業の方法〕
講義形式で行います。各回の授業後（ただし第 5 回、第 10 回、第 14 回は除く）に Course Power で小課題を出すので、指定された期限までに必ず小課題に解答してください。
また、第 5 回と第 10 回に授業内容の理解度を確認する小テストを行います。テスト範囲は、
・第 5 回小テスト：第 1 回～第 4 回の授業内容
・第 10 回小テスト：第 6 回～第 9 回の授業内容
となります。小テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。

また、第 14 回に授業内容全体の理解度の確認のための授業内テストを行います。テストの範囲は、
・第 1 回～第 12 回の授業内容すべて（小テストの範囲も含む）です。
テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。

〔成績評価の方法〕
・小テスト（第 5 回、第 10 回）の成績 30%
・第 14 回の授業内容の確認のための授業内テストの成績 50%
・平常点（授業への参加状況や小課題の達成状況） 20%
により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
評価にあたっては、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点を重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし。毎回授業プリントを配布します。

〔参考書〕
必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室でも受け付けます。

〔特記事項〕
・アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語法						
教員名	岡部　嘉幸						
科目№	125211850	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
「文法」とは「文」を「文」として成り立たせる規則のことです。この授業では、現代日本語の文法を、主に、日本語の文を構成する要素（素材）にはどのような性質のものがあるかという観点から概観し、普段私たちが使用している日本語という言語の特性をより深く理解することを目指します。日本語の文を構成する要素には単語と文節とがありますが、第 2 回から 12 回までは単語の種類分けである「品詞」について、第 13 回は文節の種類分けである「文の成分」のうち、特に重要な「主語」についてその基礎的事項を学習します。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）実現のために、以下の３点を到達目標とします。
①現代日本語の文法に関する基礎知識を習得できるようになる（→DP１）
②現代日本語の文法に関して習得した基礎知識を用いて日本語を分析できるようになる（→DP3）
③日本語の文法に関して習得した基礎知識を他者にわかりやすく、論理的に説明できるようになる（→DP4）

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 導入：文法とは・文法上の単位	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第２回	日本語の品詞分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第３回	動詞・動詞の分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第４回	形容詞・形容詞の分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第５回	形容動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第６回	小テスト① 小テスト①解説	第 2 回～第 5 回の授業内容を復習し、ノートにまとめておく。	90
第７回	名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第８回	助動詞①：助動詞とは・時間的意味に関わる助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第９回	助動詞②：非現実的な意味に関わる助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１０回	助動詞③：主語の特別な立場を表わす助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	90
第１１回	助詞①：格助詞・副助詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１２回	助詞②：接続助詞・終助詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１３回	主語	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１４回	授業のまとめ 授業内容の理解度の確認	第 2 回～第 13 回までの授業内容について復習して、ノートにまとめておく。	90

〔授業の方法〕
講義形式で行います。各回の授業後（ただし第 6 回は除く）に course power で小課題を出すので、指定された期限までに必ず小課題に解答してください。
第 6 回に授業内容の理解度を確認する小テストを行います。テスト範囲は第 2 回～第 5 回の授業内容です。小テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。
また、第 14 回に授業内容の理解度を確認する授業内テストを行います。試験範囲は、第 2 回～第 13 回の授業内容すべて（小テストでの範囲も含みます）です。テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか

・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。

〔成績評価の方法〕
・小テスト（第 6 回）の成績 20%
・授業内容の理解度確認のための授業内テスト（第 14 回）の成績 60%
・平常点（授業への参加状況や小課題の達成状況） 20%
により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
評価にあたっては、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点を重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし。毎回授業プリントを配布します。

〔参考書〕
必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
・アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古典日本文学史Ｂ						
教員名	清水　由美子						
科目№	125231110	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
古典日本文学の展開を、具体的な作品に即しながら講義する。今年度は散文作品を対象とする。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）を実現するために、次の二点を到達目標とする。
①古典日本文学（散文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できる。
②個別の作品についても、自分の力でそれを鑑賞し、史的に位置づけることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業ガイダンス・文学史の時代区分ということ	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第２回	上代の散文文学―『古事記』と『日本書紀』	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第３回	中古の散文文学①『竹取物語』―物語文学の誕生	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第４回	中古の散文文学②『伊勢物語』―歌物語の世界	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第５回	中古の散文文学③平安日記文学	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第６回	中古の散文文学④『枕草子』	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第７回	中古の散文文学⑤『源氏物語』	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第８回	中古から中世へ―説話文学の展開	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第９回	中世の散文文学①軍記物語の世界	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第１０回	中世の散文文学②『方丈記』と『徒然草』―随筆文学の世界	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第１１回	中世から近世へ―御伽草子の世界	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第１２回	近世の散文文学①井原西鶴と浮世草子	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第１３回	近世の散文文学②上田秋成と読本	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60
第１４回	近世の散文文学③洒落本・滑稽本・人情本	概説書などを利用して、自分なりに要点をまとめ、疑問点などを整理して授業に臨む。授業後は、授業中に出された課題の解答を、コースパワーを通じて提出する。	60

〔授業の方法〕
講義形式。
授業中に課す課題や、レポート課題あるいは学期末試験については、授業内容だけでなく、一般的な入門書や概説書に載っている内容についても理解していることが求められる。そのため、基本事項を中心に、自分自身で知識を身につけるという姿勢をもってほしい。また、それぞれの作品を味わい、散文の古典文学の良さを見つけ出す意欲を持って臨んでほしい。

〔成績評価の方法〕
授業中に出す課題（40%）と期末レポートあるいは学期末試験（60%）を中心とした総合評価。
ただし、授業中の私語は授業妨害と見なして不合格とする。また、60%以上の出席を単位認定の条件とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
評価にあたっては、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典日本文学（散文作品）について、基本的な知識が身についているか。
②古典日本文学（散文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できるか。
③古典日本文学の具体的な作品につい

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。
初心者を念頭に置いて講義をするので特別な知識は必要ないが、中学校レベルの日本史の知識や文学作品の名前は知っているものとして授業を進める。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
初めて日本の古典文学を学ぶ人向けの入門書などは適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学史Ｂ						
教員名	小橋　孝子						
科目№	125231130	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
小説、詩歌、評論などの作品に触れつつ、時代の状況の変化とともにあった近現代文学の歴史を学ぶ。
前半は明治大正期の詩歌及び児童文学の流れを概説し、後半は昭和期の小説史を取り上げる。

〔到達目標〕
日本近現代文学の展開について基礎的な知識を習得する。DP1-1
時代の状況の変化を踏まえ、日本近現代文学の展開とその課題について考察することが出来る。DP2-1

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	授業の全体像を確認する。	３０
第２回	明治の新体詩	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第３回	俳句の革新	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第４回	正岡子規の文学	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第５回	短歌の革新	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第６回	大正期の詩歌１ 口語自由詩	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第７回	大正期の詩歌２ 俳句・短歌の展開	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第８回	大正期の児童文学 童謡・童話	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第９回	プロレタリア文学	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第１０回	モダニズム文学	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第１１回	「文芸復興期」の文学	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第１２回	戦時下の文学	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。	60

		【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	
第１３回	戦後文学の展開	【予習】 基礎的な事項を再確認しておく。指定の資料・作品を読む。 【復習】 資料・作品を再読し、理解を深める。	60
第１４回	授業内試験	半期の授業を振り返る。	60

〔授業の方法〕
講義を中心とし、随時、指定の資料・作品についてディスカッションを行う。

〔成績評価の方法〕
リアクションコメント・発言を含む平常点（５０％）　期末試験（５０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
安藤宏『日本近代小説史 新装版』　中公選書 110　1700 円＋税　ISBN978-4-12-110110-5
その他の資料・作品をコースパワーに掲示、または配布する。

〔参考書〕
授業内で随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業時とメールで受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語の歴史Ａ
教員名	久保田　篤

科目№	125232100	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
日本語が大きな変化を遂げてきたことは古典文学作品などを読むと分かりますが、時代・時期により少しずつ異なる様相を呈することも長年の研究の結果、明らかになっています。現代日本語について考える場合でも、過去の時代の日本語に関する知識が必要になることが多いので、日本語の歴史についてなるべく詳しく学んでもらいたいと思います。
授業では、日本語の歴史を古代語と近代語とに大きく二分した場合の、古代語から近代語への変化について、文法上の変化を中心に、どのような変化が生じたのか、変化はなぜ起こったと考えられるか等の点を中心に、詳しく解説します。なお、授業の進捗によって、内容や順序を一部変更する場合があります。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、３（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とします。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を理解し、説明できる。
②古代語と近代語に関する詳細な知識を身につける。
③日本語史資料から近代語化事象に関わる用例を収集し、的確に解釈・分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の説明 古代語・近代語について ・主要近代語化概観	日本語史に関する知識を確認しておく。 課題を復習する。	60
第２回	終止・連体形の合一化（１） ・連体形終止の増加	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第３回	終止・連体形の合一化（２） ・終止形の消滅 二段活用の一段化	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第４回	活用の種類の減少 格助詞の体系の整備（１） ・主格助詞「が」の成立①	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第５回	格助詞の体系の整備（２） ・主格助詞「が」の成立② ・論理的傾向 接続語の増加	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第６回	助動詞の減少・改新（１） ・過去・完了の助動詞 ・断定の助動詞	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第７回	助動詞の減少・改新（２） ・推量の助動詞 ・分析的傾向	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第８回	係結びの衰退（１） ・ゾ・ナム・ヤ・カの場合	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第９回	係結びの衰退（２） ・コソの場合	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１０回	形容詞カリ活用の衰退	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	90
第１１回	待遇表現の変化 ・丁寧語・丁重語の成立 ・聞手待遇の発達	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１２回	条件表現の変遷 和漢の混淆	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１３回	話し言葉と書き言葉の乖離 近代語化諸事象の関係	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	120
第１４回	到達度確認のための学期末レポートの執筆・提出	前期学修内容を確認しておく。 レポートを作成する。	120

〔授業の方法〕
授業は講義を中心に進めますが、知識の確認のために、毎回課題を提示し、事項の説明をしたり用例採集を行ったりしてもらいます。

〔成績評価の方法〕

学期末レポート（60%）、課題への取り組みなど授業参加状況（40%）による総合評価

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を説明できる。
②古代語と近代語の違い、及び奈良時代の日本語に関する詳細な知識を習得している。
③日本語資料から的確な用例を採集できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語の歴史Ｂ						
教員名	久保田　篤						
科目№	125232110	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
平安時代の日本語については、一部は古典文法としてよく知られていがますが、文法以外の平安時代語の実態や、上代および中世以降の各時代の日本語に関する知識を有する人は少ないと思われます。現代語について考える場合でも、過去の時代の日本語に関する知識が必要になることが多いので、日本語の歴史について詳しく学ぶことは大事なことです。
授業では、各時代の日本語の概要・特徴を解説します。日本語史資料を見てもらったり、課題を提示して授業中に考えてもらったりして、知識を深めることも試みます。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・理解）、３（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とします。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を理解し、説明できる。
②上代・中古・中世・近世の日本語に関する専門的な知識を身につける。
③日本語史資料から各時代の特徴に関わる用例を収集し、的確に解釈・分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	上代の日本語資料 ・金石文 ・上代文献資料	日本語史に関する知識を確認しておく。 課題を復習する。	60
第２回	上代の文字 ・漢字用法の分類 ・万葉仮名の分類	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第３回	奈良時代語の音韻 ・上代特殊仮名遣の甲類・乙類 ・語音法則など	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第４回	奈良時代語の文法（１） ・活用の種類 ・ク語法 ・ミ語法	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第５回	奈良時代語の文法（２） ・上代語特有の助動詞 奈良時代の語彙	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第６回	平安時代語の資料 ・和文資料・訓点資料 ・古辞書	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第７回	平安時代語の文字 ・平仮名・片仮名の成立 平安時代語の語彙 ・和文語と漢文訓読語	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第８回	平安時代語の音韻 ・ハ行転呼音 ・音便の発生	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第９回	院政・鎌倉時代の日本語 室町時代語の資料 ・抄物、狂言 ・外国資料	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１０回	室町時代語の音韻 室町時代語の語彙	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１１回	室町時代語の敬語 ・丁寧語の発達 江戸時代初期の日本語	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１２回	江戸時代前期の日本語 ・資料 ・音韻、文字 ・語法、敬語	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１３回	江戸時代後期の日本語 ・資料 ・音韻、文字 ・語法、待遇表現	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	120
第１４回	到達度確認のための学期末レポートの執筆・提出	これまでの学修内容を確認する。 レポートを作成する。	120

〔授業の方法〕
授業は講義を中心に進めますが、毎回課題を提示し、事項の説明や用例の採集等を行ってもらいます。

〔成績評価の方法〕

学期末レポート（60%）、課題への取り組みなど授業参加状況（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①日本語の歴史や日本語史資料に関する基礎的な事項について説明できる。
②上代・中古・中世・近世の日本語に関する専門的な知識を習得している。
③資料から用例を収集し、的確な解釈・説明ができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語学講義A						
教員名	屋名池　誠						
科目№	125232120	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
【奈良時代日本語の音声・音韻を考える】
本年度は前期・後期、別々のテーマで開講する。
前期は奈良時代の日本語の発音の復元をとりあげる。
ことばの音は発音するそばからすぐに消えてしまうのに、なぜ今から千年以上前の発音を知ることができるのか、具体的な方法を順序だてて説明してゆく。
基本的なところから説明するので、とくに基礎知識は必要としないが、積み重ねてゆく授業なので、毎回復習はしっかりしておいてほしい。

〔到達目標〕
1．日本語研究を志す人たちには、日本語研究のもっとも高度な達成である音韻史研究の方法を実際に経験することで、日本語史の研究方法を実践を通して理解することを目標とする。
2．古典文学や古代史を勉強する人たちには、当時の人々が実際に話していた言語を知ることで、古典作品やその時代をより具体的なものとして捉えられるようになることを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	上代語の史料	奈良時代の文献にはどんなものがあるか、文学史や日本史の参考文献に目を通しておく。	60 分
第2回	上代語の表記方式	復習として、古典の全集類で各文献の具体的な表記を確認しておく。	60 分
第3回	「上代特殊仮名遣い」	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。 なるべく本講義終了までには、橋本進吉『古代国語の音韻に就いて』（岩波文庫）に目を通しておくことが望ましい。	60 分
第4回	「仮名の書き分け」と発音のちがいとの関係	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第5回	音声と音韻、形態音韻	特に理論的に重要で、今後の講義内容の基礎となるものなので、講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第6回	上代語の語形特徴(1)	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第7回	上代語の語形特徴(2)	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第8回	音声学の基礎	予習は必要ないが、受講後は、音声学関係の概説書（参考書欄に挙げたものがお勧め）を参照して音声学について理解を深めておく。	60 分
第9回	音価の推定(1)――音声学からの推定	音声学関係の概説書（参考書欄に挙げたものがお勧め）を参照して音声学について理解を深めておく。	60 分
第10回	音価の推定(2)――比較方法(上代東国方言)	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第11回	音価の推定(3)――比較方法(現代琉球方言)	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第12回	音価の推定(4)――形態音韻からの推定	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第13回	音価の推定(5)――中国原音からの推定	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第14回	その後の時代の音韻・音声	今期の授業内容をよく復習しておく。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式でおこなう。

〔成績評価の方法〕

定期試験ないしレポート（９０%）、平常点（１０%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特別な知識は必要としない。

〔テキスト〕
使用しない。

〔参考書〕
橋本進吉『古代国語の音韻に就いて』岩波文庫
斎藤純男『日本語音声学入門』三省堂

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語学講義Ｂ						
教員名	屋名池　誠						
科目№	125232130	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕

【日本語の動詞活用を再考する】

本年度は前期・後期、別々のテーマで開講する。

後期は、日本語の動詞の活用をとりあげる。高校までの文法では、「か・き・く・く・け・け」とただ機械的に暗誦させられるばかりで、なぜ動詞はああいうかたちをとるのか、活用は一体何のために存在しているのか　などについて説明されることはなかった。そもそもが「活用表」というものが、何の分析もおこなわれないまま、変化する動詞のかたちをそのまま表の形に押し込んであるものにすぎないのである。

高校までには学ばないが、日本語の動詞は、活用と同時にアクセントも規則的に語形変化する（「アクセント活用」）。これは英語などにはない、日本語の動詞の大きな特色である。

この講義では、動詞の活用、アクセント活用を根本から考え直し、そのきわめてシンプルな仕組みを明らかにするとともに、活用、アクセント活用の存在する理由を考えてみようとするものである。

基本的なところから説明するので、（高校まで文法が苦手だった人も含め）とくに基礎知識は必要としないが、積み重ねてゆく授業なので、毎回復習はしっかりしておいてほしい。

〔到達目標〕

１．自分が日常使っている日本語に、すぐれて合理的で整った仕組みが存在することに目を開く。
２．日常の生活で遭遇する、ことばをめぐる種々の問題を的確に捉え、分析し、対処するために応用できる論理的な思考力と方法を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	言語記号	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第２回	言語単位	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第３回	形態素と「語」	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第４回	形容動詞――無活用形容詞	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第５回	複合サ変動詞――無活用動詞	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第６回	形容詞の活用	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第７回	動詞の活用(現代語 1)	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。特に配布したプリントを熟読し、毎回持参すること。	60 分
第８回	動詞の活用(現代語 2)	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。特に配布したプリントを熟読し、毎回持参すること。	60 分
第９回	動詞の「音便形」	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。特に配布したプリントを熟読し、毎回持参すること。	60 分
第１０回	動詞の活用(古典語)	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。特に配布したプリントを熟読し、毎回持参すること。	60 分
第１１回	学校文法活用表との関係	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。	60 分
第１２回	アクセント	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。特に配布したプリントを熟読し、毎回持参すること。	60 分
第１３回	アクセント活用（現代語）	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。特に配布したプリントを熟読し、毎回持参すること。	60 分
第１４回	アクセント活用（古典語	講義内容についてよく復習し、理解を深めておく。特に配布したプリントを熟読し、毎回持参すること。	60 分

〔授業の方法〕

講義形式でおこなう。

〔成績評価の方法〕
定期試験ないしレポート（９０％）、平常点（１０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特別な知識は必要としない。

〔テキスト〕
使用しない。プリントを配布する。配布したプリントは毎回必ず持参すること。

〔参考書〕
適宜、教室で指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語学講義C						
教員名	髙橋　雄太						
科目№	125232140	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
日本語の特質や特徴を把握する上では、日本語以外の言語との比較・対照が有効である。本科目では、日本語と英語の翻訳文章の読み込みと、翻訳や簡単なライティング、統計の実践を通じて、両言語の性質の異なりを学ぶ。

〔到達目標〕
・日本語の特徴や特質を、英語との対照から実例をもとに説明できるようになる。
・用例分析に基づいた実践的な言語の分析方法を身に着ける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	身近にアクセスできる翻訳テキストを確認する。	60
第２回	日英の語順	日英言語の文の構造・かかり受けの仕組みについて復習する。	60
第３回	日英のテンス	日英の翻訳テキストから、テンスの表現がずれているものを見つけ出し、そのずれの要因を考える。	60
第４回	日英のヴォイス①	日英の翻訳テキストから、ヴォイスの表現がずれているものを見つけ出し、リストアップする。	60
第５回	日英のヴォイス②	日英のヴォイスのずれから、各言語で好まれる言い回しについて考える。	60
第６回	日英のモダリティ①	身近な作品の会話文を観察し、表現バリエーションの幅の差について考える。	60
第７回	日英のモダリティ②	身近な作品の会話文を観察し、表現バリエーションの幅の差について考える。	60
第８回	日英の敬語・ビジネスメール	日英言語のコミュニケーション上で重視される要素について考える。	60
第９回	翻訳テキストを読み込む	期末レポートで取り上げる言葉のペアを決めて、用例を収集する。	60
第１０回	日英の言葉の意味のずれ①	日英で異なる意味拡張をする語をリストアップする。	60
第１１回	日英の言葉の意味のずれ②	日英で異なる意味拡張をするに至った言葉の文化的背景について考える。	60
第１２回	日英の品詞体系	各言語で多用される品詞を把握し、その要因について考える。	60
第１３回	日英の語種体系	同じ意味をもつ語種違いの英単語のセットをで見つけ出し、その異なりについて考える。	60
第１４回	授業のまとめ	期末レポートの調査内容の精査と、文章の推敲を行う。	60

〔授業の方法〕
配布する資料をもとに分析・議論をする形式（グループワーク）と、講義形式を併用する。受講者が少ない場合、演習形式で行う。

〔成績評価の方法〕
期末レポート 50%・レスポンスシート課題 30%・平常点 20%、を基に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
※購入の必要なし
鈴木孝夫『ことばと文化』（岩波新書） ISBN：9784004120988
荒木博之『日本語が見えると英語も見える』（中公新書） ISBN：9784121012128
安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理』（大修館書店） ISBN：9784469240931
池上嘉彦『「する」と「なる」の言語学』（大修館書店） ISBN：9784469220322
国広哲也『日英語比較講座３』（大修館書店） ISBN：9784469141436

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文学作品をどう読むか						
教員名	康　潤伊						
科目№	125233100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、テキストを通して小説の読み方を学んだあと、実践的に 1 つの小説を読み通すことを通して学びの定着をはかります。
テキストを読み講義を聴くだけでは読み方は身につきませんので、事前提出課題に意欲的に取り組むことが必要です。

〔到達目標〕
(1) 基礎的な文学理論を理解する。
(2) 読み方の基礎を、実際に小説を読む際に活かすことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	ガイダンス（授業の目的と進め方）	シラバスを熟読して授業に臨む。授業後は目的と進め方をしっかりと理解する。	60
第 2 回	テキストの「はじめに」、第 1 講　志賀直哉『小僧の神様』	該当箇所を熟読し、疑問点や深く知りたいことを事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第 3 回	テキスト第 2 講　夢野久作『瓶詰地獄』	該当箇所を熟読し、疑問点や深く知りたいことを事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第 4 回	教科書第 3 講　太宰治『葉桜と魔笛』	該当箇所を熟読し、疑問点や深く知りたいことを事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第 5 回	復習回（はじめに～第 3 講）	これまでの学習内容を振り返り、未消化の点、更に知りたい点を事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第 6 回	教科書第 4 講①　中島敦『文字禍』	該当箇所を熟読し、疑問点や深く知りたいことを事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第 7 回	教科書第 6 講①　川端康成『水月』	該当箇所を熟読し、疑問点や深く知りたいことを事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第 8 回	教科書第 7 講　有吉佐和子『亀遊の死』	該当箇所を熟読し、疑問点や深く知りたいことを事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第 9 回	復習回（第 4 講～第 7 講）	これまでの学習内容を振り返り、未消化の点、更に知りたい点を事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第１０回	第 9 講	該当箇所を熟読し、疑問点や深く知りたいことを事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第１１回	実践編１　大江健三郎「人間の羊」	該当テクストを熟読し、これまでの学習内容の定着度を検証し、事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第１２回	実践編２　大江健三郎「人間の羊」	該当テクストを熟読し、これまでの学習内容の定着度を検証し、事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第１３回	実践編３　大江健三郎「人間の羊」	該当テクストを熟読し、これまでの学習内容の定着度を検証し、事前課題として提出する。授業後は学んだことを復習する。	120
第１４回	授業のふりかえりとまとめ	全授業をふりかえり、学んだことをリアクションペーパーで提出する。	60

〔授業の方法〕
基本的には講義形式ですが、皆さんがテキストを読んでいてわからなかった点やより深く知りたい点を中心に講義を行っていきますので、事前課題の提出は必ず行ってください。
事前課題は、わからない点や深く知りたい点を、具体的な教科書の記述とともに述べることができているか（要はしっかり考えながら読んでいるか）という基準で評価します。
教科書に対する理解度の高低は、評価の対象になりません。つまり、教科書を読んでわからない箇所が多かったからと言って評価はマイナスにはなりませんし、読めて全部理解できたからと言ってプラスにもなりません。
わからない箇所が多い方は率直にそれをぶつけてください。読めて全部理解できる方は、自分なりに学習をどんどん進めて、より深く知りたい点を示してください。授業でもそれに応じて発展的な内容を示します。
なお、期末レポートの提出は、単位認定のための必須要件です。

また、実践編の作品は履修者のレベルに応じて変更することがあり得るため、入手する必要はありません。

〔成績評価の方法〕
期末レポート　40%
平常点（事前課題の提出状況や内容、授業への参加状況）　60%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい―文学研究の基本 15 講―』慶応義塾大学出版会、2019

〔参考書〕
特になし（ふさわしい書籍があれば授業で随時紹介します）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
初回授業時にメールアドレスを知らせます。
また、随時授業前後の教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義Ａ						
教員名	鈴木　崇大						
科目№	125233110	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
【『万葉集』を読む】
現存する最古の歌集『万葉集』は、およそ 130 年の間に詠まれた歌を収めています。この授業では、その前期 80 年にあたる飛鳥時代の歌を、当時の歴史的背景および世界観と関わらせながら読んでいきます。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）を実現するために、次の２点を到達目標とします。
①飛鳥時代の歌の特質について具体的に説明できる
②飛鳥時代の歌を歴史的背景ないしは世界観等と関わらせて具体的に説明できる

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	『万葉集』概説	レジュメの確認	60
第２回	伝承の歌人たち	レジュメの確認	60
第３回	舒明天皇・中皇命	レジュメの確認	60
第４回	有間皇子	レジュメの確認	60
第５回	天智天皇・額田王Ⅰ	レジュメの確認	60
第６回	額田王Ⅱ・天武天皇Ⅰ	レジュメの確認	60
第７回	天武天皇Ⅱ・持統天皇	レジュメの確認	60
第８回	大津皇子・大伯皇女	レジュメの確認	60
第９回	柿本人麻呂Ⅰ	レジュメの確認	60
第１０回	柿本人麻呂Ⅱ	レジュメの確認	60
第１１回	柿本人麻呂Ⅲ	レジュメの確認	60
第１２回	高市黒人・長意吉麻呂	レジュメの確認	60
第１３回	皇子たち・皇女たち	レジュメの確認	60
第１４回	飛鳥時代末期	レジュメの確認	60

〔授業の方法〕
・講義形式で行います。
・授業終了後、リアクションペーパーの提出を課します。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーの提出状況）28%、期末レポート 72%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①飛鳥時代の歌の特質について具体的に説明できたか
②飛鳥時代の歌を歴史的背景ないしは世界観等と関わらせて具体的に説明できたか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし（中学校程度の日本史（特に飛鳥時代）の知識があれば十分です)。

〔テキスト〕
特になし（毎回の授業でレジュメを配布します)。

〔参考書〕
特になし（必要に応じて紹介します）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義Ｂ						
教員名	桜井　宏徳						
科目№	125233120	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
＊『後拾遺和歌集』を読む＊
応徳 3 年（1086）におよそ 80 年ぶりの勅撰和歌集として編まれた『後拾遺和歌集』（以下、略称の『後拾遺集』を用います）を、入集歌数の多い和泉式部・相模・赤染衛門・能因・伊勢大輔の歌を中心に講読してゆきます。『後拾遺集』の時代は、『古今集』以来の王朝和歌の伝統に新風が吹き込まれつつあった時期でもあり、女性歌人の活躍が目立つのも特徴です。
この授業では、『後拾遺集』に収められた歌々の精読を通じて、王朝和歌を鑑賞・分析するための基礎知識を身につけるとともに、複数の注釈書を比較・検討したり、先行研究を参照したりすることによって、研究の視点や方法についても学ぶことを目的とします。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下の 2 点を到達目標とします。
① 王朝和歌を鑑賞・分析するための基礎知識を身につけ、『後拾遺和歌集』の歌風についても理解を深める。
② 授業時に紹介する注釈書や先行研究を通じて、和歌を研究する際のさまざまな視点や方法について知る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	『後拾遺和歌集』概説（ガイダンスを含む）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第２回	和泉式部（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第３回	和泉式部（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第４回	和泉式部（三）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第５回	相模（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第６回	相模（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第７回	赤染衛門（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第８回	赤染衛門（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第９回	能因（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１０回	能因（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１１回	伊勢大輔（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１２回	伊勢大輔（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１３回	源経信	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１４回	授業のまとめ・レポートの課題提示	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行います。毎回プリントを配布し、それに沿って講義を進めます。
レポートはすべての授業回を対象とし、『後拾遺集』とその時代の歌人たち、また、古典和歌の読解に関わる基礎知識が身についているかどうかを確認する内容とします。

〔成績評価の方法〕

レポート（80%）と授業参加度（20%：リアクションペーパー等）によって評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に予備知識は必要ありませんが、他の平安文学・和歌文学に関する科目とあわせて履修すると、より理解が深まります。

〔テキスト〕
特定の教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

〔参考書〕
久保田淳・平田喜信 校注『後拾遺和歌集』〈新日本古典文学大系〉（岩波書店、1994 年）
その他、授業時に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問等は授業時およびその前後に受け付けるほか、メール（アドレスは初回の授業時に公開します）での問い合わせにも応じます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義C						
教員名	吉野　瑞恵						
科目№	125233130	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
『『源氏物語』に描かれたもののけと霊ー救済されない人々ー
　この講義では、『源氏物語』の中でもののけや霊が登場する場面を取り上げ、その表現の特徴と背後にある仏教思想との関連について考察する。
　具体的には、次のような場面を取り上げる。よく知られている夕顔巻で夕顔がもののけに取り殺される場面では、もののけの正体は六条御息所と考えられることが多いが、実際に本文を読んでみると、多義的な解釈が可能になる場面であることがわかる。また、葵巻で六条御息所が生霊となって葵の上を取り憑く場面では、もののけとなる経緯が六条御息所の心に深く寄り添いながら語られているのが特徴である。六条御息所は死後もののけとなって紫の上や女三の宮に取り憑き、このことは娘の秋好中宮に苦悩をもたらし、彼女の出家願望につながることになる。また、死者の霊が残された者の夢の中に現れることもあった。このような現象は、この世に執着が残っているためと解釈され、死者は救済されていないと考えられたのである。
　以上のような場面を分析しながら、平安時代の人々の思考のありようについて考えてみたい。

〔到達目標〕
以下の２点を到達目標とする。
①平安時代の文化や社会に関する深い知識を身に付ける。
②『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語を原文で読解し、深く理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。	60
第２回	『源氏物語』概説 ・『源氏物語』の概略について説明する。	『源氏物語』についての文学史的な知識をあらかじめ確認し、配布資料を熟読する。	60
第３回	平安時代のもののけ、霊	授業前にはもののけとは何かを確認する。授業後は、配布プリントを熟読する。	60
第４回	光源氏、夕顔となにがしの院に赴く（夕顔巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、夕顔巻の該当箇所を熟読する。	60
第５回	夕顔を取り殺したもののけの正体（夕顔巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、夕顔巻の該当箇所を熟読する。	60
第６回	葵の上はもののけに取りつかれて苦しむ（葵巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、葵巻の該当箇所を熟読する。	60
第７回	光源氏は六条御息所のもののけと対面する（葵巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、葵巻の該当箇所を熟読する。	60
第８回	六条御息所はもののけになったことを自覚する、葵の上死去（葵巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、葵巻の該当箇所を熟読する。	60
第９回	六条御息所の死霊の出現（若菜下巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、若菜下巻の該当箇所を熟読する。	60
第１０回	桐壺院の霊が光源氏の夢に現れる（明石巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、明石巻の該当箇所を熟読する。	60
第１１回	桐壺院の霊が朱雀帝の夢に現れる（明石巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、明石巻の該当箇所を熟読する。	60
第１２回	八宮の霊が阿闍梨の夢に現れる（総角巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、総角巻の該当箇所を熟読する。	60
第１３回	仏教的な救済とももののけ、霊との関連	授業前にはこれまでの授業内容を確認する。授業後は、配布資料を熟読する。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの授業の資料を整理し、半年の授業内容を総合的に理解する。	120

〔授業の方法〕
・ 授業は講義を中心に進める。授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。
・ 授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。
＊授業で扱う場面は、シラバスと異なる可能性があります。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパーの提出状況（４０％）、到達度確認テスト（６０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業中に扱った作品の文学史的な位置づけについて説明できる。
・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
『源氏物語』に関する基礎的な知識。

〔テキスト〕
以下のテキストの一部をコピーして配布します。購入の必要はありません。
阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男『源氏物語①～⑤』小学館新編日本古典文学全集。

〔参考書〕
授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義D						
教員名	吉野　瑞恵						
科目№	125233140	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
『源氏物語』の光源氏と藤壺の恋について考える
　『源氏物語』には光源氏のさまざまな恋が描かれているが、その中でも父帝の后となった藤壺との恋は物語の根幹にかかわる重要性を持つ。二人の間に生まれた秘密の子はやがて帝位につき、結果的に光源氏の栄華をもたらすことになるからである。
　この二人の関係は「両想い」と言えるのだろうか。光源氏の藤壺への想いははっきりと語られているものの、藤壺が光源氏をどのように思っていたのかは実ははっきりとはわからない。藤壺の光源氏への想いはどのように語られているのか、また二人の関係がどのように変化していくのか原文を丹念に検討していきたい。
　さらに、この恋が源氏物語の読者や研究者の中でどう評価されてきたのか、享受のありようにも焦点をあててみたい。

〔到達目標〕
以下の２点を到達目標とする。
①平安時代の文化や社会に関する深い知識を身に付ける。
②『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語を原文で読解し、深く理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。	60
第２回	『源氏物語』概説 ・光源氏と藤壺の関係に焦点を当てながら『源氏物語』の概略について説明する。	『源氏物語』についての文学史的な知識をあらかじめ確認し、配布資料を熟読する。	60
第３回	恋の始まり（桐壺巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、桐壺巻の該当箇所を熟読する。	60
第４回	光源氏と藤壺の密会、藤壺懐妊（若紫巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、若紫巻の該当箇所を熟読する。	60
第５回	藤壺出産（紅葉賀巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、紅葉賀巻の該当箇所を熟読する。	60
第６回	光源氏の舞姿を見つめる藤壺（花宴巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、花宴巻の該当箇所を熟読する。	60
第７回	光源氏は藤壺に近づき拒否される（賢木巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、賢木巻の該当箇所を熟読する。	60
第８回	藤壺の危機感と出家（賢木巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、賢木巻の該当箇所を熟読する。	60
第９回	光源氏は藤壺に別れを告げ須磨に向かう（須磨巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、須磨巻の該当箇所を熟読する。	60
第１０回	須磨の光源氏、藤壺と手紙を交わす（須磨巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、須磨巻の該当箇所を熟読する。	60
第１１回	藤壺、斎宮女御の入内を後押しする（澪標巻・絵合巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、澪標巻・絵合巻の該当箇所を熟読する。	60
第１２回	藤壺の死（薄雲巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、薄雲巻の該当箇所を熟読する。	60
第１３回	江戸時代の国学者たちの解釈	授業前にはこれまでの流れを確認する。授業後は、配布資料を熟読する。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの授業の資料を整理し、半年の授業内容を総合的に理解する。	120

〔授業の方法〕
・ 授業は講義を中心に進める。授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。
・ 授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。
＊授業で扱う場面は、シラバスと異なる可能性があります。

〔成績評価の方法〕

毎回のリアクションペーパー（４０%)、到達度確認テスト（６０%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業中に扱った作品の文学史的な位置づけについて説明できる。
・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
『源氏物語』に関する基礎的な知識。

〔テキスト〕
以下のテキストの一部をコピーして配布します。購入の必要はありません。
阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男『源氏物語①～⑥』小学館新編日本古典文学全集。

〔参考書〕
授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義A						
教員名	清水　由美子						
科目№	125233150	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
テーマ・概要
今期のテーマは、「軍記文学に見る冥の世界との交信①」である。
中世文学の一ジャンルである軍記文学は、基本的に史実としての戦乱を題材とする。しかし、そこには多くの史実から離れた創作や史実の改変が見られ、それは作品の叙述意図や当時の社会の様相を表すものだとも言える。しかし、一方、軍記文学においては多くの、非科学的とも言える冥の世界の意志がこの世にあらわれ、ある時は人々の運命を予告し、ある時は戦いの勝敗を左右したりする。中世の人たちにとってこのような冥の世界の意志の顕現とはどういうものだったのか。創作の一環なのか、実際に起こった無視できない重要な出来事であると認識されていたのか。本講義では、現代人からすると現実と乖離したとも思えるこうした記事を読むことで、中世の人々の心性の一端に触れることを目的とする。前期の本講義では、〈夢と神告げ〉に注目する。なお、後期の中世日本文学Bは「軍記文学に見る冥の世界との交信②」として〈怨霊と物怪〉を取り上げる。前期の内容と関連するので、通しての受講を希望する。

〔到達目標〕
DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の習得)、DP３（課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)、DP6（自発性、積極性）を達成するため、以下の４点を到達目標とする。
1、中世文学および軍記文学への知識を深める。
2、テーマである軍記文学に見る中世の人々の心性についての思索を深める。
3、他の学生の意見に触れることで、知識を広めるとともに、様々な考え方に対する理解力を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業ガイダンス　中世という時代（時代区分とその特徴）	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第２回	日本の軍記文学の全体像とその特徴　日本における神祇信仰の展開	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第３回	前近代人にとっての夢とは。夢を巡る様々な話	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第４回	源頼朝の見た夢	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第５回	清盛の妻の見た夢	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第６回	無名の若侍のみた夢	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第７回	八幡神のお告げ①平家に向かって矢を放つ。	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第８回	八幡神のお告げ②義経の勝利の後押しをする。	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第９回	熊野の神の力①鳥羽院の余命を宣告する。	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１０回	熊野の神の力②清盛の栄華を予告する。	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１１回	熊野の神の力③重盛の願いを聞き入れる。	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１２回	厳島の神の力　安徳天皇を誕生させる。	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１３回	三種の神器を巡る言説	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１４回	補足・総括・習熟度確認	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60

〔授業の方法〕
・授業は原則として講義形式で進める。受講者は教員の指示に従い、資料に目を通しすなどの準備をしたうえで、疑問点などを整理して出席すること。
・授業後は、コースパワーのレポート機能を通して、質問・意見・感想を書き込む。教員が必ずコメントを書き込むので、それを確認して理解を深めること。
なお、受講者のコメントの一部は、次回のレジュメに掲載して他の受講者に公開し、共有することで理解を深め、知識を広げることを目指す。
・受講者の希望や問題意識、また、進捗状況によっては内容を変更することもあり得る。

〔成績評価の方法〕

予習復習の内容や各回のレポートの内容などの平常点（50%）、習熟度確認の内容（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にないが、テーマに関して興味関心を持って参加して欲しい。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義Ｂ						
教員名	清水　由美子						
科目№	125233160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
今期のテーマは、「軍記文学に見る冥の世界との交信②」である。
中世文学の一ジャンルである軍記文学は、基本的に史実としての戦乱を題材とする。しかし、そこには多くの史実から離れた創作や史実の改変が見られ、それは作品の叙述意図や当時の社会の様相を表すものだとも言える。しかし、一方で、軍記文学には御霊信仰に基づく怨霊の記事や物怪があらわれ、ある場合には死者の恨みを読者に伝え、ある場合には、読者の側の強い同情を表現している。さらにその背景には、軍記文学の成立と大きく関る人々の鎮魂の気持ちが作用していると考えられる。中世の人たちにとってこのような冥の世界の意志の顕現とはどういうものだったのか。創作の一環なのか、実際に起こった無視できない重要な出来事であったのか。本講義では、現代人からすると非科学的だとも思えるこうした記事を読むことで、中世の人々の心性の一端に触れることを目的とする。なお、前期の中世日本文学Ｂ「軍記文学に見る冥の世界との交信①」と関連するので、通しての受講を希望する。

〔到達目標〕
DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の習得)、DP３（課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)、DP6（自発性、積極性）を達成するため、以下の４点を到達目標とする。
1、中世文学および軍記文学への知識を深める。
2、テーマである軍記文学に見る中世の人々の心性についての思索を深める。
3、他の学生の意見に触れることで、知識を広めるともに、様々な考え方に対する理解力を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業ガイダンス　御霊信仰と鎮魂	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第２回	平将門はなぜ怨霊となったのか①　『将門記』の語る将門の乱の経緯	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第３回	平将門はなぜ怨霊となったのか②　将門のあの世からの手紙	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第４回	崇徳院はなぜ怨霊になったのか①　『保元物語』の語る保元の乱の経緯	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第５回	崇徳院はなぜ怨霊になったのか②　西行による鎮魂	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第６回	後鳥羽院はなぜ怨霊になったのか　『承久記』の語る後鳥羽院の恨み	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第７回	後醍醐天皇はなぜ怨霊になったのか　『太平記』に見える祟る人々	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第８回	『曽我物語』と御霊信仰	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第９回	清盛の悪行と物怪①	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１０回	清盛の悪行と物怪②	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１１回	頼豪説話を読む①	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１２回	頼豪説話を読む②	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１３回	修羅能の世界	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60
第１４回	補足・総括・習熟度確認	教員の指示に従って次回の授業で使用する資料などにあらかじめ目を通す。また、授業後はコースパワーを通じてその回の授業についての質問や意見を書き込んで提出する。	60

〔授業の方法〕
・授業は原則として講義形式で進める。受講者は教員の指示に従い、資料に目を通しすなどの準備をしたうえで、疑問点などを整理して出席すること。
・授業後は、コースパワーのレポート機能を通して、質問・意見・感想を書き込む。教員が必ずコメントを書き込むので、それを確認して理解を深めること。なお、受講者のコメントの一部は、次回のレジュメに掲載して他の受講者に公開し、共有することで理解を深め、知識を広げることを目指す。
・受講者の希望や問題意識、また、進捗状況によっては内容を変更することもあり得る。

〔成績評価の方法〕

予習復習の内容や各回のレポートの内容などの平常点（50%）、習熟度確認の内容（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にないが、テーマに関して興味関心を持って参加して欲しい。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義C						
教員名	齋藤　真麻理						
科目№	125233170	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
室町時代から江戸時代にかけて、室町物語（御伽草子）と呼ばれる短編の物語が数多く誕生した。その中から、器物の妖怪たちが活躍する『付喪神絵巻』を取り上げる。作品内容と関係する先行の古典文学や漢故事、絵巻や屏風などの絵画表象にも目を向けて、作品が内包する教養世界を読み解く。さらに本作の日本文学史上に占める位置を検討し、室町文化の特質を考える。

〔到達目標〕
①室町物語の研究手法や現在の研究水準を把握し、室町文化の基礎知識を身につける。
②物語世界とその文化的背景について、多様な観点から課題を設定し、レポートを書くことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション―室町物語の誕生―	文学史に関する書籍から、中世文学史を確認しておく。室町物語の基礎知識について配付資料を復習。	60 分
第２回	物語絵のかたち―絵巻・絵本・屏風―	絵巻や屏風など、物語が描き伝えられた「かたち」に関する基礎知識、国内外で公開されているデジタル画像の検索や活用方法、マナーを学ぶ（予習・復習）	60 分
第３回	『付喪神絵巻』ガイダンス	先行研究や、公開されている本作品の画像を紹介し、作品研究の基礎を学ぶ（予習・復習）	60 分
第４回	『付喪神絵巻』を読む（1）―物語の季節―	物語の発端となった季節と数々の古道具。興味を持った点を抜き出しておく。時代背景を考える（予習・復習）	60 分
第５回	『付喪神絵巻』を読む（2）―物語の場―	古道具の妖怪と都市文化に着目し、土地の記憶と文芸との関連性を考える（予習・復習）	60 分
第６回	『付喪神絵巻』を読む（3）―妖怪たちの宴①―	妖怪たちが繰り広げる詩歌の遊びから、和歌文学との関連性を読み解く（予習・復習）	60 分
第７回	『付喪神絵巻』を読む（4）―妖怪たちの宴②―	作品に取り込まれた漢故事を読み解く（予習・復習）	60 分
第８回	『付喪神絵巻』を読む（5）妖怪たちの宴③―	歌仙絵など、作品に取り込まれた先行の絵画作品について考える（予習・復習）	60 分
第９回	『付喪神絵巻』を読む（6）―玄宗皇帝絵の世界①―	当時、広く愛好された玄宗皇帝と楊貴妃の物語について学び、作品との関係を考える（予習・復習）	60 分
第１０回	『付喪神絵巻』を読む（7）―玄宗皇帝絵の世界②―	玄宗皇帝と楊貴妃を描いた絵画作品について学び、作品との関係を考える（予習・復習）	60 分
第１１回	『付喪神絵巻』を読む（8）―妖怪たちの発心―	物語の終焉。作品の成立・伝来に密接に関わっていた京都東寺の文化圏について考える（予習・復習）	60 分
第１２回	『付喪神絵巻』を読む―小括―	本作全体の読解を振り返り、室町物語の特徴について考える（予習・復習）	60 分
第１３回	和漢の故事と室町文芸	室町物語に取り入れられたさまざまな和漢の故事を調べ、作品世界に果たした機能を考える（予習・復習）	60 分
第１４回	まとめ	室町物語の読者層や当時の読書のありようを検討し、室町文化の特質について考える。	60 分

〔授業の方法〕
・講義形式で進める。
・毎回、授業内容に関する質問や感想、考察などのコメントの提出を求め、次回の授業の冒頭で注目されるコメントを紹介し、説明や補足を行う。
・国内外に所蔵される室町物語の絵巻など、デジタル公開されているカラー画像を活用する。
・配布プリントは、毎回、各自で責任を持って受け取ること。

〔成績評価の方法〕
平常点（講義への参加状況、コメントの提出状況など）50%、課題レポート 50%により、総合的に評価する。
成

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
『付喪神絵巻』のテキストをはじめ、関連する説明プリントを配布する。購入の必要なし。

〔参考書〕
『お伽草子事典』（東京堂出版、2002 年）など。購入の必要なし。そのほか、適宜、授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
ＩＣＴ活用／アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義D						
教員名	齋藤　真麻理						
科目№	125233180	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
室町時代から江戸時代にかけて、室町物語（御伽草子）と呼ばれる短編の物語が数多く誕生した。その中から、愛らしい白鼠の恋と冒険を描いた絵巻『弥兵衛鼠』を取り上げる。本文を丁寧に読みながら、作品周辺の文芸や絵巻・絵本などとの関係性にも注目する。とくに『源氏物語』の影響を分析することで、作品に反映された当時の人々の教養世界を読み解き、室町文化の特質について考える。

〔到達目標〕
①室町物語の研究手法や現在の研究水準を把握し、室町文化の基礎知識を身につける。
②物語世界とその文化的背景について、多様な観点から課題を設定し、レポートを書くことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション―室町物語の誕生―	文学史に関する書籍から、中世文学史を確認しておく。室町物語の基礎知識について配付資料を復習。	60 分
第２回	物語を伝える①―本のかたち―	物語が描き伝えられた「形態」に関する基礎知識。和本の構造、蔵書印など、書誌学の初歩も学ぶ（予習・復習）	60 分
第３回	物語を伝える②―デジタル画像の活用方法―	国内外で公開されているデジタル画像の検索や活用方法、マナーを学ぶ（予習・復習）	60 分
第４回	『弥兵衛鼠』ガイダンス	先行研究や、公開されている本作の画像を紹介し、作品研究の基礎を学ぶ（予習・復習）	60 分
第５回	『弥兵衛鼠』を読む（1）―物語の主人公―	物語の主人公である白鼠をめぐる民俗や、挿絵のさまざまな表現など、興味を持った点を抜き出し、関連作品を探してみる（予習・復習）	60 分
第６回	『弥兵衛鼠』を読む（2）―東寺の塔―	主人公の弥兵衛が住んでいたという京都東寺の塔。物語の場にどのような意味がこめられているかを考える（予習・復習）	60 分
第７回	『弥兵衛鼠』を読む（3）―婚礼の宴―	華やかな婚礼場面、挿絵に踏まえられた近世初期美人画や、小袖文化を考える（予習・復習）	60 分
第８回	『弥兵衛鼠』を読む（4）―弥兵衛の旅路―	失踪した弥兵衛。その旅路はどのような意図に基づき、選択されたのか。作品生成の背景を考える（予習・復習）	60 分
第９回	『弥兵衛鼠』を読む（5）―鳥羽の恋塚―	弥兵衛の奥方が訪ねたという鳥羽の恋塚を取り上げる。悲恋物語に彩られた名所と本作との関係を読み解く（予習・復習）	60 分
第１０回	『弥兵衛鼠』を読む（6）―室町小歌の世界―	作品に取り込まれた室町小歌をはじめ、当時の流行歌謡について学ぶ（予習・復習）	60 分
第１１回	『弥兵衛鼠』を読む（7）―福の神への憧憬―	作品に横溢する祝言性について、福神信仰を踏まえて考える（予習・復習）	60 分
第１２回	『弥兵衛鼠』を読む（8）―都への帰還―	東路の果てから都へ帰還する弥兵衛。その経路を検証し、作品世界に反映された時代性を考える（予習・復習）	60 分
第１３回	物語の水脈―『源氏物語』変奏―	『源氏物語』に関する教養世界がどのように室町物語を形づくったのか。文芸と学芸の交流を考える（予習・復習）	60 分
第１４回	まとめ	本作の諸本を改めて一覧し、挿絵の変容などから読者層や時代性を検討、室町文化の特質について考える。	60 分

〔授業の方法〕
・講義形式で進める。
・毎回、授業内容に関する質問や感想、考察などのコメントの提出を求め、次回の授業の冒頭で注目されるコメントを紹介し、説明や補足を行う。
・国内外に所蔵される室町物語の絵巻など、デジタル公開されているカラー画像を活用する。
・配布プリントは、毎回、各自で責任を持って受け取ること。

〔成績評価の方法〕
平常点（講義への参加状況、コメントの提出状況など）50%、課題レポート 50%により、総合的に評価する。
成

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
『弥兵衛鼠』のテキストをはじめ、関連する説明プリントを配布する。購入の必要なし。

〔参考書〕
、『お伽草子事典』（東京堂出版、2002 年）など。購入の必要なし。そのほか、適宜、授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
ＩＣＴ活用／アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義A						
教員名	吉丸　雄哉						
科目№	125233190	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
江戸時代の文芸・演劇・芸能・絵画資料の読解を通じて、日本文化を代表する忍者と忍術についてその特徴を学びます。私たちが現在イメージするような忍者、たとえば黒装束黒覆面で手裏剣を投げたり、印を結んで超自然的な術をおこしたりする忍者像は、文芸・演劇などの中で作られていったものです。こうした忍者像は新しい忍者作品が登場することで日々更新されています。本講義では忍者像の基礎的な部分が形作られた江戸時代の忍者作品を具体的に辿ることで、忍者像の形成と変遷を明らかにしていきます。

〔到達目標〕
事実だと思われていた忍者の姿がフィクションの作品の影響をいかに受けているかを知り、一次史料や有力な二次史料をもとに歴史的事実を見分ける力を養います。ある忍者作品が有名になるとそれを元に新たな忍者作品が作られ、それが積み重なることによって忍者像が形成されていきますが、後発の作品が先行する作品をいかに取り込み翻案しているか、それを見分ける目を養います。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス「忍者はいかにして文学研究の対象となったか」	シラバスを読んでおく。 スライド PDF を読み直し、理解を深める。	60
第２回	総説　忍者像の形成と変容　史実の忍び編	スライド PDF を読み直し、理解を深める。	60
第３回	総説　忍者像の形成と変容　虚構の忍者編	スライド PDF を読み直し、理解を深める。	60
第４回	忍者ができるまで１　『伽婢子』「飛加藤」	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第５回	忍者ができるまで２　「飛加藤」と「嵎崙奴」	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第６回	忍者ができるまで３　『伽婢子』「窃の術」	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第７回	忍者ができるまで４　「窃の術」と「田膨郎」	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第８回	忍者ができるまで５　『伽婢子』と『北越軍談』	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第９回	忍者ができるまで ６　飛加藤の変容　『風流軍配団』『絵本烈戦功記』	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第１０回	忍者のさまざま １　『聚楽物語』『新可笑記』　『其磧置土産』	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第１１回	忍者のさまざま２　『本朝諸士百家記』『絵本太閤記』	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第１２回	軍記の中の忍び　『北条五代記』、島原の乱とその軍記	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第１３回	忍者の表象　黒装束・覆面・手裏剣・忍者の印	テキストを読み直し、理解を深める。	60
第１４回	魔法的忍術について	テキストを読み直し、理解を深める。	60

〔授業の方法〕
講義形式

〔成績評価の方法〕
期末試験（100%）。出席は毎回とります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
・忍者の登場する近世作品の文学ジャンルについて理解できているか。
・忍者の登場する近世作品の内容と型について理解できているか。
・虚構の忍者像がどのように成立していったのか理解できているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本古典文法の知識

〔テキスト〕
吉丸雄哉『忍者とは何か』（KADOKAWA、税込 2640 円、ISBN9784047036239）

〔参考書〕
山田雄司『忍者の歴史』角川書店、税込 1760 円、ISBN9784047035805、購入の必要なし
平山優『戦国の忍び』角川新書、税込 990 円、ISBN9784040823591、購入の必要なし
山田雄司編『忍者学大全』東京大学出版会、税込 8250 円、購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義Ｂ						
教員名	光延　真哉						
科目№	125233200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
高校における古文の学習において、江戸時代（近世）の文学に触れられることはほとんどない。古典文学の枠に括られるものの、その実態がよく知られないままに見過ごされてしまうのが江戸文学であるが、一方で、これからの時代に必要とされる古典として、昨今注目を集め始めてもいる。例えば、日本文化へのグローバルな関心はますます強まっている。衣食住その他のいわゆる〈日本的な〉伝統文化にせよ、マンガを始めとしたポップカルチャーにせよ、直接的な源流は江戸の文学・文化に見出すことができる。今後日本が文化的なコンテンツを開発していく上で、江戸の文学は無数の宝を秘蔵する宝物庫であると言ってよかろう。
本授業では、そうした江戸時代の文学について、現代文化との関連性を視野に入れた複数のテーマから考察していく。当時の社会情勢や慣習、価値観も含めた基礎的な知識を学ぶとともに、ジャンルや時代の枠を超えてダイナミックに当該期の文学を扱うことによって、古典を学ぶことの意義を模索していきたい。

〔到達目標〕
①江戸時代（近世）の文学についての基礎的な知識を身につける。
②江戸時代の文学あるいは文化が、現代の日本文化とどのようなつながりがあり、古典を学ぶことにどのような意義があるのかについて考える力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	近世文学の概説１（時代背景について）	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第２回	近世文学の概説２（文学ジャンルについて）	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第３回	ゆるキャラ　―黄表紙にみるキャラクター文化―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第４回	忍者　―NINJA イメージの変遷を探る―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第５回	異国１　―江戸文学は中国から何を得たか―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第６回	異国２　―江戸文学はまだ見ぬ西洋をどう描いたか―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第７回	恋愛　―江戸人胸キュンの物語―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第８回	男色　―西鶴『男色大鑑』を読む―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第９回	２次創作　―『伊勢物語』『源氏物語』。王道古典をアレンジする―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第１０回	幽霊　―牡丹灯籠・皿屋敷・四谷怪談。王道の怪談を知る―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第１１回	座の文芸　―俳諧・狂歌で身分を超える―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第１２回	悪所　―男のための別天地・吉原―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第１３回	メディア　―蔦重のべらぼうな戦略―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90
第１４回	隅田川　―土地の記憶と文学―	【予習】Webclass にアップされるレジュメや作品テキストに事前に目を通しておく。 【復習】授業内容を踏まえて Webclass の課題に取り組む。	90

〔授業の方法〕
この授業はパワーポイントを使った講義形式で進める。受講生は Webclass にアップされるレジュメ（穴埋め形式）や作品テキストをプリントアウトしたり、各自のデバイスにダウンロードしたりしたうえで授業に臨んでほしい。
各回終了後は、Webclass の課題に取り組んでもらう。内容は各回共通で、「授業を受けてどのようなことを考え、どのようなことを調べたか」とする。授業を踏まえて、学びをいかに自主的に深められているかという点をポイントとするので、単なる授業の感想にとどまっているものは低評価となる。

〔成績評価の方法〕

課題：56%、学期末試験：44%。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
①江戸時代（近世）の文学についての基礎的な知識を身につけているかどうか。
②江戸時代の文学あるいは文化が、現代の日本文化とどのようなつながりがあり、古典を学ぶことにどのような意義があるのかについて考える力を養えているかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
原道生・林達也編『日本文芸史　―表現の流れ　第四巻・近世』（河出書房新社、1988 年）
日本文学検定委員会編『日本文学検定公式問題集〔古典〕２級』（新典社、2011 年）
長島弘明編『奇と妙の江戸文学事典』（文学通信、2019 年）
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義C						
教員名	丸井　貴史						
科目№	125233210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
【日本近世文学と白話小説】
明末の中国においては、口語の語彙や語法を反映させた文体を持つ「白話小説」が陸続と刊行された。そしてそれは日本に輸入され、読本の成立を促すなど、江戸時代の文学に多大な影響を及ぼした。本講義においては、近世文学における白話小説受容の具体相を概観した上で、白話小説と初期読本の比較を通して、なぜ日本において白話小説がかくも広く受け入れられたのかを考えるとともに、翻案作品の分析手法を学ぶ。

〔到達目標〕
（1）日本近世文学における白話小説の影響を理解することができる。(DP1)
（2）原話と翻案作品を比較し、作品を分析することができる。(DP3)
（3）自らの分析内容を的確に文章化することができる。(DP4)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	白話小説概説	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第２回	白話小説の成立と出版	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第３回	明末の短篇小説	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第４回	近世日本の唐話学	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第５回	『三国志演義』と近世小説	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第６回	『水滸伝』の受容（1）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第７回	『水滸伝』の受容（2）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第８回	初期読本の成立	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第９回	都賀庭鐘の翻案手法（1）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１０回	都賀庭鐘の翻案手法（2）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１１回	庭鐘以後の初期読本（1）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１２回	庭鐘以後の初期読本（2）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１３回	吉文字屋と大雅舎其鳳（1）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１４回	吉文字屋と大雅舎其鳳（2）	講義内容を復習する。	60 分

〔授業の方法〕
講義を中心に行い、毎回の授業後にコメントの提出を課す。また、講義で取り上げる作品を事前に読み、感想を提出することを求める場合がある。
レポートは、講義で取り上げた作品について自ら問いを立て、論じるものである。問題設定の妥当性や論理の整合性などを総合的に評価する。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）：30%
レポート：70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義D						
教員名	丸井　貴史						
科目No.	125233220	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
近世中期から後期にかけての小説について講義する。現在放映されている NHK 大河ドラマ「べらぼう」は、近世の書肆蔦屋重三郎を主人公としているが、彼が活躍した時代には「戯作」と呼ばれる小説が多く生み出された。本講義では、戯作を中心に近世中後期の小説に関する基礎的知識を身につけ、従来の文学史のあり方を理解するとともに、その枠組の妥当性について自ら考察するための視点・方法を獲得することを目指す。合わせて、語彙・文体・内容・題材などに注意を払いつつ、作品を読解するための方法について学ぶ。

〔到達目標〕
（1）近世中後期における小説史の流れを理解することができる。(DP1)
（2）近世小説における各ジャンルの特質を理解することができる。(DP1)
（3）作品を論理的に読解し、自らの考えを的確に記述することができる (DP3・DP4)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	蔦屋重三郎の時代	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第２回	草双紙の展開	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第３回	黄表紙の成立	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第４回	黄表紙を読む (1)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第５回	黄表紙を読む (2)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第６回	洒落本の成立と展開	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第７回	洒落本を読む (1)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第８回	洒落本を読む (2)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第９回	寛政の改革と戯作	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１０回	後期読本概観	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１１回	山東京伝の読本 (1)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１２回	山東京伝の読本 (2)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１３回	曲亭馬琴の読本 (1)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１４回	曲亭馬琴の読本 (2)	講義内容を復習する。	60 分

〔授業の方法〕
講義を中心に行い、毎回の授業後にコメントの提出を課す。また、講義で取り上げる作品を事前に読み、感想を提出することを求める場合がある。
レポートは、講義で取り上げた作品について自ら問いを立て、論じるものである。問題設定の妥当性や論理の整合性などを総合的に評価する。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）：30%
レポート：70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義A						
教員名	康　潤伊						
科目№	125233230	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
この講義では、芥川賞の選評を批判的に検討したうえで、選評の対象となっているテクストの読解も一部行います。扱う小説テクストは、時代を戦後にしぼったうえで、従来の「日本文学」から逸脱するようなものを選んでいます。受賞作だけではなく候補作（つまりは落選作）も扱います。
日本で最も有名な文学賞である芥川賞は、選考委員の討議のもとに決定されます。選考会後、選評が発表されますが、そこには「日本文学とは何か」といった、委員たちの文学観がしばしばにじみ出ています。いくつかのテーマに沿って候補作・受賞作を読み比べることで、「日本文学」の境界線／輪郭線―つまり、何が「日本文学」の範疇に入るものとされ、何がされないのかを批判的に探っていきます。

〔到達目標〕
（1）文学作品の周辺情報から問題を発見し、鑑賞や読解に活かせるようになる。
（2）「日本文学」に対する視野を広げる。
（3）先行研究や先行評を、批判的に検討できる視点を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	授業のガイダンス＋芥川賞というドラマ	授業の進行方法や評価基準を復習する。授業内容についてのリアクションペーパーを記入する。	60
第2回	国文学？日本文学？日本語文学？	授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第3回	李恢成と金鶴泳	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第4回	李良枝『由熙』	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第5回	鷺沢萠『ほんとうの夏』	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第6回	大城立裕『カクテル・パーティー』、東峰夫『オキナワの少年』	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第7回	目取真俊『水滴』	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第8回	複雑化する「越境」―日本語文学の現在地―	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第9回	楊逸『ワンちゃん』、シリン・ネザマフィ『白い紙』	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第10回	温又柔『真ん中の子供たち』	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第11回	李琴峰『彼岸花の咲く島』	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第12回	崔実『ジニのパズル』	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第13回	グレゴリー・ケズナジャット『開墾地』、安堂ホセ『DTOPIA』	事前に該当作品の抜粋を読む。授業内容についてリアクションペーパーを記入する。	60
第14回	授業のまとめ	期末レポートの要項を確認ししっかりと理解する。授業についてリアクションペーパーを記入する。	60

〔授業の方法〕
対面での講義形式にて行います。
リアクションペーパーに関しては、単に授業の内容をまとめるだけでなく、自分なりにしっかりと考えた内容や気づきを書くことが期待されます。質問を書く際にも、具体性（なぜそれについて質問をしたいのかの説明）が求められます。
なお、第9回以降の作品の順序は多少前後することがあります。

〔成績評価の方法〕

平常点（リアクションペーパーへの取り組み、授業への参加状況）50%　期末レポート 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。授業中に資料を配布します。

〔参考書〕
特になし。授業中に資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。
また、授業第 1 回に、教員のメールアドレスを提示します。そちらでの質問も随時受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義Ｂ						
教員名	小林　洋介						
科目№	125233240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
日本近代の短編小説を、主にジェラール・ジュネットの文芸理論に依拠し、また、必要に応じて他の理論をも参照しつつ、読み解いていく。文芸理論を援用することにより、「何が語られているか」だけでなく「どのように語られているか」という観点からも小説テクストを分析することが可能となる。本授業で主に扱うのは６つの小説テクストに限られるが、本授業で実践する分析方法は、他のあらゆるテクストを分析する際にも有効である。

〔到達目標〕
日本文学科ディプロマ・ポリシー「日本文学研究における基本的な知識と研究方法を修得している。」に関連し、以下の点を目標とする。
・物語内容だけでなく物語行為という側面からも物語テクストを理論的に分析する能力を身につける。
・人間の営みの中で物語を語るという行為がいかなる位置を占めるのかを理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	テクスト分析の基礎	（復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第２回	語りと人称	（復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第３回	夏目漱石「夢十夜」（第一夜）	（予習）夏目漱石「夢十夜」（第一夜）（教科書 p. 212–213）を読む。 （復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第４回	森鷗外「高瀬舟」（１）―作者による自己言及―	（予習）森鷗外「高瀬舟」（教科書 p. 214–219）を読む。 （復習）教科書を熟読する。	60 分
第５回	森鷗外「高瀬舟」」（２）―〈作者の意図〉を超えて―	（復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第６回	芥川龍之介「南京の基督」（１）―時間と順序―	（予習）芥川龍之介「南京の基督」（p. 220–226）を読む。 （復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第７回	芥川龍之介「南京の基督」（２）―錯時法と物語内容―	（復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第８回	川端康成「伊豆の踊子」（１）―偽装された〈現在〉―	（予習）川端康成「伊豆の踊子」（教科書 p. 227–239）を読む。 （復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第９回	川端康成「伊豆の踊子」（２）―階級差の旅物語―	（復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第１０回	岡本かの子「老妓抄」（１）―老妓の物語―	（予習）岡本かの子「老妓抄」（教科書 p. 240–250）を読む。 （復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第１１回	岡本かの子「老妓抄」（２）―老妓・「作者」・かの子―	（復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第１２回	太宰治「桜桃」（１）―呼称の多様性は何を意味するか―	（予習）太宰治「桜桃」（教科書 p. 251–254）を読む。 （復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第１３回	太宰治「桜桃」（２）―多様な関係性の中で生きる「私」―	（復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分
第１４回	テクスト論の可能性と作家論の可能性、レポートについての説明	（復習）教科書を熟読するとともに、適宜、図書館等を利用して関連の資料を読む。	60 分

〔授業の方法〕
教科書に沿って講義形式で実施する。授業で扱う作品の本文も教科書に掲載されているものを用いる。
授業内課題として、新しい小説に入る最初の週（第 3 回、第 4 回、第 6 回、第 8 回、第 10 回、第 12 回）に、授業の冒頭 10 分程度を割いて物語内容の梗概（あらすじ）を書く。授業内課題は成績に反映される。

〔成績評価の方法〕
学期末レポート 60%、授業内課題（授業で扱う作品のあらすじ）20%、平常点（授業への参加状況）20%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「日本文学研究の基礎」を履修済であることが望ましい。

〔テキスト〕
・松本和也編『テクスト分析入門　小説を分析的に読むための実践ガイド』（ひつじ書房、2016 年 10 月）
ISBN-10： ： 4894768364、ISBN-13： 978-4894768369

〔参考書〕
・ジェラール・ジュネット『物語のディスクール―方法論の試み』水声社、1985 年 9 月
・橋本陽介『物語論 基礎と応用』講談社、2017 年 4 月
・西田谷洋『学びのエクササイズ文学理論』ひつじ書房、2014 年 5 月

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義C						
教員名	山路　敦史						
科目№	125233250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
①村上春樹『若い読者のための短編小説案内』をサブテキスト、そこで取り上げられた第三の新人の諸作品をテキストとして、講義形式で授業を進める。
②第三の新人の教科書的な理解を踏まえつつ、具体的に作品を読み解くことを通じて、作品それぞれから見出せる批評性に目を凝らす。
③小市民的で日常的な狭い範囲を描いたと批判的に捉えられることがあった第三の新人の作品を読み解くことで、私たちの〈日常〉を問い直すことを目指す。

〔到達目標〕
①第三の新人の作品を読むことを通じて、文学を分析的に読解する方法を獲得する。
②村上春樹の論を参照することを通じて、自説と他説の違いを意識し、独自性のある論述の方法を習得する。
③第三の新人について独自の評価を示すことで、自分なりの文学史を構想できるようになる。
④批評的な眼差しを獲得し、授業外での文学やそれ以外にも独自の思考が展開できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	第三の新人について	予習：シラバスを読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第２回	吉行淳之介「水の畔り」①	予習：教科書と「水の畔り」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第３回	吉行淳之介「水の畔り」②	予習：教科書と「水の畔り」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第４回	小島信夫「馬」①	予習：教科書と「馬」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第５回	小島信夫「馬」②	予習：教科書と「馬」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第６回	安岡章太郎「ガラスの靴」①	予習：教科書と「ガラスの靴」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第７回	安岡章太郎「ガラスの靴」②	予習：教科書と「ガラスの靴」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第８回	庄野潤三「静物」①	予習：教科書と「静物」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第９回	庄野潤三「静物」②	予習：教科書と「静物」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１０回	丸谷才一「樹影譚」①	予習：教科書と「樹影譚」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１１回	丸谷才一「樹影譚」②	予習：教科書と「樹影譚」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１２回	長谷川四郎「阿久正の話」①	予習：教科書と「阿久正の話」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１３回	長谷川四郎「阿久正の話」②	予習：教科書と「阿久正の話」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１４回	まとめ	予習：これまでの授業内容を自分なりにまとめておく 復習：第三の新人評価を考える	60 分

〔授業の方法〕
①第三の新人の作品一つひとつを、2 週かけて読んでいく講義形式。作品本文を精読するほか、村上春樹の論を参照し、批判的に検証する。
②毎回、リアクションペーパーを配布し、授業終盤に記述・提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは「出席」確認を兼ねる。
③レポート（4,000 字以上）では、第三の新人作品を 1 つ取り上げて分析した成果を論述する。授業内容の単なる整理や暗記ではなく、受講者それぞれが村上春樹ほかの先行論と対決し、独自で説得力のある論述ができているかどうかを評価基準とする。

〔成績評価の方法〕
レポート（4,000 字以上）50%、平常点（毎時の参加状況や課題の提出状況）50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
教科書：村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫、682 円、978-4167502072）
※第三の新人の諸作品については、配布する。

〔参考書〕
授業内で、適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室でうけつけるほか、CoursePower の Q&A 機能を活用する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義D						
教員名	山路　敦史						
科目№	125233260	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
坂口安吾は、いわゆる純文学という領域に留まらず、探偵小説や歴史小説、評論風のエッセイや紀行文などジャンル横断的な文学活動を行った。この授業では、こうした多彩な安吾の実践のなかからいくつかの小説と評論を取り上げ、純文学／娯楽という線引きの自明性を疑いながら、個々の作品を分析的に読み、そこに宿る批評性に目を凝らしたい。適宜、ほかの作家・作品も取り上げることで、授業内容を単純に安吾の作家性といったものに還元せずに、受講者それぞれの批評的なまなざしを汎用性あるものに育むことを目指す。

〔到達目標〕
①坂口安吾の作品を読むことを通じて、文学を分析的に読解する方法を獲得する。
②複数の作家・作品を併せて読むことを通じて、作者のオリジナリティにのみ還元できないテクスト（引用の織物）の問題を意識できるようになる。
③受講者それぞれが批評的なまなざしを獲得し、身の回りの物事の見方を増やす。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	作品とテクスト	予習：シラバスを読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第２回	〈作者〉と〈読者〉	予習：前回の配布資料を読み直しておく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第３回	「木枯の酒倉から」と国木田独歩「武蔵野」①	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第４回	「木枯の酒倉から」と国木田独歩「武蔵野」②	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第５回	「風博士」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第６回	村上春樹「象の消滅」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第７回	「ラムネ氏のこと」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第８回	「日本文化私観」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第９回	「不連続殺人事件」①	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１０回	「不連続殺人事件」②	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１１回	「アンゴウ」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１２回	「影のない犯人」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１３回	佐藤友哉「333 のテッペン」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１４回	まとめ	予習：これまでの授業内容をふりかえっておく 復習：授業で得られた成果を授業外で活用する	60 分

〔授業の方法〕
①毎回授業資料を配布して、講義形式で各回に指定した作品について講義を行う。
②毎回、リアクションペーパーを配布し、授業内で記述・提出してもらう。リアクションペーパーは「出席」確認を兼ねる。
③レポート（4,000 字以上）では、授業で取り上げた安吾作品を選び、論述する。（授業で教員が示した解釈とは異なる）独自の分析を論述すること。

〔成績評価の方法〕
レポート（4,000 字以上）50%、平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
教科書：坂口安吾『不連続殺人事件』（新潮文庫、572 円、978-4101024035）
※教科書以外の作品については授業内で指示する。

〔参考書〕
授業内で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けるほか、CoursePower 内の Q&A 機能を活用する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文学Ａ						
教員名	星　泉						
科目№	125234100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
ユーラシアの中央部の高地に位置し、周辺の文化圏の影響を受けながら独自の文化を発展させてきたチベットは、どのような口承文芸や文学を生み出してきたのでしょうか。日本から遠く離れた土地ゆえ、みなさんにはチベットがどんな場所で人々がどのような暮らしをしているのか想像がつかないかもしれません。この授業では文学を通じてチベットの風土や暮らしについて理解を深めながら、チベットで口承文芸や文学がどのように育まれてきたのかを世界の歴史とも関連付けながら学びます。そしてチベット文学の形成史を知ることを通じて、日本をはじめ、みなさんにとって馴染みのある世界各地の文学の状況や形成について改めて考えてみましょう。前期はまず伝統的な口承文芸と書承文学がどのようなものだったのかを学び、20 世紀半ばに中国に併合された後に訪れる激動の時代とそれが現代文学の形成に与えた影響を学んだ後、代表的な作家の教育や文化的背景、そこから生み出された作品の特徴に触れ、チベット文学について理解を深めます。

〔到達目標〕
チベット文学をその形成史や文化的背景を含めて学習することを通じ、日本の文学をはじめ世界の文学への新たな見方を獲得するとともに、大きな文化圏の周縁で生きる少数派の人々への理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス　チベットの地理と文化、言語を知る	【予習】チベットの位置、使用言語、文化の特徴について概要を把握しておく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第２回	伝統的な文芸・文学（1）口承文芸の世界	【予習】口承文芸とはどのようなものか調べておく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第３回	伝統的な文芸・文学（2）古典文学の世界	【予習】日本の古典文学と仏教の関わりについて調べておく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第４回	20 世紀における現代文学の始まり	【予習】アジア各地で現代文学がどのように始まったのか調べておく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第５回	現代文学黎明期の作家たち（1）漢語作家編	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第６回	現代文学黎明期の作家たち（2）チベット語作家編	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第７回	作家と作品（1）ツェラン・トンドゥプとその作品	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第８回	作家と作品（2）タクブンジャとその作品	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第９回	作家と作品（3）ペマ・ツェテンとその作品	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１０回	作家と作品（4）ラシャムジャとその作品	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１１回	作家と作品（5）ツェリン・ヤンキーとその作品	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１２回	作家と作品（6）ツェワン・イシェ・ペンバとその作品	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１３回	チベット詩の世界	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１４回	チベット文学について語り合おう	【予習】ここまで学んできたことを振り返り、当日口頭発表できるように準備する	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行います。受講生には毎授業後にその授業で学んだことや考えたことを CoursePower 上で小レポートとして提出してもらいます（提出を出席としてカウントします）。コメントは毎回評価した上で、学期末に合算します。

〔成績評価の方法〕

毎回提出の小レポート（30%）及び学期末に 1 回課せられるレポート(70%)等により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
特定の教科書は指定しません。教材は講師が適宜配布します。

〔参考書〕
以下に挙げるのは授業で読む作品の収録された書籍です。購入の必要はありません。
『風馬(ルンタ)の耀き　新しいチベット文学』牧田英二訳、JICC 出版局、1991 年
『ここにも躍動する生きた心臓がある　チベット文学の曙』チベット文学研究会編訳、勉誠出版、2012 年
『ティメー・クンデンを探して　チベット文学の現在』ペマ・ツェテン著、チベット文学研究会編、星泉・大川謙作訳、勉誠出版、2013 年
『雪を待つ　チベット文学の新世代』ラシャムジャ著、星泉訳、勉誠出版、2015 年（長編小説）
『ハバ犬を育てる話』タクブンジャ著、海老原志穂・大川謙作・星泉・三浦順子訳、東京外国語大学出版会、2015 年
『黒狐の谷　闘うチベット文学』ツェラン・トンドゥプ著、海老原志穂・大川謙作・星泉・三浦順子訳、勉誠出版、2016 年
『白い鶴よ、翼を貸しておくれ　チベットの愛と戦いの物語』ツェワン・イシェ・ペンバ著、星泉訳、書肆侃侃房、2020 年
『風船　ペマ・ツェテン作品集』ペマ・ツェテン著、大川謙作訳、春陽堂書店、2020 年
『路上の陽光』ラシャムジャ著、星泉訳、書肆侃侃房、2022 年
『チベット幻想奇譚』星泉・三浦順子・海老原志穂編訳、春陽堂書店、2022 年
『チベット女性詩集　現代チベットを代表する 7 人・27 選』海老原志穂編訳、段々社、2023 年
『花と夢』ツェリン・ヤンキー著、星泉訳、春秋社、2024 年

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文学Ｂ						
教員名	星　泉						
科目№	125234110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
前期で把握したチベット文学の形成史を踏まえ、後期はチベット人作家による代表的な文学作品を邦訳で読みながら、チベットの文化的背景や語りの特徴、他の文化圏の文学作品との関係などについて検討していきます。取り上げる作品は、トンドゥプジャ『ここにも激しく躍動する生きた心臓がある』より「霜にうたれた花」「化身」、ツェラン・トンドゥプ『黒狐の谷』より「地獄堕ち」「美僧」、タクブンジャ『ハバ犬を育てる話』より「一日のまぼろし」「ハバ犬を育てる話」、ペマ・ツェテン『風船』より「風船」、ラシャムジャ『路上の陽光』より「遥かなるサクラジマ」「路上の陽光」、『チベット幻想奇譚』よりツェワン・ナムジャ「ごみ」、ツェリン・ヤンキー『花と夢』、ツェワン・イシェ・ペンバ『白い鶴よ、翼を貸しておくれ』などを予定しています。

〔到達目標〕
チベット文学をその形成史や文化的背景を含めて学習することを通じ、日本の文学をはじめ世界の文学への新たな見方を獲得するとともに、大きな文化圏の周縁に位置するマイノリティの人々のレジリエンスへの理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ザシダワ「チベット、革紐の結び目につながれた魂」「世紀の招き」を読む	【予習】前期の「現代文学黎明期の作家たち（1)」を復習するとともに、配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第２回	トンドゥプジャ「霜にうたれた花」「化身」を読む	【予習】前期の「現代文学黎明期の作家たち（2)」を復習するとともに、配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第３回	ツェラン・トンドゥプ「地獄堕ち」「美僧」を読む	【予習】前期の「作家と作品（1)」を復習するとともに、配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第４回	タクブンジャ「一日のまぼろし」「ハバ犬を育てる話」を読む	【予習】前期の「作家と作品（2)」を復習するとともに、配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第５回	タクブンジャ「三代の夢」「犬と主人、そして親戚たち」を読む	【予習】配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第６回	ペマ・ツェテン「二人のカン」「ツェタンへ行こう」を読む	【予習】前期の「作家と作品（3)」を復習するとともに、配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第７回	ペマ・ツェテン「風船」「タルロ」を読む	【予習】配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第８回	チベット映画とペマ・ツェテン	【予習】配布資料を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第９回	ラシャムジャ「路上の陽光」「眠れる川」を読む	【予習】前期の「作家と作品（4)」を復習するとともに、配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１０回	ラシャムジャ「遥かなるサクラジマ」「最後の羊飼い」を読む	【予習】配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１１回	ツェリン・ヤンキー『花と夢』を読む（1)	【予習】前期の「作家と作品（5)」を復習するとともに、配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１２回	ツェリン・ヤンキー『花と夢』を読む（2)	【予習】配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１３回	ツェワン・ナムジャ「ごみ」、レーコル「詩人結社ロラン」を読む	【予習】配布作品を読んでおく【復習】ノート等を使い、授業内容を見直す	60 分
第１４回	チベット文学について語り合おう	【予習】ここまで学んできたことを振り返り、当日口頭発表できるように準備する	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行います。受講生には毎授業後にその授業で学んだことや考えたことを CoursePower 上で小レポートとして提出してもらいます（提出を出席としてカウントします)。コメントは毎回評価した上で、学期末に合算します。

〔成績評価の方法〕
毎回提出の小レポート（30%）及び学期末に 1 回課せられるレポート(70%)等により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
テキストはありません。教材は講師が事前に配布します。

〔参考書〕
以下に挙げるのは授業で読む作品の収録された書籍です。購入の必要はありません。
『風馬(ルンタ)の耀き　新しいチベット文学』牧田英二訳、JICC 出版局、1991 年
『ここにも躍動する生きた心臓がある　チベット文学の曙』チベット文学研究会編訳、勉誠出版、2012 年
『ティメー・クンデンを探して　チベット文学の現在』ペマ・ツェテン著、チベット文学研究会編、星泉・大川謙作訳、勉誠出版、2013 年
『雪を待つ　チベット文学の新世代』ラシャムジャ著、星泉訳、勉誠出版、2015 年（長編小説）
『ハバ犬を育てる話』タクブンジャ著、海老原志穂・大川謙作・星泉・三浦順子訳、東京外国語大学出版会、2015 年
『黒狐の谷　闘うチベット文学』ツェラン・トンドゥプ著、海老原志穂・大川謙作・星泉・三浦順子訳、勉誠出版、2016 年
『白い鶴よ、翼を貸しておくれ　チベットの愛と戦いの物語』ツェワン・イシェ・ペンバ著、星泉訳、書肆侃侃房、2020 年
『風船　ペマ・ツェテン作品集』ペマ・ツェテン著、大川謙作訳、春陽堂書店、2020 年
『路上の陽光』ラシャムジャ著、星泉訳、書肆侃侃房、2022 年
『チベット幻想奇譚』星泉・三浦順子・海老原志穂編訳、春陽堂書店、2022 年
『チベット女性詩集　現代チベットを代表する 7 人・27 選』海老原志穂編訳、段々社、2023 年
『チベット文学と映画制作の現在 別冊『チベットのむかしばなし　しかばねの物語』特集』チベット文学研究会編、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2023 年
『花と夢』ツェリン・ヤンキー著、星泉訳、春秋社、2024 年

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	漢文基礎						
教員名	山口　旬						
科目№	125234120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
基本的な漢文をテキストに漢文訓読の基礎を語学的側面・文学的側面の両面から学ぶ。漢文訓読法の基礎を初歩から学びながら、江戸の代表的文人の著作と、それに影響を与えた中国の漢詩文を文芸作品として読解していく。江戸時代の漢詩作品を中心として取り上げる。

〔到達目標〕
漢文の基本的な訓読法を修得する。また、具体的な漢詩文の文芸としての特色と読解法を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	漢文とは何か／江戸漢詩概説	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第２回	訓読とは何か／漢詩形式入門	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第３回	漢字の読み方（1）字体／漢詩読解入門	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第４回	漢字の読み方（2）音と訓、再読文字と置き字／漢詩　近代との接点１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第５回	漢文の文型（1）主語述語目的語。／漢詩　近代との接点２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第６回	漢文の文型（2）修飾被修飾、並列。／江戸漢詩　格調派	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第７回	返り点の原則。送り仮名（１）／江戸漢詩　清新派	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第８回	送り仮名（２）／江戸漢詩の諸相　江馬細香１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第９回	漢詩特有の訓読／江戸漢詩の諸相　江馬細香２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１０回	漢詩の訓読練習（１）／江戸漢詩の諸相　菊池五山１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１１回	漢詩の訓読練習（２）／江戸漢詩の諸相　菊池五山２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１２回	漢詩の読解練習（１）／江戸漢詩の諸相　大窪詩佛１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１３回	漢詩の読解練習（２）／江戸漢詩の諸相　大窪詩佛２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１４回	漢詩形式のまとめ／江戸漢詩まとめ	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式で進め、毎時間前半は訓読基礎、後半は詩文入門を扱う。途中に練習・考察の時間を設ける。

〔成績評価の方法〕
毎回の小レポート４２％、レポート中間提出８％、学期末のレポート５０％の割合で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
授業資料を配布する。

〔参考書〕
『漢文訓読入門』（古田島洋介・湯城吉信、明治書院）、『江戸漢詩選 上・下』（揖斐高編訳、岩波文庫）、高等学校で使用した『国語便覧』等。購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の前後、また随時Ｅメールで受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中国文学史A						
教員名	髙田　宗平						
科目№	125234200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
『列仙伝』を読みます。
『列仙伝』は、現存資料中最古の神仙（仙人）伝記集です。その内容は、各神仙が年代順に配列されており、太古の神仙から黄帝・老子などを経て、前漢の神仙にまで及び、70 人について逸話的な伝記を記しています。記載の神仙達は、霊薬を作る能力があり、不老長生・不死の術を得、また予言の能力や空を飛んだり、水に潜ったりすることができます。本書は中国古代の神仙伝説を知るための貴重な資料です。これを講読することにより、中国古代の神仙伝説や神仙観の一端を探るとともに漢文読解力も養いたい。

〔到達目標〕
・中国古典・漢文に親しむ。
・『列仙伝』の世界観である神仙思想や神仙観を理解する。
・漢和辞典を引きながら、返り点が施されている漢文を書き下し文と現代語訳にすることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス。 授業の進め方について及び『列仙伝』についての説明をする。	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第２回	『列仙伝』巻上「赤松子、甯封子、馬師皇」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第３回	『列仙伝』巻上「赤将子輿、黄帝、偓佺」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第４回	『列仙伝』巻上「容成公、方回、老子」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第５回	『列仙伝』巻上「関令尹、涓子、呂尚」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第６回	『列仙伝』巻上「嘯父、師門、務光」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第７回	『列仙伝』巻上「仇生、彭祖、邛疏」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第８回	『列仙伝』巻上「介子推、馬丹、平常生」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第９回	『列仙伝』巻上「陸通、葛由、江妃二女」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１０回	『列仙伝』巻上「范蠡、琴高、寇先」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１１回	『列仙伝』巻上「王子向、幼伯子、安期先生」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

25/2/12 20 時 3 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

第１２回	『列仙伝』巻上「桂父、瑕丘仲、酒客」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１３回	『列仙伝』巻上「任光、蕭史、祝鶏翁」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１４回	総括・到達度確認	予習：これまで読んできたところに目を通しておくこと。 復習：前期半年間の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

〔授業の方法〕
講読形式で行います。
授業の始めのうちは、講師が講読し説明を加えていく。授業の回数を重ねて履修者が慣れてきたところで、履修者に漢文に親しんでもらうため、履修者にも訓読と現代語訳をしてもらったり、作品の内容についてコメントをしてもらうことがあります。

〔成績評価の方法〕
期末試験 50%、平常点（授業への参加状況など）50%で、成績評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・高等学校卒業程度の漢文訓読と現代語訳ができること。
・紙媒体の漢和辞典が使えること。

〔テキスト〕
テキストは用意し配布します。

〔参考書〕
既に漢和辞典を持ってる場合は新たに購入する必要はないが、これから購入する場合は戸川芳郎監修、佐藤進・濱口富士雄編『全訳　漢辞海』（三省堂、第四版）を推奨します。
授業の時は、紙媒体の漢和辞典を持参して下さい。
その他は、随時、授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中国文学史B						
教員名	髙田　宗平						
科目№	125234210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
『捜神記』を読みます。
『捜神記』は、4 世紀に東晋の干宝が撰した志怪小説です。ここで言う志怪小説とは「怪を志（しる）す」と訓読できるように、怪しいことやもの（「怪異」）を記した書籍の総称であり、現代で言う小説とは性質が異なります。志怪小説は現代の小説のように創作の意志を持って記されたものではなく、記録としての側面が強いものです。干宝は、書記官・史官に任ぜられ、また術数（易学を中核とした占術と数学、天文暦学、医薬学などの自然科学が複合的に絡み合った中国に特有の学問分野）に詳しく『周易』に注を施しました。本書を読んでいくことにより、志怪小説の世界（怪異の世界）を探るとともに、前期に引き続いて漢文読解力も養いたいと思います。

〔到達目標〕
・中国古典・漢文に親しむ。
・『捜神記』の世界観である世の不思議、怪異について理解する。
・漢和辞典を引きながら、返り点が施されている漢文を書き下し文と現代語訳にすることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス。 授業の進め方について及び『捜神記』について説明をする。	予習：シラバスを読んでおくこと。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第２回	『捜神記』巻一「神農、赤松子、赤将子輿」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第３回	『捜神記』巻一「甯封子、偓佺、彭祖」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第４回	『捜神記』巻一「師門、葛由、崔文子」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第５回	『捜神記』巻一「冠先、琴高、陶安公」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第６回	『捜神記』巻一「焦山老君、魯少千、淮南八公」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第７回	『捜神記』巻一「劉根、漢王喬、薊子訓」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第８回	『捜神記』巻一「漢陰生、平常生、左慈」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第９回	『捜神記』巻一「于吉、介琰、徐光」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１０回	『捜神記』巻一「葛玄、呉猛、園客」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１１回	『捜神記』巻一「董永、鉤弋夫人、杜蘭香」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて

			取り組むこと。
第１２回	『捜神記』巻一「弦超、附智瓊」、巻二「寿光侯」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１３回	『捜神記』巻二「樊英、徐登、趙炳」読解	予習：漢和辞典を引きながら、書き下し文と現代語訳の作成。 復習：授業の内容の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１４回	総括・到達度確認	予習：これまで読んできたところに目を通しておくこと。 復習：前期半年間の確認。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

〔授業の方法〕
講読形式で行います。
授業の始めのうちは、講師が講読し説明を加えていく。授業の回数を重ねて履修者が慣れてきたところで、履修者に漢文に親しんでもらうため、履修者にも訓読と現代語訳をしてもらったり、作品の内容についてコメントをしてもらうことがあります。

〔成績評価の方法〕
期末試験 50%、平常点（授業への参加状況など）50%で、成績評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・高等学校卒業程度の漢文訓読と現代語訳ができること。
・紙媒体の漢和辞典が使えること。

〔テキスト〕
テキストは用意し配布します。

〔参考書〕
既に漢和辞典を持ってる場合は新たに購入する必要はないが、これから購入する場合は戸川芳郎監修、佐藤進・濱口富士雄編『全訳　漢辞海』（三省堂、第四版）を推奨します。
授業の時は、紙媒体の漢和辞典を持参して下さい。
その他は、随時、授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本美術史A						
教員名	齊藤　全人						
科目No.	125235120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
日本美術史 A は、日本美術史概説の授業です。
日本美術の歴史を学ぶことは、日本人の芸術観のルーツを知ることにつながります。古代、中世、近世、近代、それぞれの時代に生まれた名画・名宝・名品を個別に「点」としてみるのではなく、その作品が生まれた過程、そして後の時代に与えた影響など、大きな視点で作品と作品のつながりをたどることで、点と点がつながって「線」となり日本美術をひとつの流れで理解することができるようになります。授業では古代から近代まで日本美術を通史で学んでいきます。作品の図版を豊富に紹介しながら、作品を見る喜びを学習してもらいます。

〔到達目標〕
DP1-1（専門分野の知識・技能）、2-1（教養の修得）を実現するため、日本美術史の流れを理解し、授業で取り上げた作品について説明できるようになることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方を説明する。	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	30
第２回	原始・古代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第３回	飛鳥・白鳳時代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第４回	天平時代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第５回	平安時代の美術１	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第６回	平安時代の美術２	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第７回	鎌倉時代の美術１	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第８回	鎌倉時代の美術２	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第９回	室町時代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１０回	安土桃山時代の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１１回	江戸時代の美術１	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１２回	江戸時代の美術２	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１３回	幕末明治の美術	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１４回	到達度確認テスト ・ここまでの講義内容についての理解を確認するためのテスト	【予習】到達度確認テストへ向けて、これまでの講義内容を確認する。	60

〔授業の方法〕
パワーポイントで作品の画像を見ながらの講義形式。適宜、資料を配布します。授業では複数回アンケートや小テストを行い、最終授業で到達度確認テストを行います。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（70%）、平常点（授業への参加状況や小テスト・アンケートの提出状況）（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・日本美術史の基礎知識を習得したか。
・作品について自分の言葉で説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
中学卒業程度の日本史の基礎知識が必要となります。
その他に、なるべく美術館・博物館で実際に美術作品を見てください。

〔テキスト〕
・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1900 円＋税、ISBN978-4568400656
・『教養の日本美術史』古田亮監修、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN978-4623085156
予習、復習用として挙げるが、図書館等で閲覧できれば購入の必要なし。

〔参考書〕
図書館に所蔵されている各出版社の日本美術全集
その他、授業時に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
授業の進捗に応じて順序や内容を変更することがあります。

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本美術史Ｂ						
教員名	齊藤　全人						
科目№	125235130	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
日本美術史Ｂは、日本美術史各論の授業です。
日本美術の歴史を学ぶことは、日本人の芸術観のルーツを知ることにつながります。古代、中世、近世、近代、それぞれの時代に生まれた名画・名宝・名品を個別に「点」としてみるのではなく、その作品が生まれた過程、そして後の時代に与えた影響など、大きな視点で作品と作品のつながりをたどることで、点と点がつながって「線」となり日本美術をひとつの流れで理解することができるようになります。授業では各回テーマを設けて、そのテーマに絞った日本美術の流れを講義します。作品の図版を豊富に紹介しながら、日本美術の歴史とともに作品を見る喜びを学習してもらいます。

〔到達目標〕
DP1-1（専門分野の知識・技能）、2-1（教養の修得）を実現するため、日本美術史の流れを理解し、授業で取り上げた作品について説明できるようになることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス、画面形式でたどる日本美術 ・授業の内容、進め方を説明する。 ・絵巻、掛幅、屏風、障壁画という画面形式が絵画表現や技法と密接に結びついていることを学ぶ。	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	30
第２回	「絵巻」でたどる日本美術 ・平安時代から始まる、物語と絵画が組み合わさった絵巻の歴史について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第３回	「水墨画」でたどる日本美術 ・中国絵画から強い影響を受けた水墨画の発展の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第４回	「流派」でたどる日本美術 ・狩野派、土佐派、円山派、琳派といった各流派の特徴と代表的絵師について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第５回	「仏像」でたどる日本美術 ・仏教伝来とともに始まった日本の仏像彫刻が、飛鳥、奈良、平安、鎌倉時代とどのように変化したのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第６回	「やきもの」でたどる日本美術 ・大陸から伝わった作陶技術をもとに日本独自の形に発展した陶磁器の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第７回	「浮世絵」でたどる日本美術 ・江戸時代に爆発的に流行した浮世絵の特徴と代表的絵師、近代以降の流れについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第８回	「奇想」でたどる日本美術 ・江戸時代に数多く登場した個性派絵師。また絵画に限らず工芸や建築にも見られる前衛的でエネルギッシュな表現。奇想というキーワードで日本美術を通覧する。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第９回	「肖像画」でたどる日本美術 ・天皇や公家を描く似絵、高僧を絵画化し、または彫像とした頂像など実在の人物を絵画や彫刻で表してきた歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１０回	「黄金」でたどる日本美術 ・金色を効果的に表現の中に取り入れた絵画、黄金で荘厳した寺院、金の障壁画で威光を演出した城、金蒔絵の工芸、「黄金」「かざり」というキーワードで日本美術の特徴を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１１回	「女性」でたどる日本美術 ・日本の文学や絵巻の文化が宮廷の女性たちの中で形成されたことなどを踏まえ、女性というキーワードで日本美術を読み解く。絵師として活躍した女性についても学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１２回	「異文化」でたどる日本美術 ・日本は国外の異文化を取り入れることで大きな変化を遂げてきた。異文化が流入した変革のタイミングに着目して、それが日本美術史の中でどのような意味があったのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１３回	「近代」でたどる日本美術 ・明治維新後、西洋の文化が流れ込む中で日本美術がどのように変化したのかについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	30
第１４回	到達度確認テスト ・ここまでの講義内容についての理解を確認するためのテスト	【予習】到達度確認テストへ向けて、これまでの講義内容を確認する。	60

〔授業の方法〕
パワーポイントで作品の画像を見ながらの講義形式。適宜、資料を配布します。最終授業で到達度確認テストを行います。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（70%）、平常点（授業への参加状況や小テスト・アンケートの提出状況）（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・日本美術史の基礎知識を習得したか。
・作品について自分の言葉で説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
中学卒業程度の日本史の基礎知識が必要となります。
その他に、なるべく美術館・博物館で実際に美術作品を見てください。

〔テキスト〕
・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1900 円＋税、ISBN978-4568400656
・『教養の日本美術史』古田亮監修、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN978-4623085156
予習、復習用として挙げるが、図書館等で閲覧できれば購入の必要なし。

〔参考書〕
図書館に所蔵されている各出版社の日本美術全集
その他、授業時に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
授業の進捗に応じて順序や内容を変更することがあります。

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本民俗学A						
教員名	山崎　祐子						
科目№	125235140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
民俗学の分野のうち、衣食住、通過儀礼の基礎を学んだうえで、、民間信仰、口承文芸などを取り上げる。それらを異界という概念で読み解き、私たちの祖先が、生命をどのように考えていたのかをさぐる。すでに行われなくなった民俗ばかりではなく、現代の身近な事象も取り上げる。資料は、民俗調査報告書、日本の昔話や伝説などを幅広く用いる。日常生活に溶け込んでいる当たり前だと思っていること、少し不思議だと思われることを民俗学の視点で読み解く。民俗は、道具や家屋のような有形民俗と、芸能や技術のような無形民俗に分けられる。ここでは、民俗信仰という心の問題を有形、無形の両面から考察し、私たちの祖先が伝えたいメッセージを読み取る。

〔到達目標〕
基本的な民俗学の考え方を学び、学術語彙を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や『日本民俗大辞典』の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。民俗学の概説、口承文芸の概説を行う。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第２回	衣食住（民家） 民家における晴と褻の空間認識を考察する。民家を例に共同体のあり方を学び、身体尺の考え方、間取り図の読み方の基礎を学ぶ。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第３回	衣食住（自給自足の暮らし方） 映像を視聴し、水田のなかった山村の暮らし方を学ぶ。いわゆるスローフードや食の伝統につい考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第４回	衣食住（食生活） 各地の事例を紹介し、「日本の主食は米」という常識について考察しする。スシを例に発酵食品と主食の関係を学ぶ。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第５回	通過儀礼（出産と産育） 大正末年から昭和初年にかけての出産の記録を読み、通過儀礼の意味を考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第６回	通過儀礼（葬送と供養） 各地の死後供養の事例を視聴する。海と山の信仰（他界）を学び、「祖霊」について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第７回	民間信仰（祈願と呪い） 呪い、占い、祈願の各地の事例を学び、俗信について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第８回	口承文芸と異界 諺、謎々、昔話について学んだうえで、昔話と異界の関わりを考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第９回	異界をのぞく（幽霊と妖怪） 柳田國男の「妖怪談義」を読み、柳田の民間信仰や妖怪についての考え方を学ぶ。また、「夜」について日本の昔話ではどのように表現しているかを考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１０回	特論（遠野物語） 柳田国男の「遠野物語」を山という異界、当時の女性の立場という視点で読む。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１１回	異異界をのぞく（伝説） 「番町皿屋敷」「累ヶ淵」を江戸という都市開発の視点で読む。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１２回	異界をのぞく（都市伝説） 学校の怪談や都市伝説を資料として、現代の不安について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１３回	異界をのぞく（狐の伝承） 「狐の窓」の伝承や多摩ニュータウンの狐話を例に、狐に関わる伝承を考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１４回	まとめ 到達度確認テスト及び解説。前期のまとめを行う。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行う。民俗を実感として理解できるよう、民具や雑穀、信仰用具などの実物にも教室で触れてもらう。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（配布プリントと自筆ノートの持ち込み可 70 パーセント、平常点 30 パーセントとし、総合的に評価をする。リアクションペーパーは学期中に３，４回の予定。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に専門知識を必要とはしていない。

〔テキスト〕
使用しない。毎回、資料のプリントを配布する。プリントは、授業で配布するものと同じものをポータルサイトに掲載する。

〔参考書〕
配布資料に記載するほか、適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業の前後で対応する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本民俗学B						
教員名	山崎　祐子						
科目№	125235150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
民俗学の分野のうち、年中行事、祭礼、民俗芸能を取り上げ、一年の暮らしのリズムがどのように組み立てられていたのかを考察する。

〔到達目標〕
太陰太陽暦の仕組みを理解し、年中行事や祭礼に関する民俗学の理論を理解する。民俗芸能の基本的な学術語彙を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や『日本民俗大辞典』の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。太陰太陽暦と季節感の考え方の基礎を解説する。	重要語句の復習をする。	60 分
第２回	祭礼１ 秩父地方の 1 年間の年中行事や祭礼の記録を視聴する。太陰太陽暦や月遅れで行事を行う実例を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第３回	年太陰太陽暦の構造 自然暦の考え方、太陰太陽暦の仕組み、近世の大小暦の基礎知識を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第４回	年中行事１ 年の区切りの考え方を学ぶ。来訪神が登場する各地の伝説や昔話を資料とし、正月について考察する。中行事２	重要語句の復習をする。	60 分
第５回	年中行事２ 織姫・彦星ではない日本各地の七夕の民俗の事例を学び、七夕と盆行事について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第６回	年中行事３ 年中行事の構造を学ぶ。端午の節供を例に、地方の年中行事にまつわる口承文芸や贈答の習俗について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第７回	祭礼２ 祭礼の中で行われる成人の儀礼を擬死再生の視点で考察する	重要語句の復習をする。中間課題をまとめる。	60 分
第８回	民俗芸能１ 民俗芸能の基本事項を概説し、続けて備中神楽をの映像を視聴する。仮設の舞台の構造や装置、依代について考察する。	重要語句の復習をする。中間課題をまとめる。	60 分
第９回	民俗芸能２ 奥三河の花祭の映像を視聴し、民俗芸能を支える伝承母体について考察する。	重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。	60 分
第１０回	民俗芸能３ 西浦田楽の映像を視聴し、民俗芸能の重要な学術語彙を復習する。	重要語句の復習をする。	60 分
第１１回	年中行事４ 正月・小正月の具体的な行事、豪雪地帯の冬の生活について映像資料を視聴し、年神を迎える意味や予祝儀礼について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第１２回	年中行事５ 『東都歳事記』などを資料として、各地の事例と比較しつつ江戸の正月について学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第１３回	民俗行事の変化 東日本大震災の復興を無形民俗文化財の面から考察する。災害や開発によって、景観や自然が変わることが無形民俗文化財にどのような影響をあたえたかについて学ぶ。また、年中行事や祭礼の変化、商品化についての考え方を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第１４回	まとめ 到達度確認テストと解説を行う。後期の授業のまとめを行う。	重要語句の復習をする。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行う。第 2 回、7～10 回の授業では、40 分程度の映像を視聴し、重要事項を解説する形式で行う。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト 70 パーセント、平常点（リアクションペーパーなど）30 パーセントとし、総合的に評価をする。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
テキストは使用しないが、毎回、プリントを配布する。配布するプリントと同じものをポータルサイトに掲載する。

〔参考書〕
プリントに記載する。必要に応じて授業時に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業の前後に教室で対応する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本の文学と思想						
教員名	桜井　宏徳						
科目№	125235160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
＊慈円『拾玉集』『愚管抄』を読む＊
　平安時代末期の藤原摂関家に生まれ、鎌倉時代初期の仏教界・文学界に君臨した慈円（1155～1225）の家集『拾玉集』と史論『愚管抄』を読み解くことを通じて、中世初頭の“知の巨人”と称してよい慈円の文学と思想の全体像に迫ります。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下の 2 点を到達目標とします。
① 慈円の『拾玉集』と『愚管抄』の読解を通じて、その文学と思想について理解を深める。
② 中世の和歌文学と歴史思想について、基礎的な知識を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／慈円概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第２回	『拾玉集』概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第３回	『拾玉集』を読む（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第４回	『拾玉集』を読む（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第５回	『拾玉集』を読む（三）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第６回	『拾玉集』を読む（四）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第７回	『拾玉集』を読む（五）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第８回	『愚管抄』概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第９回	『愚管抄』を読む（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１０回	『愚管抄』を読む（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１１回	『愚管抄』を読む（三）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１２回	『愚管抄』を読む（四）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１３回	『愚管抄』を読む（五）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１４回	『愚管抄』を読む（六）／レポート課題提示	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行います。毎回プリントを配布し、それに沿って講義を進めます。
レポートはすべての授業回を対象とし、慈円や中世の和歌文学および歴史思想についての基礎知識が身についているかどうかを確認する内容とします。

〔成績評価の方法〕
レポート（80%）と授業参加度（20%：リアクションペーパー等）によって評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に予備知識は必要ありませんが、他の中世文学・和歌文学に関する科目とあわせて履修すると、より理解が深まります。

〔テキスト〕
特定の教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

〔参考書〕
石川一・山本一 著『拾玉集』（上）（下）〈和歌文学大系 58・59〉（明治書院、2008・2011 年）
岡見正雄・赤松俊秀 校注『愚管抄』〈日本古典文学大系 86〉（岩波書店、1967 年）
いずれも購入の必要はありません。その他、授業時に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。また、メールでも受け付けます（メールアドレスは初回の授業時に公開します）。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本演劇史						
教員名	光延　真哉						
科目№	125235170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕

昨今の歌舞伎界における数々の話題性のあるトピックスによって、歌舞伎を知りたい、理解したいという潜在的な欲求は高まっている。一方で、漠然とした興味は抱いているものの、何やら得体が知れず難しそうというイメージで歌舞伎は敬遠されがちである。現代日本人がしばしば口にする、「歌舞伎は敷居が高い」という現象がこれである。

歌舞伎を難しいと感じさせるひとつの要因は、〈言葉〉の難しさにある。現代人は作品評価の面でストーリーを重視する傾向にあるが、セリフが聞き取れなかったり、聞き取れたとしてもその意味が分からなかったりすると、ストーリーの理解に支障が生じ、そのことがフラストレーションにつながる。その解決のためには事前に作品の「あらすじ」や「鑑賞ポイント」を把握しておくことに尽きるのであるが、わざわざその手間を取ってまでして歌舞伎を見ようとはしない。手間のかからないエンターテインメントは他にも沢山あるからである。これが歌舞伎の「敷居の高さ」の正体である。

この授業では、上記のような問題意識にもとづき、予め作品の「あらすじ」や「鑑賞ポイント」を解説したうえで舞台映像を鑑賞するという方法を採る。対象とする作品は、まず近代以降に作られた作品群（新歌舞伎および新作歌舞伎）や、江戸時代の日常語で展開する作品群（世話物）など、〈言葉〉によるハードルが比較的低いものからはじめる。その後、義太夫節や長唄といった音曲を活用する〈様式的な表現〉を伴う作品（義太夫狂言や舞踊）へと徐々にレベルを上げて扱っていく。以上のようなプロセスを通じて、歌舞伎に対する「敷居の高さ」を解消することをこの授業では目標とする。

〔到達目標〕

①歌舞伎についての基礎的な知識を身につける。
②歌舞伎の表現の特殊性を理解し、歌舞伎に対する「敷居の高さ」を解消する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	歌舞伎のイメージを探る	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第２回	まさか、歌舞伎になるなんて！　―『風の谷のナウシカ』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第３回	スーパー歌舞伎はここから始まった　―『ヤマトタケル』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第４回	意外と聞き取れる？　―『一本刀土俵入』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第５回	まるでコント？　―『隅田川続俤　法界坊』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第６回	古典怪談の決定版　―『東海道四谷怪談』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第７回	名ゼリフを堪能しよう　―『青砥稿花紅彩画　白浪五人男』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第８回	オリジナルとアレンジ　―『暫』『女暫』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第９回	これぞ江戸歌舞伎　―『助六所縁江戸桜』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第１０回	ネタバレ禁止の大悲劇　―『菅原伝授手習鑑　寺子屋』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第１１回	父と子の運命に号泣　―『伊賀越道中双六　沼津』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第１２回	言わずと知れた人気作　―『勧進帳』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第１３回	ゆるキャラが踊る、踊る！　―『三社祭』『浮かれ坊主』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60
第１４回	美しさにウットリ　―『京鹿子娘道成寺』―	Webclass にアップロードされる資料に目を通しておく。	60

〔授業の方法〕

この授業はパワーポイントでの説明と映像視聴を中心とした講義形式で進める。受講生は Webclass にアップされるレジュメ（穴埋め形式）や作品テキストをプリントアウトしたり、各自のデバイスにダウンロードしたりしたうえで授業に臨んでほしい。
授業の成績評価は、２回のミニレポートと期末レポートで行う（Webclass を使用）。ミニレポートは授業内容をきちんと理解できているかを確認する意図で行うので、授業に出席していないと得点できないような内容が課される。また、期末レポートは授業での学習を踏まえて、発展的に考察してもらう内容となる。
なお、本授業はＩＣＴを活用した双方向型の授業を展開する。具体的には「Slido」を利用し、授業内でアンケートを行ったり、リアルタイムでの質問や感想を受け付ける。

〔成績評価の方法〕
ミニレポート：５０％（２５％×２回）、期末レポート：５０％。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
①歌舞伎についての基礎的な知識を身につけているかどうか。
②歌舞伎の表現の特殊性を理解し、歌舞伎に対する「敷居の高さ」を解消できたかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『乙女のための歌舞伎手帖』（河出書房新社、2017 年）
服部幸雄『歌舞伎の表現をさぐる』（演劇出版社、2001 年）
渡辺保『角川ソフィア文庫　増補版　歌舞伎手帖』（KADOKAWA、2012 年）
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
ICT 活用

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	物語と絵画						
教員名	木谷　眞理子						
科目№	125235180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
テーマは〈絵巻〉です。
絵巻は、横に長い長い巻物に、文章と絵で物語を表したものです。現代人にとってはあまりなじみがないかもしれませんが、高畑勲氏の名著『十二世紀のアニメーション―国宝絵巻物に見る映画的・アニメ的なるもの』（徳間書店、1999 年）のタイトルが語っているように、絵巻は映画やアニメにも通じる特徴を持っている、非常に魅力的な表現媒体なのです。
この授業では、絵巻の名作を複数取り上げて、絵巻という表現媒体の特徴や、物語の絵画化の手法について、丁寧に見ていきます。

〔到達目標〕
ＤＰ１【専門分野の知識・技能】、ＤＰ２【教養の修得】、ＤＰ３【課題の発見と解決】、ＤＰ４【表現力、発信力】を実現するため、次の３点を到達目標とします。
① 絵巻にかんする基本的な知識を有している。
② 絵巻という表現媒体の特徴について、具体例を挙げて説明することができる。
③ 物語の絵画化の手法について、具体例を挙げて説明することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 絵巻の基礎	授業の進め方を確認する。	60
第２回	絵因果経	指定された課題を行う。	60
第３回	源氏物語絵巻	指定された課題を行う。	60
第４回	春日権現験記絵	指定された課題を行う。	60
第５回	信貴山縁起絵巻①	指定された課題を行う。	60
第６回	信貴山縁起絵巻②	指定された課題を行う。	60
第７回	信貴山縁起絵巻③	指定された課題を行う。	60
第８回	信貴山縁起絵巻④	指定された課題を行う。	60
第９回	信貴山縁起絵巻⑤	指定された課題を行う。	60
第１０回	人間と神仏の出会い	指定された課題を行う。	60
第１１回	ワンシーン・ワンカット	指定された課題を行う。	60
第１２回	伴大納言絵巻①	指定された課題を行う。	60
第１３回	伴大納言絵巻②	指定された課題を行う。	60
第１４回	伴大納言絵巻③	指定された課題を行う。	60

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきますが、毎回、課題を出します。

〔成績評価の方法〕
授業時の課題を 40%、レポート（CoursePower から提出）を 60%、の割合で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
① 絵巻にかんする基本的な知識を有しているか。
② 絵巻という表現媒体の特徴について、具体例を挙げて説明することができるか。
③ 物語の絵画化の手法について、具体例を挙げて説明することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
プリントを配布しますので、購入の必要はありません。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	貴族社会の暮らしと文学						
教員名	松野　彩						
科目№	125235190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
平安時代の貴族の暮らしについて、毎回１つのテーマを決めたうえで、具体的な文学作品を例に講義する。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①平安時代の貴族の暮らしについて、その具体的な特徴が説明できる。
②平安時代の文学作品に描かれた貴族の暮らしについて、具体的に説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	平安京と貴族の邸宅の構造	大学図書館にある概説書などを利用して、平安京の貴族の邸宅の構造の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第２回	女性の衣装①	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の女性の衣装の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第３回	女性の衣装②	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の女性の衣装の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第４回	男性の衣装①	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の男性の衣装の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第５回	男性の衣装②	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の男性の衣装の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第６回	髪型・洗髪の方法	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の髪型、洗髪の方法の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第７回	化粧	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の化粧の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第８回	食生活	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の食生活の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第９回	生老病死①（生誕儀礼）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の生誕儀礼の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１０回	生老病死②（老い）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の人々の老いの特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１１回	生老病死③（病気１）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の貴族が罹患した病気の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１２回	生老病死④（病気２）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の貴族が罹患した病気の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１３回	生老病死⑤（葬送）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の葬送の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１４回	まとめ・補足	これまでの授業をふりかえり、それぞれのテーマのポイントについて整理・補足する。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行う。古典本文を読解しながら、解説資料の穴埋めを埋める形で講義を進める。各回の授業終了時に CorusePower より課題を提出する。
※資料（古典本文、解説資料）は CorusePower からダウンロード（印刷）して持参すること。
※講義を受講するにあたっての約束事などは CorusePower に掲示するので、理解した上で受講すること。

〔成績評価の方法〕
授業中の提出物（40%）＋期末課題（60%）＝100%
→以上はすべて CorusePower より提出。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
評価にあたっては、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①平安時代の貴族の暮らしについて、基本的な知識が身についているか。
②平安時代の文学作品に描かれた貴族の暮らしについて、具体的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語表現の特質（語彙・表記）						
教員名	髙橋　雄太						
科目№	125236120	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
現代の日本語の成り立ちを知るには、歴史的な日本語の知識が必須である。現代に隣接する近代（明治・大正・昭和期）は、国家の成立、教育の普及、技術革新、メディアの発達などに伴って、短期間に急速な社会の変化を遂げた期間であり、それに連動するように、日本語も大きくその姿を変容させた。本科目では特に日本語の語彙と表記に焦点をあて、歴史的な観点から、日本語の変化の実態を捉えて、その要因について考える。

〔到達目標〕
・近代語から現代語への変遷を、歴史的な観点から分析し、その変化の実態や要因を説明できるようになる。
・日本語の語彙・表記、および両者の関係を体系的に理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	近代語資料へのアクセス方法を確認する。	60
第２回	近代語資料を読み込む	近代語と現代語の相違点をリストアップしてまとめる。	60
第３回	言文一致と語彙	近代の文体史について復習し、社会とのつながりについて考える。	60
第４回	言葉の消長	注目した言葉の日本語語彙全体における頻度・増減などの位置づけについて考える。	60
第５回	語法・語義の変化	近代と現代で語義・語法の異なる言葉を取り上げて、その変化の要因をまとめる。	60
第６回	外来語の拡大	使用頻度が増した外来語を取り上げて、その増加の要因を考える。	60
第７回	敬語の変遷	「敬語の指針」を読み、現代日本語の体系を把握する。	60
第８回	「言葉」を「表記」する	言葉の各種表記バリエーションが与える効果やニュアンスの違いについて考える。	60
第９回	同訓異字・異体字	身の回りの日本語から同訓異字を見つけ出し、その使い分けの基準について考える。	60
第１０回	字種の使い分け	字種の使い分けの歴史的変遷について復習する。	60
第１１回	近現代漢字政策史	常用漢字表・当用漢字表の実物を読み、その設計や思想を理解する。	60
第１２回	振り仮名・あて字	身の回りの日本語からあて字を見つけ出し、文字列と読みの言葉の関係について考える。	60
第１３回	記録・印刷の歴史	各種記録方法の日本語と照らし合わせたときの長所と短所を復習する。	60
第１４回	語彙・表記の今とこれから	近未来の日本語の語彙・文字の変化を推測し、その要因を考察する。	60

〔授業の方法〕
講義形式を基本とするが、配布する資料をもとに分析・議論をする時間を設けて全体で共有する取り組みを含む。受講者が少ない場合、演習形式で行う。

〔成績評価の方法〕
期末レポート 50%・レスポンスシート 30%・平常点 20%、を基に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
※購入の必要なし
小椋秀樹編『日本語の語彙・表記』（朝倉書店） ISBN：9784254516524
田中牧郎『近代書き言葉はこうしてできた』（岩波書店） ISBN：9784000286268
金愛蘭『外来語の基本語化』（大阪大学出版会） ISBN：9784872597844
今野真二『百年前の日本語』（岩波新書） ISBN：9784004313854
田島優『「あて字」の日本語史』（風媒社） ISBN：9784833120944

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際関係論入門						
教員名	川村　陶子						
科目№	125331100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、国際関係研究（国際関係論、International Relations）とよばれる学問分野について概説する。国境を越えるさまざまな現象を把握し理解するための基礎概念や思考枠組みを、現実の国際問題を取り上げながら解説する。
国際関係研究は、その名が示すように、「国家から成る世界」を前提として 20 世紀に確立した学問である。その一方で、研究対象たる現実の世界が大きく変化していく中、学問的意義や有効性がつねに問い直される状況にある。講義では、学問研究と現実世界の相互関係を重視し、社会・世界を研究することのおもしろさを受講者に伝えられればと考えている。
＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整、変更する可能性がある。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。
①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深めること。
②現代の国際関係、国際社会の歴史的変化を、自分なりに分析し考察できるようになること。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、現実の国際情勢や研究の動向、受講者の構成や反応などにより、修正することがある。） イントロダクション 講師の問題関心と授業の概要を説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係の現象や研究に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	国際社会をとらえる基礎概念（１） 国際社会という「場」の特徴を整理し、それを構成する主体の多様性についても理解を深める。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	国際社会をとらえる基礎概念（２） 国際社会のベースとなる主権・国民国家体制について、その形成過程を解説し、矛盾を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	国際関係をとらえる基礎概念（３） パワーの概念について解説し、その諸側面を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	国際社会のとらえかた（１） リアリズムの考え方について解説し、勢力均衡、安全保障のディレンマといった鍵概念への理解を深める。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	国際社会のとらえかた（２） リベラリズムと相互依存論の考え方を解説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	国際社会のとらえかた（３） 国際関係に対する「南」からの視点について解説するとともに、グローバル化の概念にも議論を広げる。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	国際関係のマネジメント（１） 主権国家間関係の運営である外交の基本原則について概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	国際関係のマネジメント（２） 一国の立場からみた対外政策について、その形成過程や主要な研究上のテーマを概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	国際関係のマネジメント（３） 外交の発展と変容について、国際関係の歴史的展開とからめながら考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	国際関係の制度化（１） 国家間の利害を調整し、国際協力を推進する仕組みとしての国際制度・国際組織について概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	国際関係の制度化（２） 前回に引き続き、国際関係をより確実なものとする仕組みについて概説する。国家間協力よりも一歩進んだ取り組みとしての地域統合にも目を向ける。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１３回	国際関係研究の拡大 今日の国際社会の現状、新たな動向を整理するとともに、そうした展開をふまえた国際関係研究の広がりを確認する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60

第１４回	まとめ 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修を総括し、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕
講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連して行った自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義をおこなう。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）70%、レポート（CoursePower で提出）30%をめやすに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その達成度により評価する。
①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深める。
②現代の国際関係、国際社会の歴史的変化を、自分なりに分析し考察できるようになる。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
世界史や政治経済、倫理等の基礎知識があると、授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず、自主的な学修を推奨する。
関連科目：平和学入門、国際文化論、国際政治経済学等

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
滝田賢治・大芝亮・都留康子編『国際関係学（第３版補訂版）』有信堂、2023 年。
村田晃司ほか編『国際政治学をつかむ』（新版）、有斐閣、2015 年。
ほか、開講時および授業中に随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	平和学入門						
教員名	墓田　桂						
科目№	125331110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
【平和と安全はどのように維持できるか　−安全保障の多面的考察】
「平和」とはどのような状態を指すのだろう？誰が、どのように維持しているのだろう？混沌とした国際情勢にあって、「国際の平和と安全」を維持する目的で作られた国連は今でも有効だろうか？
この授業では、伝統的な安全保障論に則りつつ、平和と安全保障にかかわる学説や政策論議を多面的に考察する。
より具体的には、同盟に代表される軍事的手段や外交に加え、国連や人道援助組織を含めたアクターの活動をとりあげる。平和と安全保障の個別の課題（イシュー）を検証しながら、分断と対立に特徴づけられる世界の実相を読み解く。
なお、担当教員は外務省（専門調査員、外務事務官）および法務省（難民審査参与員）での実務経験を有する。保秘義務に反しない範囲で、実務経験に基づく知見を授業内で共有する機会を設けたい。
（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。）

〔到達目標〕
DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現し、特に DP1-1「国際関係研究の基本的な諸概念や理論枠組みを把握し、それらを用いて世界情勢の主要問題を分析することができる」ようにするため、下記を到達目標とする。
・国際関係を巨視的な観点で考えることができる。
・現代世界が直面する諸問題を理解できる。
・国際平和と安全保障における課題を自ら発見することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ―この授業で学ぶこと	授業に関連する事項を予習する。	90
第２回	変動する国際環境 ―VUCA の時代	授業に関連する事項を予習する。	90
第３回	世界をどう捉えるか ―アクターとアプローチ	授業に関連する事項を予習する。	90
第４回	脅威の認識	授業に関連する事項を予習する。	90
第５回	さまざまな戦争の形	授業に関連する事項を予習する。	90
第６回	安全保障の方法論	授業に関連する事項を予習する。	90
第７回	ゲスト講演（予定）	授業に関連する事項を予習する。	90
第８回	国連を通じた平和の実現とその限界	授業に関連する事項を予習する。	90
第９回	集団防衛を通じた平和と安全―NATO と日米安保	授業に関連する事項を予習する。	90
第１０回	平和構築の取り組み	授業に関連する事項を予習する。	90
第１１回	武力紛争と人々の保護	授業に関連する事項を予習する。	90
第１２回	インド太平洋時代の平和と繁栄 ―世界と日本	授業に関連する事項を予習する。	90
第１３回	到達度確認テスト	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	※到達度試験の準備学修は、個人の判断に委ねる。
第１４回	まとめ	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

〔授業の方法〕
講義形式を基本とする。なお、上記の授業計画は変更することもある。

〔成績評価の方法〕
平常点（20%）、到達度確認テスト（80%）を組み合わせた総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目はなし。（※予備知識がなくとも、国際情勢への関心があれば授業についていくことは可能です。）

〔テキスト〕
特に指定しない。

〔参考書〕
授業中に配布するレジュメの中で提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化論						
教員名	川村　陶子						
科目№	125331120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、「国際関係における文化」をめぐるさまざまなトピックを扱う。その際に、文化という概念の歴史的変遷や、その多義的な意味内容にとくに注意を払う。各トピックに関する主要な研究や実践の動向と、現実世界の歴史的展開や今日の状況、国際関係と私たち自身とのつながりを、バランスよく学修することをめざしたい。
授業の前半では、国際関係を分析する「枠組み」としての文化、後半では、国際関係を媒介する「要素」としての文化に焦点を当てる。全体を通して、「国家（政府）間だけではない国際関係」や、「いわゆる政治や経済とは異なった領域の国際関係」に注目することになるであろう。授業全体を通して、そうした「文化の国際関係」が、「国家（政府）間の国際関係」や「政治や経済とよばれる領域の国際関係」と密接に関連しており、ときにはそれらを規定し動かすことを意識できるようになればと考えている。
＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整・変更する可能性がある。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP６（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。
①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむこと。
②国際関係を、国家間の関係や狭い意味での政治・安全保障に限定せず、より幅広く身近なものとして考えられるようになること。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。受講者の構成や関心などによって、講義の構成や進度を調整する可能性もある。） イントロダクション 講師の問題意識と授業の概要を説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係や文化に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	文化の概念 研究の基本概念である「文化」について、その意味の広がりや概念の歴史的形成・発展を理解する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	国際関係の研究史と文化の視点 国際関係研究の発展史を概説し、「文化の視点」が必要とされる背景を明らかにする。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	文化からみる国際関係（１）　国民国家と文化 国際関係の基本的単位主体ある国民国家が「文化的まとまり」であることを解説し、国民文化という「あたりまえ」の裏にある問題性について考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	文化からみる国際関係（２）　文化と「西洋近代」 国際関係研究のもとになっている欧米や西洋の考え方と、それとは違う考え方との関係、西洋と非西洋の関係について考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	文化からみる国際関係（３）文化的境界に沿った対立・衝突 20 世紀後半以降、文化相対主義的な考え方が国際関係の現実や研究に及ぼしたインパクトを、批判的に考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	文化からみる国際関係（４）グローバル化の中の偏見と憎悪 ポスト冷戦、とりわけ「9・11」後の世界において、「対立と憎悪の負のスパイラル」が生じている状況を概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	文化からみる国際関係（５）　負のスパイラルを乗り越えるために 文化的境界線に沿った対立・衝突を乗り越え、多様な人びとが共生するための方策を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（１）国際関係の文化的運営 「国際関係が異文化間関係であるならば、文化的手段を用いて国際関係を形づくることができる」という考え方を紹介し、文化を資源・媒介とした国際関係の運営のさまざまなパターンを解説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（２）国際関係の文化的運営の歴史的展開・１ 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「帝国主義の時代」までの時期を扱う。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（３）　国際関係の文化的運営の歴史・２ 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「世界大戦の時代」から「冷戦の時代」にかけてを扱う。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（４）　グローバル化時代の国際文化関係運営・１ ポスト冷戦期、21 世紀における国際文化関係運営の新しい発想やトレンドを紹介する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60

第１３回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（４）　グローバル化時代の国際文化関係運営・２ 前回に引き続きポスト冷戦期、21 世紀の国際文化関係運営の新しい発想やトレンドを紹介する。また、そうした新しい動きがもたらす可能性と問題性を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１４回	まとめ 今日の世界において、文化でみる国際関係、文化でつくる／文化がつくる国際関係がどのように展開しつつあるか、その現状と展望を整理する。 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修をふり返り、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕
講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連しておこなった自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義をおこなう。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）70%、レポート（学期末に CoursePower で提出）30%をめどに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その到達度により評価する。
①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむ。
②国際関係を、幅広く身近なものとして考えられるようになる。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
受講者は、報道や身の回りの事象に目配りするなどして、現代世界の動向につねに注意を払うことが求められる。
講義は現代史の知識を前提とした内容になる。高校での関連科目選択の有無にかかわらず、自主的な学修を行うことが望ましい。
本講義は、米国を中心に発展してきた国際関係論（International Relations、国際政治学）を批判的に乗り越える立場から組み立てられている。国際政治学の基礎的知識がなくても理解できるように講義しているが、意欲のある受講者は「参考書」欄に挙げた図書等の概説書を用い

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
講義内容に直接関連する文献やネットの情報は、授業中に適宜紹介する。
以下の文献の第 1 章は、本講義の一部と内容が重複する。理解を深めたい受講者には一読を推奨する。
川村陶子『〈文化外交〉の逆説をこえて−ドイツ対外文化政策の形成』名古屋大学出版会、2024 年。
下記は一般的な国際関係論（国際政治学）の概説書である。本講義とは内容を異にするが、多角的に学習したい受講者には参考とすることを奨めたい（「必要な予備知識」欄を参照）。
滝田賢治・大芝亮・都留康子編『国際関係学（第三版補訂版）』有信堂、2023 年。
ジョゼフ・S. ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ（田中明彦・村田晃司訳）『国際紛争−−理論と歴史 原書第 10 版』有斐閣、2017 年。
村田晃司ほか『国際政治学をつかむ』（新版）有斐閣、2015 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際政治経済学						
教員名	須田　祐子						
科目№	125331130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義は、国際政治学のアプローチからグローバリゼーション、とくにその経済的側面に対する理解を深めることを目的とする。コースの前半では、国境を越えるモノ、サービス、情報、カネ（資本）、人の移動によって進展するグローバリゼーションのさまざまな様相を概観する。後半では、グローバリゼーションへの政策的対応を「規制」という切り口から検討し、どのような規制がグローバルおよびナショナルなレベルで作成、実施されているのかを具体例を挙げて論じる。グローバリゼーションと呼ばれる事象が現代の政治、経済、社会にどのような影響をもたらしているのかを探ることが講義全体の大きなテーマである。

〔到達目標〕
国家間の経済関係をめぐる政治に関する基礎的な知識を修得する。 政治と経済の相互作用について国際的文脈から学び、グローバリゼーション時代に世界が直面するさまざまな問題について、知識に基づき考察できるようになることを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	グローバリゼーションとは？ 「グローバリゼーション」という言葉が何を意味するのかを説明する。また「国際化」など関連する概念も合わせて説明する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第２回	モノの移動 国際貿易を律するグローバルな枠組みであるＧＡＴＴと世界貿易機関（ＷＴＯ）の歴史的展開と現在の課題について解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第３回	ＴＲＩＰＳと医薬品アクセス問題 貿易関連知的財産権（ＴＲＩＰＳ）協定について学ぶ。医薬品アクセス問題を取り上げる。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第４回	サービスの移動 サービス貿易一般協定（ＧＡＴＳ）について通信分野と放送分野に焦点をあてて解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第５回	情報の移動 デジタルデバイド（情報格差）やインターネット資源の管理など情報通信をめぐる政治と経済の問題を概観する。 到達度確認テスト（１）	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第６回	人の移動 ＧＡＴＳと「人の移動」、ＦＴＡ・ＥＰＡによる労働力移動の自由化について解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第７回	インターネットで変わった？ インターネット時代の著作権保護、プライバシー保護、児童ポルノ規制について、国際的取り決めがどのように発展してきたのかを考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第８回	グローバルな不法経済 麻薬と資金洗浄への対策を事例として、国際的取り決めがどのように国内規制に影響を及ぼすのかを見る。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第９回	オゾン層破壊と気候変動 オゾン層と地球温暖化に関する国際的枠組みを比較しながら地球環境問題に対する国際的取組みについて考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１０回	有害物質の管理 有害物質のグローバルな規制について有害廃棄物の越境移動に関するバーゼル条約と水銀に関する水俣条約などを例として考える。 到達度確認テスト（２）	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１１回	遺伝子組み換え作物 生物多様性条約カルタヘナ議定書とコーデックスガイドラインを対比させて、貿易と環境の交錯するところでの国際規制の難しさを考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１２回	認証と資源管理 森林管理協議会（ＦＳＣ）と海洋管理協議会（ＭＳＣ）の認証制度について学ぶ。またキンバリープロセスについて学ぶ。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１３回	宇宙開発 宇宙開発の歴史を振り返り、最近の動向と現在、大きな問題となっている宇宙ごみ（スペースデブリ）について考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１４回	たばことアルコール たばこ規制枠組み条約の事例から国際的規制の国内への影響について考える。 到達度確認テスト（３）	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕

授業は対面で実施する。毎回 CoursePower でレジュメと資料を配布する。毎回、授業の最後に CoursePower 上で授業内課題に取り組む。授業内課題では、講義の内容をどの程度理解しているのかを評価する。その他に 3 回の到達度確認テストによっても評価する。

〔成績評価の方法〕
授業内課題（70%）
到達度確認テスト（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。授業内課題と到達度確認テストでは、授業で取り上げたさまざまな問題について基本的理解ができているかどうか、またそれらの問題の背景と経緯を的確に説明できるかどうかを評価の基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際協力論						
教員名	堀江　正伸						
科目№	125331140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
今日、グローバル化が益々進展するなか、さまざまな問題も国境を越え他国、そして国際社会全体に影響をおよぼす。例えば、2020 年より流行した感染症の広がり、ウィルスとの戦いを見れば明らかであろう。また、2022 年のロシアによるウクライナ侵攻は、私たちの生活に欠かせないエネルギーや食料等にも影響を与え、さらに避難民に対する支援、避難民の受け入れにも含めて、日本の外交上の問題ともなる。そうした問題の解決には国際協力が欠かせない。しかし、一口に「国際協力」と言っても、さまざまな方法があり、そこに携わるアクターも多い。また、国際協力が行われている分野も、経済、社会、平和構築等と多岐にわたる。本講義においては、国際協力が何故必要なのか、また国際協力はどのように行われているか、どのようなアクターにより行われているのかなど国際協力の基本的なメカニズムについて知識を提供することを目的としている。

〔到達目標〕
国際協力論は、国際関係研究の重要な概念、理論の一つである。本授業は、国際協力論の概念、理論枠組み理解し、且つ実際の事象を概念、理論を用いて分析する能力を身に付けることを目標としている。具体的には次のような能力の習得を目標としている。
①国際協力はどのような問題に対して行われ、またその原因は何かについて一端を理解している。
②各種国際協力の概略を理解している。
③国際協力に関わるアクターについて知識を持っている。
④国際協力の障害となりうることを考えられる思考力を養う。
⑤上記のような知識を活かして、様々な国際問題について自分なりの意見を形成できる。
⑥将来、国際協力の分野で活躍したいと考える学生は、希望具体化のさらなる検討に欠かせない国際協力の基本的枠組みを理解している。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス　授業の概要と進め方 何故国際協力は必要なのか？ 国際協力を必要とする諸問題にはどのようなものかを考えてみる。	シラバスの確認 私たちの生活と国際社会はどのような繋がりがあるか考えておく。	15
第２回	経済開発 日本が受けまた提供してきた支援には、大型のインフラ整備や産業の活発化に欠かせない施設の建設がある。それらの効果や問題点について議論する。	事前に配布する資料の講読。	60
第３回	社会開発 貧困対策、教育、健康維持のためのサービスといった直接的に人々が受益する支援について考察する。	事前に配布する資料の講読。	60
第４回	人間開発、人間の安全保障 1990 年代後半より日本の支援政策の主流となっている人間の安全保障という考え方について検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第５回	人道支援 災害や紛争の被害者への直接的支援である人道支援の理念や国際社会はどのように人道支援を行っているかを概観する。	事前に配布する資料の講読。	60
第６回	難民・強制移動と国際協力 国際的な難民保護体制がどのように生まれて進化していったのか、それでもなお保護体制から漏れる人々はどのように支援していけばよいのかを検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第７回	平和構築 東西冷戦の終結とともに国内紛争が頻発し、平和構築の重要性が増した。平和構築の変遷、目指していること、また他の支援との関連性について一考する。	事前に配布する資料の講読。	60
第８回	現在の国際協力の目標としての SDGs 国際協力を必要とする最近の問題や、2030 年までの国際社会の目標である SDGs がどのように生まれたのかを、ここまでの復習を織り交ぜながらレビューする。	事前に配布する資料の講読。	60
第９回	ODA、二国間支援 国際協力に掛かる費用は誰が提供し、また主に外交政策として行われる二国間支援について検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第１０回	多国間支援 国際連合や世界銀行といった多くの国々が出資して行われる多国間支援について検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第１１回	NGO や企業の役割 近年活発化している、NGO や企業といった国家を基盤としない機関の国際協力を検討する。	レポートに関する調査と執筆	60
第１２回	国際協力の現場 実際に行われていた紛争や自然災害の被害者対する支援や貧困軽減のためのプログラムなどを、現場で起こる問題を中心に考察する。 レポート提出『最も関心のある国際社会の問題と国際協力』	レポートに関する調査と執筆	60
第１３回	国際協力シミュレーション 紛争地での支援を想定し、役割を決めて支援策の立案、他の支援機関との交渉を行ってみる。	事前に配布する資料で、シミュレーション現場の状況を理解する。	60
第１４回	レビュークイズ 全体の復習 レポート発表	授業全体に関してノートなどを用いて復習。	60

〔授業の方法〕

対面を基本とするが、１回の授業の中で２回から３回のディスカッションの時間を設ける。また国際協力シミュレーションやレポートに関するプレゼンテーションを予定している。

〔成績評価の方法〕
総合評価
内訳: レビュークイズ 30%、毎回の講義に関する自身の意見や授業への貢献 30%、レポート 40%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『国際協力ーその新しい潮流（第３版）』、下村恭民他編、有斐閣選書、2,200 円、ISBN: 978-4-641-28138-7
『国際協力論を学ぶ人のために』、内海 成治編、世界思想社、3,080 円、ISBN: 978-4-790-71674-7
『新しい国際協力論（改訂版）』、山田満編、明石書店、2,600 円、ISBN: 978-4-750-34761-5
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際関係論特講Ｂ						
教員名	上原　史子						
科目№	125331160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義ではヨーロッパ国際関係の現状を理解するために EC の誕生から現在までのヨーロッパ統合の歩みを概観するとともに、現在の EU が抱えている外交、経済社会問題、政治文化問題、Brexit 問題の行方等を広く学びます。
その際、リージョナリズムの一例としてのヨーロッパ統合が直面している安全保障や地球環境といった諸問題、BREXIT 問題のその後、コロナ禍・戦禍のヨーロッパの現状と課題等、世界共通の課題についても受講生の皆さんと議論する予定です。

〔到達目標〕
現代の世界は、国内政治の動きだけではなく、貿易や外交交渉を通じた国家間関係、国境を越えた国際組織の動向に大きく影響されます。この授業では世界のこのようなダイナミズムを学び、国際情勢の現状と課題を理解し、激動の 21 世紀世界の動きを正確にとらえるための思考力を身につけることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：コロナと戦争で変わる世界・ヨーロッパ	ヨーロッパの最新情勢について知っていることを話せるように整理しておく	30
第２回	なぜヨーロッパ統合がスタートしたのか？	ヨーロッパ統合の起源を調べてみる。	30
第３回	1950 年代から 60 年代のヨーロッパ統合	前回授業の復習	30
第４回	1970 年代から 90 年代のヨーロッパ統合・グループワーク	ヨーロッパ統合の歴史を調べてみる。	30
第５回	冷戦の終焉・ドイツ統一と東西ヨーロッパの統合	ベルリンの壁が崩壊したきっかけは何だったのか、確認しておく。(30 分)	30
第６回	21 世紀のヨーロッパ統合	EU について最新ニュースをフォローする。 グループディスカッションの準備	45
第７回	ヨーロッパの様々な共通政策	EU の共通政策にはどんなものがあるのか、調べてみる。	30
第８回	ヨーロッパ各国の EU 統合をめぐる問題	EU 加盟国すべてを列挙できるようにしておく。	30
第９回	ヨーロッパの安全保障	世界とヨーロッパの安全保障の歴史をひも解いてみる。	30
第１０回	EU の気候変動・環境・エネルギー政策への取り組み	EU の気候変動問題への対応について調べてみる。	30
第１１回	フクシマ・ウクライナと欧州の原子力：グループワーク	日本の原子力エネルギーをめぐる議論について整理しておく。	30
第１２回	EU の加盟国増大の過程とさらなる拡大	クロアチアとトルコについて知っていることを整理しておく。	30
第１３回	コロナ禍・戦禍のヨーロッパ情勢	ヨーロッパの最新ニュースをチェックしておく。	30
第１４回	プーチン戦争後のヨーロッパ統合のゆくえ（ディスカッション）	ヨーロッパの最新情勢をニュース等でフォローアップし、ディスカッションの準備をする。	60

〔授業の方法〕
この授業は EU のニュースや映像も取り入れながら、講義のみならず、受講生とのディスカッションやプレゼンをしてもらう時間も設定します。したがって受講に際しては毎回の授業にアクティブに参加すべく、日々のヨーロッパ情勢・国際情勢をニュースや新聞・雑誌等でフォローしておくことが授業時間外の必須条件となります。
また、With コロナ＆戦争時代のヨーロッパ情勢は日々刻刻変化していることから、ヨーロッパにおける「ハプニング」に応じて講義の順序や内容を変更する可能性が高いことを承知のうえで履修してください。

〔成績評価の方法〕

学期末試験・授業内課題提出：90%　授業への積極性：10%

〔成績評価の基準〕
授業理解度を中心に評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
ヨーロッパ国際関係に関連するあらゆる科目

〔テキスト〕
山田敦・和田洋典・倉科一希編著『新版　国際関係学――地球社会を理解するために』有信堂高文社、2025 年。

〔参考書〕
広瀬佳一編著『NATO を知るための 71 章』明石書店、2023 年。
ジョセフナイ『国際紛争　理論と歴史』有斐閣、2017 年。
星野智編著『アントロポセン時代の国際関係』中央大学出版部、2022 年。
宮本光雄『エネルギーと環境の政治経済学』国際書院、2016 年。
鷲江義勝編著『EU　欧州統合の現在　第 4 版』創元社
浜矩子『統合欧州の危うい「いま」』詩想社
金子寿太郎『ＥＵ　ルールメイカーとしての復権 』日本経済新聞出版
パオロ＝ジョルダーノ『コロナの時代の僕ら』 早川書房
B. アンジェル・J. ラフィット『ヨーロッパ統合』創元社
田中浩編著『EU を考える』未來社
大芝亮編著『ヨーロッパがつくる国際秩序』ミネルヴァ書房
その他、授業時に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業前後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
ICT 活用

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	平和学特講B						
教員名	上杉　勇司						
科目№	125331180	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
授業は、原則として対面式で実施する。授業では、受講生が指導教員とともに教科書 A）上杉勇司『どうすれば争いを止められるのか』(WAVE 出版、2023 年)、B）上杉勇司『紛争地の歩き方』(ちくま新書、2023 年）が提示する知識を深めていくことを目的とする。毎週、今日の知（Think)、今日の技（Work)、今日の心（Review)、今日の身体（Action)、今日の目標　(Personal Goal)、今日の学び（Take Away）という 6 ステップで学びを深めていく。授業では、受講生たちが、ともに考え、気づき、共有することで「創発」が生み出される環境を整えることで、受講生の平和についての思考をほぐし、その視野を広げていく。

〔到達目標〕
紛争解決と平和構築に関する知（Think)、技（Work)、心（Review)、体（Action)、目　(Personal Goal)、学（Take Away）を総合的に身につける。学ぶ過程で、考え、気づき、共有することをの重要性と楽しさを味わう。本授業を受講後には、現代社会が抱える紛争と平和の諸問題について、想像的に考えて、主体的に行動できる人材になりたいと切望し、そのために大学生活を具体的にどのように送ればよいのかを計画する術を習得していることが、授業の達成目標である。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	自己紹介・アイスブレーキング・紛争解決学のトビラを開く	教科書 A：第 1 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第２回	争いは暴力で解決できるのか	第 1 回目のレビュー 教科書 A：第 2 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第３回	争いの「正義」とは何か	第 2 回目のレビュー 教科書 A：第 3 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第４回	世界の平和はどうすれば守られるのか	第 3 回目のレビュー 教科書 A：第 4 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第５回	どうすれば争いは止められるのか	第 4 回目のレビュー 教科書 A：第 5 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第６回	私たちが争いを避けるために	第 5 回目のレビュー 教科書 A：第 6 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第７回	カンボジア内戦--和解の旅の起点	第 6 回目のレビュー 教科書 B：第 1 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第８回	インドネシア開発独裁・アチェ独立紛争--民主化という名の和解と和解に優先する復興	第 7 回目のレビュー 教科書 B：第 3 章、第 4 章を読み、各章につき質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	90 分
第９回	東ティモール独立紛争--和解の２局面	第 8 回目のレビュー 教科書 B：第 5 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第１０回	スリランカ内戦--多数派勝利後の和解	第 9 回目のレビュー 教科書 B：第 6 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第１１回	ボスニア・ヘルツェゴビナ内戦--民族という火種は消せるか	第 10 回目のレビュー 教科書 B：第 7 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第１２回	キプロス分断--分断から和解は生まれるか	第 11 回目のレビュー 教科書 B：第 8 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第１３回	ミャンマー内戦--軍事政権との和解	第 12 回目のレビュー 教科書 B：第 9 章を読み質問を一つ、討論したい論点を一つ用意する。	60 分
第１４回	平和作品	これまでの各回を振り返り、自分の学びを「平和作品」を制作してくる。	90 分

〔授業の方法〕
授業はアクティブラーニング形式を採用し、学生による積極的な参加や発言が強く求められる。また、正解がある問題について議論するのではなく、正解がないなか知恵を絞り、他者との対話を重ねていく形式の授業のため、学生が主体的にグループ活動（主にディスカッション）に参加することが必須となる。人数が 20 名未満の場合は、演習形式を採用し、20 名以上の場合は、講義と学生中心の議論の形式をとる。学生が、事前に分担された教科書を読み、質問を用意していることを前提に、授業を進める。学生が興味関心をもつ質問を集めて、それについて議論し、必要に応じて教員が補足説明を加える。履修者には、毎週 Slack を通じて前回のレビューを共有してもらう（300 字程度)。最後に、授業全体を振り返り、今後の自分と平和との関わりを展望して、平和作品としてまとめてもらう。毎週のレビューは、授業を通じて感じたこと（疑問、ひらめき、異論、感嘆など）を共有する場として位置づけ、学生間の意思疎通に役立てる。

〔成績評価の方法〕

毎週のレビュー（第 1 週目と第 14 週目は除く）5%x12 回=60%
教科書 A の書評（第 6 週目が締め切り）15%
教科書 B の書評（第 13 週目が締め切り）15%
平和作品　10%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
教科書 A：上杉勇司『どうすれば争いを止められるのか　17 歳からの紛争解決学』（WAVE 出版、2023 年）1650 円　4866214422
教科書 B：上杉勇司『紛争地の歩き方　現場で考える和解への道』（ちくま新書、2023 年）1210 円　448007550X

〔参考書〕
上杉勇司・長谷川晋『紛争解決学入門：理論と実践をつなぐ分析視角と思考法』（大学教育出版、2016 年）購入の必要なし
上杉勇司・小林綾子・仲本千津『ワークショップで学ぶ紛争解決と平和構築』（明石書店、2010 年）購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業中・授業終了後に教室で受け付けます。
Slack にて個別質問や相談に応じます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバル・イシューズ						
教員名	木村　友彦						
科目№	125331190	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
現在の国際社会は、ヨーロッパに歴史な起源を持つ「主権国家体制」として一先ず特徴づけられますが、平和、開発、人権・人道、環境問題をはじめとして一国単位ではなく国際社会全体が関心を持ち取り組むべき問題も山積しています。こうしたグローバル・イシューズにより適切に対応するために、国家は国際連合をはじめとする国際機構を設立することに合意し、設立された国際機構は加盟国は勿論、時には市民社会や企業などとも協力しながら、その目的実現を目指すようになっています。この授業では、創設から 2025 年で 80 周年を迎える国連を中心とする国際機構の役割の検討を通して、グローバル・イシューズへの理解を深めていきたいと思います。

〔到達目標〕
グローバル・イシューズ並びに国際機構の役割に理解を深める。こうした学習を通して、DP1 や DP３に掲げられた到達目標を達成する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 国際機構の歴史①	シラバスを読む。	60
第２回	国際機構の歴史②	テキストの第１章を読む。	60
第３回	組織としての国際機構／国際公務員	テキストの第２、３章を読む。	60
第４回	国際機構の財政／意思決定	テキストの第４、５章を読む。	60
第５回	安全保障・軍縮	テキストの第６章を読む。	60
第６回	人権・人道	テキストの第７章を読む。	60
第７回	到達度確認テスト（中間）と復習	これまでの授業内容を見直し、テストに備える。	120
第８回	経済・貿易・通貨・開発／運輸・通信	テキストの第８、１１章を読む。	60
第９回	文化・知的協力	テキストの第９章を読む。	60
第１０回	環境	テキストの第１０章を読む。	60
第１１回	保健衛生	テキストの第１２章を読む。	60
第１２回	紛争解決	テキストの第１３章を読む。	60
第１３回	国際機構のパートナー／国際機構と日本	テキストの第１４章、終章を読む。	60
第１４回	到達度確認テスト（期末）と復習	これまでの授業内容を見直し、テストに備える。	120

〔授業の方法〕
基本的には下記のテキスト『入門　国際機構』に基づいた講義形式を予定していますが、上記の授業計画には授業進行にも応じて変更も考えられます。毎回レジュメを配布することを予定しています。授業では国際機構に関連する時事的な問題にも触れたいと思います。中間と期末の２回実施する予定の到達度確認テストでは授業で扱った事柄に関する基本的理解を重視します。

〔成績評価の方法〕
平常点（25%）と授業内に行う２回の到達度確認テスト（75%）を基本にすることを考えています。また任意提出のレポート課題を出して、評価に加えることも考えています。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
横田洋三(監修)『入門 国際機構』(法律文化社、 2016 年)

〔参考書〕
植木安弘『国際連合 ： その役割と機能』（日本評論社、2018 年）
野林健, 納家政嗣編『聞き書　緒方貞子回顧録』（岩波書店、 2020 年）
詫摩佳代『人類と病-国際政治から見る感染症と健康格差』（中央公論新社、2020 年）
筒井清輝『人権と国家: 理念の力と国際政治の現実』（岩波書店、2022 年）
　(他の文献は授業内で挙げていきたいと思います。)
国連の活動に関しては、国際連合広報センター（https://www.unic.or.jp/）のホームページの活用を考えています。
国連をはじめとする国際機関、外務省、NGO などの活動に関心があり自ら情報を収集したい方は、国連フォーラム（http://www.unforum.org/）のメーリングリストへの登録も有益かもしれません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学入門Ⅰ						
教員名	細谷　広美						
科目№	125332100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本授業はこれから文化人類学を学ぶうえでの入門の位置づけにあります。
文化人類学は「文化とは何か？」「人間とは何か？」ということを、フィールドワークを通じて”実践的”に考える学問です。グローバル化が進展する一方で、文化、宗教、歴史的背景などの違いからくる衝突、葛藤が生まれています。それ故、異文化を知ることは、今日ますます重要になっています。しかし、異文化を知る、理解するということはそもそもどのようなことでしょうか？カルチャーショックという言葉がありますが、これは私たちが生まれ育った文化というレンズを通して他者や世界をみてきているなかで、異なる文化に出会ったときに起こります。文化人類学は、自分にとってのあたりまえや常識、価値観が、「他者」にとってはあたりまえではないことを知ることからはじまります。
本授業では、文化人類学においてフィールドワークという方法論がどのように生まれたのか、異文化理解とはどのようなことを意味するのか、また、人種や民族など文化人類学が扱ってきた重要なトピックをみていきます。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２(教養の修得)、ＤＰ３（課題の発見と解決）を実現するため、以下の３点を到達目標とする。
１．文化人類学における文化の意味を学ぶ。
２．文化人類学の重要な方法論であるフィールドワークがどのように生まれたかということを知るとともに、文化人類学におけるフィールドワークが異文化理解とどのように関わるかを学ぶ。
３．異文化理解について考察を深める。
４．「文化」「人種」「民族」への理解を深める。
５．世界の多様性、文化の多様性を知る。
６．レジリエンスを高める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入 文化人類学の学問的対象とは？ 文化とは？ 文化はなぜ複数形なのか？	文化人類学の入門書等を読んでおく。 異文化理解について考えておく。 シラバスを読んでおく。	60 分
第２回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（１） マリノフスキーとトロブリアンド諸島	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第３回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（２） 参与観察	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第４回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（３） 自文化中心主義と文化相対主義	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第５回	他者との遭遇 大航海時代、進化論と人種主義 人種とは？	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第６回	映画	映画の背景について調べておく	60 分
第７回	人種とは？（２） フランツ・フアノンと人種 植民地主義の内面化 ポストコロニアル状況への視点	事前にファノンの文献、配布資料を読んでおく。講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第８回	人種とは？（３） 先住民と国民国家 ラテンアメリカと人種	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第９回	民族とは？（１） エスニック・グループ、エスニシティ、民族境界 国民国家と民族（ベネディクト・アンダーソン） 「日本人」とは誰か？	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１０回	民族とは？(２) 映画	映画の背景について調べておく。	60 分
第１１回	民族とは？（３） 映画	映画の背景について調べておく。	60 分
第１２回	人類学の多様な射程	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１３回	グローバル化の中の人類学	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１４回	到達度確認テスト	到達度確認テストに向けて、これまでの授業の復習をする。	180 分

〔授業の方法〕

講義形式です。少人数でのグループディスカッションを含みます。理解を深めるために映像資料を用いたり、映画をみる回もあります。授業内でリアクションペーパーを書きます。

〔成績評価の方法〕
評価は平常点によります。授業への参加状況、リアクションペーパー３０％、到達度確認テスト７０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
１．文化人類学の基本的考え方を学んだ。
２．文化人類学の重要な方法論であるフィールドワークがどのように生まれたかを知るとともに、フィールドワークの基本的方法論を学んだ。
３．異文化理解、異文化コミュニケーションについて理解を深めた。
４．グローバル化と文

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識はありません。
基礎力をつけ、これから学ぶ専門性につなげるために、文化人類学関係の開講授業をできるだけ履修して下さい。詳細は初回授業で説明します。
自らの疑問を大事にして下さい。
後期開講の「文化人類学入門Ⅱ」と連続しています。

〔テキスト〕
特になし。
文化人類学の入門書、授業内で紹介する文献等を各自で読んで下さい。

〔参考書〕
『文化人類学の思考方法』　松井圭一郎他編　世界思想社
『はじめて学ぶ文化人類学』岸上伸啓編　ミネルバ書房
『人類学のコモンセンス―文化人類学入門』浜本 満，浜本 まり子編 学術図書出版社
その他授業の中で紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業内、及び授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
ICT 活用
初年次教育

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学入門Ⅱ						
教員名	細谷　広美						
科目№	125332110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本授業は文化人類学を学ぶうえでの入門の位置づけにあり、文化人類学入門Ⅰからの継続授業です。
文化人類学入門Ⅰでは文化人類学においてなぜフィールドワークが重要なのか、フィールドワークという方法論が生まれた背景を含めて学習しました。
文化人類学入門Ⅱでは、南米アンデスを中心に文化人類学研究の具体的な現場をみていくことを通じて、文化人類学の方法論と思考方法についての理解を深め、専門的学びへの橋渡しをします。授業では（1）アンデスの先住民宗教（2）戦争や紛争からの社会の回復と歴史・記憶の関係、という２つのトピックを中心にフィールドワークの現場の話を交えつつ学びます。
最後に文化人類学で扱われている最新のトピックを紹介し学問的広がりを知るとともに、急速に変容する世界と、その多様性への取り組みについて学びます。
理解を深めるために、映像をみる機会を設けます。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２(教養の修得)、ＤＰ３（課題の発見と解決）を実現するため、以下の３点を到達目標とする。
①文化人類学の方法論、思考方法への理解を深める。
②フィールドワークについての理解を深める。
③異文化理解についての考察を深める。
④世界の多様性、文化の多様性を知る。
⑤ＳＤＧｓと先住民の関係について学ぶ
⑥記憶、歴史、グローバルヒストリーについて学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学とは？	文化人類学入門Ⅰの復習をしておく。	60 分
第２回	フィールドワークの現場 アンデスの先住民	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第３回	フィールドワークの現場 アンデスの先住民宗教 「みえる神」と「みえない神」	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第４回	フィールドワークの現場 アンデスの先住民宗教と巡礼	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第５回	フィールドワークの現場 アンデスの先住民宗教と気候変動、開発、SDGｓ	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第６回	フィールドワークの現場 紛争と先住民、平和構築	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第７回	映画 ディスカッション	映画の背景について調べる。	60 分
第８回	歴史と記憶 移行期正義、真実委員会、記憶の博物館	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第９回	歴史と記憶	映画の背景について調べる。	60 分
第１０回	歴史と記憶 国民国家の歴史、ポスト記憶、グローバルヒストリー	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１１回	映画 ディスカッション	映画の背景について調べる。	60 分
第１２回	文化人類学の最新トピック ジェンダー、ボディイメージ、医療、観光、科学技術等	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１３回	文化人類学の最新トピック アート、新自由主義、気候変動、先住民、人権等	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１４回	到達度確認テスト	到達度確認テストに向けて、これまでの授業の復習をする。	180 分

〔授業の方法〕
講義形式です。少人数でのグループディスカッションを含みます。理解を深めるために映像資料を用いたり、音楽をきいたり、映画をみる機会を設けます。シラバスは多少流動的になる可能性があります。

〔成績評価の方法〕

評価は平常点によります。授業への参加状況、リアクションペーパー等 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
1．文化人類学の基本的考え方を学んだ。
2．文化人類学のフィールドワークへの理解を深めた。
3．世界の多様性、文化の多様性について理解を深めた。
4．他者への想像力とレジリエンスを高めた。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
前期開講の「文化人類学入門Ⅰ」からの継続です。
文化人類学の入門書を読んでいる等、文化人類学の基礎知識がある場合は、この限りではありません。
必要な予備知識はありませんが、文化人類学の入門書等を読んでおいて下さい。
また、文化人類学関係の開講授業をできるだけ履修すると、基礎力がつくとともに関連性が明確になり理解が深まります。自らの疑問を大事にして下さい。

〔テキスト〕
特になし。
授業内で紹介する文献を各自で適宜読んで下さい。

〔参考書〕
『旋回する人類学』松井圭一郎　講談社
『文化人類学の思考方法』　松井圭一郎他編　世界思想社
『はじめて学ぶ文化人類学』岸上伸啓編　ミネルバ書房
『詳論 文化人類学：基本と最新のトピックを深く学ぶ』桑山敬己・ 綾部真雄編　ミネルバ書房
『文化人類学のエッセンス―世界をみる／変える』春日直樹・竹沢尚一郎 編　有斐閣
『人類学のコモンセンス―文化人類学入門』浜本 満，浜本 まり子編 学術図書出版社
『人類学とは何か』　ティム・インゴルド亜紀書房
『ペルーを知るための 66 章』細谷広美編　明石書店
その他授業の中で紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業内、または授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
ICT 活用
初年次教育

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	民族文化論						
教員名	嶺崎　寛子						
科目№	125332120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
異文化を理解するための、文化人類学の入門講座です。文化人類学とは、フィールドワークという調査法を通じて、人間と文化を探求する学問です。文化人類学の視点から世界を見るとどう見えるか、この授業で体験してみてください。他者を知ることで自分を知り、異文化を知って自文化を問い直すことで、新たに見えてくるものがきっとあります。知らないうちに内面化している「アタリマエ」を問い直すための視座を培い、それを実際に使ってみましょう。授業では受講者数によりますが、可能ならばグループディスカッションを積極的に行います。文化人類学がどのように生まれ展開してきたかも、テーマに沿って学びます。五感をフル回転させて、学ぶ楽しさを味わってください。

〔到達目標〕
DP２（教養の修得）および DP４（表現力、発信力）を身につけるため以下の 4 点を到達目標とする。
・　文化人類学の学説史的な展開や、ものの見方について基礎的な知識を養う。
・　自分の価値観や「当たり前」を相対化できる視点を育む。
・　異文化に対する敬意と好奇心を持ち、自分化と異文化を知的に往還する態度を培う。
・　ほぼ毎回行うグループ・ディスカッションを通じてコミュニケーション力／対話力を養成する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学とは何か	予習：シラバスを読んで授業のテーマや目標を把握すること。 復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第２回	環境と人間	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第３回	ことばから考える・１	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第４回	ことばから考える・２	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第５回	異文化へのまなざし	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第６回	マイクロ・アグレッションと交差性	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第７回	世界の食文化	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第８回	家族・親族規模と家の間取りの関係	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第９回	世界各地の結婚と親族関係	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１０回	世界各地の葬送文化	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１１回	贈与が紡ぐつながり	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１２回	文化人類学と開発	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１３回	到達度確認テスト	復習：参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１４回	世界の民族衣装・民族舞踊 到達度確認テストの講評	復習：到達度確認テストの講評を確認し、誤答部分についてレジュメや資料を読み直して確認する。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で進めます。ほぼ毎回、グループ・ディスカッションがあります。積極的に他の受講生とコミュニケーションを取ってください。グループディスカッションについては、受講生の人数が非常に多い場合には、教育効果を鑑み、他の代替的方法を取ることがありえます。また、授業はいわばライブなので、受講生の要望や必要に応じて臨機応変に進めます。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（70%）および平常点（授業でのディスカッションおよび授業への参画度（15%）、コメントシート等の提出状況（15%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
到達目標に達しているかどうかを重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目は特になし。文化人類学系の関連科目を並行して取ることが望ましいです。
予備知識は要りませんが、提示された参考文献などを自発的に読む積極性を求めます。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。
石川栄吉・大林太良・佐々木高明他編、1994『文化人類学事典』弘文堂などの辞典類が大学図書館のどこにあるかは把握しておき、適宜参照してください。購入の必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	フィールドワーク論						
教員名	嶺崎　寛子						
科目№	125332130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
文化人類学の背骨にあたるのが、フィールドワークという調査方法です。文化人類学者とは、世界中どこであっても、調査地に赴き、長期間そこに住み、自分の目で見、自分の耳で聞いて、動態的な文化を体感することを通じて研究する研究者のことです。感性を磨き、できるだけ良い目と耳を持ってフィールドに居着き、フィールドワークからできるだけ多くのことを感知し、それを第三者にわかるように言語化することが、その仕事です。その文化を内面化していない人の「異人の目」は、フィールドワークを豊かにします。
この授業は、フィールドワークの方法を学び、調査する力と書く力、両方を鍛える実践的な授業です。フィールド調査を行う方法を具体的に教示し、各自で実際にフィールド調査を行い、調査にもとづいてレポートを提出していただきます。全員での一日フィールドワークも行います。
社会学など隣接分野で調査を予定している他学科の学生も歓迎します。

〔到達目標〕
DP1-4（文化人類学の基本的な理念、概念、および方法論として重要なフィールドワークの手法を習得し、自ら課題発見をして異文化理解と異文化間コミュニケーションに応用することができる）を身につけるため、以下を到達目標とします。
- 文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めます。
- 実際にフィールドワークを行う際に必要となる技法を身につけます。
- 異文化理解に必要となる知見を深化し、グローバルな社会への柔軟な適応力を培います。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンスおよびレポートについての説明	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第２回	FW という方法論とその困難を考える	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第３回	フィールド選定の方法、グループ分けとグループディスカッション	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第４回	一日フィールドワーク場所のグループワークによるプレゼン	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第５回	調査・謝礼・インフォーマントとの距離感を考える	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第６回	調査されるという迷惑	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 ＊フィールドを選定し、フィールド予定地調査票に記入し、提出する。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第７回	「FW は教えられない」？	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第８回	個別事例の検討１　日本での FW	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第９回	調査許可やビザの取得、フィールド必携の道具類	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１０回	一日フィールドワーク	日程調整をし、調査の準備をする。調査所用時間は３～５時間程度、場所等は受講生の投票により決定。	60
第１１回	一日フィールドワークによる休講	小レポートの準備をする。	60
第１２回	質的調査と量的調査 小レポート提出	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１３回	参与観察とは何か	自分の FW に必要な事前準備を各自で行う。	60

第１４回	まとめ―文化人類学が照射するもの	到達度確認テストの講評を確認し、誤答部分につきレジュメや資料を読み直すこと。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式で行います。必要に応じて映像資料などの視聴覚教材を用います。
グループディスカッションも毎回ではありませんが、取り入れます。参加者同士で積極的にコミュニケーションを取ってください。
授業後にウェブを通じて授業コメントを提出してもらうことがあります。
冬休みまでに実際にフィールド調査を各自で行い、結果をレポートにして提出してもらいます。各自でフィールドを設定して個々人で調査を行います。また別に、全員参加で日程を合わせて一日フィールドワークを行います。一日フィールドワークの調査地は、グループワークでプレゼンをしてもらい、多数決で決定します。
調査先に迷惑をかけないための基本的な作法を身に着けたのちにフィールドに出ていただきます。調査先で失礼のないように、授業はきちんと受講してください。

〔成績評価の方法〕
授業参画 30%、レポート 70%。実際に自分で調査地を選定し、調査を行い、レポートにまとめるという作業が重要です。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めた。
異文化理解に必要となる知見を深化させることができた。
グローバルな社会への柔軟な適応力を培った。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
学科の専門科目として様々な文化人類学関係の科目が開講されているので、あわせて受講すると理解が深まります。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
適宜授業内で示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
質問を歓迎します。質問や相談がある方は、授業内で開示するメールアドレスに適宜メールをください。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学特講 I						
教員名	大坪　玲子						
科目№	125332140	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本講義では文化人類学の考え方からイスラームの基礎的な知識を習得し、担当教員が調査してきたイエメン共和国の具体的な事例を通して、文化を比較しながら理解することを学ぶ。イスラームははるか遠くの異文化ではない。五感をフルに使い、身近にあるイスラーム文化も視野に入れて議論していきたい。

〔到達目標〕
イスラームの基礎的な知識を習得し、イスラーム文化の多様性を理解する。ディプロマシーポリシーの DP2 を目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第２回	一神教の発想	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第３回	ムスリムの生活	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第４回	信仰と実践その１	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第５回	信仰と実践その２	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第６回	年中行事と通過儀礼	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第７回	部族民はどこにいるか	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第８回	衣とジェンダーとファッション	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第９回	食とマナー	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１０回	住と世界遺産	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１１回	嗜好品その１	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１２回	嗜好品その２	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１３回	アラブの春と内戦と	参考資料を読み、講義ノートを整理する。	60 分
第１４回	到達度確認テスト	テストで解答できなかったところを確認する。	60 分

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で進める。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト 60%、課題 40%。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学特講Ⅱ						
教員名	石田　慎一郎						
科目№	125332150	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、文化人類学の考え方と方法を学ぶ。
講義全体を貫く関心は、文化人類学の４つの方法的特徴、（１）文化相対主義（人類文化の多様性に対する寛容な理解）、現場主義（フィールドワークをつうじた実証研究）、全体論的アプローチ（文化・社会における部分と全体との関係を深く理解する）、比較（比較を通じた人類の多様性と普遍性の探求）を、具体的な研究事例を通じて理解することである。
第 1 回から第 8 回までは、家族内の人間関係をめぐる身近な（現代日本の）諸問題を、文化人類学的視点から批判的に思考し、文化相対主義の考え方と比較研究の実践例を学ぶ。第 9 回から第 14 回は、担当教員が実施しているケニア中央高地における文化人類学調査を参考に研究方法（フィールドワークならびに全体論的アプローチ）の具体例を学びつつ、ふたたび文化相対主義の意義と課題を考察する。

〔到達目標〕
文化人類学の考え方と方法を学ぶ。上記「テーマ・概要」の学習を通じて、「文化」「社会」をキーワードに現代社会を理解するうえでの批判的的視点を身につけることを目標とする。
人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができること（DP2）を目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学への誘い：４つのアプローチ 文化人類学は、研究対象ではなく研究アプローチにおいてユニークな学問である。第 1 回講義では、文化相対主義・現場主義・全体論的アプローチ・比較の４つのアプローチについて概説することで、文化人類学の特徴を概説する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第２回	呼びかけのことばに現れる〈私たち〉の文化 文化人類学は、人間の社会的営み、私たちの日常生活のあらゆる側面を研究対象とするため研究テーマは多様である。だが、家族親族論についてとくに多大な研究蓄積をもっており、本講義でも前半はもっぱら家族親族論に相当するテーマを中心にとりあげる。それは家族がくらしと人間関係の基本となるため、人類学的に考えるうえで適した題材をとくに多く含むためでもある。第 2 回講義では、家族内におけるよびかけの言葉（親族呼称）を題材に、受講生をまじえた疑似フィールドワーク的実験を実施し、家	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第３回	親と子（1）「母性愛」再考 第 3 回講義のテーマは「母性愛」である。ここでは、現代日本の「赤ちゃんポスト」、江戸時代の捨て子を題材に、これらを「母性愛」の対極にある営みととらえるのではない視点を提示し、受講生とともに議論する。「母性愛」を絶対善とする語り口に対して、文化相対主義的視点からの批判的考察は可能か。第 3 回講義ではこのような問いが重要である。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第４回	親と子（2）「生みの親」　「育ての親」再考 第 4 回講義でのキーワードならびに論点は、「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致に対する文化的理解である。これは文化人類学の家族親族研究において古くて新しいテーマであり、かつ現代日本において新しいかたちでの問いとして各方面において注目されている。ここでの具体的事例は、代理出産をはじめとする生殖医療技術である。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第５回	結婚と家族：東アフリカの「女性婚」「幽霊婚」から考える 第 5 回講義は、前回講義の内容と同一のテーマを東アフリカの民族誌事例から発展的に議論するものである。すなわち「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致の問題を、東アフリカのヌアー、グシイはそれぞれ固有の問題で解決してきた。その具体的な事例として「女性婚」「幽霊婚」を議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第６回	男と女：『サモアの思春期』と文化相対主義 思春期特有の心理的葛藤は、人間が避けることのできない普遍的な現象であるのか。第 6 回講義では、少年少女が思春期特有の心理的葛藤を経験せずに大人になることのできる社会について論じたマーガレット・ミードの民族誌とそれに対する根本的批判を紹介し、人間存在に対する自然科学的説明にたいする文化的説明を指向してきた文化人類学の思想史的背景について概説する。ここでは、ミードの議論を一方的に退けるのではなく、これまでの講義で考察した家族親族論の視点からあらためてその意義につい	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第７回	前半の総括、授業内レポートへのコメント 前半の授業であつかったテーマについてあらためて総括し、授業内レポートを執筆する。また、授業内レポートの内容について担当教員がコメントをおこなう。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第８回	文化相対主義の再定位 これまでの講義では、文化相対主義的態度の重要性、普遍主義に対する強力な批判としての可能性を強調してきた。だ	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60

	が、文化相対主義的態度を突き詰めた先に絶対的相対主義として現れる可能性（危険性）にも目をむけていく必要がある。第 8 回講義では、相対主義と普遍主義との相互補完関係を、浜本満、井上達夫、ロバート・レッドフィールド等の議論をふまえて考察する。		
第9回	文化と自由 第9回講義は、ウィル・キムリッカ等の議論の紹介からはじめて、文化と自由をテーマに議論をおこなう。文化人類学は、個人の自由を束縛する存在としてではなく、補強する存在として文化を語ることはいかにして可能か。こうした問題意識を中心に議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１０回	人類学的方法としての民族誌（1） これまでの講義をふまえたうえで、ここからは担当教員がケニア中央高地ですすめている文化人類学研究の事例を手がかりに、人類学的実践としての民族誌の具体的内容と、民族誌をふまえたうえでの比較研究の可能性を議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１１回	人類学的方法としての民族誌（2）オルタナティブ・ジャスティス 第１１回講義は、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ地方におけるムーマ（無罪宣誓）を題材に、いわゆる神判的紛争処理・犯罪解決の合理性について、比較分析的視点で議論をおこなう。ここでの比較対象は日本中世の鉄火起請等である。イゲンベのムーマでは、被告側が呪物を飲み込む等のうえで無罪宣誓をおこない、それに対して原告側は呪物の効果を待ち続けなければならない。裁判人は原告と被告のどちらが正しいかをその場で結論することはしない。そうした紛争処理・犯罪解決の	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１２回	人類学的方法としての民族誌（3）嗜好品と文化 第１２回講義では、東アフリカやアラビア半島で地域固有の嗜好品として古くから利用されてきたカート（ミラー）を題材に、嗜好品をめぐる文化と政治について議論する。アメリカをはじめ一部の国ではカートは違法ドラッグとして禁止されており、ケニア産カートの輸出先となっているイギリス等においても根強い禁止論がある。カートをめぐる麻薬化の語り口に対する批判的視点をふまえたうえで、第１１回講義では、映画『おいしいコーヒーの真実』においてのエチオピア農民のコーヒー栽培からカー	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１３回	人類学的方法としての民族誌（4）無文字社会の歴史意識 第１３回講義では、分節リネージ体系を特徴とするニューギニア高地エンガ社会ならびにケニア西部高地グシイ社会との比較のなかで、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ社会における年齢組体系特有の時間世界・歴史意識について考察する。イゲンベ社会は、祖先の個人名を記憶しない社会でありながら、民族全体の歴史を記憶する社会でもある点で、そして円環的な時間的世界を持つ点で、上記２つの社会とは異なっている。本講義では、もうひとつの比較軸を小馬徹の比較分析的論考に求める。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１４回	後半の総括、到達度確認テスト 後半の授業であつかったテーマについてあらためて総括する。授業後半に、到達度確認テストを実施する。	【復習】これまでの授業内容を復習し、到達度確認テストにおいて十分に解答できなかった箇所を確認する。	120

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーまたは授業内レポートをもちいて受講生との双方向性を高めるよう工夫する。また、映像教材を用いる。

〔成績評価の方法〕
授業内での筆記・提出をもとめるリアクションペーパーまたは授業内レポート（50%）と到達度確認テスト（50%）を基本として総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
各回レジメ（A４両面印刷１枚）を配付する。

〔参考書〕
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバル化の人類学						
教員名	綾部　真雄						
科目№	125332160	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕

グローバル化の流れの中で急速に変貌する現代タイ社会の諸相を捉えるための一つの試みとして、タイを舞台とする映像作品（エンターテインメント系映画）を視聴し、それぞれの作品で表象されるタイの「かたち」とその文脈を文化人類学的な観点から捕捉する。

タイにおいてもコンテンツ産業のグローバル化の波は急激に進んでいる。タイで制作された映画がアジア全域でヒットし、日本初の「やおい」文化がタイで BL（ボーイズラブ）コンテンツとして発展を遂げて日本に逆輸入され、さらには、香港の著名な映画監督がタイでメガホンを取って世界的な映画祭で賞を受賞するといったことが常態化しつつある。

具体的には、以下の作品を含む 4 作品ほどを可能な範囲で視聴する予定である（進行によって変更する可能性あり）。

①『バッドジーニアス』(2017) ＜天才女子高生と試験不正阻止＞
②『2gether』(2022) ＜BL:ボーイズラブ＞
③『ナンナーク』(2001) ＜人と幽霊との情愛＞
④『プアン』(2023) ＜国際移動・友情・恋愛＞

〔到達目標〕

・現代タイ社会を、表層的にではなく深い次元で理解する。
・映像作品のなかで表象された様々な事柄を文脈を踏まえて正確に捕捉する。
・文化人類学的な文化表象理解の方法を学ぶ。
・視聴した映像に関するリアクションペーパーの執筆とその講評を通じて、抽象的なイメージを具体的なレトリックに落とし込む方法を学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	グローバル化のなかのタイ	指定文献の事前講読	45 分
第２回	メディア表象と現代タイ社会	指定文献の事前講読	45 分
第３回	映像視聴①：ネオリベラル化のなかのタイ（事前解説＋映像）	指定文献の事前講読	45 分
第４回	映像視聴①：ネオリベラル化のなかのタイ（映像＋事後解説）	視聴映像の整理	30 分
第５回	リアクションペーパー①の講評＋文献解題	リアクションペーパーの執筆	60 分
第６回	映像視聴②：タイにおけるジェンダー観（事前解説＋映像）	指定文献の事前講読	45 分
第７回	映像視聴②：タイにおけるジェンダー観（映像＋事後解説）	視聴映像の整理	30 分
第８回	リアクションペーパー②の講評＋文献解題	リアクションペーパーの執筆	60 分
第９回	映像視聴③：タイにおける霊魂観（事前解説＋映像）	指定文献の事前講読	45 分
第１０回	.映像視聴③：タイにおける霊魂観（映像＋事後解説）	視聴映像の整理	30 分
第１１回	リアクションペーパー③の講評＋文献解題	リアクションペーパーの執筆	60 分
第１２回	映像視聴④：タイ人の国際移動・友情・恋愛観	指定文献の事前講読	45 分
第１３回	映像視聴④：タイ人の国際移動・友情・恋愛観	視聴映像の整理	30 分
第１４回	リアクションペーパー④の講評／再論・グローバル化のなかのタイ	リアクションペーパーの整理	60 分

〔授業の方法〕

座学的な講義と映像視聴を組み合わせたかたちで授業を進める。最初の 2 回で導入的講義を行ったのち、3 回目以降は映像視聴（4 つの作品の視聴を予定）を行う。映像視聴に先立って関連する文献を受講者が事前学習として講読した後、事前解説を踏まえて映像を視聴し、その後受講者が当該作品に関するリアクションペーパーを執筆する。一つの作品を見終わった後には、優秀なリアクションペーパーの内容を匿名で受講者と共有し、その講評を講義中に行う。

〔成績評価の方法〕
授業への参加状況およびリアクションペーパーの提出状況：40%
学期末レポート：60%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文化人類学入門Ⅰおよび文化人類学入門Ⅱを事前に履修していることが望ましいが、必須ではない。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
石井米雄『タイ仏教入門』（めこん）、1991 年
綾部真雄『タイを知るための 72 章』（明石書店）、2014 年
津村文彦『東北タイにおける精霊と呪術師の人類学』（めこん）、2015 年
信田敏宏・綾部真雄他編『東南アジア文化事典』（丸善書店）、2019 年
『ユリイカ』54 巻 4 号（特集：アピチャッポン・ウィーラセタクン）、2022 年
『年報タイ研究』23 号（特集：「タイ BL」を検証する）、2023 年

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代人類学						
教員名	細谷　広美						
科目№	125332170	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本授業は、先住民をテーマとします。
世界には約５億人の先住民が暮らしています。他方で、2007 年に「先住民族の権利に関する宣言」をした国際連合では、先住民について明確な定義をしていません。先住民とはどのような人々なのでしょうか？
カナダやオーストリアでは、同化政策に基づく先住民の子供たちの寄宿学校で起こったことに対して、正式な謝罪がおこなわれました。日本でも、2019 年にアイヌ新法が成立し、アイヌの人びとが日本の先住民族であることが明記されました。先住民の人びとは脱植民地化、開発、新自由主義、気候変動、生物多様性など、グローバルな課題との関係においても声をあげています。また、先住民言語による映画やヒップ・ホップ音楽も生まれています。授業では具体的なイメージを持ち理解を深めるために映画をみながら学んでいきます。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２(教養の修得)、ＤＰ３（課題の発見と解決）を達成するために、以下を到達目標とする。
①先住民とはどのような人々かということについて理解を深める。
②グローバル・イシューと先住民の関係について理解を深める。
③多様な文化、多様な価値観の存在に気づき、文化人類学の思考法を獲得する。
④世界を別の角度からみる柔軟な発想をもつ。
⑤文献を読む力、情報を収集し分析する力、論理的思考を鍛える。
⑥メディアリテラシーを鍛える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入部 国際連合と先住民、先住民の定義	授業内容を復習する	60 分
第２回	先住民を扱った映画 映画の背景の説明	映画の背景について調べる	60 分
第３回	先住民を扱った映画 映画をもとにグループディスカッション	映画の背景について調べる リアクションペーパーの作成	60 分
第４回	先住民とは誰か？ 先住民と植民地主義、セトラーコロニアリズム	授業内容を復習する	60 分
第５回	先住民を扱った映画 映画の背景の説明	映画の背景について調べる	60 分
第６回	先住民を扱った映画 映画をもとにグループディスカッション	映画の背景について調べる リアクションペーパーの作成	60 分
第７回	紛争と先住民	授業内容を復習する	60 分
第８回	先住民を扱った映画	映画の背景について調べる	60 分
第９回	先住民を扱った映画 映画をもとにグループディスカッション	映画の背景について調べる リアクションペーパーの作成	60 分
第１０回	先住民と気候変動、開発	授業内容を復習する	60 分
第１１回	先住民を扱った映画 映画の解説 映画をもとにグループディスカッション	映画の背景について調べる リアクションペーパーの作成	60 分
第１２回	グローバル化と先住民	授業内容を復習する。	60 分
第１３回	グループ発表とディスカッション	グループ発表の準備をする	90 分
第１４回	グループ発表とディスカッション	グループ発表の準備をする	90 分

〔授業の方法〕
授業は講義と映画、グループディスカッションによって進めていきます。授業で扱う各映画の上映時間等でシラバス内容が変動します。授業の最後の２～３回は、グループごとにテーマを決めて先住民について調べ考察しグループ発表をおこないます。担当教員がペルー映画祭にかかわってきていることから、あまりみる機会がないペルー映画も扱います。

〔成績評価の方法〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
授業の参加（ディスカッションへの参加、グループ発表、リアクションペーパー）30%
最終課題レポート 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
文化人類学の基本的考え方、方法論を身に着けた。
自ら課題を発見し、探求する基礎力をつけた。
先住民に関する知識と理解を深めた。
メディアリテラシーが高まった。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文化人類学の入門書等を読んで基礎知識をつけておいて下さい。
「文化人類学入門Ⅰ」「文化人類学入門Ⅱ」をはじめとする、文化人類学関係の講義科目、演習科目をできるだけ多く履修して基礎力をつけておいて下さい。
語学力があると得られる知識の幅やできることが広がります。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『人類文化の現在:人類学研究』 内堀 基光・山本真鳥編 （放送大学大学院教材)放送大学教育振興会 2016 年
『文化人類学の思考法』松村圭一、中川理、石井美保編 世界思想社 2019 年
『人類学のコモンセンス 文化人類学入門』浜本満他 学術図書出版社 1994 年
『はじめて学ぶ文化人類学:人物・古典・名著からの誘い』岸上伸啓編 ミネルヴァ書房 2018 年
『先住民からみる現代世界: わたしたちの〈あたりまえ〉に挑む』深山直子他編 昭和堂 2018 年
『リターンズ――二十一世紀に先住民になること』ジェイズム・クリフォード みすず書房 2020 年
『ゴールデンカムイ』集英社
その他、授業のなかで適宜紹介していきます

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業中、もしくは授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
情報リテラシー教育科目
ＩＣＴ教育科目

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	歴史学入門						
教員名	松浦　義弘						
科目№	125333000	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】歴史学とはどういう学問かを具体的な歴史叙述を通して考える。
【概要】歴史学とは何か、という問いに対する回答は、これまでもさまざまなかたちでなされてきた。この授業では、「歴史学とは何か」を抽象的に論じるのではなく、明治以後の日本における歴史叙述を具体的にたどりながら、歴史の意味について考えてゆくつもりである。

〔到達目標〕
ＤＰ1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の２点を目標とする。
①歴史学とはどういう学問であるのかを、そのキーワードを含めて理解する。
②日本の歴史学の歴史をより広い文脈のなかで理解することを通して歴史学という学問の意味を考える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	シラバスを読んでおく。	60
第２回	歴史学とは何か	前回の添付資料の復習	60
第３回	日本における近代歴史学の誕生とその特徴	前回の添付資料の復習	60
第４回	近代天皇制の形成と日本の歴史学	前回の添付資料の復習	60
第５回	皇国史観とマルクス主義歴史学	前回の添付資料の復習	60
第６回	マルクス主義歴史学の展開：「日本資本主義論争」と「日本歴史教程」	前回の添付資料の復習	60
第７回	「アジア的生産様式」論争と 15 年戦争	前回の添付資料の復習	60
第８回	「戦後歴史学」と「世界史の基本総則」の時代	前回の添付資料の復習	60
第９回	運動としての「戦後歴史学」：「国民的歴史学運動」とその後	前回の添付資料の復習	60
第１０回	「戦後歴史学」の歴史叙述：日本古代史と史的唯物論	前回の添付資料の復習	60
第１１回	「戦後歴史学」の歴史叙述とその衰退：『昭和史』論争をめぐって	前回の添付資料の復習	60
第１２回	「戦後歴史学」とその衰退（1）：アジアをめぐる問い	前回の添付資料の復習	60
第１３回	「戦後歴史学」との衰退（2）：西欧近代をめぐる問い	これまでの添付資料の復習	120
第１４回	「戦後歴史学」以後の歴史学	これまでの添付資料の復習	60

〔授業の方法〕
授業は、基本的に講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕
授業への参加情況（30%）、課題レポートあるいは期末試験（70%）を中心に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
E・H・カー『歴史とは何か』岩波新書
喜安朗ほか『立ちすくむ歴史』せりか書房
リン・ハント『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店
遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会
これ以外の参考書については、授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。なお、オンライン授業に関する情報は、コースパワーに掲載する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文化研究Ａ
教員名	松浦　義弘

科目№	125333010	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】ヨーロッパ近代の形成をヨーロッパの人々のふるまいと感性から考える
【概要】ヨーロッパ近代は､日本人にとって長い間模範とすべきモデルとされてきた。しかしヨーロッパの近代も近代人も、長期にわたる歴史過程のなかで特定の行動様式や精神構造が形成された結果だった。この講義では、ヨーロッパ近代やヨーロッパの近代人が同型制されてきたのかを、そのふるまいや感性の変化に焦点を当てて概観する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を目標とする。
①中世から近代にかけてのヨーロッパ（とくにフランス）の歴史について知見を深める。
②人間と人間生活における変化、社会の変化から歴史を考える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	シラバスを読んでおく。	60
第２回	15 世紀までのヨーロッパ社会（1）：騎士の生活様式と感性	前回の添付資料の復習	60
第３回	15 世紀までのヨーロッパ社会（2）：農民の生活様式と感性 1	前回の添付資料の復習	60
第４回	15 世紀までのヨーロッパ社会（3）：農民の生活様式と感性 2	前回の添付資料の復習	60
第５回	宮廷社会の出現と絶対主義（1）：行動様式と感性の変化	前回の添付資料の復習	60
第６回	宮廷社会の出現と絶対主義（2）：宮廷人の形成	前回の添付資料の復習	60
第７回	宮廷社会の出現と絶対主義（3）：王権のプロパガンダ	前回の添付資料の復習	60
第８回	宮廷社会の出現と絶対主義（4）：裁判と社会的統制	前回の添付資料の復習	60
第９回	宮廷社会の出現と絶対主義（5）：都市社会の変化	前回の添付資料の復習	60
第１０回	宮廷社会と礼儀作法書	これまでの添付資料の復習	60
第１１回	18 世紀後半における行動様式と感性の変化	前回の添付資料の復習	60
第１２回	フランス革命と人々の行動と感性	前回の添付資料の復習	60
第１３回	フランス革命以後の人々の行動と感性	これまでの添付資料の復習	120
第１４回	全体のまとめ	これまでの添付資料の復習	60

〔授業の方法〕
授業は、講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を大きく変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕
授業への参加状況（３０%）、レポートないしは試験（70%））などを中心に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
N. エリアス『文明化の過程』上下、法政大学出版会、１９７７年
N. エリアス『宮廷社会』法政大学出版会、１９８１年
J. ヴィガレロ『清潔になる＜私＞』同文館、１９９４年
J. デュビィ／R. マンドルー『フランス文化史 I～III』人文書院、１９６９年
J. L. フランドラン『農民の愛と性』白水社、１９８９年
福井憲彦『時間と習俗の社会史』新曜社、１９８６年
F. ルブラン『アンシャン・レジーム期の結婚生活』慶応大学出版会、２００１年
R. ミュシャンブレッド『近代人の誕生』筑摩書房、１９９２年
クルタン『クルタンの礼儀作法書』作品社、2017 年
これ以外の参考書については、授業開始後に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文化研究Ｂ						
教員名	寺本　敬子						
科目№	125333020	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この授業は「グローバル・ヒストリーとしてのジャポニスム」をテーマとします。19 世紀後半のヨーロッパにおいて日本の文化や芸術が注目されることで誕生した「ジャポニスム Japonisme」という現象に焦点を当て、この時代に日本とヨーロッパやアメリカの諸国の間でいかなる交流が広がったのか、各国の政治・経済・文化・社会等、その背景を見ながら多角的に検討します。さらに「Japan Expo」等、21 世紀型の「文化」の伝播・交流のあり方と 19 世紀のそれとを比較することで、「文化」の越境の仕方を複眼的に捉える分析力を養うことを目標とします。

〔到達目標〕
本学の Diploma Policy に基づき、DP1（専門分野の知識・技能）の「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・ 文化を多角的に理解する」ことを実現するために、本授業のテーマに基づき下記の点を到達目標とします。
19 世紀後半のヨーロッパでは、開国した日本の情報や物品が、とりわけ万国博覧会への日本参加を通じて広く伝わり、政治・外交上のみならず文化的にも国際的に認知されるようになります。各国に広がった「ジャポニスム」および交流関係について多角的に検討し、新たな文化現象が形成されるときにどのような文脈があるのか、あるいはそこにどのような摩擦があるのか、これらの問いを明らかすること、そしてこうした問いについての社会史的なアプローチ（外交史・経済史・文化史を含む）の意義を理解することが本講義の目標です。
到達目標は、(1)19 世紀後半にヨーロッパやアメリカで「ジャポニスム」が誕生した歴史的背景を、政治・経済・文化・社会等から多角的に理解し、 (2)異文化コミュニケーションのあり方について、歴史的な沿革・諸問題を理解することです。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：ジャポニスムとは何か。	【予習】シラバスを読む。 【復習】 授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第２回	ジャポニスムの前史(1)日本の情報、18 世紀のシノワズリとジャポネズリ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第３回	ジャポニスムの前史(2)万国博覧会：科学技術、消費社会、異文化の発見	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第４回	フランス(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第５回	フランス(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第６回	フランス(3)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第７回	到達度確認テスト（第１回）	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第８回	到達度確認テストへの講評、イギリス(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第９回	イギリス(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１０回	アメリカ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１１回	オーストリア、ドイツ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１２回	その他の諸国	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１３回	到達度確認テスト(第２回)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１４回	到達度確認テストへの講評、ジャポニスムの現在	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60

〔授業の方法〕

基本的に講義方式で行い、パワーポイント等で図版・写真・映像資料を用います。課題のテキストは適宜、印刷あるいはポータル・Web Class 上で配布します。この授業では、(1)コメントシート（複数回）と、(2)到達度確認テスト（計２回）を課します。

〔成績評価の方法〕
成績評価は、(1)コメントシート（30%）と(2)到達度確認テスト（計２回：70%）の合計による総合評価となります。
・(1)コメントシートでは、授業内容について関心を持った点や疑問に思った点を中心にコメントを求めます。提出されたコメントシートの内容は、授業への取り組みの度合いを判定する材料とします。またコメントシートに対して教員から授業時にフィードバックします。
・(2)到達度確認テスト（計２回）では、 ①講義内容を正確に理解していること、 ②参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ているこ

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
本授業では、以下の項目を重視して評価を行います。 (1)講義内容を正確に理解していること、 (2)参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、(3)自己の見解を具体的・論理的に展開していること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、高校で学んだ世界史の知識に加え、ヨーロッパ近代史の概説書を読んでおくことを推奨します。なお、毎回の授業の中で参考文献を紹介しますので、適宜参照し、授業内容の理解を深めるように心がけて下さい。本授業は、国際文化学科の「地域文化・歴史」および「国際関係研究」の領域、他学科における広い意味での歴史(社会史・文化史・政治史・経済史等)に関わる科目と関連します。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
参考文献は、毎回の授業のなかで紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化A						
教員名	日尾野　裕一						
科目№	125333030	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、海とイギリスとの関係に焦点を当て、近世から近代にかけてのヨーロッパ勢力の拡大とその影響について経済、社会、科学、文化などの多様な面から検討します。また、比較史の観点からフランスやオランダ、スペインなどの他のヨーロッパ諸国についても補助的に言及します。
海を媒介としたイギリスの活動は貿易、人の移動、資源の調査と確保、科学技術の振興と進展、異文化との衝突や受容といった多くの事象と関わることになりました。それらは近代という世界が形成される上で不可欠な要素となるとともに、現代の世界にも大きな影響を及ぼし続けています。本授業では様々なテーマから海とイギリスとの関係を検討することで、近代世界とグローバル化について再考することを目指します。

〔到達目標〕
本学の Diploma Policy に基づき、特に DP1-2「日本を含む世界における歴史的事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、異文化理解の実践に関する基本的な知識・技能を身に付け、個人の関心テーマに応じた形でさらに専門的に修得している」ことと DP1―3「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・文化を多角的に理解することができる」能力の獲得を目指すために、本授業の範囲に基づき以下の 3 点を主要な到達目標とします。
・近世・近代のイギリス帝国の歴史を海という視点から検討することによって、海域史についての基本的な知識を得ること。
・国家や帝国の拡大は現代に至るまでの社会、経済、文化、科学といった広範な領域に影響を与えたことを理解すること。
・イギリスと他の国や地域との状況を合わせて学び、検討することで、比較史やグローバルヒストリーの視点を獲得すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：海洋帝国としてのイギリス	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】授業内容を整理する。	60
第２回	茶から見るイギリスと海	【予習・復習】前回の授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第３回	イギリスと奴隷貿易	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第４回	奴隷貿易・奴隷制廃止運動とイギリス帝国	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第５回	東インド会社とアジアでの活動	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第６回	世界周航	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第７回	海に出る人々：船乗りと水兵	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第８回	海賊とイギリス帝国	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第９回	科学と海軍	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１０回	ヨーロッパ水域での経済活動	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１１回	海洋帝国と植物園	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１２回	毛皮貿易とイギリス帝国	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１３回	漁業とイギリス帝国	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１４回	ジェンダーの視点から見た海洋国家イギリス	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で実施します。スライド等で授業を進める上での資料を提示するとともに、適宜学生に講義資料を配布します。
この授業では毎回のコメントシートの提出と学期末レポートを課します。

〔成績評価の方法〕
学期末レポート（70%）とコメントシート（30%）で評価を行います。
・学期末レポートでは、①授業を通じて受講生自身の問題関心が形成できているか、②問題関心をもとに受講生が各々の課題に対して主体的にリサーチし、その成果を論理的にレポート内で表現できているか、③文献を適切に収集し、収集した文献を利用できているか、この 3 点を重視し評価します。具体的な課題内

容は授業中及び CoursePower にてアナウンスします。
・コメントシートでは、質問・コメント等の自由記述を毎回書いてもらいます。回に

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、近世・近代の世界史を挙げます。ただし、高校までの知識ではカバーできない内容も多く含みますので、図書館にある近世・近代史の概説書を読むことや、他の「ヨーロッパの歴史と文化」の授業など関連する授業の履修することもお勧めします。また、授業が取り扱う空間はヨーロッパに限定されませんので、南北アメリカ大陸、アジア、アフリカ、オセアニアなどの歴史と文化にも関心を持っていると良いです。

〔テキスト〕
特に指定しません。

〔参考書〕
金澤周作編『海のイギリス史』昭和堂、2013 年。「購入の必要はありません」
他にも授業中に適宜紹介します。また、コメントシート等で質問があった場合にも対応します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化B						
教員名	日尾野　裕一						
科目№	125333040	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、近代以降のイギリス帝国について多様な地域における帝国統治や経済的進出、帝国としての関わりに焦点を当て、その影響を政治、経済、社会、文化、人の移動、国際関係などの多様な面から検討します。
イギリスが帝国として拡大していく 19 世紀、その帝国が最大版図となるとともに解体していく 20 世紀。この二つの世紀におけるイギリス帝国の実態を検討することを通じて、イギリスによる帝国支配の多様性と重層性、そして現代社会にまで至るその影響の大きさについて理解を深めることを目指します。

〔到達目標〕
本学の Diploma Policy に基づき、特に DP1-2「日本を含む世界における歴史的事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、異文化理解の実践に関する基本的な知識・技能を身に付け、個人の関心テーマに応じた形でさらに専門的に修得している」ことと DP1―3「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・文化を多角的に理解することができる」能力の獲得を目指すために、本授業の範囲に基づき以下の 3 点を主要な到達目標とします。
・近現代のイギリス帝国の歴史について多様な地域との関わりという観点からその基本的な知識を得ること。
・帝国の拡大とその解体は現代に至るまでの政治、社会、経済、文化、人の移動、国際関係といった広範な領域に影響を与えたことを理解すること。
・イギリス帝国と各地域の関係に焦点を当てる中で、世界史的な視座から歴史を理解する知見を獲得すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：イギリス帝国とは何か	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】授業内容を整理する。	60
第２回	イギリス大西洋帝国とアメリカ先住民	【予習・復習】前回の授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第３回	イギリスとカナダ (1)	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第４回	イギリスとカナダ (2)	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第５回	イギリスとインド	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第６回	イギリスと南アジア	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第７回	イギリスとオーストラリア	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第８回	イギリスと南アフリカ	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第９回	イギリスと西アフリカ	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１０回	イギリスと東・東南アジア	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１１回	イギリスと南米	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１２回	イギリス帝国とユダヤ人	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１３回	イギリス帝国と移民	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１４回	コモンウェルス	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で実施します。スライド等で授業を進める上での資料を提示するとともに、適宜学生に講義資料を配布します。
この授業では毎回のコメントシートの提出と学期末レポートを課します。

〔成績評価の方法〕
学期末レポート（70%）とコメントシート（30%）で評価を行います。
・学期末レポートでは、①授業を通じて受講生自身の問題関心が形成できているか、②問題関心をもとに受講生が各々の課題に対して主体的にリサーチし、その成果を論理的にレポート内で表現できているか、③文献を適切に収集し、収集した文献を利用できているか、この 3 点を重視し評価します。具体的な課題内容は授業中及び CoursePower にてアナウンスします。

・コメントシートでは、質問・コメント等の自由記述を毎回書いてもらいます。回に

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、近現代の世界史を挙げます。ただし、高校までの知識ではカバーできない内容も多く含みますので、図書館にある近現代史の概説書を読むことや、他の「ヨーロッパの歴史と文化」の授業など関連する授業の履修することもお勧めします。また、授業が取り扱う空間はヨーロッパに限定されませんので、南北アメリカ大陸、アジア、アフリカ、オセアニアなどの歴史と文化にも関心を持っていると良いです。

〔テキスト〕
特に指定しません。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。また、コメントシート等で質問があった場合にも対応します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化 C						
教員名	寺本　敬子						
科目№	125333050	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
・近現代の万博の展開とベル・エポック
2025 年 4 月から 10 月まで大阪・関西万博が開催されますが、万博はどのように誕生し、現在に至るまで展開してきたのでしょうか。この授業では、19 世紀にヨーロッパで誕生した「万国博覧会」の歴史に焦点を当て、近代におけるヨーロッパの歴史と文化の特質を政治、経済、文化、社会の側面から多角的に検討します。万博は、1851 年にイギリスの首都ロンドンで初めて開催されました。当初は、イギリス（ロンドン）とフランス（パリ）において交互に開催されましたが、特に 1870 年代から他のヨーロッパ諸国や北アメリカの都市に広がっていきます。こうした地域的な広がりに加え、万博の性格もまた時代とともに変化を遂げてきました。当初は、1851 年ロンドン万博の正式名称が「すべての国々の産業製品の大博覧会」であったように、最先端の技術および製品の展示が中心でしたが、次第に植民地の展示が拡大するなど、帝国主義的性格が強まり、国威発揚の場となっていく面があります。近年の万博は、自然や食など環境問題がテーマに挙げられるなど、人類の共通課題に向けた取り組みがなされ、継続的に開催されています。本授業は、19 世紀に開催された主要な万博を時系列に沿って検討し、近代におけるヨーロッパの社会と文化の特質および変容を明らかにすることを目指します。また万博で中心的な役割を果たしてきたフランスが「ベル・エポック」としていかなる文化を創造してきたのか、近現代の展開も分析します。

〔到達目標〕
本学の Diploma Policy に基づき、主に DP1（専門分野の知識・技能）の「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・ 文化を多角的に理解する」ことを実現するために、本授業のテーマに基づき下記の点を到達目標とします。
(1)近現代において万博が果たした役割を理解すること、 (2)万博というひとつの事象から、近現代のヨーロッパの特質および変容を明らかにする多角的アプローチ（政治、経済、文化、社会など）を身につけること、以上の 2 点を主な目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：万国博覧会とは何か。	【予習】シラバスを読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第２回	1851 年ロンドン万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第３回	1855 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第４回	1862 年ロンドン万博、1867 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第５回	1873 年ウィーン万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第６回	1876 年フィラデルフィア万博、1893 年シカゴ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第７回	到達度確認テスト（第１回）	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第８回	到達度確認テストへの講評、1878 年パリ万博・1889 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第９回	1897 年ブリュッセル万博、その他の万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１０回	1900 年パリ万博、1928 年国際博覧会条約の締結	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１１回	ベル・エポック(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１２回	ベル・エポック(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１３回	到達度確認テスト（第２回）	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１４回	到達度確認テストへの講評、万博の現在	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義方式で行い、パワーポイント等で図版・写真・映像資料を用います。課題のテキストは適宜、印刷あるいはポータル・Web Class 上で配布します。この授業では、(1)コメントシート（複数回）と、(2)到達度確認テスト（計２回）を課します。

〔成績評価の方法〕
成績評価は、(1)コメントシート（30%）と(2)到達度確認テスト（計２回：70%）の合計による総合評価となります。
・(1)コメントシートでは、授業内容について関心を持った点や疑問に思った点を中心にコメントを求めます。提出されたコメントシートの内容は、授業への取り組みの度合いを判定する材料とします。またコメントシートに対して教員から授業時にフィードバックします。
・(2)到達度確認テスト（計２回）では、①講義内容を正確に理解していること、②参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
本授業では、以下の項目を重視して評価を行います。 (1)講義内容を正確に理解していること、(2)参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、(3)自己の見解を具体的・論理的に展開していること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、高校で学んだ世界史の知識に加え、ヨーロッパ近代史の概説書を読んでおくことを推奨します。なお、毎回の授業の中で参考文献を紹介しますので、適宜参照し、授業内容の理解を深めるように心がけて下さい。本授業は、国際文化学科の「地域文化・歴史」および「国際関係研究」の領域、他学科における広い意味での歴史(社会史・文化史・政治史・経済史等)に関わる科目と関連します。具体的な関連科目としては、アメリカの歴史と文化、アジア・アフリカの歴史と文化、日本の歴史と文化などが挙げられます。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
参考文献は、毎回の授業のなかで紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化D						
教員名	松浦　義弘						
科目№	125333060	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】アンシャン=レジームからフランス革命、そしてナポレオン帝政への政治の変遷を世論から考える。
【概要】フランスは、ブルボン朝の絶対王政から立憲君主政、共和政、そしてナポレオン帝政へと、わずか数十年のあいだにめまぐるしい政体の変化を経験した。この講義では、この政体の変化を象徴する著名人（ルイ 14 世、ルイ 16 世、マリ＝アントワネット、ロベスピエール、ナポレオンなど）の言動とその社会的受容、とくに世論に焦点を当てて、アンシャン・レジームからフランス革命、さらにナポレオン期にかけてのフランスの歴史を概観する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 3 点を目標とする。
①アンシャン=レジームとフランス革命、そしてナポレオン期についての知見を深める。
②より大きな歴史的文脈のなかでフランス革命を理解する。
③ルイ 14 世、ルイ 16 世、マリ＝アントワネット、ロベスピエール、ナポレオンなど、著名な歴史的人物の言動とその社会的評価＝世論を通して、アンシャン・レジームからナポレオン期にかけての時代を概観する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	シラバスを読んでおく。	60
第２回	大西洋世界における世論の誕生	前回の添付資料の復習	60
第３回	ルイ 14 世の絶対王政とその後の世論の変化	前回の添付資料の復習	60
第４回	革命前のルイ 16 世･マリ＝アントワネットと世論（1）	前回の添付資料の復習	60
第５回	革命前のルイ 16 世･マリ＝アントワネットと世論（2）	前回の添付資料の復習	60
第６回	フランス革命におけるルイ 16 世と世論（1）：転換点としてのヴァレンヌ逃亡	前回の添付資料の復習	60
第７回	フランス革命におけるルイ 16 世と世論（2）：ヴァレンヌ逃亡の帰結	前回の添付資料の復習	60
第８回	革命家ロベスピエールの誕生	前回の添付資料の復習	60
第９回	権力掌握に向けて闘うロベスピエール	前回の添付資料の復習	60
第１０回	弁論家ロベスピエールと世論	これまでの添付資料の復習	60
第１１回	権力の座についたロベスピエールと恐怖政治	前回の添付資料の復習	60
第１２回	ナポレオンの登場と世論	前回の添付資料の復習	60
第１３回	ナポレオン帝政と世論	これまでの添付資料の復習	120
第１４回	全体のまとめ	これまでの添付資料の復習	60

〔授業の方法〕
授業は、講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を大きく変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕
授業への参加状況（３０%）、レポートないしは試験（70%））などを中心に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
柴田三千雄『フランス革命』岩波現代文庫
山崎耕一『フランス革命』刀水書房
上垣豊『ナポレオン：英雄か独裁者か』山川出版社
松浦義弘『フランス革命の社会史』山川出版社
松浦義弘『ロベスピエール：世論を支配した革命家』山川出版社
ピーター･マクフィー『ロベスピエール』白水社
ティモシー･タケット『王の逃亡：フランス革命を変えた夏』白水社
アントワーヌ・リルティ『セレブの誕生』名古屋大学出版会
これ以外の参考書については、授業開始後に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカの歴史と文化A						
教員名	中野　由美子						
科目№	125333070	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
アメリカ合衆国は、日常生活から国家間の外交に至るあらゆるレベルにおいて、日本で生活する私たちにとって身近な存在であるように思われる。けれども、日本の大学生がアメリカ合衆国に対して抱くイメージは、一般的に、ニュースや映画などから断片的に得た知識や情報に基づいていることが多いのではないだろうか。
本講義では、主に 20 世紀半ば以降のアメリカ合衆国の社会史・文化史に関する基本的なテーマについて探求することを課題とする。具体的には、戦争と大衆、経済的繁栄と大衆消費社会の出現と変容、娯楽産業の興隆と変容などのテーマについて、アメリカ国内における人種・エスニシティ問題に即して検討する。さらに、現在の日本に生きる私たちにとって身近で切実な諸問題と照らし合わせながら、アメリカ合衆国の歴史と現状への理解を深める。

〔到達目標〕
DP1-1、DP1-3 を達成するために、以下の３点を到達目標とする。
①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得する。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解し、説明できる。
③社会の諸問題を理解するために必要な一次史料・二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	アメリカ合衆国の歴史と文化　―社会史的アプローチ ・講義の内容、進め方、課題等を説明する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	６０
第２回	戦争とマイノリティ ・マイノリティの戦争体験について史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第３回	第二次世界大戦とマイノリティ（その１） ・主にアフリカ系アメリカ人の戦争体験について史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第４回	第二次世界大戦とマイノリティ（その２） ・主に先住民の戦争体験について史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第５回	第二次世界大戦とマイノリティ（その３） ・主に日系アメリカ人の戦争体験についてドキュメンタリー映像の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第６回	戦争とマイノリティ　小括 ・講義の後半では、前回までの講義内容に関する中間テストを実施する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第７回	大衆消費社会の発展 ・戦間期の娯楽産業の発展について、音楽と「人種」の観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第８回	大衆消費社会の変容 ・戦間期の娯楽産業の発展について、音楽と「人種」の観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第９回	20 世紀の「人種」問題（その１） ・人種の隔離から統合への動きについて、チームスポーツの観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１０回	20 世紀の「人種」問題（その２） ・人種の隔離から統合への動きについて、娯楽産業の観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１１回	20 世紀の「人種」問題（その３） ・公民権運動の拡大について、複数の映像史料を比較しながら検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１３回	テストのレヴューとディスカッション ・グループワークあるいはペアワークによるレヴューを行う。 ・リアクションペーパーの作成・提出を行う。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１４回	全体のまとめ 配布資料に基づき、講義全体の論点を整理する。	配布資料をよく読んでおくこと。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行う。ほぼ毎回、コースパワーを使ってリアクションペーパーの提出を求める。他の受講生の迷惑になるので、遅刻は厳禁。また、レジュメや史資料の配布の際には、主にコースパワーを使用するので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスして確認をすること。（紙媒体でのみ配布可能な資料等については、後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。）また、中間テスト・到達度確認テストは、コースパワーで解答を提出する形で実施するため、ノート PC・タブレット等を必ず持参すること。

〔成績評価の方法〕

授業中に出す課題（授業時間内に提出していただくリアクションペーパーなど）＝平常点（55%程度）、中間テスト（15%程度）、到達度確認テスト（30%程度）による総合評価。なお、第 13 回、第 14 回のリアクションペーパーについては、総括を兼ねた課題であるため、１０%を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①20 世紀のアメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目は、後期の「アメリカの歴史と文化 B」のほか、ヨーロッパ、日本、アジアの歴史、現状、国際関係に関する講義・セミナーなど。世界各国・各地域の歴史・文化への関心と理解を深めると同時に、自国の歴史・文化と比較する視点や現代社会の諸制度・価値観を相対化する視点を身につけ、「暗記」ではなく「思考」のトレーニングを繰り返すことが肝要である。

〔テキスト〕
有賀夏紀『アメリカの 20 世紀（下）1945 年～2000 年』中公新書、2002 年。
ISBN: 4-12-101665-3
※(下)（＝下巻）を使用する。購入の際は注意すること。
※※本講義では、主に第 6 章・第 7 章を使用する。

〔参考書〕
アメリカ学会訳編『原典アメリカ史−社会史史料集』岩波書店、2006 年。
有賀夏紀、油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣アルマ、2003 年。
網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014 年。
西田慎、梅崎透編『グローバル・ヒストリーとしての「1968 年」』ミネルヴァ書房、2015 年。
その他、講義中に適宜紹介する。（上記の参考書は、購入の必要はありません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカの歴史と文化Ｂ						
教員名	中野　由美子						
科目№	125333080	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕

アメリカ合衆国は、日常生活から国家間の外交に至るあらゆるレベルにおいて、日本で生活する私たちにとって身近な存在であるように思われる。けれども、日本の大学生がアメリカ合衆国に対して抱くイメージは、一般的に、ニュースや映画などから断片的に得た知識や情報に基づいていることが多いのではないだろうか。

本講義では、主に 1960 年代以降のアメリカ合衆国の社会史・文化史に関する基本的なテーマについて探求することを課題とする。具体的には、公民権運動の歴史的意義について、ブラック・パワー運動や女性を含む他のマイノリティによる社会運動との比較、BLM 運動に至る人種問題の性質の変容、ベトナム戦争と人種・エスニシティ・ジェンダー観の変容などのテーマについて、アメリカ国内外における人種・エスニシティの問題に加えて、ジェンダーとのインターセクショナリティにも関心を広げて検討する。最終的には、21 世紀の日本に生きる私たちにとっても身近で切実な諸問題と関連づけながら、アメリカ合衆国の歴史と現状への理解を深める。

〔到達目標〕

DP1-1、DP1-3 を達成するために、以下の３点を到達目標とする。
①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得する。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解し、説明できる。
③社会の諸問題を理解するために必要な一次史料・二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	アメリカ合衆国の歴史と文化　―社会史的アプローチ 講義の内容、進め方、課題等を説明する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	６０
第２回	公民権運動の波紋 公民権運動に関する復習を兼ねて一次史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第３回	公民権運動とブラックパワー運動（その１） 映像史料に基づいて比較分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第４回	公民権運動とブラックパワー運動（その２） 映像史料に基づいて比較分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第５回	公民権運動とフェミニズム運動（その１） 一次史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第６回	公民権運動とフェミニズム運動（その２） 映像史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第７回	公民権運動後の先住民（その１） 一次史料に基づき検討する。講義の後半では、前回までの講義内容に関する中間テストを実施する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第８回	公民権運動後の先住民（その２） 映像史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第９回	「人種」問題の性質の変容（その１） 一次史料と映像史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１０回	「人種」問題の性質の変容（その２） 1970 年代以降のアメリカ社会における人種・エスニシティ・ジェンダーに関する問題について検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１１回	「人種」問題の性質の変容（その３） 1980 年代以降のアメリカ社会における人種・エスニシティ・ジェンダーに関する問題について検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１３回	テストのレヴューとディスカッション ・グループワークあるいはペアワークによるレヴューを行う。 ・リアクションペーパーの作成・提出を行う。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１４回	全体のまとめ 配布資料に基づき、講義全体の論点を整理する。リアクションペーパーの作成・提出を行う。	配布資料をよく読んでおくこと。	60

〔授業の方法〕

講義形式で行う。ほぼ毎回、コースパワーを使ってリアクションペーパーの提出を求める。他の受講生の迷惑になるので、遅刻は厳禁。また、レジュメや史資料の配布の際には、主にコースパワーを使用するので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスして確認をすること。（紙媒体でのみ配布可能な資料等については、後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。）また、中間テスト・到達度確認テストは、コースパワーで解答を提出する形で実施するため、ノート PC・タブレット等を必ず持参すること。

〔成績評価の方法〕
授業中に出す課題（授業時間内に提出していただくリアクションペーパーなど）＝平常点（55%程度）、中間テスト（15%程度）、到達度確認テスト（30%程度）による総合評価。なお、第 13 回、第 14 回のリアクションペーパーについては、総括を兼ねた課題であるため、１０%を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①20 世紀のアメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目は、前期の「アメリカの歴史と文化 A」のほか、ヨーロッパ、日本、アジアの歴史、現状、国際関係に関する講義・セミナーなど。世界各国・各地域の歴史・文化への関心と理解を深めると同時に、自国の歴史・文化と比較する視点や現代社会の諸制度・価値観を相対化する視点を身につけ、「暗記」ではなく「思考」のトレーニングを繰り返すことが肝要である。

〔テキスト〕
有賀夏紀『アメリカの 20 世紀（下）1945 年～2000 年』中公新書、2002 年。
ISBN: 4-12-101665-3
※(下)（＝下巻）を使用する。購入の際は注意すること。
※※本講義では、主に第８章・第９章を使用する。

〔参考書〕
アメリカ学会訳編『原典アメリカ史−社会史史料集』岩波書店、2006 年。
有賀夏紀、油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣アルマ、2003 年。
網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014 年。
藤永康政『〈黒人自由闘争〉のアメリカ史――公民権運動とブラック・パワーの相剋』岩波書店、2024 年。
その他、講義中に適宜紹介する。（上記の参考書は、購入の必要はありません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本の歴史と文化Ａ						
教員名	有富　純也						
科目№	125333090	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】前近代における仏教文化
【概要】一般的に、日本人で信仰を持つ人は少ないと言われています。にもかかわらず、我々は七五三で神社を詣で、チャペルで結婚式をあげ、仏式のお葬式を執り行います。それはなぜでしょうか。この講義では、仏教を歴史的に取り上げることで、日本人の「無宗教」について考えてみようと思います。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】提示された参考文献をチェックする。	60
第２回	仏教伝来	【予習】インターネットなどで「蘇我氏と物部氏」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第３回	飛鳥寺の成立	【予習】インターネットなどで「飛鳥寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第４回	弥勒寺と百済大寺	【予習】インターネットなどで「百済大寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第５回	白鳳寺院の成立	【予習】インターネットなどで「白鳳寺院」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第６回	東大寺と国分寺	【予習】インターネットなどで「東大寺と国分寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第７回	授業内到達度確認試験（中間）	【予習】到達度確認試験に備える。 【復習】到達度確認試験を復習する。	60
第８回	空海と最澄	【予習】インターネットなどで「天台宗と真言宗」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第９回	末法思想と浄土思想	【予習】インターネットなどで「空也」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１０回	鎌倉新仏教と顕密体制論	【予習】インターネットなどで「鎌倉新仏教の開祖」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１１回	中世の禅宗と対外関係	【予習】インターネットなどで「五山」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１２回	戦国時代仏教論	【予習】インターネットなどで「蓮如」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１３回	キリスト教の伝来と江戸時代の宗教	【予習】インターネットなどで「ザビエル」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１４回	授業内到達度確認試験（期末）	【予習】到達度確認試験に備える。 【復習】到達度確認試験を復習する。	60

〔授業の方法〕
講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。まれに小グループにわかれてディスカッションも行います。

〔成績評価の方法〕
２回の到達度確認試験（８０％）、リアクションペーパーや短めのレポート課題など（２０％）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で日本史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。ただし、中学時代の歴史を思い出しておいてください。

〔テキスト〕
プリントを配布する。

〔参考書〕
箕輪顕量『日本仏教史』春秋社、2015
その他、初回授業で提示します。
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本の歴史と文化B						
教員名	樋口　真魚						
科目№	125333100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
幕末から第二次世界大戦後に至る日本の歴史を、政治、外交、社会、思想、文化など、できるだけ幅広い領域に触れながら、大まかに概観することを目的とする。とくにこの授業では、政治体制の変化や対外戦争が人々の生活および文化を大きく変容させた点に注目する。一見すると複雑な近現代史を、より身近なものとして理解できるように努めたい。

〔到達目標〕
DP 1 （専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・日本近現代史に関する基礎的知識を習得する。
・過去に生きた人々の生活様式や思考方法を理解することで、現代という時代を相対化して捉えることができる。
・現代の日本が抱える諸問題について、歴史的背景を踏まえて考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】授業時に紹介された文献などを確認し、授業の全体像を把握する。	60
第２回	幕末の動乱と明治維新	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第３回	自由民権運動と大日本帝国憲法	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第４回	近代的軍隊の創設	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第５回	日清戦争と「国民」の誕生	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第６回	明治期の社会と文化	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第７回	日露戦争・第一次世界大戦と大正デモクラシー	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第８回	満洲事変と軍部の台頭	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第９回	日中戦争と銃後社会	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１０回	総力戦と国民生活の変容	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１１回	大正・昭和期の社会と文化	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１２回	敗戦・占領・講和	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	60
第１４回	到達度確認テストの解説、総括と展望	【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

〔授業の方法〕
・講義形式の授業。
・初学者向けの内容とする予定である。
・CoursePower から小レポートを提出してもらうので、ノートパソコンを持参すること。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。その際、当該レポートの作成者に発言を求めることもある。
・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはしない。
※CoursePower を使用するので、各自で操作方法を習得しておくこと。
（これを使いこなせていることを前提に授業を組み立てる予定である）

〔成績評価の方法〕

小レポート 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・日本近現代史に関する基礎的知識を習得したか。
・過去に生きた人々の生活様式や思考方法を理解することで、現代という時代を相対化して捉えることができたか。
・現代の日本が抱える諸問題について、歴史的背景を踏まえ

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・太平洋の歴史と文化Ａ
教員名	樋口　真魚

科目№	125333110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
近代国家への道を歩み始めた明治期の日本は日清戦争を経て、台湾を植民地とした。こうして「帝国」となった日本は続いて朝鮮を植民地化し、さらには南洋諸島や満洲を自らの勢力圏に入れ、第二次世界大戦期にはアジア・太平洋地域の大半を占領するに至った。この地域の歴史と文化については、日本の存在を抜きにして語ることはできないだろう。したがって、この授業では、おもに 19 世紀半ばから 20 世紀後半までの時期を対象として、日本がアジア・太平洋地域の国々とどのように関わってきたのかを検討する。そのうえで、これらの地域の人々が「日本」や「日本人」に対してどのような眼差しを向けていたのかについても併せて考察したい。

〔到達目標〕
DP 1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・アジア・太平洋の歴史と文化に関する基礎的知識を習得する。
・日本とアジア太平洋地域の関わりについて、同時代の世界史の動向を踏まえつつ説明することができる。
・異文化交流の課題を多角的な視点から考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】関連する文献などを確認する。	60
第２回	近世日本とアジア・太平洋地域	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第３回	「西洋の衝撃」から明治維新へ	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第４回	日清韓関係の変容と日清・日露戦争	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第５回	韓国併合と日本の植民地政策	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第６回	辛亥革命と第一次世界大戦	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第７回	第一次世界大戦後のアジア・太平洋地域	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第８回	満洲事変と「満洲国」	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第９回	日中戦争からアジア・太平洋戦争へ	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１０回	「大東亜共栄圏」の幻影	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１１回	海を渡った日本人たち	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１２回	第二次世界大戦後のアジア・太平洋地域	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、総括と展望	【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

〔授業の方法〕
・講義形式の授業。
・初学者向けの内容とする予定である。
・CoursePower から小レポートを提出してもらうので、ノートパソコンを持参すること。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。その際、当該レポートの作成者に発言を求めることもある。
・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはしない。
※CoursePower を使用するので、各自で操作方法を習得しておくこと。
（これを使いこなせていることを前提に授業を組み立てる予定である）

〔成績評価の方法〕

小レポート 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に注目して、その達成度により評価する。
・アジア・太平洋の歴史と文化に関する基礎的知識を習得したか。
・日本とアジア太平洋地域の関わりについて、同時代の世界史の動向を踏まえつつ説明することができたか。
・異文化交流の課題を多角的な視点から考察するこ

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・太平洋の歴史と文化Ｂ
教員名	有富　純也

科目№	125333120	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】中華世界における歴史と文化
【概要】前近代の中国を中心に、その周辺諸国にも目を配りながら、さまざまな歴史・文化事象について検討していきます。外交や仏教などについてが中心となりますが、アイドル文化についても触れたいと思います。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。
・前近代の中国の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・東アジアのさまざまな文化の歴史を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】中国史における王朝の変遷を確認する。	60
第２回	中国の前近代史１－殷から周へ	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第３回	中国の前近代史２ー漢代と天命思想	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第４回	中国の前近代史３ー魏晋南北朝時代から隋唐へ	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第５回	中国の前近代史４－10 世紀の東アジア	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第６回	中国の前近代史５－明と倭寇	予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第７回	授業内到達度確認テスト（中間）とその解説	【予習】到達度確認テストに備える。 【復習】到達度確認テストを復習する。	60
第８回	K-POP と現代韓国社会／東アジアアイドル文化の行方	【予習】インターネットで韓国のアイドル文化などについて知っておく。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第９回	仏教の道１―インドから中国へ	【予習】高校世界史の教科書で仏教の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１０回	仏教の道２―敦煌文書とは？	【予習】インターネットなどでシルクロードについて調べる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１１回	仏教の道３―三蔵法師の旅	【予習】インターネットなどで三蔵法師について調べる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１２回	大航海時代とアジア・太平洋	【予習】高校世界史の教科書で大航海時代の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１３回	中国の肉食文化	【予習】インターネットなどで世界の肉食文化について調べる。 【復習】参考文献などでよく復習し、テストに備える。	60
第１４回	授業内到達度確認テスト（期末）	【予習】到達度確認テストに備える。 【復習】到達度確認テストを復習する。	60

〔授業の方法〕
講義形式です。皆さんの理解度によっては、授業内容を大幅に変更する可能性があります。また講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。

〔成績評価の方法〕
２回の到達度確認テスト（４０％×２）、リアクションペーパーや短めの課題など（２０％）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の中国の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・東アジアのさまざまな文化の歴史を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で世界史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
堀敏一『中国通史』講談社学術文庫、2000
岸本美緒『中国の歴史』ちくま学芸文庫、2015
岡本隆司・箱田恵子編『ハンドブック近代中国外交史』ミネルヴァ書房、2019
氣賀澤保規『則天武后』講談社学術文庫、2016
金成＝『K－POP』岩波新書、2018
馬場紀寿『初期仏教』岩波新書、2018
石井公成『東アジア仏教史』岩波新書、2019
藤善眞澄『隋唐時代の仏教と社会』白帝社、2004
船山徹『仏典はどう漢訳されたのか』岩波書店、2013
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・アフリカの歴史と文化A						
教員名	佐々木　紳						
科目№	125333130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】
中東前近代史概説
【概要】
この授業では、アジア・アフリカの歴史と文化、とくに中東地域（西アジア・北アフリカ）の歴史と文化について、およそ 18 世紀までの前近代史の概説をおこなう。前半は 15 世紀までの概説、後半は 16 世紀から 18 世紀までの概説である。必要に応じて、南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジアなど、中東以外の地域の歴史と文化にもふれる。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を達成すべく、以下の到達目標を設ける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに前近代の中東地域の歴史と文化に関する基礎知識を身につける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに前近代の中東地域の歴史と文化に関する最新の研究動向にふれる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・授業期間前半の紹介と導入（授業期間全体のオリエンテーションも含みます。） ・「中東」とはなにか？／どこか？	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第２回	中東古代史としての古代オリエント史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第３回	古代末期の中東とイスラーム	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第４回	中東地域史のアフロ=ユーラシア的展開	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第５回	「中世」か、「中期」か	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第６回	世界システム論のなかの中東地域史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第７回	境域世界論のなかの中東地域史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第８回	授業期間前半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の前半を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60
第９回	近世イスラーム帝国の競演（1）：ティムール朝とムガル帝国	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１０回	近世イスラーム帝国の競演（2）：オスマン帝国の興隆	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１１回	近世イスラーム帝国の競演（3）：オスマン帝国の近世	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１２回	近世イスラーム帝国の競演（4）：近世イスラーム帝国としてのサファヴィー朝	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１３回	近世から近代へ、そして現代へ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60

第１４回	授業期間後半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の後半および全体を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60

〔授業の方法〕
・講義形式で進める。
・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらう。
・授業期間の中盤と終盤に、それぞれ授業内テストをおこなう。

〔成績評価の方法〕
・授業への取り組み（40%）、授業内テスト（60%）
・リアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。
・授業内テストは、授業期間の中盤（中間テスト）と終盤（期末テスト）に課す予定である。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかどうかを成績評価の主たる基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・関連科目：「アジア・アフリカの歴史と文化 B」では、この授業の後編にあたる中東近現代史を扱う。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
・後藤明『イスラーム世界史』〈角川ソフィア文庫〉KADOKAWA、2017 年、ISBN 9784044002640
・佐藤次高『イスラーム世界の興隆』〈中公文庫〉中央公論新社、2008 年、ISBN 9784122050792
・永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』〈中公文庫〉中央公論新社、2008 年、ISBN 9784122050303
・大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年、ISBN 9784000802017

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・アフリカの歴史と文化B						
教員名	佐々木　紳						
科目№	125333140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】
中東近現代史概説
【概要】
この授業では、アジア・アフリカの歴史と文化、とくに中東地域（西アジア・北アフリカ）の歴史と文化について、およそ 18 世紀末以降の近現代史の概説をおこなう。授業期間の前半は 18 世紀末から 20 世紀初頭までの概説、後半は 20 世紀から 21 世紀初頭までの概説をおこなう。必要に応じて、南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジアなど、中東以外の地域の歴史と文化にもふれる。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を達成すべく、以下の到達目標を設ける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての基礎知識を身につける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての最新の研究動向にふれる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業期間前半の紹介と導入（授業期間全体のオリエンテーションもおこないます。）	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第２回	中東近現代史のインタラクティヴィティ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第３回	中東近代史のなかのオスマン帝国（1）：オスマン帝国の近代化	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第４回	中東近代史のなかのオスマン帝国（2）：オスマン帝国と近代世界	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第５回	中東近代史のなかのイラン（1）：グレート・ゲームと「メタ・マクロな国家」	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第６回	中東近代史のなかのイラン（2）：史料から見たガージャール朝	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第７回	中東近代史のなかのアラブ地域	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第８回	授業期間前半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の前半を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60
第９回	中東現代史の形成と展開（1）：「セーヴル体制」の出現	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１０回	中東現代史の形成と展開（2）：自存自立型の国家と社会	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１１回	中東現代史の形成と展開（3）：委任統治型の国家と社会	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１２回	中東現代史から現在へ（1）：20 世紀後半から 21 世紀初頭の中東地域史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１３回	中東現代史から現在へ（2）：歴史的視点から見るパレスチナ／イスラエル問題	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60

第１４回	授業期間後半の総括と確認（授業期間全体の総括と確認もおこないます。）	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の後半および全体を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	120

〔授業の方法〕
・講義形式で進める。
・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらう。
・授業期間の中盤と終盤に、それぞれ授業内テストをおこなう。

〔成績評価の方法〕
・授業への取り組み（40%）、授業内テスト（60%）
・リアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みを評価する材料とする。
・授業内テストは、授業期間の中盤（中間テスト）と終盤（期末テスト）に課す予定である。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかどうかを成績評価の主たる基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・関連科目：「アジア・アフリカの歴史と文化 A」では、この授業の前編にあたる中東前近代史を扱う。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
・臼杵陽『日本人のための「中東」近現代史』〈角川ソフィア文庫〉KADOKAWA、2024 年、ISBN 9784044008307
・ユージン・ローガン（白須英子訳）『アラブ 500 年史：オスマン帝国支配から「アラブ革命」まで』（上下巻）白水社、2013 年、ISBN 9784560083284
・新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001 年、ISBN 9784622033882
・吉村慎太郎『イラン現代史：従属と抵抗の 100 年』有志社、2011 年、ISBN 9784903426419
・酒井啓子『9・11 後の現代史』〈講談社現代新書〉講談社、2018 年、ISBN 9784062884594
・大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年、ISBN 9784000802017

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古典文化研究Ｂ						
教員名	有富　純也						
科目№	125333160	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】前近代における神祇信仰
【概要】一般的に、日本人で信仰を持つ人は少ないと言われています。にもかかわらず、我々は七五三で神社を詣で、チャペルで結婚式をあげ、仏式のお葬式を執り行います。それはなぜでしょうか。この講義では、神祇信仰あるいは神道を歴史的に取り上げることで、日本人の「古典文化」について考えてみようと思います。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。
・前近代の日本神道の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・日本人にとって「古典文化」とは何か、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス～古典文化とはなにか	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】提示された参考文献をチェックする。	60
第２回	日本神話の成立	【予習】インターネットなどで、日本の神さまを調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第３回	神祇信仰の成立と沖ノ島	【予習】インターネットなどで「沖ノ島」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第４回	伊勢神宮の成立	【予習】インターネットなどで「伊勢神宮」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第５回	大嘗祭とはなにか	【予習】インターネットなどで「大嘗祭」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第６回	律令国家と神社	【予習】インターネットなどで「律令国家」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第７回	授業内到達度確認テスト（中間）とその解説	【予習】到達度確認レポートに備える。 【復習】到達度確認レポートを復習する。	60
第８回	神仏習合と御霊信仰	【予習】インターネットなどで「神仏習合」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第９回	菅原道真の人生	【予習】インターネットなどで「菅原道真」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１０回	神国日本	【予習】インターネットなどで「神国思想」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１１回	一宮体制と二十二社体制	【予習】インターネットなどで「一宮」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１２回	伊勢神道と吉田神道	【予習】インターネットなどで「伊勢神道」「吉田神道」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１３回	豊臣秀吉・徳川家康の神格化	【予習】インターネットなどで「豊臣秀吉」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１４回	授業内到達度確認テスト（期末）とまとめ	【予習】到達度確認レポートに備える。 【復習】到達度確認レポートを復習する。	60

〔授業の方法〕
講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。

〔成績評価の方法〕
２回の到達度確認テスト（８０％）、簡単な課題レポート（２０％）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「古典文化」とは何か、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で日本史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。ただし、中学時代の歴史を思い出しておいてください。

〔テキスト〕
プリントを配布する。

〔参考書〕
岡田荘司ほか『日本神道史（改定増補版）』吉川弘文館、2021
その他、初回授業で提示します。
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究A						
教員名	加藤　裕人						
科目№	125333170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、主に朝鮮半島の歴史を古代から近代まで通史的に扱う。
近年、世界規模の国際化が進むなかで日韓両国の交流は飛躍的に活発化した。すでに現代の社会では、さまざまな場面において韓国・朝鮮人との対話は不可避の問題であり、彼らと円滑な関係を築くためには韓国・朝鮮の歴史に対する理解が必須の要件である。そこで受講生には、本講義で朝鮮の歴史を通史的かつ体系的に学び、国際化著しい現代の社会で活躍していくための基礎的な知識を修得してもらいたい。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①古代から近代までの韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得する。
②古代から近代までの韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別できる。
③韓国・朝鮮人と日本人との歴史に対する意識や認識の差異について理解し、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス、古朝鮮と高句麗・三韓	予習：シラバスを確認し、講義内容を把握しておく。 復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第２回	三国の鼎立	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第３回	統一新羅と渤海	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第４回	後三国時代と高麗王朝の成立	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第５回	高麗王朝の興隆	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第６回	武臣政権と事元期高麗	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第７回	高麗の滅亡と高麗の文化	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第８回	朝鮮王朝の成立と国家体制	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第９回	朝鮮前～中期の政治動向と対外危機	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１０回	朝鮮後期の政治動向	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１１回	朝鮮王朝の文化	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１２回	開港期の朝鮮と開化政策	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１３回	日清・日露戦争から韓国併合へ	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１４回	植民地期の朝鮮	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分

〔授業の方法〕
授業は基本的に講義形式で進めていく。
授業では適宜配付物を使用する。
なお、上記の予習・復習時間はあくまでも目安となる。受講者は各々の理解度に応じて適宜取り組むこと。

〔成績評価の方法〕
平常点 30%、学期末試験 70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
また、主に以下の３点を評価の基準とする。
①古代から近代までの韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得しているか。
②古代から近代までの韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別できるか。
③韓国・朝鮮人と日本人との歴史に対する意識や認識の差異について理

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『朝鮮の歴史　―先史から現代―』、田中俊明（編）、昭和堂、2500 円、ISBN：978-4-8122-0814-4。
『韓国朝鮮の歴史と文化　―古代から現代まで―』、須川英徳・三ツ井崇、放送大学教育振興会、3850 円、ISBN：978-4-595-32256-3。
これらは購入を推奨するが、必ずしも購入する必要はない。
その他、授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後、適宜教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究Ｂ						
教員名	水口　良樹						
科目№	125333180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
カリブ・ラテンアメリカは、その豊かで多様な自然と同様、文化的にも多様性を内包した地域だ。しかし、同時に征服期から植民地支配期を経て新自由主義の隆盛する現代に至るまでの負の遺産が、社会の分断と不平等を再生産し続けている地域でもある。カリブ・ラテンアメリカは、その収奪と暴力の歴史の中で、自分たちの身は自分たちで守らなければならないということ、そして分断された社会の中で連帯していくことが力に対抗する術であることを学んできた。そんな今ある社会秩序、世界秩序に異議申し立てをし、自分たちが自分自身の生をいかに取り戻すことができるかという実践を繰り広げる民衆の行動が、国際社会に与えてきた影響は決して少なくない。この授業では、カリブ・ラテンアメリカの歴史をまず前半に概観した上で、草の根の実践と声を具体的に見ていきながら人が生きる上での「尊厳」とはなにかを考えていく。また各回テーマとなるラテンアメリカの名曲も鑑賞していく。

〔到達目標〕
カリブ・ラテンアメリカが抱える諸問題とそれに対する社会運動や民衆文化といった民衆の多様な実践について説明することができるようになる。また彼らが抱える問題について、より広い視野で他の問題と関連付けながら自分自身の考えを述べ、それをもとに議論することができるようになることを目指す。DP2、3、4 を実現するため、歴史的かつ批判的思考力を養い、必要な資料、文献を探し適切に理解し、それをもとに自らの意見を組み立て語ることができるようになることを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンスとイントロダクション	小レポート作成・リアクションペーパー作成	90
第２回	先スペイン期の社会	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第３回	植民地支配の確立	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第４回	抵抗の手法	リアクションペーパー作成	60
第５回	独立と国民国家の模索	リアクションペーパー作成	60
第６回	米国覇権主義と革命	リアクションペーパー作成	60
第７回	社会暴力と移行期正義	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第８回	新自由主義の実験場	リアクションペーパー作成	60
第９回	社会運動と民主主義	リアクションペーパー作成	60
第１０回	家父長制とフェミニズム	リアクションペーパー作成	60
第１１回	文学と詩	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第１２回	異なる世界の見方(先住民の世界観)	リアクションペーパー作成	60
第１３回	音楽と社会(ペルーを事例に) Ⅰ	リアクションペーパー作成・期末試験準備	120
第１４回	音楽と社会(ペルーを事例に) Ⅱ	リアクションペーパー作成・期末試験準備	120

〔授業の方法〕
・授業は対面講義形式で行う。
・履修希望者は第１回授業に必ず参加すること（ガイダンスを含むため)。
・多くの講義の際に映画や音楽ビデオを視聴する。
・授業前に事前に示された文章を読んでくる必要がある回がある。
・授業ごとにリアクションペーパーを提出する必要がある。
・小レポートを 3 回提出する必要がある。
・選択式の期末試験を受験する必要がある。

〔成績評価の方法〕
・授業ごとのリアクションペーパー　28%
・小レポート(3 回)　36%
・期末試験　36%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
(購入の必要なし)
清水透『ラテンアメリカ五〇〇年』岩波現代文庫
高橋均・網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』中公文庫
石橋純(編)『中南米の音楽』東京堂出版
水口良樹・洲崎圭子・柳原恵(編)『日本から考えるラテンアメリカとフェミニズム』中南米マガジン
そのほかの参考文献や資料は、授業内で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
メールアドレスは配付資料にて周知します。
メールもしくは授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究Ｃ						
教員名	藪内　聡子						
科目№	125333190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、インドにおける仏教の成立、およびインドからスリランカへの上座部の仏教の伝道とその展開について、文化史という視点から学修します。まず仏伝、初期仏教の思想と実践について、上座仏教の聖典であるパーリ三蔵によって理解を深めた後、スリランカに流布した上座仏教の存在形態、思想、社会的役割について、スリランカの社会構造、人々の思惟方法、儀礼、生活慣行といった観点から概観します。国家仏教として位置づけられた上座仏教が、スリランカの王朝の政策とどのように関連づけながら受容されてきたのかを、広く歴史的に検討していきます。（なお授業の進捗状況によっては、内容を一部変更する場合もあります。）

〔到達目標〕
DP1(専門分野の知識・技能)、３（課題の発見と解決）を実現するため、次の６点を到達目標とします。
1. 上座仏教の聖典であるパーリ三蔵の編纂過程について理解し、どのように伝承されてきたかを把握する。
2. 近代仏教学の成立と上座仏教（パーリ仏教）の歴史学的研究について理解する。
3. インドにおける仏教の成立を、パーリ三蔵から理解する。
4. スリランカにおける上座仏教の存在形態とその思想を様々な視点から理解する。
5. スリランカの社会構造における上座仏教の位置づけを、王朝の政策と関連付けて歴史的に把握する。
6. 西欧列強の植民地支配からの独立の際に、スリランカにおける仏教の果たした役割について理解する。
7. 史書や碑文資料の取り扱いの方法ならびに歴史研究のための視点を捉える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 本講義の目的・進め方について説明し、現代スリランカを概観します。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　序章　を読むこと。	60
第２回	仏教史概観 仏教の興隆と各国への流布について学修します。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　第一章　を読むこと。	60
第３回	初期仏教の聖典 上座仏教の聖典語であるパーリ語と、上座仏教（パーリ仏教）の研究の歴史について、また聖典の分類について学習します。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　第二章　を読むこと。	60
第４回	インドにおける仏教の成立① ブッダの誕生から成道までを、『スッタニパータ』などから読み解きます。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　第三章　を読むこと。	60
第５回	インドにおける仏教の成立② 思想と実践について、『ダンマパダ』、『サンユッタ・ニカーヤ』などから読み解きます。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　第四章　を読むこと。	60
第６回	ブッダの弟子たち 主だった弟子たちについて、『テーラ・ガーター』、『テーリー・ガーター』から読み解きます。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第一章　を読むこと。	60
第７回	ブッダ入滅 『マハーパリニッバーナ・スッタンタ』を読みながら、ブッダ入滅の状況を読み解きます。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第二章　を読むこと。	60
第８回	上座仏教とは 上座仏教の存在形態を三宝という視点から考察します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第三章　を読むこと。	60
第９回	アヌラーダプラ時代～ポロンナルワ時代のスリランカ スリランカへの仏教伝道とその後のサンガの変容を、インド仏教の変容とあわせて検討します。スリランカの史書についてもふれます。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第四章　を読むこと。	60
第１０回	ダンバデニヤ時代以降のスリランカ 南アジアからのタミル人の侵入を中心に、仏教とヒンドゥー教の融合について検討します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第五章　を読むこと。	60
第１１回	スリランカと東南アジアとの交流 ミャンマー、タイ、カンボジアなどの東南アジア諸国への上座仏教の伝道過程について検討します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第六章　を読むこと。	60
第１２回	西欧列強の植民地下のスリランカ キリスト教優位政策下での仏教衰退と復活の過程を概観します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第七章　を読むこと。	60
第１３回	スリランカのパリッタ儀礼 出家者と在家者との日常的なかかわりについて検討します。	【予習】　授業で紹介した参考文献を読んでおくこと。	120
第１４回	総括 レポートの講評とともに、これまでの授業の総括をおこないます。	【復習】到達目標と自分の理解度とを振り返り、不足している知識等を確認し、学修すること。	60

〔授業の方法〕
授業は講義を中心に進めます。資料を適宜配布します。なおシンハラ人の行動指針の基底をなしている仏教思想を理解するため、教科書を自分で読んでおくことが求められます。学修内容の理解度の確認のために、e-learning を使用した小テストを毎回実施する予定です。（上で示された準備学修の時間は目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。）なお到達目標を達成しているかどうかを課題レポートにても評価します。

〔成績評価の方法〕

毎回の小テスト（40%）、課題レポート（40%）、講義中の発言や質問など授業への積極的な参加（20%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
　成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38,39.
　到達目標の達成度により評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
中村元『原始仏典』筑摩書房（ちくま学芸文庫）2011 年　1430 円　ISBN978-4-480-09367-7

〔参考書〕
鈴木正崇『スリランカの宗教と社会』春秋社　1996 年　　ISBN4－393－29901－9
奈良康明『仏教史 I』　山川出版社　1979 年　ISBN4－634－43070－3
前田慧學編『現代スリランカの上座仏教』山喜房佛書林　1986 年　ISBN4-7963-0173-9
藪内聡子『古代中世スリランカの王権と佛教』　山喜房佛書林　2009 年　ISBN978－4－7963－0187－9
他、適宜授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究D						
教員名	草野　佳矢子						
科目№	125333200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
1917 年革命以前のロシアの歴史を、特に国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題に焦点を当てて、講義する。適宜、関連映像の視聴も行う。

〔到達目標〕
歴史学に関する知識・技能を習得している。
近代ロシアの歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・文化を多角的に理解できるようになる。
課題の本質を理解するために必要な情報を調査収集し、それらを的確に解釈・分析し、課題の解決に向けて論理的に思考する能力を身につけている。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ロシア帝国成立前のロシア① ・キエフ・ルーシの成立と分解、モスクワの勃興と拡大。	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握しておく。 復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第２回	ロシア帝国成立前のロシア② ・モスクワ・ロシアの特徴、モスクワ・ロシアの政治文化の崩壊。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第３回	ピョートル 1 世の改革①：西欧化の開始、大北方戦争、統治理念の西欧化。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第４回	ピョートル 1 世の改革②：中央・地方の行政改革、社会の再編。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第５回	女帝たちの時代：エカチェリーナ 1 世～ピョートル 3 世。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第６回	エカチェリーナ 2 世の統治：啓蒙思想、プガチョフの乱、地方行政改革など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第７回	アレクサンドル 1 世とニコライ 1 世：アレクサンドル 1 世の初期の改革、デカブリストの乱とニコライの即位、法律と官僚制の整備など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第８回	アレクサンドル 2 世と大改革①：大改革の前提、農奴制廃止、ゼムストヴォ制度の導入など	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第９回	アレクサンドル 2 世と大改革②：都市自治制度の改革、地方官僚制、司法改革など	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１０回	革命運動と政治改革の試み：革命運動の展開、政府内の政治改革の試み。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１１回	アレクサンドル 3 世時代のロシア：専制体制の安定化、農民統治制度の改革、工業化とその影響など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１２回	ニコライ 2 世の治世　1894-1904 年：ゼムストヴォ・リベラル運動、労働運動、革命運動、地方統治問題など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１３回	第一次ロシア革命：「自由主義の春」、血の日曜日事件、立憲制への移行。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１４回	1906 年体制下のロシア：第一ドゥーマ、ストルイピン改革、2 月革命。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60

〔授業の方法〕
授業は配布プリントに沿って、講義を中心に進めます。
授業後、リアクションペーパー（今回の授業で学んだこと、印象に残ったことなど、250 字以上）をコースパワーにて提出してください（欠席した方は出さないこと）。
上に示された予復習時間はあくまでも目安です。各自の理解度に応じて取り組んでください。

〔成績評価の方法〕
レポート試験（3 題程度出題します。コースパワーに提出）　80%
授業への取り組み（リアクションペーパーの提出・内容）20%
＊リアクションペーパーの提出が 10 回に満たない場合、成績評価の対象としません（しかるべき理由のある場合、考慮します）。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・近代ロシア史の流れ、ロシアの国家・社会の特徴、重要な事件の歴史的な意義などについて、授業内容を理解しているかに着目して評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校世界史程度の西洋史（ロシア史を含む）の知識があること。

〔テキスト〕
特定の教科書は用いません。

〔参考書〕
『ロシアを知る事典』、平凡社
世界歴史体系　『ロシア史 1～3』、山川出版
和田春樹編　世界各国史　『新版　ロシア史』」山川出版社
和田春樹編　YAMAKAWA Selection　『ロシア史　上』『ロシア史　下』　山川出版社
藤本和貴夫他編著　『ロシア近現代史』、ミネルヴァ書房
栗生沢猛夫　『図説　ロシアの歴史』　河出書房新社
土肥恒之　『図説　帝政ロシア』　河出書房新社
土肥恒之　『ロシア・ロマノフ王朝の大地』講談社学術文庫
マルク・ラエフ（石井規衛訳）　『ロシア史を読む』名古屋大学出版会
三浦清美　『ロシアの思考回路』
その他に関しては、レジュメに記載します。
*参考書は購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。または、コースパワーの質問機能を利用してください。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパ文化・文化史特講Ｂ						
教員名	日尾野　裕一						
科目№	125333220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】動物から始めるイギリスの歴史と文化
【概要】この授業では、様々な動物とイギリスとの関わりを導入部に据えつつ、イギリスの歴史と社会を主に近現代に焦点を当てながら、政治、経済、文化、環境といった様々な要素から多面的に取り扱います。
時に表象として、時に政治的な役割を帯びて、時に経済的な価値を帯びて、時に動物を描いた人を通じて、イギリスにおいては動物が様々な局面で歴史の中に現れてきました。(間違いなく他の国も同様のことと思います)
13 テーマの動物を切り口としてイギリスの今昔を学ぶとともに、その歴史や社会がグローバルな観点からどのように理解できるか検討することを本授業では目指していきます。
※ 動物については導入部として扱うものであり、授業を通じて各回のタイトルにある動物について言及し続けるわけではないことは留意してください。

〔到達目標〕
本学の Diploma Policy に基づき、特に DP1-2「日本を含む世界における歴史的事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、異文化理解の実践に関する基本的な知識・技能を身に付け、個人の関心テーマに応じた形でさらに専門的に修得している」ことと DP1―3「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・文化を多角的に理解することができる」能力の獲得を目指すために、本授業の範囲に基づき以下の 3 点を主要な到達目標とします。
・近現代のイギリスの歴史と社会について、政治、経済、文化と多様な観点からその基本的な知識を得るとともに、こと。
・近現代の人間社会と動物との関係を表象、実態の両面から理解することで、動物を含む自然環境の持つ文化的な役割を理解する知見を獲得すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】授業内容を整理する。	60
第２回	ライオン：イギリス王室	【予習・復習】前回の授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第３回	イヌ：イギリス社会と動物愛護	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第４回	キツネ：貴族と議会	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第５回	ネコ：近代イギリスと選挙権	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第６回	ウシ：近代イギリスと公衆衛生	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第７回	ユニコーン：スコットランドとイギリス	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第８回	オオハシ：アイルランドとイギリス	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第９回	ウサギ：近代イギリスと教育	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１０回	ウマ：近現代イギリスとジェンダー・アイデンティティ	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１１回	クジャク：近現代イギリスとファッション	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１２回	ヒツジ：毛織物産業とイギリス帝国	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１３回	サイ：啓蒙主義の時代	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１４回	恐竜：博物館と考古学	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で実施します。
また、この授業では毎回のコメントシートの提出と学期末レポートを課します。

〔成績評価の方法〕

学期末レポート（70%）とコメントシート（30%）で評価を行います。
・学期末レポートでは、①授業を通じて受講生自身の問題関心が形成できているか、②問題関心をもとに受講生が各々の課題に対して主体的にリサーチし、その成果を論理的にレポート内で表現できているか、③文献を適切に収集し、収集した文献を利用できているか、この 3 点を重視し評価します。具体的な課題内容は授業中及び CoursePower にてアナウンスします。
・コメントシートでは、質問・コメント等の自由記述を毎回書いてもらいます。回に

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、近現代の世界史を挙げます。ただし、高校までの知識ではカバーできない内容も多く含みますので、図書館にある近現代史の概説書を読むことや、他の「ヨーロッパの歴史と文化」の授業など関連する授業の履修することもお勧めします。

〔テキスト〕
特に指定しません。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。また、コメントシート等で質問があった場合にも対応します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパ文化・文化史特講D						
教員名	瑞秀　昭葉						
科目№	125333240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、18 世紀から 20 世紀までのヨーロッパを主な射程とし、文化史（cultural history)の多様な課題を検討します。歴史学は身体や感情、ナショナリズム、ジェンダー、セクシュアリティといったテーマに対して、どのようにアプローチできるでしょうか。文化史における主要な文献と議論を紹介しながら、これらの問いに対する理解を深めます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能)、DP2（教養の修得)、DP3（課題の発見と解決)、DP4（表現力、発信力）を実現するために、以下を到達目標とします。
①ヨーロッパ文化史の諸問題について理解を深めること。
②ヨーロッパ文化史の諸問題を理解した上で、的確な分析レポートが書けるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	シラバス確認	60
第２回	文化史とは何か⑴ ロバート・ダーントン『猫の大虐殺』	配布リーディングの予習	60
第３回	文化史とは何か⑵ ロバート・ダーントン『猫の大虐殺』	配布リーディングの予習	60
第４回	自然・動物観⑴ キース・トマス『人間と自然界』、ジェイムズ・ターナー『動物への配慮』	配布リーディングの予習	60
第５回	自然・動物観⑵ キース・トマス『人間と自然界』、ジェイムズ・ターナー『動物への配慮』	配布リーディングの予習	60
第６回	科学・身体⑴ トーマス・ラカー『セックスの発明』、ロンダ・シービンガー『女性を弄ぶ博物学』	配布リーディングの予習	60
第７回	科学・身体⑵ トーマス・ラカー『セックスの発明』、ロンダ・シービンガー『女性を弄ぶ博物学』	配布リーディングの予習	60
第８回	ナショナリズム⑴　ー伝統、祝祭、記憶 ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』、ジョージ・モッセ『大衆の国民化』	配布リーディングの予習	60
第９回	ナショナリズム⑵　ー伝統、祝祭、記憶 ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』、ジョージ・モッセ『大衆の国民化』	配布リーディングの予習	60
第１０回	ジェンダー・セクシュアリティ⑴ ジョージ・モッセ『ナショナリズムとセクシュアリティ』、ジョージ・モッセ『男のイメージ』	配布リーディングの予習	60
第１１回	ジェンダー・セクシュアリティ⑵ ジョージ・モッセ『ナショナリズムとセクシュアリティ』、ジョージ・モッセ『男のイメージ』	配布リーディングの予習	60
第１２回	感情⑴　ー共感 リン・ハント『人権を創造する』	配布リーディングの予習	60
第１３回	感情⑵　ー友愛と恋愛 モーリス・ドマ「勇ましい心と優しい心」	配布リーディングの予習	60
第１４回	総括、期末レポート執筆に向けて	配布リーディングの予習	60

〔授業の方法〕
講義形式で行います。必要な資料は Course Power で配布します。

〔成績評価の方法〕
毎回課すリアクションペーパーの内容 50%、期末レポート 50%を総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
・ピーター・バーク、長谷川貴彦（訳）『文化史とは何か』（増補改訂版第 2 版、法政大学出版、2019 年）
・リン・ハント（編）、筒井清忠（訳）『文化の新しい歴史学』（岩波書店、2015 年）
この他、授業内で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカ文化・文化史特講Ｂ
教員名	細谷　典子

科目№	125333260	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
2020 年、コロナ禍のアメリカ合衆国では、人種差別や経済格差が顕在化しました。COVID19 の感染率の高さ、警官によるアフリカ系アメリカ人への暴力と BLM（Black Lives Matter）運動の高まり、大統領選挙をめぐる一連の動きを見ると、公民権運動から 50 年を経た今も、人種主義が決して過去の問題ではないことを実感せざるをえません。さらにアジア系に対するヘイト等、特定の人種やエスニシティに対する攻撃や差別も記憶に新しいところです。2024 年にはドナルド・トランプ氏が大統領に再選され、Make America Great Again というスローガンのもと、米墨国境から入国する不法移民を厳しく取り締まるとともに、米国内の不法移民を強制送還を推進することを明言しています。多民族、多人種国家アメリカはどのような方向に舵を切っていくのでしょうか。
本授業では、上記のような問題意識をもって、その背景を歴史的な観点から探求し、社会を考察する視点を養成していくことをテーマとします。

〔到達目標〕
アメリカ合衆国は、建国時に「自由」と「平等」理念を掲げながら、奴隷制や人種差別、移民制限等が常に国家の問題として取り沙汰され、その矛盾の解消のために努力を続けてきました。現在も未だその途上にあると言ってよいと思います。
この授業を履修することで、まずは、アメリカ合衆国の歴史と、それを解決しようと歩んできた道のりを理解するに足る十分な知識を得ることを目標とします。
その得た知識を、みなさんの経験や問題意識、これまで学んできた知識とすり合わせることで、多文化社会構築のプロセスにあるアメリカ現代社会、ひいては日本の状況を考察する視座を持つことを目指します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のし方を説明する。 「多からなる一」の追求(序章)	【予習】 序章を熟読。	60
第２回	移民国家アメリカン条件と変容(1 章) ・「移民の国」の理念とナショナリズムを理解する。	【予習】 第 1 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第３回	移民国家アメリカン条件と変容(1 章) ・ポスト公民権時代の「移民の国」と文化的多様性の世紀を把握する。	【予習】 第 1 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第４回	アメリカにおける人種主義の変容(1)(2 章) ・アメリカの人種主義、奴隷制、人種隔離制度について理解する。	【予習】 第 2 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第５回	アメリカ人における人種主義の変容(1)(2 章) ・公民権運動の歴史とその成果、波及効果を理解する。	【予習】 第 2 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第６回	アメリカにおける人種主義の変容(2)(3 章) ・ポスト公民権期から現代に至る人種主義を理解する。	【予習】 第 3 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第７回	「単一のアメリカ」への同化(4 章) ・「人種のるつぼ」等、同化論を理解する。	【予習】 第 4 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第８回	文化多元主義とエスニシティ(5 章) ・文化多元主義を理解する。	【予習】 第 5 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第９回	アメリカ型多文化主義の成立と展開(6 章) 多文化主義の始まりと運動の拡がりを理解する。	【予習】 第 6 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第１０回	変容する多文化主義(7 章) ・多文化主義を統一と考えるのか、分裂と考えるのか、双方の主張を理解する。	【予習】 第 7 章を熟読。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第１１回	映画『セリーナ』鑑賞	【予習】 ヒスパニック系の人々について調べる。	60
第１２回	これまでの授業の内容や映画の内容を踏まえ、多文化主義について、グループディスカッションをする。	【予多文化主義について議論するための準備。多文化主義の論点とその根拠を把握し、自分の意見をまとめる。 。 【復習】 キーワードを説明できるようにする。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】 テストの準備 【復習】 テストの振り返り	60

第１４回	到達度確認テストについての講評	【予習】 授業全体を振り返り、意見・質問等準備	180

〔授業の方法〕
授業は講義を中心に進める。普段から教科書・ノート・プリントを使った復習に力を入れ、次回の授業にわからないところを持ち越さないようにすること。また、上で示された準備学習の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。
多文化主義については、それまで学んだ知識を踏まえて議論の時間をとる。議論への積極的な参加(発言)ができるよう十分に準備すること。
到達度確認テストは授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト(50%)、議論への参加度(20%)、講義中の発言や質問、授業への積極的な参加(10%)、講義内での提出物(クイズ、感想等)(20%)による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識は、アメリカ史の基礎知識。

〔テキスト〕
南川文里『アメリカ多文化社会論［新版］「多からなる一」の系譜と現在』(法律文化社 、 2022 年) ISBN, ISBN978-4-589-04206-４. 本体 2,900 円＋税.

〔参考書〕
必要に応じ授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業の前後に教室内で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本文化・文化史特講Ｂ						
教員名	有富　純也						
科目№	125333280	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
奈良時代の＜福祉＞
日本列島において、本格的な国家が成立したのは７世紀後半です。
それとともに、現代で言うところの福祉のようなものが始まります。
国家成立と福祉の関係について、当時の東アジア社会の動向にも触れながら、考えてみたいと思います。

〔到達目標〕
DP６（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の２点を到達目標とする。
①律令国家成立期の特殊性を理解できるかどうか。
②国家と福祉との関係について理解できるかどうか。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】高校日本史教科書を用い、奈良・平安時代の部分を復習する。	60
第２回	古代国家論序説	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第３回	律令国家地方支配の成立過程その１	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第４回	律令国家地方支配の成立過程その２	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第５回	中国古代の＜福祉＞	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第６回	戸令と古代戸籍	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第７回	正史に見える撫育	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第８回	戸令と正税帳	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第９回	日本霊異記と＜福祉＞１	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１０回	日本霊異記と＜福祉＞２	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１１回	仏教と＜福祉＞	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１２回	儒教と＜福祉＞	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１３回	九世紀以降の＜福祉＞	【予習】事前に配布されたプリントを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１４回	総まとめ	【予習】事前に配布されたプリントを予習する 【復習】授業全体の復習し、レポートに備える。	60

〔授業の方法〕
講義形式ですが、学生さんと対話しながら授業を進めたいと思います。

〔成績評価の方法〕
期末レポート（８０%）、リアクションペーパー（２０%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①律令国家成立期の特殊性を理解できるかどうか。
②国家と福祉との関係について理解できるかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本の歴史と文化 A を受けておいてもらえるとスムーズに授業を聞くことができると思います。

〔テキスト〕
プリントを配布します。

〔参考書〕
第 1 回の授業時に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア文化・文化史特講Ｂ						
教員名	松岡　昌和						
科目№	125333300	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本講義では、東南アジアの歴史、特にシンガポールを中心的に取り上げる。シンガポールは日本と経済的に深い結びつきのある国である。資源のない小国であるものの経済的に繁栄する国として世界的にも注目されている。シンガポールはその効率的な統治と公正な社会システムで知られるが、そうした評価自体が多分に歴史的に創られたものである。本講義では、シンガポールとそれをとりまく東南アジア世界を歴史的に俯瞰し、そのうえで歴史的な言説がいかにして創られるのかを考えていきたい。その際に、日本との関係を特に取り上げていきたい。

〔到達目標〕
東南アジアおよびシンガポールについての基本的な知識を獲得する
歴史的な言説の創造について理解し、批判的な思考を身につける
シンガポール史を事例とし、歴史および異文化への的確な分析・解釈の能力を身につける

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：東南アジアとはどのような地域か、シンガポールとはどのような都市か	東南アジアに関する各自の認識について言語化して整理しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第２回	シンガポールの歴史教科書には何が書かれているか	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第３回	海の東南アジアとシンガポール	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第４回	植民地国家と行き交う人々	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第５回	近代日本とシンガポール	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第６回	戦間期シンガポールの文化と政治	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第７回	日中戦争と東南アジア	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第８回	日本占領期の社会と経済	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第９回	日本占領期の文化と娯楽	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１０回	東南アジアの戦後復興とシンガポールの独立	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１１回	リー・クアンユーと「シンガポール・ストーリー」	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１２回	現代東南アジアから見た日本占領期	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１３回	シンガポールの歴史を新たに描く	下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１４回	まとめ	全体の授業内容について復習しておくこと	60

〔授業の方法〕
講義形式で行う。毎回講義の際にコメントシートの提出を求める。

〔成績評価の方法〕
コメントシート：30%
期末試験：70%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『シンガポールの基礎知識』、田村慶子、めこん、2200 円、9784839602949（購入の必要なし）
『シンガポールを知るための 65 章【第 5 版】（エリア・スタディーズ 17）』、田村慶子編、明石書店、2200 円、9784750352534（購入の必要なし）
『移民社会のナショナリズム：シンガポール近代華人社会史研究』、持田洋平、風響社、3520 円、9784894893306（購入の必要なし）
『日本の南進と大東亜共栄圏』、後藤乾一、めこん、2750 円、9784839603298（購入の必要なし）
『東南アジア史 10 講』、古田元夫、岩波書店、1188 円、9784004318835（購入の必要なし）
『海の東南アジア史――港市・女性・外来者』、弘末雅士、筑摩書房、968 円、9784480074782（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
メールまたは、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア文化・文化史特講D						
教員名	佐々木　紳						
科目№	125333320	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】
トルコ共和国と現代世界
【概要】
第一次世界大戦終結直後の 1923 年に成立したトルコ共和国は、2023 年に建国 100 周年を迎えた。この国は、人口の 9 割以上がイスラーム教徒であるにもかかわらず、政教分離・世俗主義の原則を国是とする現代国家として知られている。ところが現在のトルコでは、親イスラーム政党が 20 年以上政権与党の座を占める「未曽有」の事態が生じている。この四半世紀はまた、グローバル化が進展する現代世界のなかで、トルコが政治的・経済的に存在感を高め、中東の地域大国としての地位を固めていく時期に重なる。この授業では、そうしたトルコ共和国の歴史を現代世界の歴史的展開のなかで考えていく。

〔到達目標〕
DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、下記の点を到達目標とする。
・トルコ現代史の通時的な見取り図を描けるようになる。
・トルコの歴史を、中東情勢や現代世界の動向のなかに位置づけながら説明できるようになる。
・トルコの視点から現代世界を俯瞰することで、受講者各自のこれまでの現代史理解を相対化することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の紹介と導入	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第２回	近代から現代へ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第３回	トルコ共和国の成立（1）：国民国家の形成と初期の政策	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第４回	トルコ共和国の成立（2）：歴史をつくる、言語をかえる	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第５回	戦間期の世界とトルコ（1）：セーヴル体制下のトルコ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第６回	戦間期の世界とトルコ（2）：トルコの第二次世界大戦	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第７回	授業期間前半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第８回	戦後の世界とトルコ（1）：戦後トルコの政治と政党	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第９回	戦後の世界とトルコ（2）：トルコの冷戦	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１０回	戦後の世界とトルコ（3）：戦後トルコの社会と文学	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１１回	戦後トルコをめぐる諸問題（1）：EU 加盟問題	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１２回	戦後トルコをめぐる諸問題（2）：キプロス、アルメニア、クルド	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１３回	21 世紀のトルコ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60

第１４回	授業期間後半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60

〔授業の方法〕
・講義形式で進める。
・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらう。
・授業期間の中盤と終盤に、それぞれ授業内テストをおこなう。

〔成績評価の方法〕
・授業への取り組み（40%）、授業内テスト（60%）
・リアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みを評価する材料とする。
・授業内テストは、授業期間の中盤（中間テスト）と終盤（期末テスト）に課す予定である。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・関連科目：「アジア・アフリカの歴史と文化Ａ」では、トルコ共和国の前身たるオスマン帝国の歴史を含む中東前近代史を扱う。
・関連科目：「アジア・アフリカの歴史と文化Ｂ」では、トルコ共和国の歴史を含む中東近現代史を扱う。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
・内藤正典『トルコ：建国 100 年の自画像』〈岩波新書〉岩波書店、2023 年、ISBN 9784004319863
・間寧『エルドアンが変えたトルコ：長期政権の力学』作品社, 2023 年, ISBN 9784861829727
・カーター・Ｖ・フィンドリー『テュルクの歴史：古代から近現代まで』（小松久男監訳・佐々木紳訳）明石書店、2017 年、9784750344690

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	世界の言語文化（ポーランド語）
教員名	石川　グラジナ

科目№	125334100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕

〔到達目標〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回			
第２回			
第３回			
第４回			
第５回			
第６回			
第７回			
第８回			
第９回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究A						
教員名	中野　由美子						
科目№	125334120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義の課題は、主にハリウッド映画を題材として、第二次世界大戦を経て超大国となったアメリカ合衆国の自画像の変遷を社会史・文化史的に検討することである。戦禍を免れたアメリカ合衆国は、絶対的な軍事力と経済力を誇る強国として、国際社会において圧倒的な存在感をもつ存在となった。その一方で、国内においては、人種・エスニシティにまつわる様々な矛盾や葛藤を抱え、それが次第にアメリカ社会全体を揺るがす問題として表出することになった。本講義では、このような国内外の状況の変化を踏まえ、アメリカ合衆国の自画像がどのように形成され、そして変容せざるを得なかったのかを、映画を題材として探求していく。なお、本講義では、上記のテーマに即して、適宜、史料分析のトレーニングも行う。

〔到達目標〕
DP1-1、DP2-1 を実現するため、以下の３点を到達目標とする。
① 20 世紀の合衆国に関する社会史・文化史の基礎知識を修得する。
② 人種・エスニシティという観点から、合衆国における娯楽産業の歴史の特質を説明できる。
③ 映像史料とそれに関連する二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方などを確認する。	テキストの指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第２回	映像の可能性―社会史的考察 ・映像資料の活用方法について理解する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第３回	創られる先住民像（その１） ・20 世紀前半の西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第４回	創られる先住民像（その２） ・20 世紀半ばの西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第５回	創られる先住民像（その３） ・20 世紀後半の西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第６回	国境を超える西部劇 ・西部劇がヨーロッパ・日本においてどのように受け入れられたのかを検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第７回	小括　これまでの講義のポイントをまとめる。中間テストを実施する。	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60
第８回	映画の中のアジア人像（その１） ・20 世紀前半のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第９回	映画の中のアジア人像（その２） ・20 世紀半ばのハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１０回	映画の中のアジア人像（その 3） ・20 世紀末のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１１回	映画の中のアジア人像　小括 ・映画を題材として、「人種」問題について探求する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60
第１３回	到達度確認テストの講評を行う。配布資料に基づき、論点を整理する。 リアクションペーパーを作成・提出する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１４回	全体のまとめ	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60

〔授業の方法〕
・講義形式で行う。レジュメや史料の配布の際にコースパワーを使用するので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスをして確認をすること。（なお、コースパワーにアップロードすることができない史料等についてのみ、講義中に紙媒体で配布する。後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。）
・ほぼ毎回、簡単な課題を出題するので、コースパワーを使って回答（リアクションペーパー）を提出すること。
・中間テストと到達度確認テストは、コースパワーを使って解答を提出する形で実施する予定。中間テストと到達度確認テスト実施時にはノート PC・タブレット等を必ず持参すること。

〔成績評価の方法〕

授業中に出す課題（リアクションペーパー等のコースパワーで一定期間内に提出していただく課題も含む）＝平常点（55%程度）、中間テスト（15%程度）、到達度確認テスト（30%程度）による総合評価。なお、第 13 回、第 14 回のリアクションペーパーについては、総括を兼ねた課題であるため、１０%を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①合衆国における娯楽産業の歴史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②世界史全体の流れのなかに、アメリカの映画産業を位置づけ、その特質を理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校卒業レベルの世界史の基礎知識は必要であるが、未履修者はテキスト・参考書を事前に熟読して基礎知識の習得に努めること。アメリカの歴史と文化 A・B の他、日本を含む世界各国・地域の歴史と現状に関する科目を幅広く受講することが望ましい。

〔テキスト〕
特になし。
史資料・レジュメ等は、適宜配布します。

〔参考書〕
Decherney, Peter. Hollywood: A Very Short Introduction. Oxford University Press, 2016.
北野圭介『新版　ハリウッド 100 年史講義―夢の工場から夢の王国へ―』平凡社新書、2017 年。
阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための 62 章』明石書店、2016 年。
有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣、2003 年。
※上記の参考書は、購入する必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究Ｂ						
教員名	川村　陶子						
科目№	125334130	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
テーマ：「文化多様性からみる現代ドイツ」
この授業では、ひとつの国ないし社会を、文化多様性という見地から、多角的かつ歴史的にとらえ直すことを試みる。具体例として、ヨーロッパの中心国であり、西ドイツ時代以来「ひらかれた民主主義」の建設を目指してきたドイツ連邦共和国をとりあげる。メインとなる部分では、現代ドイツを構成するさまざまな「文化（多様性）の次元」を、時間的・空間的な広がりに留意しつつ読み解いていく。そうした作業をとおして、ドイツという〈くに〉の成り立ちやその魅力、抱える問題や困難、それらを克服する努力などを理解することを試みる。私たちの住む日本との比較も織り込む予定である。
多様なものの共生は、今日の世界において摩擦や対立を生み出す契機となりうるが、同時に活力ある社会、新たな創造性の源ともなりうる。多様性のこうした二面性を理解しつつ、そのダイナミクスをより肯定的に生かすには、社会に多様性をもたらす文化のさまざまな次元を意識することが重要である。授業ではドイツやヨーロッパで行われている多様性マネジメントの試み（政策、活動等）にも注目し、文化多様性をよりよい社会づくりに生かすためのヒントを考えたい。
＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって修正・調整する可能性がある。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、以下のことを目標とする。
①現代ドイツが内包するさまざまな意味での「多様性」をひもとくことにより、ドイツを新たな目で理解すること。
②多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げること。
③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養うこと。
④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、受講者の人数や構成、現実の社会や研究の動きなどの要因をふまえて適宜修正する。） 《イントロダクション》 講師の問題関心と授業の概要について説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。テーマに関連した自分の関心や事前知識を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	《文化の多様性と現代の諸問題》 文化多様性とはどのようなことか、それが今日の世界におけるどのような事象と関連しているかについて、概略的に整理する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	《ドイツとは何か》 ドイツという国、社会がはらむ複雑さと、それを規定する多様性について理解を深める。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	《多様性からみるドイツ（１）地方とヨーロッパ①》 地理的な広がりと多彩な地方色について理解を深める。歴史的な経緯にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	《多様性からみるドイツ（２）地方とヨーロッパ②》 地理的な広がりと多彩な地方色について理解を深める。現代的な状況にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	《多様性からみるドイツ（３）冷戦と東西①》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。とくに、20 世紀後半の冷戦と国家分断がもたらした影響に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	《多様性からみるドイツ（４）冷戦と東西②》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。今日における東西ドイツの違いや、それが政治や社会に及ぼす影響にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	《多様性からみるドイツ（５）世代と歴史・社会観①》 人びとを分ける世代について理解を深める。近現代史の流れの中で、世代を形成する要因となった出来事にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	《多様性からみるドイツ（６）世代と歴史・社会観②》 人びとを分ける世代について理解を深める。現代史の諸問題に関する公的認識の形成に、世代が及ぼした役割についても考察する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	《多様性からみるドイツ（７）人の移動と受け入れ・統合①》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。ドイツをめぐる人の移動の歴史的な流れに、とりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	《多様性からみるドイツ（８）人の移動と受け入れ・統合②》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 20 世紀後半における外国人労働者の受け入れや統合に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	《多様性からみるドイツ（９）人の移動と受け入れ・統合③》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 21 世紀における移民・難民の受け入れや統合に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60

第１３回	《多様性からみるドイツ（１０）ジェンダーとセクシュアリティ》 ジェンダーや家族に関する考え方、性的指向や性的自認の多様性の扱いについて理解を深める。歴史的な経緯と現代における展開の双方に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１４回	《多様性がもたらす課題と可能性》 今日、多様性がもたらす諸問題と、それが生み出す革新や創造を再確認するとともに、文化多様性を肯定的に生かすためのドイツの取り組みとその課題を総括的に議論する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。 レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕
講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。履修者の人数等によっては、より参加型の性格が強い授業とする可能性もある。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用する予定）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連しておこなった自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説をおこなう。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義をおこなう。授業内容に関連する映画を紹介し、小課題の形で鑑賞、批評をおこなってもらうことも検討している。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）80%、期末レポート 20%をめやすに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その到達度により評価する。
①現代ドイツが内包するさまざまな「多様性」を理解する。
②多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げる。
③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養う。
④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
履修者は、ドイツやヨーロッパ、世界の情勢について文献やネット等で自主的な情報収集をおこなうことが望ましい。
世界史、とくに近現代史に関する基礎知識があると授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず自主的な学習を推奨する。
ドイツの歴史や文化に関する事前の知識は必須ではないが、関連授業の履修や自主的な学習は授業の内容理解に役立つ。
ドイツ語に関する知識は必要ないが、あれば授業の内容理解に役立つ。
関連科目：国際文化論、ヨーロッパの歴史と文化、ヨーロッパ文化・文化史特講、その他

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
田野大輔・柳原伸洋編著『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房、2016 年。
浜本隆志・高橋憲編著『現代ドイツを知るための 67 章【第 3 版】』明石書店、2020 年。
森井裕一編著『ドイツの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年。
『ドイツの実情』2018 年（ドイツ外務省制作の e ブック、インターネットから無料ダウンロード可能）。
ほか、開講時および授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究C						
教員名	樋口　真魚						
科目№	125334140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
よく知られているように、日本は 1931 年 9 月に勃発した満洲事変を契機として、国際連盟を脱退した。そして 37 年 7 月の日中戦争勃発、40 年 9 月の日独伊三国同盟を経て、41 年 12 月ついに対米開戦へと踏み切った。満洲事変以降の歴史は「孤立への道」「戦争への道」だったといっても過言ではないだろう。しかしながら、その過程は決して平たんなものではなく、実に複雑であった。この授業では、日米開戦へと至る日本の外交政策について検討する。当時の日本は世界をどのように捉え、いかなる外交を展開していたのだろうか。近年の研究成果などを踏まえながら、できるだけ分かりやすく説明するつもりである。

〔到達目標〕
DP 1 （専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・日本外交史に関する基礎的知識を習得する。
・日本と国際社会の関わりについて、歴史的観点から説明することができる。
・日本近代史を、グローバルな視点から把握することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスをよく読み、講義の概要を把握する。 【復習】授業時に紹介された文献などを確認し、授業の全体像を把握する。	60
第２回	第一次世界大戦の影響	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第３回	「新外交」の時代	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第４回	満洲事変	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第５回	国際連盟脱退	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第６回	広田（弘毅）外交の展開	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第７回	日中全面戦争	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第８回	東亜新秩序と九ヵ国条約	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第９回	松岡（洋右）外交と三国同盟	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１０回	日米交渉	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１１回	開戦めぐる攻防	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１２回	敗戦と戦後	【予習】前回授業時に紹介された文献に目を通す。 【復習】授業内容を振り返り、概要を整理する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	60
第１４回	到達度確認テストの解説、総括と展望	【復習】これまでの授業内容を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

〔授業の方法〕
・講義形式の授業。
・やや専門的な内容を扱う予定である。
・CoursePower から小レポートを提出してもらうので、ノートパソコンを持参すること。一部の小レポートについては、授業の冒頭で概要を紹介する予定である。
・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載する。紙媒体で配布することはしない。
※CoursePower を使用するので、各自で操作方法を習得しておくこと。
（これを使いこなせていることを前提に授業を組み立てる予定である）

〔成績評価の方法〕

小レポート 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・日本外交史に関する基礎的知識を習得できたか。
・日本と国際社会の関わりについて、歴史的観点から説明することができたか。
・日本近代史を、グローバルな視点から把握することができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「アジア・太平洋の歴史と文化 A」を履修していることが望ましい。

〔テキスト〕
なし。

〔参考書〕
なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究D						
教員名	鈴木　重周						
科目№	125334150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
テーマ：ヨーロッパ文化と「ユダヤ人」
　この授業は、ヨーロッパ社会におけるマイノリティ（社会的少数者）としての「ユダヤ人」に着目し、かれらがどのような存在であったのかを、フランスを中心としたヨーロッパの芸術作品（文学、絵画、戯曲等）を通して考えることを目的とします。
ヨーロッパ文化と「ユダヤ人」について考えることは、歴史上常に周縁に追いやられてきた存在をめぐる差別の構造に気づくことでもあります。また、「ユダヤ人」が芸術作品の担い手となった時にどのような軋轢が起こったのかを学ぶことで、現代の日本に生きる私たちにとってもさまざまなマイノリティをめぐる問題が無関係ではないことを知ることができます。
この授業で学ぶことが受講者自身の真摯な問題意識とつながることを期待しています。なお、受講者の関心やアクチュアリティに応じて授業内容を修正することがあります。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を目標とします。
・ヨーロッパの「ユダヤ人」をめぐる歴史に関する基本的知識を身に付ける。
・文化表象におけるマイノリティをめぐる差別の構造を理解する。
・授業内容を自身の問題意識に引きつけコメントすることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【テーマ】「ユダヤ人」とは誰のことか 【内容】授業の内容や方法についてのガイダンス。ヨーロッパ・ユダヤ史の概説	シラバスをしっかり読む。「ユダヤ人」について考えてみる。授業ノートを準備しておく。	30 分
第２回	【テーマ】描かれる「ユダヤ人」1 【内容】文学テクストにおいて「ユダヤ人」はどのように描かれるのか。 【扱う作品】W・シェイクスピア『ヴェニスの商人』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第３回	【テーマ】描かれる「ユダヤ人」2 【内容】文学テクストにおいて「ユダヤ人」はどのように描かれるのか。 【扱う作品】W・シェイクスピア『ヴェニスの商人』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第４回	【テーマ】「美しきユダヤ女」 【内容】キリスト教徒男性の欲望としての「美しきユダヤ女」について考える。 【扱う作品】W・スコット『アイヴァンホー』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第５回	【テーマ】スペインの「マラーノ」 【内容】1492 年という年に着目し、スペインの異端審問がヨーロッパ文化に与えた影響について考える。 【扱う作品】D・ベラスケス『侍女たち』、F・ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』、J・アタリ『1492 年』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第６回	【テーマ】「サロメ」という少女 1 【内容】ヨーロッパ文化において繰り返し表象される「ユダヤの王女サロメ」について考える。 【扱う作品】G・フローベール「エロディアート」、G・モロー『出現』、J-K・ユイスマンス『さかしま』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第７回	テーマ】「サロメ」という少女 2 【内容】ヨーロッパ文化において繰り返し表象される「ユダヤの王女サロメ」について考える。 【扱う作品】O・ワイルド『サロメ』、O・ビアズリー「お前に口づけしたよ、ヨカナーン」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第８回	【テーマ】具現化する「美しきユダヤ女」 【内容】ユダヤ系フランス人女優サラ・ベルナールに着目し、その戦略と、職業としての女優について考える。 【扱う作品】A・ミュシャ『ジスモンダ』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第９回	【テーマ】ベル・エポックの影としてのドレフュス事件 1 【内容】フランスの反ユダヤ主義がなぜ、どのように爆発したのか考える。 【扱う作品】E・ドリュモン『ユダヤのフランス』、H・メイエル「裏切り者」、L・ドーデ「懲罰」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１０回	【テーマ】ベル・エポックの影としてのドレフュス事件 2 【内容】フランスの反ユダヤ主義がなぜ、どのように爆発したのか考える。 【扱う作品】E・ゾラ「私は告発する」、カランダッシュ「家族の晩餐」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１１回	【テーマ】ドレフュス事件をいかに描くか 1 【内容】あるユダヤ系フランス人作家がドレフュス事件期に書いたフィクションを通して、史実をフィクションに描くことについて考える。 【扱う作品】M・シュウォブ『少年十字軍』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分

第１２回	【テーマ】ドレフュス事件をいかに描くか２ 【内容】二十世紀のフランス文学を代表する作家 M・プルーストの『失われた時を求めて』を通してドレフュス事件について考える。 【扱う作品】M・プルースト『失われた時を求めて』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１３回	【テーマ】祖父母をめぐる物語 【内容】ユダヤ人にとっての最大の災厄である「ホロコースト」は現代のユダヤ系作家によってどのように描かれるのか。実際に文学テクストを読むことによって考える。 【扱う作品】I・ジャブロンカ『私にはいなかった祖父母の歴史』、A・ベレスト『ポストカード』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１４回	到達度確認テスト	これまでに作成した授業ノートを整理し到達度確認テストに備える。	60 分

〔授業の方法〕
基本的にはスライドを用いた講義ですが、できるかぎり受講者の皆さんとの対話形式で授業を進める予定です。毎回の授業ごとにテーマを設定しレスポンスペーパー（300 字程度）を LMS（Course Power 使用予定）から提出してもらいます。必ず自筆ノートをとるようにしてください。到達度確認テストでは自筆ノートの持ち込みを可とする予定です。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加姿勢、授業後に提出するレスポンスペーパー）60%、到達度確認テスト 40%を目安として総合的に評価します。理由のない欠席や遅刻、授業に関係のない行為および居眠り等は減点の対象となります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
講師の研究領域であるフランスを主とした近現代ヨーロッパが話題の中心となりますが、フランス語や文学史・美術史等の知識の有無は問いません。ただし、講義内容に興味を持って授業に主体的に取り組んで下さい。高校の標準的教科書レベルの世界史知識は授業の前提となっている場合がありますので、欠けている部分は自身で補うようにしてください。

〔テキスト〕
特にありません。講義後にスライド資料を LMS から配付します。

〔参考書〕
市川裕『ユダヤ教の歴史』（山川出版社、2009）
ペンブックス編集部『ユダヤとは何か。』（CCC メディアハウス、2012）
國府寺司『ユダヤ人と近代美術』（光文社新書、2016 年）
市川裕『ユダヤ人とユダヤ教』（岩波新書、2019 年）
以上の文献は購入の必要はありませんが、授業理解に役立ちますので書店や図書館で手に取ってみてください。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	世界美術史 A						
教員名	人見　伸子						
科目№	125334160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
美術史全体の流れを俯瞰すると、時代に革新をもたらしたといわれる芸術家たちも、過去の芸術を学ぶところから出発し、同時代の人たちと切磋琢磨しながら、新たな道を切り開いた例が多数ある。この授業では毎回、二人ないしは三人の芸術家を取り上げ、具体的な作品やその影響関係について考察する。今回は特に何人かの女性芸術家たちに注目し、ジェンダーの問題にも触れていきたい。

〔到達目標〕
①複数の芸術家の作品や生涯を比較検討し、その存在意義を考えて見る。
②世界史全体の流れのなかに世界美術史を位置づけ、その特質や意義を説明できるようにする。
③DP2（教養の修得）を実現するため、歴史的思考力を養うことを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の概要および ・カラヴァッジョの絵画に学び、大胆な明暗表現を試みたアルテミシア・ジェンティレスキの画業と作品を紹介する。	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60 分
第２回	ヴィジェ=ルブラン / ダヴィッド ・マリー=アントワネットの肖像画を手掛けた前者とナポレオンの宮廷画家となった後者について、その画業と具体的な作品を考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第３回	アングル / ラファエッロ ・19 世紀フランス新古典主義の画家アングルにとって、盛期ルネサンスのラファエッロは、常に手本となる巨匠だった。その影響関係を検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第４回	ハマスホイ　/ フェルメール ・「北欧のフェルメール」と称されるデンマークの画家ハマスホイ.。二人の共通点と相違について考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第５回	ロセッティとラファエル前派をめぐる女性たち ・19 世紀イギリスに登場したラファエル前派の周辺には、数多くの女性芸術家が存在した。彼女たちとロセッティについて、具体的な作品を通して学ぶ。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第６回	マネ / ベルト・モリゾ ・エドゥアール・マネと、弟子でモデルもつとめたベルト・モリゾの生涯と作品について考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第７回	ヴァラドン / ルノワール ・ユトリロの母でもある画家ヴァラドン。その画業と印象派の画家ルノワールの作品を比較検討する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第８回	マリー・ローランサン / レンピッカ ・二人の女性画家の生涯と作品、さらにピカソに代表されるキュビスムとの関係について考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第９回	オキーフ / スティーグリッツ ・人生のパートナーであり、各々画家、写真家として活躍した二人の具体的な作品について学ぶ。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１０回	フリーダ / リベラ ・メキシコの画家フリーダ・カーロと壁画画家リベラの画業と作品について考察する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１１回	ヒルマ・アフ・クリント / カンディンスキー ・20 世紀の抽象絵画を導いたカンディンスキーと、それに先行した画家として注目されるヒルマについて、画業と作品を検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１２回	篠田桃紅と抽象表現主義 ・1950 年代のアメリカを席巻した抽象表現主義と、同時期に渡米し、書画に基づく作品で存在感を示した篠田桐江の画業と作品に焦点をあてる。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１３回	ルイーズ・ブルジョワ / ニキ・ド・サン・ファル ・自己の体験に基づく作品を発表し、ジェンダーの問題を提起したブルジョワとニキの画業と作品を振り返る。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１４回	鴻池朋子 / 塩田千春 ・二人を中心に、世界で活躍する現代日本の美術家の具体的な作品を紹介する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分

〔授業の方法〕
Course Power を利用して毎回の授業のレジュメを配信し、スライドの画像を見ながら、講義形式で授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答してもらう。学期末には課題レポートの提出が必要である。

〔成績評価の方法〕

アンケートを基にした平常点（30%）、および課題レポート（70%）から、総合的に判断して評価する。単位認定には、3 分の 2 以上の出席と期末の課題レポートの提出が必須条件である。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
全般的な世界史の知識が必要だが、必須ではない。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
高階秀爾監修　増補新装　『カラー版：西洋美術史』　美術出版社　2002 年初版
若桑みどり『女性画家列伝』 岩波書店［岩波新書］, 1985 年
その他、テーマ毎に授業で随時紹介するが、購入の必要は特にない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了時に教室で受け付ける。
Course Power Q&A を利用することも可能である。

〔特記事項〕
特になし。

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	世界美術史 B						
教員名	森　美智代						
科目№	125334170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】中国古代・中世の美術
【概要】この授業では、中国の先史時代から唐代前半期（8 世紀半ば頃）まで、各時代を代表する美術作品を取り上げ、その基本的な見方を学びます。授業の中盤までは、墓葬美術や窖蔵（こうぞう、意図的に埋められたもの）から発見された工芸品など、埋蔵文化財が中心です。例えば龍や四神といった重要なシンボルや、伝統的なモチーフの意味・機能について、歴史的・思想的背景を踏まえて理解することを目指します。なお、以上の作品は何らかの実利的な用途のために制作されたものですが、魏晋南北朝時代以降次第に、現在私たちがイメージする「美術」作品に近い、美的鑑賞に重点を置いた絵画が発生・展開しました。授業の終盤では、このような鑑賞画の形成過程と、中国独特の芸術理論について学びます。

〔到達目標〕
・中国殷代～唐代前半期までの墓葬美術を中心とする美術作品について、代表的作品の意味機能、各地域・時代を代表する様式の特徴などの基礎知識を身につける。
・中国において人物画や山水画などの鑑賞絵画が形成された歴史的経緯と、中国独特の芸術理論の概要を把握する。
・美術作品の本来の意味・機能をその作品が属する地域・時代の文脈に即して読み解くことを目指す美術史学の手法にふれる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の進め方の説明。 ・授業内容の導入（美術史とは何か、中国古代・中世の美術の特質）。	【予習】シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。 【復習】授業資料を見返し、新たに得た知見を整理する。	60
第２回	先史時代～　玉器	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第３回	殷周～戦国時代　青銅器(1)　黄河流域	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第４回	殷周～戦国時代　青銅器(2)　長江流域	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第５回	秦　始皇帝陵の兵馬俑	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第６回	前漢時代　馬王堆帛画の死生観	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第７回	後漢時代　画像石の世界	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第８回	唐代　陵墓壁画	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第９回	唐代　金銀器と西方文化	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第１０回	絵画のなかの女性たち(1)　魏晋南北朝時代	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第１１回	絵画のなかの女性たち(2)　唐代	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第１２回	「山水画」の誕生　～北宋時代	【予習】年表・地図を見て、当該テーマの年代と場所を確認する。 【復習】授業資料や参考文献・URL で関連作品の画像を見返す。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。	90

第１４回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ	【復習】到達度確認テストの結果を受けて、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

〔授業の方法〕
・パワーポイントを使用した講義形式で行う。
・毎回、授業内で課題（作品解説シートへの記入やリアクションペーパーなど）に取り組み、授業終了後に提出してもらう。
・授業終盤に到達度の確認テストを行う。

〔成績評価の方法〕
・授業への取り組み（授業内課題）60%、到達度の確認テスト 40%。
・授業内課題で各回の理解度の確認と、授業への取り組みを評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38、39 条）に準拠する。
到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかを成績評価の主たる基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
テキストは使用しない。

〔参考書〕
全て購入の必要なし
・『世界美術大全集　東洋編』1～5 巻、小学館。
・古田真一，山名伸生，木島史雄編『中国の美術』昭和堂、2003 年、ISBN　4812201233
その他、授業内で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会入門						
教員名	内藤　準						
科目№	125411100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
　この講義では現代社会のさまざまなトピックを学びます。わたしたちの生きる現代社会は、どのような社会であり、どのような社会問題が生じているのでしょうか。ある社会問題について、どのような立場の違いがあり、いかなる解決策が考えられるのでしょうか。また、社会はどのように変化するのでしょうか。
　この授業ではこうした問いに対して、とくに人びとの「自由」や「アイデンティティ」、社会の「秩序」や「社会規範」、そして「社会の変化」という観点から取り組んでいきます。各回のテーマについて学びながら、みなさんの研究と暮らしに役立つ「社会と人についての見方」を身につけていきましょう。

〔到達目標〕
DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の到達目標を設定します。
①現代社会のさまざまな現象について、その成り立ちや問題点を理解できるようになる。(DP1、DP3)
②さまざまな資料やデータや文献の見方を学び、自ら調べて確かめる姿勢を身につける。(DP1、DP3)
③現代社会の諸問題について分析するための、基礎的な概念や基本的な理論枠組みを理解し、身につける。(DP1、DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション・授業の説明 （以下の各回のテーマは一例です。その時々の社会情勢や授業の進捗に応じて入れ替わる可能性があります。）	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第２回	現代社会の分析の基礎１ ～社会的行為と社会規範	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第３回	現代社会の分析の基礎２ ～相互行為と社会的協力，コンフリクト	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第４回	現代社会の分析の基礎３ ～社会秩序と社会構造、社会変動	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第５回	現代社会の分析の基礎４ ～さまざまな差別のメカニズム	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第６回	障害者差別と自立生活，ノーマライゼーション	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第７回	性の多様化とジェンダー	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第８回	貧困の連鎖と社会的排除	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第９回	仕事と家庭，ワークライフバランス	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１０回	近代家族と家族の多様化	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１１回	少子高齢化と社会福祉	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１２回	監視社会における自律性，リスク社会と個人化	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１３回	公共性，ボランティア，町内会	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１４回	授業のまとめ 到達度確認テスト	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60

〔授業の方法〕
基本的に講義形式（オンライン）でおこないます。
毎回の最後に、リアクションペーパー（Microsoft Forms によるコメント）を集めます。
リアクションペーパーの提出をもって出席とします。
毎回リアルタイム講義をおこないますが，授業後に授業動画がアップロードされます。
授業動画の視聴による受講も可能です。
講義では学術的な概念を用いるので、適宜簡単な小テストなどをおこなう可能性があります。
進捗と復習の必要に応じて、中間テストなどをおこなう可能性があります。
授業の進捗度やその都度の重要トピックに応じて、各回の内容は変更されることがあります。
テスト（学期末試験，小テスト，中間テストなど）の範囲は，授業で扱った内容全般です。

〔成績評価の方法〕
平常点，小テストや課題、学期末テスト（または到達度確認テスト）から総合的に評価します。
基本的には学期末テスト（または到達度確認テスト）を重視します。テストの出題範囲は授業で扱った内容全般です。
学期末テストは対面で行う予定とします。
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況） 10%，小テストや課題 30%，学期末テスト（または到達度確認テスト） 60%
進捗状況によって，課題や小テストがおこなわれなかった場合や，おこなわれても回数が少なかった場合には，その分

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識はとくに必要ありませんが、社会階層論、労働社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学などについて，また，社会学的な相互行為論（ゴッフマン，ガーフィンケル，シュッツなどの理論）について学んでいると、より理解が深まります。

〔テキスト〕
授業時に資料を配付し、テキストとして使用するほか、適宜授業内で指示します。

〔参考書〕
浜日出夫『戦後日本社会論』有斐閣．（購入の必要なし）
長谷川公一ほか『社会学［新版］』有斐閣．（購入の必要なし）
小林盾ほか『社会学入門』朝倉書店．（購入の必要なし）
本田由紀編『現代社会論』有斐閣．（購入の必要なし）
江原由美子『増補　女性解放という思想』筑摩書房．（購入の必要なし）
E．ゴッフマン『行為と演技』誠信書房．（購入の必要なし）
E．ゴッフマン『スティグマの社会学』せりか書房．（購入の必要なし）
前田泰樹・水川喜文編『エスノメソドロジー』新曜社．（購入の必要なし）
岡田章『ゲーム理論　入門・新版』有斐閣．（購入の必要なし）
など、授業内で随時指定します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業後のリアクションペーパー（forms）で受け付けます。
リアルタイム講義中は Zoom コメント，または音声で受け付けます。
その他の連絡手段はポータルサイト等で周知します。

〔特記事項〕
・初年次教育

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会学入門						
教員名	長谷川　拓人						
科目№	125411150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
当たり前を問い、さまざまな状況について理解することが、社会学の基本的な考え方である。この授業では、コミュニケーションや家族といった日常生活をめぐるトピックや、格差やジェンダーなどの現代社会の重要なテーマを扱いながら、社会への多角的な見方を勉強する。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能の修得）、ＤＰ２（教養の修得）、ＤＰ３（課題の発見と解決に向けた力の修得）を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
・社会学の代表的な理論や基本的な知識を身につける。
・現代社会の諸問題を、社会学の視点から広く捉えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配布資料を読み、理解する。	60
第２回	親密性と公共性	配布資料を読み、理解する。	60
第３回	相互行為と自己	配布資料を読み、理解する。	60
第４回	自殺論	配布資料を読み、理解する。	60
第５回	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	配布資料を読み、理解する。	60
第６回	監獄の誕生	配布資料を読み、理解する。	60
第７回	格差と階層	配布資料を読み、理解する。	60
第８回	逸脱と文化的再生産	配布資料を読み、理解する。	60
第９回	医療・福祉と自己決定	配布資料を読み、理解する。	60
第１０回	国家とグローバリゼーション	配布資料を読み、理解する。	60
第１１回	家族とライフコース	配布資料を読み、理解する。	60
第１２回	ジェンダーとセクシュアリティ	配布資料を読み、理解する。	60
第１３回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、空間と場所	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

〔授業の方法〕
毎回プリントを配布し、必要に応じて、映像やインターネット等を使いながら、講義を行う。授業の中で、課題を行うこともある。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（50%）と平常点（授業中の課題など）（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「現代社会入門」がある。

〔テキスト〕
必要に応じて資料を配布する。

〔参考書〕
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2019，『社会学（新版）』有斐閣．（3500 円＋税、ISBN978-4-641-05389-2） 購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
初年次教育

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	コミュニケーション論入門						
教員名	見城　武秀						
科目№	125411200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
『ドラえもん』に出てくる「ほんやくコンニャク」が欲しいと思ったことはないでしょうか？食べればどんな言葉をしゃべる人とでもコミュニケーションできる「ほんやくコンニャク」は、夢のような道具です。しかも、人工知能や機械翻訳についての研究が急速に進んでいる今、そう遠くない将来実現しそうな道具、部分的にはすでに実現している道具であるようにも思えます。
ところが驚くべきことに、現在のコミュニケーション論に大きな影響をおよぼしている「構造主義」という考え方は、「ほんやくコンニャク」という道具が原理上存在し得ないということを示しました。一体構造主義は、どのような仕方で「ほんやくコンニャクが存在し得ないこと」を示したのでしょう。そもそも構造主義とは、どのような物の見方なのでしょう。また、現在進みつつある機械翻訳研究は無駄な試みなのでしょうか。これらの問いに答えながら、一体コミュニケーションとは何か、多角的に考察していきます。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP2-1（人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまた がる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる）を達成するため、次の３点を到達目標とします。
（1）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解すること。
（2）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解すること。
（3）構造主義的翻訳観と現在の機械翻訳技術の根底にある翻訳観を比較することで、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深めること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。課題文献を読む。	60
第２回	＜モノ語り＞と現代のコミュニケーション	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第３回	“やさしさ”と現代のコミュニケーション	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第４回	“やさしさ”という呪縛	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第５回	大衆社会としての現代とコミュニケーションー現代人の「不安」	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第６回	言葉の「意味」とは何かー言葉と文化の「構造」性	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第７回	構造主義の源流ーソシュールの言語学	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第８回	言語の差異性／恣意性／体系性―構造主義の基礎概念	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第９回	言語は「現実」や「思考」とどのように関係するか	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１０回	「ほんやくコンニャク」があれば本当に「異文化理解」ができるのか？	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１１回	コミュニケーションにとって言語とは何か	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１２回	構造主義以後のコミュニケーション論がかかえる問題	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１３回	機械は言語を「理解」できるのか？	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１４回	まとめ	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。	60

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義形式。毎回、授業内容に関連する課題を出します。

〔成績評価の方法〕

毎回の提出課題に基づく平常点 100%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。
（1）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解しているか。
（2）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解しているか。
（3）講義内容を踏まえ、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深めることができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
多数。授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア論入門						
教員名	西　兼志						
科目№	125411250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、メディアを、「メディエーション（媒介作用、メディア作用）」という観点から捉え返すことで、いまや私たちの環境となっているメディアをより広く理解できるようにしていきます。まず「メディエーション」とは何かを明らかにしたうえで、その観点から、19 世紀のアナログ・メディア革命（日刊紙、写真、映画など）、21 世紀のデジタル・メディア革命（ソーシャル・メディア、コントロール、自動化など）が何をもたらしてきたかを考えていきたいと思います。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定してます：メディア論の基礎となる「メディエーション」概念を理解することで、現代のメディア社会の成り立ちを各々で考えられるようになることを目ざします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第２回	メディエーションとは？	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第３回	「感染」モデルについて	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第４回	「マス・コミュニケーション」モデルについて	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第５回	テレビについて：＜タレント＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第６回	「動物化」について：＜キャラ＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第７回	「推し」について：＜アイドル＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第８回	「コントロール社会」について（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第９回	「コントロール社会」について（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１０回	「自動化」について（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１１回	「自動化」について（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１２回	「伝達」について（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１３回	「伝達」について（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
提出されたリアクション・ペーパーは、毎回できるかぎり取りあげ、講義に組み込んでいきます。
CoursePower にアップロードした資料のアクセスは、出席にあたって必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕
授業への参加（≠出席）＝50%、リアクション・ペーパーの内容（≠投稿）＝50%
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・授業で取り上げた各メディアの特質を理解できているか。
・授業で参照したメディア論の古典的なテクストをきちんと理解できているか。
・各自にとって身近なメディア現象を、メディア論の観点から位置づけられているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕
CoursePower を通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.
『アイドル/メディア論講義』東京大学出版会、2017.
その他、授業中に随時、指示します。
CoursePower にアップロードした資料のアクセスは出席にあたって必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会学史						
教員名	渡辺　彰規						
科目№	125411500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
理論研究分野を中心に取り上げ、社会学を学んでいくために必須となる基本的な考え方や理念、基礎概念を社会学史的な視点から習得することを目的とする。具体的には、(1) 先ずは、＜社会＞の不思議さが発見された近代初頭にさかのぼって、発見の驚きを追体験する、(2) その上で、社会学が編み出してきた幾つかのメソッドに基づいて、＜社会＞の不思議に迫ることにしたい。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）・DP2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①社会学の主要な概念と理論を修得する。
②さまざまな学説を社会学全体の流れの中で位置づけ、その特徴と意義を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する	シラバスを読み、講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	近代の成立と社会学の誕生	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第３回	社会学のはじまり、近代社会への接近（１）コント：近代社会の解剖	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第４回	社会学のはじまり、近代社会への接近（２）トクヴィル：近代人のアイデンティティ	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第５回	社会学のはじまり、近代社会への接近（３）マルクス：資本主義社会の構造	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第６回	社会学の方法（１）デュルケム：『自殺論』	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第７回	社会学の方法（２）デュルケム：社会的事実	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第８回	社会学の方法（３）ウェーバー：「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第９回	社会学の方法（４）ウェーバー：支配の社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１０回	社会学の発展（１）パーソンズ：社会学とは何か	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１１回	社会学の発展（２）マートン：中範囲の理論	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１２回	社会学の発展（３）ゴッフマン：ミクロ社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１３回	社会学の発展（４）ガーフィンケル：エスノメソドロジー	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１４回	全体のとりまとめ ・これまで学んだ社会学の歴史を振り返りながら、社会と社会学の関係を考察する	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式。授業内容への理解度を確認するためにリアクションペーパーの提出を求めます。小テストと学期末試験あり。

〔成績評価の方法〕
小テスト 50%＋学期末試験 50%で評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・社会学の大まかな歴史について、基礎的な知識を修得しているか
・特定の理論・概念を社会学史全体の流れの中で位置づけ、その特徴や意義を理解しているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現代社会学科の 1 年生必修科目（現代社会入門・社会学入門・コミュニケーション論入門など）や 2 年生演習科目の内容を身につけておくと、授業内容を理解しやすいと思います。

〔テキスト〕

〔参考書〕
『社会学の歴史Ⅰ』奥村隆著、有斐閣、1900 円＋税、ISBN-10: 4641220395
『クロニクル社会学』那須壽著、有斐閣、2100 円＋税、ISBN-10: 4641120412
『社会学用語図鑑』田中正人・香月孝史、1800 円＋税、ISBN-10: 4833423111
『よくわかる社会学史』早川洋行編著、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN:9784623059904
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア史入門						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125411650	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、さまざまなメディアの歴史を一つひとつ丹念に読み解きながら、メディアそのものの独自性に固執することなく、むしろそのメディアを取り囲んでいる社会的な文脈にこそ目を向け、日本社会の歴史的な動向を把握していくことにしたい。さまざまなメディアがどのような社会のなかでどのように創出されてきたのか。また、メディアはどのような社会的現象を創出してきたのか。このような問いに取り組んでいく。そして、歴史資料を読み解くなかで、メディアが、階級、ジェンダーなどの社会的カテゴリーを創出するプロセスを把握する。また、同時に、そのような社会的カテゴリーの生成とともに新たなメディアが生み出されるプロセスをとらえる。このような作業を繰り返すことによって、メディアは決して社会と切り離された存在ではないことを確認し、メディアというフィルターを通して社会そのものを読み解いていきたい。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２（教養の修得）、ＤＰ３（課題の発見と解決）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
社会の「常識」や、社会現象やメディアの定型的な語りから脱し、さまざまな視点から社会現象やメディアを捉えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	少年少女雑誌と「少年」「少女」はどのように生まれてどのように変遷したのか	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第２回	子どものメディアから「少年」のメディアへ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第３回	子どものメディアから「少年」のメディアへ（２） 「少年」のメディアから「少年」「少女」のメディアへ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第４回	「少年」のメディアから「少年」「少女」のメディアへ（１） 大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第５回	大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第６回	大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（３） 新体詩の名手と口語詩の名手（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第７回	新体詩の名手と口語詩の名手（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第８回	新体詩の名手と口語詩の名手（３） 少女雑誌のアイドルと少年雑誌のアイドルの不在（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第９回	少女雑誌のアイドルと少年雑誌のアイドルの不在（２） あこがれの才色兼備のお嬢さま（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１０回	あこがれの才色兼備のお嬢さま（２） 完全無欠の英雄（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１１回	完全無欠の英雄（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１２回	完全無欠の英雄（３） 都市新中間層の「少年」「少女」からあらゆる階層の「少年」「少女」へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１３回	都市新中間層の「少年」「少女」からあらゆる階層の「少年」「少女」へ（１） 「少年」「少女」から少国民へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１４回	「少年」「少女」から少国民へ（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90

〔授業の方法〕
講義形式。

〔成績評価の方法〕

授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。

〔参考書〕
とくに指定しない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	家族社会学						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125431100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本講義のテーマは、家族をめぐる過去・現在・未来における諸問題を理解することにある。
ごく自然な存在として理解されている、両親と子どもを中心とした家族は、戦後の日本社会において確立した制度であり、決して自明なものでも古来からの伝統でもない。本講義では、私たちが自然に感じる「家族」がいかにして形作られ、自然化していったかを産業化の過程を踏まえて議論し、またその家族が現在どのような危機を迎えているかを議論する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、家族社会学における「家族」のとらえ方やその社会的機能について理解できるようになるとともに、現在の家族を取り巻く諸問題を把握し、その実践的な対応策を構想することができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	【家族とは何か 1〜2】 イントロダクション：なぜ家族を考えるのか？	【復習】講義で指定した課題の実施（家族へのヒヤリング）	90
第２回	ファミリー・アイデンティティと家族類型：家族を主観的に捉える	【予習】自身と家族の家族観を把握する 【復習】講義での知見を踏まえ、家族と家族イメージについて議論する	90
第３回	【近代家族の成立 3〜5】 近代家族の成立 1：ロマンティックラブという考え方	【予習】参考文献 1 第 2 章を読む 【復習】参考文献 1 第 2 章を再読する	90
第４回	近代家族の成立 2：主婦の登場と性別役割分業の明確化、母性神話の構築	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第５回	近代家族の成立 3：産業革命と産業構造の変化	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第６回	【日本における戦後家族モデルの形成と解体 6〜8】 戦後家族モデルの形成：「家」制度の近代における読み替えと男性稼ぎ手ー主婦モデルの形成	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第７回	戦後家族モデルの揺らぎ：安定成長期における家族	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第８回	戦後家族モデルの解体：経済不況期における家族の機能不全	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第９回	【現代の家族をめぐる諸問題 9〜14】 配偶者選択と未婚化	【予習】『厚生労働白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第１０回	家族形成の国際比較、家族形成の諸問題	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１１回	妊娠、出産、子育ての現在	【予習】『少子化社会対策白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第１２回	家族の暗部	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１３回	グローバル化と家族	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１４回	家族の可能性、講義のまとめ	【復習】すべての配布資料を再読する	120

〔授業の方法〕
講義形式で行う。家族は私たちにとってもっとも身近な領域であり、相対化が難しい領域でもある。そこで、画像資料や映像資料などももちいて講義する。また、一部の課題では自身の家族や身近な人への聞き取りも行う。

〔成績評価の方法〕
小レポート（50%）とテークホーム試験（50%）によって行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「ライフコース論」（2 年次以降に履修可能）を履修するとより理解が深まる。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介する。いずれも購入の必要はない。
1. 岩間暁子・大和礼子・田間泰子『問いからはじめる家族社会学−多様化する家族の包摂に向けて　改訂版』有斐閣、2022 年。
2. 野沢雍彦『データで読む平成期の家族問題−四半世紀で昭和とどう変わったか』朝日新聞出版、2014 年。
3. 筒井淳也『仕事と家族― 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中央公論新社、2015 年。
4. 前田正子・安藤道人『母の壁―子育てを追いつめる重荷の正体』岩波書店、2023 年。
上記に加えて、関連する白書（いずれも下記 WEB ページから参照可能）、および、国立社会保障・人口問題研究所（{http://www.ipss.go.jp/}）にて公表されている各種データや報告書を参考にすることが望ましい。
厚生労働省『厚生労働白書』：{http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/}
内閣府共生社会政策統括官→こども家庭庁『少子化社会対策白書』：{https://www.cfa.go.jp/resources/white-paper/}
内閣府共生社会政策統括官『高齢社会白書』：{http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html}

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ＩＣＴ活用

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	都市社会学						
教員名	堀江　和正						
科目№	125431150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
多くの人やモノ、施設、情報が集まる都市は、人々を強く惹きつける魅力を持つとともに、さまざまな社会的課題が表出する場ともなってきました。この授業では、都市の魅力と課題を探究してきた都市社会学の基本的な概念や理論、知見を学びます。また、現代の都市をめぐる具体的な問題について検討することで、日常生活の舞台としての都市を分析するための力を身につけます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①都市社会学の基本的な知識を習得する。
②具体的な都市的現象・問題について、授業で学んだ内容を踏まえ考えを示せる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	都市とは何か	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第３回	都市社会学の始まり：シカゴ学派	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第４回	都市らしさをめぐって：アーバニズム理論からの展開	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第５回	情報化・グローバル化時代の都市社会学理論	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第６回	都市形成の歴史と理論（1）	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第７回	都市形成の歴史と理論（2）	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第８回	都市のインフラと社会的資源（1）	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第９回	都市のインフラと社会的資源（2）	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第１０回	グローバル化と都市地域社会	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第１１回	高齢化と都市地域社会	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第１２回	都市と社会的不平等	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第１３回	都市社会調査の方法	【復習】前回授業で提示した資料をもとに復習をする。	60
第１４回	全体のまとめ	【復習】これまでの授業で提示した資料をもとに復習をする。	90

〔授業の方法〕
講義形式による授業です。毎回、リアクションペーパーまたは授業内課題を設けます。
課題レポートを 2 回出題します。授業内容を理解できているか、具体的な都市をめぐる経験・現象に結びつけて考察ができるかどうかを評価の視点とします。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパー・授業内課題）30%、課題レポート（2 回）70%により評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・都市社会学の基本的な概念と理論を身につけ、説明できる。
・具体的な都市的現象・問題について、授業で学んだ内容を踏まえ考えを示せる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『都市社会学・入門 改訂版』、松本康編、有斐閣、2022 年、2100 円＋税、ISBN: 9784641222076
『よくわかる都市社会学』、中筋直哉・五十嵐泰正編、ミネルヴァ書房、2013 年、2800 円＋税、ISBN: 9784623065059
いずれも購入の必要なし。その他、授業内で適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会心理学						
教員名	李　ウェンウェン						
科目№	125431200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
なぜ多くの人は恋愛や結婚をするのでしょうか. なぜ人は美しさに投資するのでしょうか. 人びとはどのように幸せをみつけるので しょうか. この授業では, そうした人びとの心理が, どのようなメカニズムをもつのかを考えます. そのために, 恋愛と結婚, 家族関係, 美容, 幸せ, 食事, 仕事など, さまざまな身近なトピックをとりあげ, 国際的な視点も取り入れつつ分析します. グループでフィールドワークやインタビューを行い, グループプレゼンテーションが中心となって進みます.

〔到達目標〕
DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため, 次の 3 点を到達目標とします.
(1)社会心理にかんする重要な考え方を身につけ, メカニズムを説明できる.
(2)フィールドワークやインタビューを通して, 本格的な研究メソッドを使いこなすことができる.
(3)人びとの喜びや希望, ときには不安や痛みに寄りそうことで, だれにもやさしく温かい, 本当の意味で豊かな社会を構想できる.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	担当教員が初回授業時に説明します	60
第２回	家族関係の国際比較：個人の考え方を左右する社会文化	担当教員が初回授業時に説明します	60
第３回	幸福度の国際比較：幸福度にも地域性？	担当教員が初回授業時に説明します	60
第４回	働き方の国際比較：日本人は働きすぎ？	担当教員が初回授業時に説明します	60
第５回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第６回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第７回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第８回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第９回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１０回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１１回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１２回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１３回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１４回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60

〔授業の方法〕
講義, ディスカッション, グループワーク, プレゼンテーションも行われます

〔成績評価の方法〕
平常点(授業への参加状況, 宿題の提出状況, ディスカッション, グループワーク, プレゼンテーション)50%, 成果物(宿題レポート, 到達度確認テストなど)50%による総合評価

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
社会学的思考力を身につけているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし

〔テキスト〕
初回授業時に説明します

〔参考書〕
『変貌する恋愛と結婚』，小林盾他編，新曜社(購入の必要なし)
『美容資本』，小林盾，勁草書房(購入の必要なし)
『嗜好品の社会学』，小林盾編，東京大学出版会(購入の必要なし)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	歴史と社会						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125431250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕

本講義の目的は、誰もが経験しているジェンダー、家族、教育を切り口にして、それらを取り巻く社会全体の歴史をとらえなおすことである。わたしたちは、ジェンダー、家族、教育にかんして、固定的なイメージを抱きやすい。たとえば、「男は仕事、女は家事・育児・介護をするべきである」、「教育はもっぱら学校で行われるべきである」、「家族はお互いに愛情を持って接するべきである」、「子どもはかわいがるべきである」などというイメージを持ちやすい。このようなイメージは、わたしたちにとっては、もはや「常識」となっているきらいもある。しかしながら、このようなイメージのほとんどは近代以降に生まれたものである。つまり、「常識」でも、「当たり前のこと」でもないのである。

本講義では、ジェンダー、家族、教育の歴史を学びながら、これらのステレオタイプ化されたイメージを疑っていくことにしたい。そして、わたしたちの「常識」を疑っていくことにしたい。その上で、ジェンダー、家族、教育とは何か、という問いに、取り組んでいくことにしたい。

〔到達目標〕

ＤＰ１（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。
ジェンダー、家族、教育という身近なものの歴史を社会全体の歴史と関連させて考えることができるようになる。
社会に関する固定的なイメージにとらわれず、より広い視点からそれらを把握できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「ジェンダー」の視点から歴史を見るとはどのようなことか	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第２回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（１） ――「主婦」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（２） ――「主婦」の誕生（２）、日本の「主婦」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第４回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（３） ――日本の「主婦」の誕生（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（４） ――日本の「主婦」の誕生（３）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（４） ――日本の「主婦」の誕生（３） 家族の歴史（１） ――「近代家族」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	家族の歴史（２） ――「近代家族」の誕生（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第８回	家族の歴史（３） ――「近代家族」の誕生（３）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	家族の歴史（４） ――「近代家族」の誕生（４）、日本の「近代家族」の誕生 「子ども」の歴史（１） ――「子ども」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	「子ども」の歴史（２） ――「子ども」の誕生（２）、「母性愛」の誕生	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	「子ども」の歴史（３） ――「子ども」の誕生（３）、現代日本社会の「子ども」をめぐる問題	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１２回	「子ども」の歴史（４） ――「子ども」の誕生（４）、現代日本社会の「子ども」をめぐる問題 日本社会と子どもの教育の歴史（１） ――江戸後期の社会と子どもの教育（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１３回	日本社会と子どもの教育の歴史（２） ――江戸後期の社会と子どもの教育（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１４回	日本社会と子どもの教育の歴史（３） ――江戸後期の社会と子どもの教育（３） 日本社会と子どもの教育の歴史（４）――明治以降の社会と子どもの教育	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

〔授業の方法〕

講義形式。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ジェンダーの社会学						
教員名	坪田　美貴						
科目№	125431300	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この講義では「ジェンダー」という視点から、社会の様々な側面を読みといていきます。
私たちは無意識のうちにジェンダーの視点で社会を理解し、社会が求めるジェンダー規範に沿って生きています。つまりジェンダーは私たちのアイデンティティと深く根付いています。
そのため、目の前で起きている事柄を「当たり前」だと感じ、「当たり前でない」可能性について考えにくくなっています。
そこでこの講義ではテーマ別に「当たり前」で「普通」であると考えてきた事柄を取り上げ、それをこれまでとは違う側面（ジェンダーの視点）から見てみることで、どういうジェンダー問題であるのか、それが自分にとってどのような意味をもっているのかを考えていきたいと思います。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、ジェンダーをキーワードに、社会を理解し、説明できるようになる。
自分や身の回りの人のふるまい方や考え方について、ジェンダーを切り口に理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション： フェミニズムからジェンダーへ	【復習】配布プリントを読み直す	60
第２回	近代家族の成立	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第３回	戦後の社会制度と家族	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第４回	教育	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第５回	言語と映像	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第６回	男らしさと男の生きづらさ	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第７回	性を考える	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第８回	セクシュアルマイノリティの権利	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第９回	法	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１０回	セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１１回	生殖補助医療	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１２回	開発	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１３回	国際移動	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１４回	災害	【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式です。人数にもよりますが、グループディスカッションを行う回が設けられることもあります。
予習として、参考資料（映像資料を含む）に必ず目を通してきてください。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）50%、学期末レポート 50%。
学期末レポートは、内容だけでなく、レポートとしての形式を整えていることも重要です。形式については授業内で提示します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に必要なし。毎回 course power を通じてレジュメおよび参考資料を配信します。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013。
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後およびポータルサイトにて受付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	労働社会学						
教員名	森山　智彦						
科目№	125431350	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、労働社会学の入門的講義を行います。

今日の日本社会では、仕事をして報酬を得ることが、生きる糧を得るための主な手段となっています。その中心は、企業などで雇われて働く雇用労働です。

この授業では、日本的な働き方の仕組みの特徴と利点、問題点を理解することを目的とします。理解にあたっては、家族や福祉などの他の諸制度と関連づけながら、海外との比較や歴史的視点も交えて解説します。

また、キャリア形成、ワークライフバランスなど大学生にとって関心の高いトピックに加えて、外国人労働者との共生、AI 等による雇用危機の可能性といった最新の動向も扱う予定です。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標を設定します。

(1)働き方に関する様々なトピックや問題について、背後にある社会構造を理解し、自分なりの考えを整理できるようにします。(DP1、DP2、DP3)

(2)働き方の仕組みや問題点について、労働者個人だけでなく企業や社会制度といった多角的な視点から考察することで、社会科学的にバランスの取れた視点を身につけます。(DP1、DP2、DP3)

(3)さまざまな資料やデータ、文献の見方を学び、自ら調べて確かめる方法と姿勢を身につけます。(DP3)

(4)これから生きていく中で、自分自身が、仕事と生活をめぐる問題に直面した時に、冷静に問題に対処できるよう、労働をめぐる法律や権利などの実践的知識を習得します。(DP1、DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ＝＝＝＝＝＝＝＝ 授業全体の内容や進め方を説明し、参考資料などを紹介します。 （授業内容は、そのときどきの労働をめぐる社会的論点や授業の進捗によって変わることがあります。）	【復習】授業内容の振り返り。	60
第２回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　1 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方は他の国から見ると非常にユニークなものです。その根本的な特徴と仕組み（日本的雇用システム）について、海外との比較を交えて学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第３回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　2 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 前回に続き、日本的雇用システムの特徴に焦点を当て、日本の企業がどのようにして、正社員の仕事経験がない若者を、目標に貢献できる人材に育てているかを説明します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第４回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　3 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の昨今の変化（多様化）について解説します。また、日本的な働き方と人生設計との関係を理解するため、日本的雇用システムと福祉制度の関連を学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第５回	キャリア形成１：新卒一括採用の是非を考える ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の下でどのようにキャリアが形成されるかを学びます。まずはその入り口である新卒一括採用制度の導入の経緯と長所・短所を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第６回	キャリア形成２：どのように仕事を覚えていくのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的雇用システム下のキャリア形成について、職場等で教育訓練がどのように行われ、職業経験のない若者が仕事に必要な能力をどのように身につけていくかを学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第７回	中間試験	【予習】中間試験のための学習。 【復習】中間試験の振り返り。	60
第８回	長時間労働は誰の責任か ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の中で、大きな問題となっているのが長時間労働です。その発生原因について、雇用システム、企業、個人など多角的な視点から迫ります。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第９回	非正規雇用の問題は解消すべきなのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 格差問題の大きな要因としてしばしば採り上げられる非正規雇用の問題について、歴史的な流れや背景、問題点を検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１０回	昇進と職務のジェンダー格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 働き方のジェンダー格差について、賃金や昇進、職務に焦点を当てて解説します。また、昨今の政策的対応について、賛成と反対の両方の立場から考察することで、解消策を検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１１回	ワークライフバランス実現のために ＝＝＝＝＝＝＝＝ ワークライフバランス（WLB）の考え方は一般的に広まっていますが、その実現には様々なハードルがあります。この回で	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60

	は WLB を規定する社会的な背景、制度、職場の問題を解説します。		
第１２回	男性の育児・介護休暇 ＝＝＝＝＝＝＝＝ WLB の議論は、子育て中心の議論から介護問題にまで拡大し、男性の育休取得の議論も盛んに行われています。このような昨今の展開と残る問題点について学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１３回	外国人との共生を考える ＝＝＝＝＝＝＝＝ グローバル化や人口減少により、日本でも海外からの労働者の受け入れが徐々に進んできました。外国出身の労働者と日本人が共存して働く中でどのような問題が生じているのかを学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１４回	技術革新は仕事を奪うのか、補うのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ AI などの自動化技術やロボットの発達により、仕事が奪われるかもしれないという議論が盛んに行われています。こうした技術の発達によって、日本的な働き方にどのような変化が生じ得るかを検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60

〔授業の方法〕
本講義は、主に資料（パワーポイント）によって進めながら、Forms 等を活用したフィードバックを適宜導入します。なお、授業の進捗度によって、内容を変更することがあります。

〔成績評価の方法〕
中間試験（４０％）＋期末試験（６０％）
ただし、合計が 60 点未満の場合、平常点を上限 20 点で加算します（加算後の合計点は 60 点になります）。
平常点は、授業時間内に行う課題の提出状況を評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は特に必要ありませんが、社会階層論、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前または並行して学ぶと、より理解が深まります。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学：変貌する働き方』有斐閣ブックス.
上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房.
小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充『産業・労働社会学：「働くこと」を社会学する』有斐閣アルマ.
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ.
西村純子・池田心豪編著（2023）『社会学で考えるライフ＆キャリア』中央経済社.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問は授業終了後に教室で受け付ける他、メールでも受けつけます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アイデンティティの社会学						
教員名	神谷　悠介						
科目№	125431400	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕

ファミリー・アイデンティティ研究において家族のありようは時代や社会によって大きく変貌を遂げることが明らかにされてきた。その成果の一つとして、近代家族論が挙げられる。近代家族とは、近代化のプロセスにおいて成立した歴史的に固有の家族である。近代家族において男性は仕事、女性は家事育児という性別役割分業が行われる。

しかし、近代家族は近年の社会構造の進展に伴って変容しつつある。国内では、共働き家族が増大する中で、ワークライフバランスをいかに実現するかが社会的な課題となっている。他方、未婚化や非婚化によって従来自明視されてきた結婚は揺らぎつつある。世界的なトレンドとしては、家族のグローバル化が進行している。すなわち、女性の社会進出が進む中で、子育てや家事の担い手が不足する「ケアの危機」が生じたため、先進国と発展途上国の経済格差を背景に、外国人家事労働者の雇用が急速に拡大している。

この他にもセクシュアリティやイノベーションの観点から見逃せない動向がある。先進国を中心に、同性愛者の解放運動の展開に伴い、同性パートナーシップが公的に承認されるようになり、多くの国で同性婚やパートナーシップ制度が成立してきた。また、遺伝子操作や生殖補助医療の新技術によって家族に関する従来の常識が揺らぐとともに、これらの新技術の商業化に対して倫理や安全性の観点から批判の声も上がっている。

以上を踏まえ、本講義では、近代家族の成立および変容を歴史的に考察した上で、現代のファミリー・アイデンティティに関する諸問題を多角的に検討する。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野に関する知識・技能）、DP1-3（現代社会を理解するための基本的枠組み）を実現するため、以下の三点を到達目標とする。
①社会学の主要な理論と方法を踏まえて、ファミリー・アイデンティティのありようを考察する
②ファミリー・アイデンティティに関する諸問題をジェンダー・セクシュアリティ・階層・人種・民族・国籍などの観点から検討する
③家族のありようを政治・経済・文化などの領域と関連付けることで幅広い教養および専門性を習得する

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】アイデンティティの社会学のアプローチを整理しておく。 【復習】アイデンティティの社会学の主要概念を押さえておく。	60
第２回	映画を通してみる親密な関係性	【予習】映画を研究するアプローチを整理しておく。 【復習】歴史的変容の視点から性的マイノリティと家族に関する課題を押さえておく。	60
第３回	前近代の恋愛と結婚	【予習】近代以前の上流階級においてモデル化された中世宮廷恋愛の特徴を整理しておく。 【復習】政略結婚の具体的イメージを押さえておく。	60
第４回	近代の恋愛と結婚	【予習】近代化のプロセスにおいて普及するロマンティック・ラブの特徴を整理しておく。 【復習】ロマンティック・ラブが広がった背景について中産階級の動向を踏まえて考察しておく。	60
第５回	現代の恋愛と結婚	【予習】近年広がりつつある純粋な関係性の概念を整理しておく。 【復習】純粋な関係性が広がった背景について女性の地位の変化に注目しながら考察しておく。	60
第６回	家族と恋愛の日米比較	【予習】日米の歴史的背景の差異を踏まえて、職業生活と家族生活を捉える枠組みを理解しておく。 【復習】ワークライフバランスとダイバーシティのアプローチを整理しておく。	60
第７回	グローバル化する家族	【予習】関心のある国・地域を取り上げて、家事労働の市場化の実態を整理しておく。 【復習】外国人家事労働者の雇用が広がる背景を押さえておく。	60
第８回	遺伝子ビジネスとデザイナー・ベビー	【予習】遺伝子操作と家族をめぐる論点を整理しておく。 【復習】デザイナー・ベビーの倫理性と安全性に関する課題を押さえておく。	60
第９回	グローバリゼーションと商業的代理出産	【予習】生殖補助医療と家族に関する課題を整理しておく。 【復習】商業的代理出産の倫理性と安全性に関する課題を押さえておく。	60
第１０回	テレビドラマで読み解く恋愛、家族、仕事	【予習】テレビドラマの特徴や制作手法は、全国ネットワーク（地上波）、ケーブルテレビ、ストリーミング（配信）でどのように異なるのかを整理しておく。 【復習】『逃げるは恥だが役に立つ』『おっさんずラブ』『隣の家族は青く見える』『ルッキング』など国内外のテレビドラマを比較し、作品における恋愛、家族、仕事のあり方を考察する。	60
第１１回	ワークライフバランスとは何か	【予習】ワークライフバランスに関してジェンダー平等、労働環境改善、経営戦略、少子化対策の４つの立場があることを押さえておく。 【復習】ファミリーフレンドリーからワークライフバランスへの転換が生じた社会的背景を整理しておく。	60

第１２回	家計管理と夫婦関係	【予習】夫婦間の共通の財布の有無や管理方法などに注目する家計組織アプローチを整理しておく。 【復習】家計組織タイプごとの夫婦の特徴を押さえた上で、同性カップルへの応用可能性を検討しておく。	60
第１３回	ダイバーシティとは何か	【予習】マイクロアグレッション、マイノリティ・ストレス、インターセクショナリティなどダイバーシティに関連する用語を整理しておく。 【復習】人種が社会的に構築された概念であることを理解しておく。	60
第１４回	家族の多様性とセクシュアリティの多様性	【予習】家族の多様性について、パートナーシップ制度、同性婚、カップルの暮らしに関する資料を確認しておく。 【復習】時代や社会によって家族のあり方がどのように変化するのかを整理した上で、多様な家族を支える社会制度に関する複数のアプローチを確認する。	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式で進めます。本科目では、アイデンティティの社会学におけるこれまでの研究を踏まえて、統計資料やインタビュー資料などをもとに講義を行います。さらに、本科目のテーマに関する具体的なイメージを持てるよう、ドキュメンタリー作品や映画、テレビドラマを鑑賞します。必要に応じて授業のテーマに関連した課題を教科書をもとに出題します。課題に取り組む際に、内容に関する疑問点や、議論したい論点がある場合は、提示して下さい。教員からフィードバックを行います。
本科目では、授業で資料を用いる際には、Course Power にて事前に配信します。紙媒体が必要な受講者は事前に印刷して下さい。課題がある場合は、Course Power でお知らせしますので、毎週確認するようにして下さい。

〔成績評価の方法〕
平常点（30%）、課題（70%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度によって評価する。
・授業や資料の文脈に沿った考察ができる
・課題内容に論理的整合性がある
・独自の見解を提示している

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目：社会学入門、メディア論入門、家族社会学、労働社会学、ジェンダーの社会学、社会階層論、ライフコースの社会学、文化社会学、人権とジェンダー、芸術への招待、メディアとアート、映像メディア論、上演芸術論、メディア文化論、サブカルチャー論

〔テキスト〕
教科書については、参考書の欄を参照して下さい。

〔参考書〕
神谷悠介『ワークライフバランスとダイバーシティ』スカイ・パブリッシング　3400 円
神谷悠介『映画で見つめるモダニティ』スカイ・パブリッシング　5400 円
教科書として使用する電子書籍です。
購入する必要があるため、利用方法は初回の授業で提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	コミュニティの社会学						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125431450	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、社会学の視点からコミュニティについて議論する。
コミュニティは社会学のなかでももっとも古い概念であると同時に、現代社会の政治、経済、社会、文化のあらゆる側面において重視されている概念でもある。この講義では、コミュニティという概念の展開について議論するとともに、その概念がなぜこれほどまでに多様に、かつ、ときに無思慮にもちいられてきたかを議論する。また、近年注目されている社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の議論を整理し、流動する社会におけるネットワークとコミュニティの関係について整理する。その上で、現代のコミュニティが直面する問題について、身近な具体的例を取り上げて論じる。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、社会学におけるコミュニティという考え方の意義とその難しさについて理解できるとともに、現代社会においてコミュニティが、そしてそのコミュニティに生きる人々が直面する問題について理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：なぜ今、コミュニティを議論するのか	【復習】配布資料を読み直す	90
第２回	コミュニティ概念 1：コミュニティは伝統か	【予習】自分が「コミュニティ」だと思うもののリストを作成する 【復習】配布資料を読み直す	90
第３回	コミュニティ概念 2：都市化と人のつながり	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第４回	Social Netowrk1：弱い紐帯の強さ	【予習】配布資料を読む、ネットワーク課題に回答する 【復習】配布資料を読み直す	90
第５回	Social Netowrk2：ネットワーク分析の現在	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第６回	Social Netowrk3：ネットワークとその問題性	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第７回	社会関係資本 1：概念と展開	【予習】参考資料 4 の一部を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第８回	社会関係資本 2：なぜ効力を持つのか	【予習】社会関係資本をどうすれば測定できるか考える 【復習】配布資料を読み直す	90
第９回	日本の地域コミュニティ	【予習】自分自身が居住する地域の地域団体（町内会、自治会）を把握する 【復習】配布資料を読み直す	90
第１０回	商店街の衰退と新しいコミュニティ	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１１回	コミュニティ行政、監視社会	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１２回	コミュニティをつくる／を活用する	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１３回	IT、アイデンティティとコミュニティ	【予習】配布資料 2 を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１４回	コミュニティとコミュニケーション、講義のまとめ	【予習】配布資料を読む 【復】すべての配布資料を読み直す	120

〔授業の方法〕
講義形式で行う。

〔成績評価の方法〕
期末レポート（90%）、平常点（クラスアンケート、10%）によって行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「都市社会学」、「ボランティア・NPO の社会学」、「コミュニティ演習」などが関連科目として想定される。

〔テキスト〕
とくに指定しない。

〔参考書〕
以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介し、配布する。いずれも購入の必要はない。
1. 船津衛・浅川達人『現代コミュニティとは何か―「現代コミュニティの社会学」入門』、恒星社厚生閣、2014 年。
2. デランティ『コミュニティ-グローバル化と社会理論の変容』、NTT 出版、2006 年。
3. 野沢慎司『リーディングス　ネットワーク論-家族・コミュニティ・社会関係資本』、勁草書房、2006 年。
4. パットナム『孤独なボーリング-米国コミュニティの崩壊と再生』、柏書房、2006 年。
5. 祐成保志・武田俊輔『コミュニティの社会学』有斐閣、2023 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ＩＣＴ活用

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	生活文化史						
教員名	鈴木　禎宏						
科目№	125431500	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
〈茶の湯の歴史〉
「茶」という観点から日本の生活文化の歴史について、通史的な理解を得ることを目的とする。扱う時代はおよそ平安時代から江戸時代末まで。扱う対象は喫茶の文化、およびそれに付随する道具、建築、食とする。

〔到達目標〕
人文・社会科学を中心に基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができるようになることを目的とする。具体的には、ふだん当たり前に受け止めているライフスタイルや日常の文化を、意識化できるようになる。そして自ら調べて考え、その対象がどのような歴史的な経緯を経て成立したかを理解する。自らが生活文化の担い手であることを自覚できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	シラバスの説明。寝殿造り　（教科書　前書き、1 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第２回	茶の文化の成立　　（教科書　2 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第３回	南北朝時代の美意識　　（教科書 3 章 39-48、6 章 82-91）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第４回	料理文化の系譜(1)、寝殿造り（教科書 1 章）（教科書 12 章 174-178 頁）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第５回	書院の茶の湯　　（教科書　4 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第６回	飾り：いけばなと唐物　（教科書　5 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第７回	わび茶の成立　　（教科書　6 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第８回	千利休と桃山文化　　（教科書　7 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第９回	茶室の世界　（教科書　8 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１０回	茶室の世界(2)　（教科書　8 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１１回	料理文化の系譜(2)　　（教科書 12 章 178 頁以降）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１２回	桂離宮と寛永文化；楽、織部、遠州、仁清、（乾山）（教科書 9 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１３回	遠州、松平不昧と「大名物」（教科書　10 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１４回	町人文化と遊芸、井伊直弼、煎茶（教科書 11 章） まとめ　生活の芸術化／芸術の生活化（教科書　1 章）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60

〔授業の方法〕
講義形式。
毎回授業後に短いコメントを書いてもらい、理解の程度を確認する。（コメント入力は出席確認を兼ねる）

〔成績評価の方法〕
授業毎のコメント（30%）、課題レポート 70%とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・授業内容（ライフスタイルや日常の文化の成り立ちやその内実について）理解を深められているか。
・授業内容を自己の問題意識にひきつけ、発展的な学びに結び付けられているか。
・自己の認識や価値判断を相対化することができているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
熊倉功夫『茶の湯と生け花の歴史』左右社､2012 年。（ISBN-10 ： 4903500101）（1,885 円）

〔参考書〕
・　中村修也監修『よくわかる伝統文化の歴史①　花ひらく王朝文化　平安・鎌倉時代』；『よくわかる伝統文化の歴史②　茶道・香道・華道と水墨画　室町時代』；『よくわかる伝統文化の歴史③　黄金文化と茶の湯　安土桃山時代』；『よくわかる伝統文化の歴史④　大名と町衆の文化　江戸時代』；『よくわかる伝統文化の歴史⑤　文明開化の日本改造　明治・大正時代』淡交社、2006-2007 年。
・ 島尾新『「和漢のさかいをまぎらかす」　茶の湯の理念と日本文化』淡交社、2013 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
CoursePower の「Q&A」で受け付けます。
また、授業終了後に教室で受け付けます。
公欠の申請は CoursePower の「Q&A」でお知らせください。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	教育社会学						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125431550	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、教育社会学の「ジェンダーと教育」について学んでいく。現代社会における学校教育という営みについて考えるとき、それを取り巻く社会構造を無視することはできない。現代社会においてはジェンダー、社会階層による社会的格差が存在する。そして、そのような社会的格差はなくならないどころか、ますます拡大しているといわれている。社会的格差と学校教育はどのように関連しているのだろうか。本講義では社会問題と教育問題の関連を解き明かしていく。そして現代社会における「教育」という営みについてもう一度考え直していく。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
ジェンダー、社会階層が学校教育を通して再生産されるプロセスをとらえられるようになる。
学校教育をとおして社会の構造について考えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「ジェンダーと教育」とは何か ――フェミニズムとジェンダー	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第２回	「教育社会学」とは何か（１） ――機能主義理論、タルコット・パーソンズの理論	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	「教育社会学」とは何か（２） ――葛藤理論①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第４回	「教育社会学」とは何か（３） ――葛藤理論②、ランドル・コリンズの理論、ピエール・ブルデューの理論	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	「教育社会学」とは何か（４） ――葛藤理論③、ピエール・ブルデューの理論①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	「教育社会学」とは何か（５） ――葛藤理論④、ピエール・ブルデューの理論②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	「教育社会学」とは何か（５） ――葛藤理論⑤、ピエール・ブルデューの理論③	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第８回	「教育社会学」とは何か（６） ――日本社会はメリトクラシー社会なのか①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	「教育社会学」とは何か（７） ――日本社会はメリトクラシー社会なのか②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	進学・労働とジェンダー（１） ――最新のデータにおける進学・労働の男女差、進学の男女差①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	進学・労働とジェンダー（２） ――進学の男女差②、専攻分野の男女差①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１２回	進学・労働とジェンダー（３） ――進学の男女差③、専攻分野の男女差②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１３回	進学・労働とジェンダー（４） ――進学の男女差④、労働市場の男女差	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１４回	かくれたカリキュラム	【予習】参考文献の指定部分を読む。これまでの学修内容を確認する。	90

〔授業の方法〕
講義形式。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化社会学						
教員名	髙橋　かおり						
科目№	125431600	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
文化社会学は、社会学の中で比較的新しい分野であり、統合した学説史や理論はあまり共有されていない。だからこそ、多様な解釈や議論が行われている興味深い分野である。本授業では、文化と社会の関係について、創造・流通・受容の過程を追うことで、そのあり方について理解し、実生活の文化現象をとらえる際の手がかりを学ぶ。ここでいう文化とは、生活文化やポピュラーカルチャー、芸術作品など様々なものを前提としている。また、現代的な文化のみならず、歴史的・伝統的な文化も射程に入れている。様々な議論や事例を通じて文化、あるいは文化的生産物（作品・コンテンツ）が社会学の中でどのように語られ、解釈されてきたか、その歴史を振り返りながら、今日的な議論を行う。

〔到達目標〕
・自身が関わる文化を相対化し、社会と文化のかかわりを俯瞰しつつも、接近できる方法を学ぶ。
・社会学における文化に関する議論を学習する。
・現代社会における文化のあり方を考え、議論できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション――文化社会学の潮流の整理	指定文献を読み、感想や疑問を整理する。	60
第２回	文化と政治――変化との共振	授業内容を復習し、授業内容に即した小課題に回答する。	60
第３回	文化と産業――生産と消費	指定文献を読み、感想や疑問を整理する。	60
第４回	文化を作る人々――趣味と仕事	指定文献を読み、感想や疑問を整理する。	60
第５回	文化とメディア――技術と情報	授業内容を復習し、授業内容に即した小課題に回答する。	60
第６回	文化と階級・階層	授業内容を復習し、授業内容に即した小課題に回答する。	60
第７回	ジェンダー１――フェミニズムとガールパワー	テキストの該当箇所を読み、授業内容の整理と独自の論点・疑問の整理を行い、文章にまとめる。	60
第８回	ジェンダー２――性の多様なあり方	テキストの該当箇所を読み、授業内容の整理と独自の論点・疑問の整理を行い、文章にまとめる。	60
第９回	エスニシティ１――創られた伝統・オリエンタリズム	テキストの該当箇所を読み、授業内容の整理と独自の論点・疑問の整理を行い、文章にまとめる。	60
第１０回	エスニシティ２――グローバリゼーション	テキストの該当箇所を読み、授業内容の整理と独自の論点・疑問の整理を行い、文章にまとめる。	60
第１１回	地域――都市と地方	テキストの該当箇所を読み、授業内容の整理と独自の論点・疑問の整理を行い、文章にまとめる。	60
第１２回	身体――スポーツと物質性	テキストの該当箇所を読み、授業内容の整理と独自の論点・疑問の整理を行い、文章にまとめる。	60
第１３回	インターネット・オンライン――表現の変化	テキストの該当箇所を読み、授業内容の整理と独自の論点・疑問の整理を行い、文章にまとめる。	60
第１４回	これまでのまとめ――文化と関わって生きる	これまでの授業内容を踏まえ、期末レポート作成の準備をする。	60

〔授業の方法〕
初回（1 回）と最終回（14 回）は講義形式で行う。
第 2-6 回目は、基本的な議論について講義形式の授業を行い、小課題の整理と応答を踏まえ受講生が提出した論点や議論を踏まえて内容を詳説する。
第 7-13 回目は、教科書の指定章の議論を整理したのち、受講生からのコメントや疑問点を踏まえ、内容を詳説する。なお、受講人数に応じて形式を調整する可能性もある。

〔成績評価の方法〕

第 2-6 回の授業で複数回課す小課題（30%）、第 7-13 回目の授業内容を踏まえた小レポート（40%）および期末レポート（30%）にて評価する。
小課題については授業内容の理解について理解できているかどうか、小レポートにおいては授業内容について一定の理解をしたうえで抽象的かつ論理的に考えを述べられるかどうか、期末レポートは具体的な事例と授業内容を関連付けられているかどうかを評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
様々な資料・文献・事例・動画等を紹介するため、それら積極的に読み込み、考えられるのであれば、事前知識は問わない。

〔テキスト〕
『ゆさぶるカルチュラル・スタディーズ』、稲垣健志編、北樹出版、2,300 円+税、ISBN：9784779307294

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会階層論						
教員名	森山　智彦						
科目№	125432100	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、社会の格差・不平等の問題を扱います。授業内容は、現代社会においてどのような不平等があるのか（現状の理解）と、なぜそのような不平等が生じているのか（メカニズムの理解）に大きく分かれます。具体的なテーマとして、経済格差や貧困、階層再生産、教育、労働市場、ジェンダー、家族、意識に関する不平等を取り上げます。また、他国の格差・不平等の状況との比較を行うことで、日本の不平等問題の特徴を学びます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標を設定します。
(1)格差・不平等問題に関する様々なトピックについて、背後にある社会構造を理解し、自分なりの考えを整理できるようにします。(DP1、DP２、DP3)
(2)格差・不平等問題の構造や問題点を多角的な視点から考察することで、社会の中の自身の立ち位置を認識すると同時に、自分の知らない他者の視点を身につけます。(DP1、DP3)
(3)さまざまな資料やデータ、文献の見方を学び、自ら調べて確かめる方法と姿勢を身につけます。(DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	なぜ社会階層論を学ぶのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 授業全体の内容や進め方を説明します。また、どのような不平等が問題視されているのか、なぜそれが問題なのかについて、概要を説明します。	【復習】授業内容の振り返り。	60
第２回	不平等問題の現状把握１：経済的格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 所得格差の把握の仕方を学び、格差拡大、固定化の背後にある社会的な構造の変化について解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第３回	不平等問題の現状把握２：なぜ貧困は生きづらさにつながるのか（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本社会の貧困問題の現状と歴史的な経緯を把握します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第４回	不平等問題の現状把握２：なぜ貧困は生きづらさにつながるのか（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ なぜ経済的な貧しさが生きづらさに結びつくのかを解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第５回	不平等問題の現状把握３：階層の再生産（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 親子間の社会階層の再生産を理解する上で重要な概念や指標について学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第６回	不平等問題の現状把握３：階層の再生産（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 階層再生産の時系列的な展開とその背景にある社会構造について解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第７回	中間試験	【予習】中間試験のための学習。 【復習】中間試験の振り返り。	60
第８回	不平等が生じるメカニズム１：社会階層と教育（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 出身階層と本人の階層を媒介する教育、学歴の機能や教育と仕事の関係を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第９回	不平等が生じるメカニズム１：社会階層と教育（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 教育機会の不平等を是正するための政策（学費の無償化）の有効性について検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１０回	不平等が生じるメカニズム２：労働市場における格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 正規雇用と非正規雇用の間には様々な面で格差が存在します。そのような不平等がなぜ生じているのか、真に問題視すべき格差とは何かを解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１１回	不平等が生じるメカニズム３：雇用・労働における男女間格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 昔に比べれば性別による不平等は緩和しましたが、それでも根深く残っています。この回では、雇用・労働面の男女間格差の原因を解説し、解決のための施策等を紹介します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１２回	不平等が生じるメカニズム４：社会階層と家族形成 ＝＝＝＝＝＝＝＝ グローバル化などによる社会構造の変化は、結婚など家族形成にも影響を及ぼしています。そのメカニズムを解説し、真に課題視すべき問題について議論します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60
第１３回	不平等が生じるメカニズム５：社会階層と意識 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 社会階層は意識構造にも影響を与え、人々は意識を通して不	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60

	平等に対する実感を持ちます。その実感を形成する階層帰属意識や希望格差に注目し、意識格差のメカニズムを解説します。		
第１４回	改めて問う、日本の格差は容認できるのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 第 13 回までの内容をまとめ、中流層の崩壊と社会の分断がもたらし得る帰結を考察します。その上で、改めて日本の格差が容認できるものかどうかを議論します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】授業内容の振り返り。	60

〔授業の方法〕
本講義は、主に資料（パワーポイント）によって進めながら、Forms 等を活用したフィードバックを適宜導入します。なお、授業の進捗度によって、内容を変更することがあります。

〔成績評価の方法〕
中間試験（４０％）＋期末試験（６０％）
ただし、合計が 60 点未満の場合、平常点を上限 20 点で加算します（加算後の合計点は 60 点になります)。
平常点は、授業時間内に行う課題の提出状況を評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する. /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の 2 点に着目し、その達成度により評価します。
①社会階層論に関連する概念や不平等が生じるメカニズムを理解している。
②不平等を解決するために個人や社会が何をすべきかについて、自分の言葉で考えることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は特に必要ありませんが、労働社会学、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前に学んでいるとより理解が深まります。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
原純輔・盛山和夫（1999）『社会階層ー豊かさの中の不平等』東京大学出版会，3080 円（購入の必要なし）
竹ノ下弘久（2013）『仕事と不平等の社会学』弘文堂，1540 円（購入の必要なし）
盛山和夫ほか編（2011）『日本の社会階層とそのメカニズムー不平等を問い直す』白桃書房，3080 円（購入の必要なし）
平沢和司（2014）『格差の社会学入門ー学歴と階層から考える』北海道大学出版会，2750 円（購入の必要なし）
西村純子・池田心豪編著（2023）『社会学で考えるライフ＆キャリア』中央経済社，2860 円（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
質問は授業終了後に教室で受け付ける他、メールでも受けつけます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ライフコースの社会学						
教員名	渡邉　大輔						
科目No.	125432150	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
10 歳のときから多くの人が働き始める社会で生きることと、22 歳で働き始める社会で生きることは、同じ働くということでもまったく異なる経験となるだろう。そして、働き始めるという一見普遍的な事柄は、社会の変化によってそのタイミングも、個人にとっての意味も、具体的な内容も常に変化するものであった。
本講義で扱うライフコース・アプローチは、人間の一生を普遍的な過程としてとらえるのではなく、社会的・歴史的コンテクスト（文脈）によって構築されたものとみなす点から出発する。そして、人々の人生がその年齢や時代、世代によって影響を受け、変化してゆく過程を理解する、学際的な手法となっている。このライフコースという考え方の意義や、実践方法について 1 学期間を通して議論する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、ライフコースという視点の意味と限界を理解し、現代社会における個人の経験を年齢、歴史、世代という 3 つの観点からとらえるための基礎的な知識や概念を学び、活用することができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：変動する社会における個人の経験	【復習】家族の経験を聞き取る	90
第２回	ライフサイクルとは何か：発達心理学・役割理論の発展と限界	【予習】自分のこれまでの人生を段階として振り返る 【復習】配布資料を再読する	90
第３回	【ライフコース研究の概念と方法 3〜9】 社会的地位と社会的役割、役割移行	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の社会的地位、社会的役割を確認し、その将来を予想する	60
第４回	時間の導入：変化と持続をとらえる	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のライフイベントカレンダーを作成する	60
第５回	年齢・時代・コーホート：APC 効果	【予習】参考文献を読む 【復習】家族の経験を APC 空間に図示する	60
第６回	家族時間、タイミング、コンボイ	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の家族の家族時間を整理し、自分のコンボイを概念図として描く	90
第７回	『大恐慌の子どもたち』	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のコンボイを概念図として描く	60
第８回	ライフコースを観察する：質的、量的な観察	【予習】21 世紀出生児縦断調査のサイトを調べる 【復習】21 世紀出生児縦断調査の報告書を読む	60
第９回	【現代社会とライフコース 9〜14】 経済状況とライフコース：平成不況と就職活動の変遷	【予習】就職活動について両親に聞き取りをする 【復習】現在の就職活動の実態を調べる	90
第１０回	音楽とライフコース：文化とライフコースを考える	【予習】自分自身の音楽体験を言語化する 【復習】配布資料を再読する	90
第１１回	人口・家族変動とライフコース：祖父母の変容を考える	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１２回	悲劇とライフコース：震災経験のその後への影響	【予習】阪神淡路大震災について調べる 【復習】鑑賞した映像資料の感想をまとめる	90
第１３回	格差とライフコース：格差の戦後史	【予習】祖父母世代、親世代、自分自身の進学と就職を聞き取る 【復習】配布資料を再読する	90
第１４回	未来像とライフコース：想像力と時代の拘束性	【予習】2030 年の将来像を考える 【復習】配布資料を再読する	60

〔授業の方法〕
講義形式で行う。また、講義では映画の鑑賞を行うなど映像資料も用いる。

〔成績評価の方法〕

期末レポート（90%）と平常点（10%）によって行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「家族社会学」と深い関係をもつため、あわせて履修することでより理解が深まる。

〔テキスト〕
とくに指定しない。

〔参考書〕
講義時に適宜紹介する。主とするものは以下である。いずれも購入の必要はない。
・嶋崎尚子 2008『ライフコースの社会学（早稲田社会学ブックレット-社会学のポテンシャル)』 学文社.
また、重要文献としては以下があげられる（絶版が多い）。
・エルダー 2023『完全版・大恐慌の子どもたち-社会変動と人間発達』明石書店.
・ハレーブン 2001『家族時間と産業時間 新装版』早稲田大学出版部.
・プラース 1985『日本人の生き方-現代における成熟のドラマ』岩波書店.
・エルダー・ジール 2003『ライフコース研究の方法』明石書店.
・エルダー・ジール 2013『ライフコース研究の技法』明石書店.
内閣府共生社会政策統括官『高齢社会白書』：{http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html}
厚生労働省「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）」{http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-9.html}
厚生労働省「21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）」{http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-22.html}

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ＩＣＴ活用

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ボランティア・ＮＰＯの社会学
教員名	澁谷　智子

科目№	125432200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、ボランティアや NPO が社会を変える力になってきたことを学ぶ。今年度は特に、聞こえないこと、コミュニケーション、手話を切り口に、現状とその背景を学び、活動しておられる方々にゲストとしておいで頂く。実際に見たり聞いたりする中から、体験的に学び、理解を深めることが、この授業の狙いである。

〔到達目標〕
DP１「専門分野の知識・技能」、DP２「教養の修得」、DP３「課題の発見と解決」、DP4「表現力、発信力」、DP５「多様な人々との協働」、DP６「自発性、積極性」を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①少数派の視点や共同創造の試みを理解する。
②ボランティアや NPO などの形から、社会に働きかけていく活動について知る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	NPO の活動について調べる。	60
第２回	共同創造	共同創造の例について調べる。	60
第３回	マイノリティの視点	マイノリティの視点について調べる。	60
第４回	「障害」の表象	「障害」を描いたドラマなどについて調べる。	60
第５回	コーダ	コーダについて調べる。	60
第６回	中途失聴	中途障害について調べる。	60
第７回	手話という言語	手話言語条例やギャローデット大学（Gallaudet University）について調べる。	60
第８回	バイモーダル・バイリンガリズム	モーダリティの違う二つの言語（手話言語と音声言語）のバイリンガリズムについて調べる。	60
第９回	聴覚障害児への教育	聞こえない子、聞こえにくい子どもに対する教育について調べる。	60
第１０回	手話を教えるということ	手話の授業について調べる。	60
第１１回	ろう者の歴史　ろう文化	日本やアメリカにおけるろう者の歴史、ろう文化、ろう文学などについて調べる。	60
第１２回	ろう者や手話に関するドキュメンタリー制作	ろう者の歴史資料の収集と継承について調べる。	60
第１３回	調べてきたことの発表①	授業で学んだことを参考に、自分で調べたことをスライドにまとめる。	60
第１４回	調べてきたことの発表② まとめ	授業で学んだことを参考に、自分で調べたことをスライドにまとめる。	60

〔授業の方法〕
授業では、スライドやウェブページを用いて講義を行う。また、聞こえないことや手話に関する分野で活動する方々においで頂き、そのお話を伺う。そうした学びをふまえて、さらに自分でも調べた内容をスライドにまとめる。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況や課題、発表）100％

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
授業で配布するプリント

〔参考書〕
木村晴美・市田泰弘，1995，「ろう文化宣言――言語的少数者としてのろう者」『現代思想』23 巻 3 号，青土社，354-362．購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	スポーツ社会学						
教員名	稲葉　佳奈子						
科目№	125432250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本講義は、スポーツという社会的・文化的現象を通して、現代社会について考察することを目的とする。スポーツは、その場・その時かぎりの実践にとどまらず、社会の要請に応じてさまざまな意味や価値が付与された「社会」そのものとしての側面をもつ。そうした視点から、スポーツが抱える文化的・社会的意義や課題についての知識を身につけるとともに、現代社会におけるスポーツの位置づけについて理解を深めていく。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。
①スポーツ社会学の基礎的な知識や考え方を理解することができる。
②スポーツの意味や課題を社会学的な視点から考察することができる。
③スポーツを通して現代社会の特質や課題を説明することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスの内容を把握する。	60
第２回	スポーツの成立・発展からみた近代	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第３回	オリンピックの理念と近現代社会	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第４回	日本社会と東京オリンピック	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第５回	グローバリゼーションとスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第６回	メディアとスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第７回	社会運動とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第８回	「男らしさ」とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第９回	「女性活躍」とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１０回	LGBTQ+とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１１回	社会・性・スポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１２回	これからの社会とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１３回	到達度確認テスト	前回までの学修内容を整理・確認する。	60
第１４回	まとめ	前回確認された自己の到達状況をもとに、全体的な学修内容を復習する。	60

〔授業の方法〕
○ 資料（PowerPoint スライド、動画教材、配布資料など）を用いて、講義形式で授業を進める。
○ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
○ 各回の内容に即した課題（小テスト等）を授業時間内におこなう。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業時の課題への取り組み）40%および到達度確認テスト 60%をもとに、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
○授業時の課題に積極的に取り組んでいるか。
○到達度確認テストにおいて以下の 3 点が表現できているか。
１．スポーツにかかわる諸現象について社会学的な視点から理解・考察することができる。
２．スポーツが内包する現代的な課題を理解することができる。
3

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。
必要に応じて CoursePower を通じて資料を配付する。

〔参考書〕
（購入の必要なし）『スポーツと LGBTQ＋　シスジェンダー男性優位文化の周縁』岡田桂・山口理恵子・稲葉佳奈子著、晃洋書房、2300 円

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。または授業終了時に教室で対応する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	科学技術の社会学
教員名	定松　淳

科目№	125432300	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
現代社会は高度な産業社会であり、科学・技術によって支えられています。同時に科学・技術が社会問題を引き起こすこともありますが、その解決においても科学・技術を抜きに語ることはできません。一方、科学・技術も社会からの支援なしには成り立たない営みです。つまり科学・技術と社会のかかわりは、社会の側にとっても、科学・技術にとっても重要な意味をもっています。このような問題領域は社会学的な対象として扱うことが可能であり、社会学を含む学際領域として科学技術社会論（STS: Science and Technology Studies）が発展してきました。本講義ではその内容を概観して、その基本問題を捉えることを目的とします。

〔到達目標〕
科学・技術の不確定性について理解し、科学・技術が関わる社会問題において、その不確定性をめぐってどのような認識の違いが生じているかを指摘することができる。【ＤＰ1-3】

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／ 科学の制度化	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第２回	科学の体制化	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第３回	日本における原発導入と世論	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第４回	『ラボラトリー・ライフ』	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第５回	チェルノブイリ原発事故とイギリスの牧羊農家	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第６回	エイズ治療薬開発と患者団体	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第７回	遺伝子組換え作物コンセンサス会議	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第８回	第 1 回レポート作成	前半 7 回の授業内容をよく検討する。（予習）	60 分
第９回	科学論の第三の波	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１０回	ポストトゥルースと STS	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１１回	コロナ禍と科学的助言	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１２回	生殖補助医療	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１３回	脳死・臓器移植	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１４回	第 2 回レポート作成	後半 5 回の授業内容をよく検討する。（予習）	60 分

〔授業の方法〕
各回の講義時間は 80 分程度にとどめ、最後に 20 分程度時間を取って CoursePower にミニッツレポートを提出してもらいます。ミニッツレポートは 3 点満点で評価して CoursePower でフィードバックします。2 回のレポートについては 20 点満点で評価して CoursePower でフィードバックします。

〔成績評価の方法〕
平常点（各回のミニッツレポートの合計得点）60%
レポート（2 回提出）40%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
『よくわかる現代科学技術史・STS』 、塚原東吾ほか編、ミネルヴァ書房、3,300 円、ISN978-4-623-09215-4（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング（ミニッツレポート）

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバリゼーションの社会学						
教員名	渡部　厚志						
科目№	125432350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
グローバリゼーションという言葉から、皆さんは何を想像するでしょうか。昨今の戦争やコロナウイルス感染症の広がりのような大事件を思い浮かべる人も多いでしょう。一方で、毎日の食や文化の消費、ご家族の仕事などに関して国外の人や組織とのつながりを感じる場面が多いことを実感している人もいるかもしれません。人、モノ、金、情報の国境を超えて移動し、世界中の人や組織が競争したり助け合ったりすることが当たり前になった世界に私たちは暮らしています。私たちの毎日の暮らしは、何カ国もの国、何千人もの人 たちの仕事に支えられています。また、私たちがあたりまえにしていることが、離れた場所で働いたり学んだりする人に影響することもあるかもしれません。
では、グローバリゼーションはいつから始まったのでしょうか。グローバリゼーションの時代とは、それまでの時代と何が違うのでしょうか。グローバリゼーションは、人を幸せにしているのでしょうか、それとも不幸にしているのでしょうか。グローバリゼーションという言葉が現れてもう何十年も経ちましたが、こんな基本的な問いについてさえ、決まった答えはありません。そのうえ、グローバリゼーションは現在進行中で、重要なプレーヤーや大事な出来事が、毎日のように入れ替わっていきます。グローバリゼーションに関する、今の時点での「正しい見方」を身につけても、５年後には古い知識になっているかもしれません。
そこで、この講義では身近な食や仕事から離れたところで起きる災害、環境破壊などまでを観察し、グローバルな人、モノ、情報、お金などのつながり方という大きなシステムの変化の中で位置づけて検討し、考えたことを他の人と交流することで知識を更新していく経験を積むことに力を入れたいと思います。

〔到達目標〕
３つのポイントに重点を置き、グローバリゼーションが進行する現代社会について、基本的な論点と、具体的なトピックを考える力を伸ばすことをめざします。
1）グローバリゼーションが毎日の暮らしに現れる場面（日本、アジア、東欧などのケース）に触れ、離れた場所で起きているできごとと私たちの暮らし、過去に起きたできごとと今の社会とのつながりを見つける発想を身につける。
2）グローバリゼーションが世界や各国の社会と経済、地域や私たちの暮らしにもたらす影響を考えながら、社会全体の変化を追うマクロの視点と、ひとりひとりの暮らしや日々の安心などに注目してみるミクロの視点といった複数の方向から考える方法を身につける。
3）グローバリゼーションが進む中で、地域社会や人の暮らしを支える新しい取り組みに触れ、考えや能力の異なる人や組織が協力する方法や、自分の立場で関わることのできる方法を考える経験を得る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション グローバリゼーションは「正解」がない、日々変わっていく問題です。このような問題をどのように考えたらいいのか？14 回の講義を通じて鍵となるメッセージを提示します。 14 回の講義予定、レポート課題、評価方法の概要を紹介します。	予習として、学生自身の生活と「離れた場所や人」との接点を探し、3 項目をノートに書き出しておくこと。	60
第２回	変わる世界と私たちの暮らし：①「食べること」のグローバリゼーション 健康的だとされ外国でも人気のある「日本食」も、それ以外に私たちが食べているものも、食料供給システムのグローバリゼーションにより実現したものです。しかし、「フードシステム」が世界中に広がったために、外国の農地収奪、水産資源の乱獲や水の大量利用、農家の経営難、食品加工工場で働く労働者の環境など、さまざまな問題が生まれています。食と農の安全と安心を取り戻そうとする動きは、食と農、消費者と生産者の「関係を結び直す」ことでもあります。	予習として、過去１週間に食べた食事のメニューから一品を選び、「原料がどこで作られたか」「どこで加工されたか」「いつから、日本の家庭で食べられるようになったか」を調べる。（講義中のグループディスカッションで使用します。以下同じ）。	60
第３回	変わる世界と私たちの暮らし：②「働くこと」のグローバリゼーション 世界中で２億人を超える人が生まれた国とは違う国で暮らしています。移民や移動労働者は、現代の社会経済に欠かせない存在です。なかには、国民の 10 人に 1 人が外国にいるという国もあります。多くの人が、生まれ育った土地とは異なる土地で、親世代とは異なる職業を得るようになったのは、いつごろからでしょうか。また、どのような背景があるのでしょうか。 移民や移動労働者は、受入国（地域）でただ「労働力を提供する」だけの人ではありません。それ	予習として、学生自身や友人、家族の「仕事」が、他の国や地域とどのように関係するのか、その関係は過去 20 年でどのように変わったのかを考察し、800 字程度にまとめておくこと。	60
第４回	変わる世界と私たちの暮らし：③「将来」のグローバリゼーション 前回（第３回）は、生まれ育った土地と違うところで仕事を求めて移動する人々や、地域や国の外からやってくる人々を受け入れる社会に注目しました。今回（第４回）は、多くの人が生まれ育った土地を離れて働く社会に目を向けます。 国の社会と経済がグローバル市場との繋がりを深めながら成長する過程で、地域社会では、若い世代が親世代とは異なる場所で異なる仕事をして暮らす準備をするように育てられる場合があります。20 世紀半ばの日本や、20 世紀後半	予習として、学生自身や家族に関して、①親世代の仕事との違い、②仕事に必要な知識や技術を身につける方法の違いを調べ、800 字程度にまとめておくこと。	60
第５回	ポスト産業化時代の都市における「二極化」 第２回から４回までに見てきたような食、仕事、学びや若者の将来計画に生じる変化の背景には、世界レベルで起きている経済や社会の変動、とくに生産活動のグローバリゼーションと、それに伴う都市の再編があります。 金融、製造、情報通信が国境を超えてつながった結果、一部の大都市とそれ以外の都市や地方との間に、これまでとは異なる役割の分担が起きています。生産活動のシフトと地域の役割分担の変化に対応して、国の経済成長に国家・政府・都市が担う役割も変わります。この	予習として、東京における「仕事（職業）」「居住」「交通」または「消費生活」の４つのトピックのうち一つについて、1960 年代と 2000 年以降の違いを調べ、800 字以内でまとめること。	60

第６回	グローバル都市以外の地域で経験されるグローバル化 グローバリゼーションに反対するような主張が広く展開され、時には社会を分断するような運動につながることがあります。また、このような運動は、しばしば都市部のエリートと郊外・周辺地域の中間層（または貧困層）との対立という形で描かれます。 前回（第 5 回）に説明したような都市の再編と都市部における二極化は、都市以外の地域との関係にも大きく作用し、例えば郊外や農村地域の仕事、収入、消費生活などにも影響します。このため、都市とそれ以外の地域の「違い」	予習として、世界のいずれかの国における都市と農村の「違い」、その「違い」が誰の暮らしにどのように影響を及ぼすかを調べ、800 字以内でまとめること。	60
第７回	グローバリゼーション以前のグローバリゼーション グローバリゼーションという言葉で 20 世紀後半の新自由主義以降の出来事を指す人もいますが、19 世紀のヨーロッパの近代化と貿易拡大や 15 世紀から 18 世紀のアジア・アメリカへの進出、あるいはそれ以前に遡って考えるべきだと主張する人もいます。実際、西洋が世界進出する以前から世界の各地にはモノ、人、情報の活発な交流がありました。では、西洋の海外進出と近代化は何を変えたのでしょうか。経済や社会のルールと速度に注目して考えます。	予習課題はなし。 代わりに、①最終課題のテーマ、②現時点でそのテーマについて調べようと考えている事柄、をあわせて 500 字以内でまとめ、提出すること。 なお、最終課題のテーマは『「食」「仕事」「学習」「安全」「地域社会」「環境破壊」のうち一つを選び、①自分の暮らしとの関連、②グローバリゼーションにより特に影響を受ける人、③影響を和らげるために求められる行動』を考察し、2,000 字以内でまとめること』とする。	60
第８回	安全、安心、リスク 私たちの食生活、仕事、地域社会、国の経済などが、新型コロナウイルスパンデミックやインフレ、自然災害など様々なリスクに直面しています。多くのリスク要因は、社会のうちの特定の人々に、とくに深刻な影響を及ぼします。 第 8 回では、これまでに検討してきたグローバリゼーションの様々な要素が、私たちを取り巻く様々なリスクとどのように関係しているのか、なぜ、特定の人がリスクに対して脆弱な立場に陥るのかを検討します。グローバリゼーションは、経済、社会や環境のリスクに大きな影響を与えて	予習として、気になる「リスク」を一つ取り上げ、そのリスクが現実になったときに誰が被害をうけるのか、どんな方法で対処できるのかを考察し、800 字程度でまとめておくこと。	60
第９回	消費社会と新しいグローバル・リスク①　気候変動と私たち 地球温暖化を含む「気候変動」は 20 世紀の後半より知られていましたが、2015 年以来、この問題が国際交渉、経済や社会の発展の最重要テーマに浮上してきました。気候変動は、グローバルな経済や社会の活動、すなわち私たちの日常生活や企業や政府の活動が人類の生存基盤を脅かすほどの影響力を持ってしまったことの現れです。また、世界中ほとんどすべての国や多くの企業、市民社会が協力するきっかけになっているという点でも、他の環境問題とは一線を画すものです。	予習として、「(a) 食生活」「 (b)集中豪雨や熱波など異常気象への備え」「(c)電気やガスの利用」のいずれかについて、受講者の家族には 30 年前と今の間にどんな違いがあるかを調べ、地球温暖化との関連を考察し、800 字程度の解説文にまとめること。	60
第１０回	消費社会とグローバル・リスク②　プラスチックと私たち 消費社会と深く関連する 2 つ目のリスクとして、プラスチックごみの問題を取り扱います。過去 10 年ほどの間に、プラスチックごみが海や河川に流出していることが広く知られるようになってきました。プラスチックは、食品、薬品、衣料、その他の日用品の製造にも流通にも欠かせないものとなっています。しかし、分解されずに長い期間土壌や水の中に残ること、動物や人体の中に入り込み健康被害を生み出すことなどから、近い将来、私たちの食生活、健康、生態系などに甚大な被害	予習として、プラスチックを素材、加工手段、包装などに用いている製品やサービスを一つ取り上げ、①いつごろから必要になったのか、②代替するとしたらどのような手段があるか、を調べ、800 字程度の解説文にまとめること。	60
第１１回	デジタル・グローバリゼーション 1990 年代以降、急速に発展したデジタル技術は、私たちの日常生活を便利にしただけではなく、社会や経済のあり方そのものを大きく変えています。例えば、国境を超える人と人との情報のやり取りは時間差なく行われるようになり、世界中の人々が協力して仕事をすることが容易になりました。お金やものを、お店で売り買いするのではなくアプリを介して他の人とやり取りするようなこともできるようになりました。一方で、過去数十年間に渡って地域や国の経済を支えていた仕事が失われるような経済構造	予習として、私たちが日常的に使っているデジタル技術（スマートフォン、パソコン、ソーシャルメディア、オンライン学習等）のどれかを取り上げ、それらの技術による良い影響と悪い影響や、どのような人がそうした影響を受けるのかを考察し、800 字程度にまとめること。	60
第１２回	持続可能な地域をめざして① 気候変動、生物多様性、化学物質やプラスチックなどによる汚染、パンデミックや食料価格の高騰など、様々なリスクが社会や市民の生存を脅かしつつある中で、持続できる経済や社会に転換しようという取り組みが、各国の政府、自治体、企業や市民団体などに広がっています。 しかし、経済や社会を大きく転換させようという取り組みは、短期的には今まで行っていた仕事を諦めたり、今まで住んでいた地域を離れたりせざるを得なくなる人が発生するような大きな被害を特定の人に及ぼす可能性もあります	予習として、学生が育った地域または今住んでいる地域で作られている地域総合計画等の計画を読み、私たちがどんな方法で参加できるのか調べ、800 字程度にまとめること。	60
第１３回	持続可能な地域をめざして② 地域の経済や社会を取り巻く環境が変わっていく中で、これまでと同じ方法を維持するだけでは、地域の豊かさを維持していくことが困難になるケースがあります。この授業では、人口が減りつつある中山間地域の住民が、地域の暮らしを豊かなものにする様々な活動に取り組んでいる地域を紹介し、地域の多様な住民、近隣地域の人や行政との関わりがもたらす新たな可能性を、受講者といっしょに考えて見ます。	予習として、学生が今住んでいる地域に暮らす、異なる職業や年齢層の人々（３種類程度）を想定し、それぞれの人が求める地域の安全や豊かさに違いがあるかを検討し、800 字程度にまとめること。	60
第１４回	まとめ：グローバリゼーションと社会と私たち これまでの 13 回の講義で、グローバリゼーションが日本や他の国の地域社会やそこで営まれる毎日の暮らしに様々な影響を与えながら展開していることを見てきました。 最終回では、受講者の皆さんがこれまで学び考えてきたことを共有するために、最終課題について報告していただき、互	最終課題を提出すること。	120

	いにコメントする形を取ります。 最後に、これまで考察してきたポイントを振り返り、最初に提示した 2 つのメッセージを考え直します。		

〔授業の方法〕
毎回の授業は、講義とグループワークを組み合わせた形式で行います。
講義部分では、各回の基本的な概念や事例を紹介します。
グループワークでは、受講者を３名から５名のグループに分け、１）予習課題に基づく受講者間の知識共有、２）講義で紹介した概念に当てはまるような事例・事実の探索、の２つの作業に取り組んでいただきます。
＊このため、できれば、インターネット接続可能な PC またはタブレットを持って参加していただきたいと思います。
グローバリゼーションに関する主要な論点を、身近な生活の場面や、馴染みのある出来事と関連付け、受講者相互及び受講者と講師の間で検討することにより、理解を深めたいと思います。

〔成績評価の方法〕
授業への参加にもとづき評価します。
・第 2 回から第 13 回の授業前に提出する予習課題（40%）
・第 14 回授業前に提出する最終課題（20%）
・授業中の発言と質問、及びグループディスカッションへの貢献（40%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくにありませんが、国内外のニュースに広く関心を持っておくと、授業の内容を理解する上でも、授業中に行う議論に貢献する上でも役に立ちます。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
以下、すべて購入する必要はありませんが、一読されるとこの授業で考える内容の参考になります。
・サスキア・サッセン「グローバル・シティ」ちくま学芸文庫
・ウルリッヒ・ベック「世界リスク社会論　テロ、戦争、自然破壊」ちくま学芸文庫
・斎藤幸平「人新世の資本論」集英社新書
・ウルリッヒ・ブラント「地球を壊す暮らし方: 帝国型生活様式と新たな搾取」岩波書店
・岡野八代「ケアの倫理」岩波新書

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。
また、授業中にメールアドレスをお知らせします。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会福祉概論						
教員名	田中　悠美子						
科目№	125432400	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
社会福祉のあり方や考え方は、その人が住んでいる地域社会、時代のあり方に大きく関係しています。現在の私たちの暮らしの中で社会福祉はどのようなものとして存在しているのか、誰もが接点のある社会福祉について学ぶことは、これからを生きる上で役立つ知識、知恵を得ることができると考えます。社会福祉概論は、社会福祉学の基本的な考え方、視点、枠組み、構造について理解を深め、よりよく生きるための思考を促す導入的な講義となります。ソーシャルワーカーの実務経験を活かした授業を行います。

〔到達目標〕
DP1「専門分野の知識・技能」、ＤＰ２「教養の修得」を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①日本の社会福祉の考え方と特徴、現在の社会的問題を理解する。
②福祉制度・サービスの特徴と種類を知り、自分が利用する時にはどうするかを思い描けるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	私たちの暮らしと社会福祉	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第２回	社会福祉の考え方と目的	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第３回	生活困窮・貧困とは何か～公的扶助制度の理解～	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第４回	生きづらさと社会的孤立	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第５回	社会保障制度の理解～社会保険と保健医療を中心に～	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第６回	地域を基盤としたソーシャルワーク	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第７回	こどもと家庭への支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第８回	高齢者への支援～介護保険制度を中心に～	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第９回	認知症の理解と支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１０回	障害を有する人の支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１１回	メンタルヘルスの不調を抱える人への支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１２回	子ども・若者への支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１３回	災害支援とソーシャルワーク	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120

〔授業の方法〕
毎回プリントを配布し、必要に応じてインターネットや映像等を使いながら、講義を行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（50%）と、授業中の課題（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「社会福祉事業史」「地域福祉論」「高齢者福祉論」がある。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
購入の必要はありませんが、以下の書籍を参考に授業を行います。
①「七訂版 社会福祉概論: その基礎学習のために」西村昇・日開野博・山下正國、中央法規出版
②「15 歳からの社会保障　人生のピンチに備えて知っておこう」横山北斗、日本評論社

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会福祉事業史						
教員名	長谷川　拓人						
科目No.	125432450	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、国内外の社会福祉の歴史を辿っていく。福祉とは何か、福祉の考え方はどのような経緯で誕生し発展してきたのかを理解し、現在の福祉のあり方に対して自分の意見を持てるようになることが、この授業の目的である。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能の修得)、DP2（教養の修得）を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
・社会福祉をめぐる重要な人物や概念を学び、それぞれの時代背景と結びつけて理解することができる。
・福祉はなぜ必要とされてきたのか。これからどのような福祉政策が求められるか。海外や日本の歴史をもとに考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション、イギリスの社会福祉（1）―産業革命と救貧法	配布資料を読み、理解する。	60
第２回	イギリスの社会福祉（2）―貧困調査、慈善組織協会（COS)、セツルメント運動	配布資料を読み、理解する。	60
第３回	アメリカの社会福祉―ソーシャルワークと医療保険制度	配布資料を読み、理解する。	60
第４回	ドイツの社会福祉―社会保険の誕生	配布資料を読み、理解する。	60
第５回	戦争と福祉国家（1）―ベヴァリッジ報告と戦後イギリスにおける社会保障	配布資料を読み、理解する。	60
第６回	戦争と福祉国家（2）―北欧の社会福祉	配布資料を読み、理解する。	60
第７回	日本の社会福祉（1）―明治期における慈善事業の展開	配布資料を読み、理解する。	60
第８回	日本の社会福祉（2）―地域福祉の始まりと社会事業の成立	配布資料を読み、理解する。	60
第９回	日本の社会福祉（3）―戦後における福祉三法の確立	配布資料を読み、理解する。	60
第１０回	日本の社会福祉（4）―高度経済成長と福祉六法体制	配布資料を読み、理解する。	60
第１１回	70 年代以降の福祉国家（1）―社会問題の増加と福祉改革	配布資料を読み、理解する。	60
第１２回	70 年代以降の福祉国家（2）―障害者福祉の発展	配布資料を読み、理解する。	60
第１３回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、東アジアにおける社会福祉―高齢化と介護保険	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

〔授業の方法〕
毎回プリントを配布し、必要に応じて映像やインターネット等を使いながら、講義を行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（50%）と平常点（授業中の課題など）（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「社会福祉概論」「地域福祉論」「高齢者福祉論」がある。

〔テキスト〕
授業で配布するプリント

〔参考書〕
清水教惠・朴光駿編著，2011，『よくわかる社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房.
金子光一，2017（初版 2005），『社会福祉のあゆみ』有斐閣アルマ.
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	環境社会学						
教員名	定松　淳						
科目№	125432500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
環境問題は自然科学的に把握し、対処されるだけではなく、社会的な過程を伴っています。環境問題をどのように認識するか、環境問題への対応がどのように選択されるかは優れて社会学的な分析対象です。本講義では、とりわけ日本で独自に発展してきた環境社会学の基本的な概念や考え方、事例について概観します。学期の前半では水俣病を中心とする日本の公害問題の歴史をたどりながら、後半では原子力発電所の問題を取り上げながら、具体的に学んでいきます。

〔到達目標〕
環境問題の解決の難しさについて理解し、自分が関心のある環境問題について、環境と経済の間でどのようなトレードオフが生じているかを指摘することができる。【DP1-3】

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／ 水俣病の発生	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第２回	水俣病の科学論争	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第３回	公害の社会問題化	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第４回	公害訴訟と裁判外闘争	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第５回	未認定患者問題の発生	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第６回	２度の「政治解決」とその後	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第７回	第１回レポート作成	前半 6 回の授業内容をよく検討しておく。（予習）	60 分
第８回	財閥再編と原発導入	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第９回	福島県における原発建設	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１０回	電源三法と福井県	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１１回	原発と軍事	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１２回	原発の最終廃棄物	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１３回	福島原発事故と事故対応費用	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１４回	第２回レポート作成	後半 6 回の授業内容をよく検討しておく。（予習）	60 分

〔授業の方法〕
各回の講義時間は 80 分程度にとどめ、最後に 20 分程度時間を取って CoursePower にミニッツレポートを提出してもらいます。ミニッツレポートは 3 点満点で評価して CoursePower でフィードバックします。2 回のレポートについては 20 点満点で評価して CoursePower でフィードバックします。

〔成績評価の方法〕
平常点（各回のミニッツレポートの合計点）60%
レポート（2 回提出）40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
『よくわかる環境社会学（第２版）』、鳥越皓之ほか編、ミネルヴァ書房、3080 円、ISBN978-4623079346
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング（ミニッツレポート）

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会調査入門						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125433100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
社会調査の意義と諸類型，調査のプロセス，社会調査の諸課題に関する基本的事項を学ぶ.

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能），DP2（教養の修得），DP3（課題の発見と解決），を実現するために，社会調査の意義と諸類型について，基礎的知識と理論的枠組みを身につけることを目標とします.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：社会調査とは何か	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第２回	社会調査の歴史	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第３回	社会調査の目的と種類	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第４回	公的統計：国勢調査、官庁統計	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第５回	学術調査、世論調査	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第６回	市場調査、デジタルデータによる社会分析	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第７回	量的調査と質的調査	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第８回	量的調査による研究～SSM 調査、JGSS 調査	【予習】教科書 166~167 ページ、184~185 ページを読む 【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第９回	質的調査による研究～インタビュー、参与観察	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１０回	社会調査のプロセス①：問いを立て、調査を企画する	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１１回	社会調査のプロセス②：データを集め分析する	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１２回	社会調査の困難	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１３回	調査倫理	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１４回	まとめ、期末課題	【復習】これまでの資料を読み直す	60

〔授業の方法〕
講義、および、グループワークによる演習を行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（グループ課題等）40%、期末課題 60%。
なお期末課題はクラス内テストを予定している。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム A)。課程登録者以外でも履修できる。

〔テキスト〕
金井雅之・小林盾・渡邉大輔編『社会調査の応用』弘文堂，ISBN: 978-4335551512　　（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
プロジェクト型授業、アクティブ・ラーニング、ＩＣＴ活用

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会調査の方法						
教員名	小林　盾						
科目№	125433150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
社会調査によって資料やデータを収集し，分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ.

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能），DP3（課題の発見と解決）を実現するため，次の 2 点を到達目標とします.
(1) 社会調査によって資料やデータを収集できる.
(2) それらを分析しうる形にまで整理できる.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：社会調査の方法とは何か	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第２回	調査目的と調査方法	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第３回	調査方法の決め方	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第４回	調査企画と設計	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第５回	仮説構成	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第６回	対象者の選定の諸方法	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第７回	サンプリング法１　全数調査と標本調査	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第８回	サンプリング法２　無作為抽出、標本数と誤差	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第９回	質問文・調査票の作り方	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１０回	調査の実施方法１　調査票の配布・回収法	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１１回	調査の実施方法２　インタビューの仕方	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１２回	調査データの整理 1　エディティング、コーディング、データクリーニング	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１３回	調査データの整理 2　フィールドノート作成、コードブック作成	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60
第１４回	まとめ	（復習）配布資料を再読する，課題にとりくむ	60

〔授業の方法〕
講義．他にグループワーク，フィールドワーク，ディスカッション，プレゼンテーションがふくまれます

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況，宿題の提出状況，グループワーク，ディスカッション，プレゼンテーション）50%，成果物（宿題レポート，到達度確認テストなど）50%による総合評価

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する．社会調査的思考力が身についたかに着目し，その達成度により評価します．

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム B）．課程登録者以外でも履修できます

〔テキスト〕
『社会調査の応用』，金井雅之・小林盾・渡邉大輔編，弘文堂，ISBN978-4335551512

〔参考書〕
とくになし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受けつけます

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	質的調査入門（資料分析）						
教員名	坪田　美貴						
科目№	125433250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
会話分析、ドキュメント分析、内容分析などを中心に、質的調査のデータ収集方法と分析方法について学ぶ。また、実際にそれぞれの方法を用いて行われた調査を事例として参照し、それぞれの方法がどのような目的に適し、どのようなことを解明してきたのかを考察する。その後、質的調査の進め方について具体的に学ぶ。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するために、質的調査の技法と分析方法を習得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	質的調査とは何か：目的とデータ収集方法の種類	【復習】配布プリントを再読する	60
第２回	フィールドワーク１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	フィールドワーク２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、フィールドワークを行ったミニレポートを書く	120
第４回	会話分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	会話分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	ライフヒストリー分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	ライフヒストリー分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、会話分析かライフヒストリー分析を用いたミニレポートを書く	120
第８回	ドキュメント分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	ドキュメント分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	内容分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	内容分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、内容分析を使ったミニレポートを書く	120
第１２回	質的調査の企画・設計とデータ収集	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直し、質的調査の企画・設計を行う	120
第１３回	質的調査の公表・倫理	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す	90
第１４回	質的調査の動向と今後の展開	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す	60

〔授業の方法〕
講義および演習形式。

〔成績評価の方法〕
提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム F)。課程登録者以外でも履修できます。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	質的調査法（インタビュー）						
教員名	那波　泰輔						
科目№	125433350	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
社会調査の方法のうち，インタビューと参与観察を中心とする質的調査の基礎的知識・手法を身につけるための授業である．具体的には，優れた質的調査の実例も検討しながら，各手法の特徴と意義，実施のプロセス，利用上の注意点などを解説していく．受講者には授業外の時間を活用して質的調査の実習に取り組み，質的研究の実際に触れてもらう．レポートや卒論において質的な調査研究をやってみたいと考えている人には，ぜひ受講をお勧めしたい．

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するために、次の 3 点を到達目標とします。
①質的調査の各手法に関する基礎的知識を修得する。
②質的調査を用いた代表的な調査研究について知り、その内容と意義を説明できる。
③授業で学んだ知識と手法を応用し、自分が関心を持つ研究対象に関する調査計画を立てられる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	社会調査と質的調査	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第３回	インタビュー（１）インタビュー法の種類，プロセス，実習時の注意点，記録の作成方法	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第４回	インタビュー（２）インタビューにおける相互作用やラポールをめぐる議論，インタビューの社会的意味	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第５回	ライフストーリー（１）ライフストーリー法の意味や実施のプロセス，実習時の注意点，意義	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第６回	ライフストーリー（２）ライフストーリー法における語りの解釈や分析	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第７回	参与観察（１）参与観察法の意味や具体的プロセス，調査対象者との関係性づくり，実習時の注意点	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第８回	参与観察（２）現場の探し方や現場での過ごし方，参与観察法の意義，フィールドノートの取り方	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第９回	参与観察（３）「調査する私」をめぐる諸問題	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１０回	質的データの分析と論文の執筆（１）質的データの整理・分析方法，「分厚い記述」の意味	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１１回	質的データの分析と論文の執筆（２）質的データ分析の実例	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１２回	質的データの分析と論文の執筆（３）質的データの活用と具体的な記述方法	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１３回	調査成果発表会（１）受講者による調査成果の発表と講評	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１４回	調査成果発表会（２）受講者による調査成果の発表と講評	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60

〔授業の方法〕
講義形式が中心となりますが、毎回、グループでのディスカッションを挟みます。文献資料（質的調査の実例）を事前に読んでくる or 授業内で読む時間を設ける回もあります。質的調査に関する知識を身につけ、その上で文献に出てくる質的調査の内容を多角的に考察したり自分なりの調査計画を立てたりすることができるかどうかを評価します。

〔成績評価の方法〕
授業中の発言や質問、グループディスカッションへの参加状況（40%）、第 13 回～14 回の発表（60%）で評価します。発表は、①受講生自らによる簡単な質的調査の実施とその成果の報告②自分が読んだ質的調査の文献紹介、のうち好きな方を自由に選択していただきます。
なお、受講者の人数次第で発表が課題レポート提出に代わる可能性があります。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・質的調査の各手法に関する基礎的な知識を修得しているか
・研究実例に用いられた調査方法を把握し、その特徴と意義について説明できるか
・調査のテーマや対象の特徴を考慮し、適切な調査計画を立てることができるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士課程の資格対応科目（F）に該当する科目です。また、資格取得を目指さない人も自由に受講できます。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』岸政彦・石岡丈昇・丸山里美、有斐閣、1900 円＋税、 ISBN-10: 4641150370
『インタビューの社会学――ライフストーリーの聞き方』、桜井厚、せりか書房、2800 円＋税、ISBN-10: 4796702377
『質的データ分析法』、佐藤郁哉、新曜社、2100 円＋税、ISBN-10: 4788510952
いずれも購入の必要なし。その他の参考書については、授業内で随時紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア調査						
教員名	石堂　彰彦						
科目№	125433400	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
近年はメディア上で発信される情報の多くがデジタル化され、インターネット経由での利用が可能となっています。利用できる情報にはクチコミサイトや SNS の書き込みだけでなく、新聞記事の本文や雑誌記事の見出し、さらには過去の映像作品なども含まれます。こうした膨大な情報を、適切な視点にもとづいて選択・収集・分析することで、新たな知見を得ることができます。そのため、多様なメディアを多様な視点から分析した研究が日々生み出されています。
そこで本講義では、新聞・雑誌・テレビ・ネットなどのメディアの内容を分析し、その背後にある“意味”を発見することを目的として、関連する研究事例を参照するとともに、実際のデータを用いた分析方法を検討します。また、調査をおこなうさいに必要となるデータの収集方法や、データの分析に用いるツールの使用方法も解説します。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の２点を到達目標とします。
①各メディアの特徴や資料特性、データの収集方法、分析方法を説明できる。
②問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の概要、進め方、期末レポートの内容などについて説明する。	シラバスを読み、授業の概要を把握する。	30
第２回	メディア関連の既存調査 ・既存の調査・研究を知ることが調査の第一歩。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第３回	新聞の特性と調査事例 ・新聞の特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第４回	新聞（記事・社説）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第５回	新聞（投書）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第６回	雑誌の特性と調査事例 ・雑誌の特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第７回	雑誌の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第８回	テレビの特性と調査事例 ・テレビの特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第９回	テレビの調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１０回	ネットの特性と調査事例 ・ネットの特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１１回	ネット（SNS）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１２回	ネット（クチコミ系サイト）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１３回	複数メディアの調査方法 ・複数のメディアを組み合わせた調査について、具体的な目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１４回	まとめ ・授業の総括と期末レポートの説明	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90

〔授業の方法〕
１．配付資料をもとに講義形式で進行します。資料は前日までに CoursePower に掲示するので、授業開始までにダウンロードして内容を確認してください。なお、履修者の状況によっては、かんたんなグループワークや、履修者自身による分析を実施することがあります。
２．授業で取り上げるメディアの分析方法には、手作業や Excel を用いる方法、KH Coder というテキスト分析用のソフトウェアを用いる方法があります。これらの分析方法を、調査対象の性質に応じて適宜使い分け、実践的な分析方法を検討します。
３．授業の予習・復習用に、授業で使用するデータファイル等を受講生に配付し、受講生各自が必要に応じて分析の練習・確認をできるようにします。
４．調査・分析方法の説明には、Windows PC を用います。これは、上記 KH Coder を Mac に導入するさいに若干の制約があるためですが、Mac で利用できないわけではありません。この点については初回授業時に説明します。

５．授業は、毎回実施するコメント（リアクションペーパー）によって、受講生の理解を確認しつつ進めます。コメントには、調査のアイデアや講義内容にかんする質問や意見、感想等を記述します。
６．期末レポートでは、各自の問題意識をもとに簡単な調査計画を立てることが求められます。詳細は初回授業時に説明します。
７．授業中も質問できるようにするため、スマートフォンや PC から匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。これにより、授業中に生じた疑問や要望を、リアルタイムで教員に伝えて回答を得ることが可能になります。
８．なお、履修者数が PC 教室の定員を超過すると、通常教室での授業となる可能性があり、その場合は中間モニタを利用できなくなります。この点については初回授業時に説明します。

〔成績評価の方法〕
期末レポート 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①各メディアの特徴や資料特性、データの収集方法、分析方法を理解しているか。
②問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・予備知識は不要ですが、「授業の方法」に記したとおり PC を用いた分析方法も説明するため、PC 操作が苦手という人も、この授業を通して PC を用いた分析の有用性・必要性を学ぶ心づもりで受講してください。
・関連科目は、メディアや社会調査に関する科目全般。

〔テキスト〕
特になし。講義レジュメを毎回配付します。

〔参考書〕
初回授業時に提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
・授業終了後に教室で受け付けます。
・CoursePower でも随時受け付けます。
・なお、「授業の方法」にも記したとおり、授業中も質問できるようにするため、匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	情報社会論						
教員名	西　兼志						
科目№	125434100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
現代社会は情報社会だと言われるようになって久しいですが、この講義では、毎回のテーマに沿った 4、5 のキーワード（「脱工業社会」「知識社会」「情報産業」「物語消費」「データベース消費」「ディズニー化」「感情労働」「アテンション・エコノミー」「監視資本主義」など）を取り上げることで、現代の情報社会を理解できるようになることを目指します。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：現代のメディアのあり方について学修することを通じて、個人と社会をつなぐ関係の理解や情報化社会への対応力を解明するメディア研究の手法を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第２回	情報社会論の起源	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第３回	情報社会論の文脈	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第４回	消費社会をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第５回	消費社会論の展開	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第６回	＜キャラ＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第７回	リアル化するメディア環境をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第８回	＜推し＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第９回	アテンションをめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１０回	＜顔＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１１回	動物化をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１２回	労働をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１３回	監視をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
講義資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕
平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの適切度＝50%）。
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・取り上げたキーワードを理解できているか。
・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕
ポータルサイトを通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア文化論						
教員名	高岡　聖奈						
科目№	125434150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
今日、世界上に色々な形態のメディア文化がボーダレスに存在している。このような複雑なメディア社会を理解する上で、本講義の前半では新聞、書籍、映画、音楽、テレビ、インターネットなど多様な媒体があふれる現在までの、メディア社会の由来と理論、分析視座を学ぶ。また、後半では「差別論」をサブテーマとして設定し、メディアを基盤とした社会文化や、差別をめぐる現代社会文化への理解を促進することを目的とする。

〔到達目標〕
①「メディア論」概略　②メディアの歴史　③実践としてのメディアによる社会変化　④「差別論」概略　⑤メディアにおける表象とステレオタイプ
以上のテーマに対する知識の理解。また、現実社会の問題を考える際に必要となる、上記の分野における理論や分析視座の獲得。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業概略 ①授業内容の説明　②メディアとは何か	参考文献 吉見俊哉（1994）『メディア時代の文化社会学』新曜社。吉見俊哉（2003）『カルチュラル・タイフーン』人文書院。寄川条路（2007）『メディア論』お茶の水書房。	授業の復習　60分
第２回	メディア研究概略１ ①メディア研究のはじまり　②新聞学　③マスコミュニケーション理論の展開	参考文献 吉見俊哉（1994）『メディア時代の文化社会学』新曜社。吉見俊哉（2003）『カルチュラル・タイフーン』人文書院。寄川条路（2007）『メディア論』お茶の水書房。	授業の復習　90分
第３回	メディア研究概略２ ①電子メディアによる空間置換　②印刷革命と近代　③カルチュラルスタディーズ　④オーディエンス研究	参考文献 吉見俊哉（1994）『メディア時代の文化社会学』新曜社。吉見俊哉（2003）『カルチュラル・タイフーン』人文書院。寄川条路（2007）『メディア論』お茶の水書房。	授業の復習　90分
第４回	メディアの歴史１ ①パンフレット　②新聞　③ジャーナリズム　④電話	参考文献 村上直之（1995）『近代ジャーナリズムの誕生』岩波書店。坂田謙司（2005）『「声」の有線メディア史』世界思想社。ターナーG（2012）『フィルム・スタディーズ』松田憲次郎訳、水声社。　高橋雄造（2011）『ラジオの歴史』法政大学出版局。　吉見俊哉・土屋礼子編（2010）『大衆文化とメディア』ミネルヴァ書房。	授業の復習　90分
第５回	メディアの歴史２ ①映画　②ラジオ　③マスメディアとしてのラジオ放送　④テレビ　⑤ナショナルメディアとしてのテレビ	参考文献 村上直之（1995）『近代ジャーナリズムの誕生』岩波書店。坂田謙司（2005）『「声」の有線メディア史』世界思想社。ターナーG（2012）『フィルム・スタディーズ』松田憲次郎訳、水声社。　高橋雄造（2011）『ラジオの歴史』法政大学出版局。　吉見俊哉・土屋礼子編（2010）『大衆文化とメディア』ミネルヴァ書房。	授業の復習　90分
第６回	実践としてのメディアによる社会変化　①携帯電話と社会の変化　②パソコンと市民社会変化　③グローバルメディア　④メディアリテラシー	参考文献 岡田朋之・松田美佐編（2012）『ケータイ社会論』有斐閣。浜田忠久・小野田美都江（2003）『インターネットと市民』丸善。武市英雄・原寿雄責任編集（2003）『グローバル社会とメディア』ミネルヴァ書房。菅谷明子（2000）『メディア・リテラシー』岩波書店。　鈴木みどり編『study guide メディア・リテラシー（新版）』リベルタ出版。水越伸・吉見俊哉編（2003）『メディア・プラクティス』せりか書房。	授業の復習　90分
第７回	ソーシャルメディア１ ①ソーシャルメディアと世論　②インターネットと公共圏　③ソーシャルメディアと社会関係	参考文献 遠藤薫（2016）『ソーシャルメディアと世論形成』電機大学出版局。　高橋淳一（1999）『情報と政治』新評社。西田亮介（2013）『ネット選挙とデジタル・デモクラシー』NHK 出版。吉田徹（2014）『感情の政治学』講談社。伊藤昌亮（2011）『フラッシュモブズ』NTT 出版。	授業の復習　90分
第８回	ソーシャルメディア２ ①ソーシャルメディアとまつり　②フラッシュモブズ　③ソーシャルメディアとグローバル	参考文献 遠藤薫（2016）『ソーシャルメディアと世論形成』電機大学出版局。　高橋淳一（1999）『情報と政治』新評社。西田亮介（2013）『ネット選挙とデジタル・デモクラシー』NHK 出版。吉田徹（2014）『感情の政治学』講談社。伊藤昌亮（2011）『フラッシュモブズ』NTT 出版。	授業の復習　90分
第９回	ソーシャルメディア３ ①ネット選挙とソーシャルメディア　②選挙とソーシャルメディア　③ソーシャルメディアとテロ　④メディアと社会運動	参考文献 遠藤薫（2016）『ソーシャルメディアと世論形成』電機大学出版局。　高橋淳一（1999）『情報と政治』新評社。西田亮介（2013）『ネット選挙とデジタル・デモクラシー』NHK 出版。吉田徹（2014）『感情の政治学』講談社。伊藤昌亮（2011）『フラッシュモブズ』NTT 出版。	授業の復習　90分
第１０回	差別論概略１ ①差別論について　②差別の定義　③排除の理論　④偏見理論批判	参考文献 佐藤裕（2005）『新版 差別論』明石書店。赤坂憲雄（1991）『新編排除の現象学』筑摩書房。今村仁司（1989）『排除の構造』青土社。江原由美子（1985）『「差別の理論」とその批判』勁草書房。江原由美子（2021）『ジェンダー秩序新装	授業の復習　120分

		版』勁草書房。	
第１１回	差別論概略 2 ①小説のなかの差別表現　②曖昧な表現における差別語　③ジェンダー	参考文献 佐藤裕（2005）『新版 差別論』明石書店。 岡庭昇（1994）『メディアと差別』解放出版社。林道義（1996）『父性の復権』中公新書。林道義（1999）『母性の復権』中公新書。	授業の復習　120 分
第１２回	表象とステレオタイピング ①エスニシティ　②ジェンダーとセクシャリティ　③コンフリクト	参考文献 李光鎬・渋谷明子（2017）『メディアオーディエンスの社会心理学』新曜社。岡庭昇（1994）『メディアと差別』解放出版社。上瀬由美子（2002）『ステレオタイプの社会心理学』サイエンス社。 高史明（2015）『レイシズムを解剖する』勁草書房。国広陽子編（2012）『メディアとジェンダー』勁草書房。	授業の復習　90 分
第１３回	メディアとレイシズム ①雑誌からインターネットへ　②インターネットにおけるレイシズム言説形成過程	参考文献 高史明（2015）『レイシズムを解剖する』勁草書房。伊藤昌亮（2019）『ネット右派の歴史社会学』青土社。	授業の復習　90 分
第１４回	メディアとセクシズム ①インターネットにおけるセクシズム言説の形成過程　②インターネットにおけるアンチフェミニズム言説	参考文献 国広陽子編（2012）『メディアとジェンダー』勁草書房。伊藤昌亮（2022）.「『弱者男性論』 の形成と変容」『現代思想』 50(16), 142-155。	授業の復習　90 分

〔授業の方法〕
授業は毎回配布するレジュメに沿って、講義形式で行う。期末テストは、レジュメに記載されている内容から出題する。

〔成績評価の方法〕
試験 60%、平常点（授業への参加状況、授業内の発言等）40%で評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ネットワーク社会論						
教員名	高橋　裕行						
科目No.	125434200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
ネットワーク社会のあり方を、「未来の暮らしを想像する」という観点から学びます。
これからのメディアは、AI やロボティクス、バイオテクノロジーなどの先端技術を抜きには語ることはできません。しかし、単に技術的な知識を得るだけでは、それらが世の中にどんなインパクトを及ぼすかを予測することは難しいでしょう。
かつてパーソナルコンピュータの構想を描いたアラン・ケイは「未来を予測する最善の方法は、それを発明することだ」と述べました。技術に対して受動的に流されるのではなく、積極的にそれらを使いこなし、次の時代を自ら切り開くことが必要です。そのための手掛かりをこの授業では提供したいと思います。

〔到達目標〕
DP1【専門分野の知識・技能】
ネットワーク社会について考えるための枠組みとなる理論について、その概略を説明できるようになる。
DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)
ネットワーク社会を、現在の技術動向、社会動向と結びつけ理解し、「未来の暮らし」を活き活きと想像できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第２回	未来の「家族」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第３回	未来の「働き方」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第４回	講師が 20 歳までに影響を受けたもの（ネットワーク社会の観点から）	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第５回	未来の「食」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第６回	未来の「モビリティと都市」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第７回	未来の「買い物、お店、物流」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第８回	AI はネットワーク社会をどう変えるか	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第９回	未来の「教育」①	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１０回	未来の「教育」②	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１１回	ワークショップ「2045 年の革命家」	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１２回	アクターネットワーク理論	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１３回	メディアの中の戦争	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60
第１４回	課題講評	【復習】 よく理解できなかった部分や、特に興味を持った部分について追加でリサーチし、今回の授業を通じて学んだことをリアクションペーパーにまとめる。	60

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、レポート等：50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目：情報デザイン論

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
グループワークを行う回がある。

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア産業論						
教員名	糸永　正行						
科目№	125434250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
マスメディアとデジタルメディアとが混淆する過程にあるものとしてのメディア産業のあり方を論じます。音楽、新聞、ラジオ、テレビ、出版、映画、アニメ、ゲーム、ネット、広告のそれぞれの領域から、メディア産業の成り立ちとその動向を捉えるとともに、その意義、問題点、将来展望などについて考えます。記者や新聞社管理職、ネットメディア編集委員としての実務経験に基づき、メディア産業の実状について論じます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①メディア産業の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。
②メディア産業をめぐるさまざまな論点について、その概略を説明し、自分なりの考えを表明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の内容や進め方、予習・復習、評価などの方法について説明する。	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第２回	音楽産業の成り立ち ・デジタル化に適応している音楽産業のビジネスモデルについて学修し、メディア産業が直面しているデジタルシフトの基本を把握できるようにする。	【予習】自分の音楽との接触体験を振り返る（初めて購入した曲は？どのように聴いているか？音楽を聴くのに、いくらまでならお金を支払うか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第３回	新聞産業の成り立ち ・新聞産業の歴史と変化、社会的役割、デジタル化への対応について学修し、同産業の課題を把握できるようにする。	【予習】新聞（全国紙、地方紙、経済紙、専門紙、業界紙、スポーツ紙、政党紙を問わない）を 1 紙以上読む。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第４回	ラジオ産業の成り立ち ・最初の放送メディアのラジオ産業について、発明から放送ビジネスの成立と新聞やテレビとの関係について学修し、メディア多様性を把握できるようにする。	【予習】自分のラジオとの接触体験を振り返る（ラジオを所有しているか？いつ・どこで・どんな番組を聴いているか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第５回	テレビ産業の成り立ち ・映像のメディアとして誕生したテレビ産業の歴史を通じて人々に与えた影響を学修し、大量消費社会との関わりを把握できるようにする。	【予習】自分のテレビとの接触体験を振り返る（自分専用のテレビを持っているか？いつ・どこで・誰と・どんな番組をみているか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第６回	出版産業の成り立ち ・雑誌を中心に流通の側面から出版業界のビジネスモデルについて学修し、デジタル化への対応など同業界の変化について把握できるようにする	【予習】自分の雑誌との接触体験を振り返る（雑誌の購入頻度は？なぜ、その雑誌を購入したのか？どんな雑誌を購入しているのか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第７回	授業内レポート①	【予習】 講義を振り返り、ポイントを整理する。	60
第８回	映画産業の成り立ち ・最も古い映像メディアで劇場型メディアの映画業界の歴史を学修し、テレビやネット動画とのメディア間競争や共存について把握できるようにする。	【予習】自分の映画との接触体験を振り返る（初めて自らの意思でみた映画は？、映画をみる頻度は？誰と映画をみるか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第９回	アニメ産業の成り立ち ・米国で始まったアニメ産業を日本がどう受け入れ、産業化したかの歴史を学修し、1970 年代後半に登場した現在のビジネスモデルを把握できるようにする。	【予習】自分のアニメとの接触体験を振り返る（初めてみたアニメは？アニメをみる頻度は？最も印象に残ったアニメなど）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１０回	ゲーム産業の成り立ち ・ベンチャー企業から始まったゲーム産業が合併や買収（M&A）を通じて巨大化した経緯を学修し、メディアと資本主義の関係について把握できるようにする。	【予習】自分のゲームとの接触体験を振り返る。（初めて遊んだゲームは？ゲームを楽しむ頻度は？いつ・どこで・何を使ってゲームをするか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１１回	ネットメディア産業の成り立ち ・インターネットの本格的な普及が始まった 1995 年からネット産業誕生の経緯を学修し、ネット産業のビジネスモデルを把握できるようにする。	【予習】自分のネットメディアとの接触体験を振り返る（最初に利用したネットメディアは？アクセス頻度は？利用している端末は？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１２回	広告産業の成り立ち ・広告産業の歴史を振り返り、新聞、ラジオ、テレビ、ネットなどメディア変遷への対応を学修し、広告と社会の関わりを把握できるようにする。	【予習】自分の広告との接触体験を考える（最近、印象に残った広告は何か？どんなメディアで広告をみるか？など）。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１３回	メディアミックス ・メディアの枠を超えたメディアミックスの現状を学修し、メディア産業界の全体像を把握できるようにする。	【予習】メディアミックスの事例を調べる。 【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１４回	授業内レポート②	【予習】 講義を振り返り、ポイントを整理する。	60

〔授業の方法〕
パワーポイント資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパー提出の状況）:50%、レポート等:50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①個々のメディア産業の成り立ちと歴史的な背景を明確に説明できる。
②メディア産業の課題を理解し、わかりやすく説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に随時指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア制度史						
教員名	塩谷　昌之						
科目№	125434300	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
この科目では、近現代の日本におけるメディアの歴史について、制度に注目しながら学んでいく。
現代において当たり前に存在しているさまざまなメディアは、それらが誕生して普及しはじめた当初には新しいものであった。新しいものが社会に受け入れられていくなかで、人々の間には驚きや困惑、そしてコンフリクトが引き起こされていく。そこでは文化が作り出されることもあれば、規制が生み出されることもあった。このような歴史的な展開について、制度のあり方を追跡することによって学修していく。メディアの初期の姿を描き出すために、主として近代の出来事を中心に取り上げるが、現代との結びつきもある程度補足する。

〔到達目標〕
DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、以下のような到達目標を設定する。
・近代日本のメディアとその制度の歴史的展開を深く理解し、メディアを読み解くためのリテラシーを身に付ける。
・現代日本のメディアの背景を多角的に捉え、自らの興味関心に基づいて、主体的に学修を継続できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第２回	メディアと制度の捉え方	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第３回	大衆の誕生	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第４回	流通・交通が生み出した文化	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第５回	出版物をめぐる制度①	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第６回	出版物をめぐる制度②	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第７回	活動写真・映画をめぐる制度①	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第８回	活動写真・映画をめぐる制度②	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第９回	蓄音機・電話・ラジオをめぐる制度	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１０回	検閲のもつ拘束性	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１１回	戦争とメディア	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１２回	計算機の登場	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１３回	受け手のもつ創造性	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１４回	講義のまとめとレポートの作法	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120

〔授業の方法〕
配布した資料および、スライドを用いて講義を行う。補足的に CoursePower を利用する。

〔成績評価の方法〕
授業への意欲　50%
授業後に回収するコメントシートをもって評価する。
期末レポート　50%

レポートの評価基準については授業内で提示する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
履修に際して、条件は設定しない。

〔テキスト〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔参考書〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	マス・コミュニケーション論						
教員名	本橋　春紀						
科目№	125434350	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
マス・コミュニケーションとは、マス（大衆）を対象に多様な情報や内容を届けるコミュニケーションのあり方です。テレビや新聞をはじめとするマス・メディアは、その送り手であり媒介者でもあります。
マス・メディアは、報道を通じて民主主義的な政治過程に関与し、さまざまな作品によって全国的流行を生み、広告を通じて大量生産・大量消費の経済構造を維持するなど、大きな役割を果たしてきました。
インターネット、特にＳＮＳがコミュニケーションの中心になりつつある 21 世紀のデジタル・メディア社会において、マス・メディアはどのような役割を果たすべきなのか、その現状と将来を考えます。
現在も民間放送の事業者団体で実務を担っている立場を生かして、マス・コミュニケーションにかかわる時々のトピックスを授業内で取り上げ、マス・メディアの良い点と課題をバランスよく理解できるようになることを目指します。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
・マス・コミュニケーションの実態と構造を学び、現代社会において果たしている機能について説明できるようになる。
・マス・コミュニケーションを批判的に読み解くことで、メディアを通じたコミュニケーション全般についての思考を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	マス・コミュニケーションとは何か ～群衆、公衆、市民、大衆、マス	媒体としての新聞やテレビの自分とのかかわり、新聞やテレビが提供するコンテンツとの間接的なかかわりなどについて、振り返っておく。	60 分
第２回	マス・メディアの現在 ～新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、ネット	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第３回	日本のメディアの生態系とその歴史 ～その誕生から 20 世紀末まで	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第４回	マス・コミュニケーション研究の流れ ～複製環境、強力効果研究、二段階の流れ論	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第５回	マス・メディアの影響力とは ～ＳＮＳとの対比を踏まえて	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第６回	マス・メディアと表現の自由１ ～人々の自由とマス・メディアの自由	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第７回	マス・メディアと表現の自由２ ～名誉毀損の法理などを例に	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第８回	ジャーナリズムとマス・メディア ～権力監視の必要性	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第９回	マス・コミュニケーションと倫理 ～信頼性を支える基準と仕組み	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	90 分
第１０回	放送というマス・メディア ～放送法に根拠を置く在り方	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１１回	デジタル・メディア社会 ～デジタル化がもたらしたもの	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１２回	情報空間における公共放送の役割とは ～受信料制度はなぜあるのか	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１３回	メディア・イベントとは ～オリンピックを例に	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１４回	全体の振り返り	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	90 分

〔授業の方法〕
配付資料にもとづく講義形式で進めます。必要に応じて視聴覚素材も使います。
コメントシートの提出を必須として、そこでもらった質問を次回の授業で共有しながら、極力回答していきます。また、授業の進行に即して小アンケート等を行ったり、特定テーマについてコメントを求めたりします。
学生の理解を促進するため、マス・コミュニケーションにかかわる時々のトピックスを取り上げて、授業計画を組み替えることがあります。

〔成績評価の方法〕

平常点（コメントシート、小テスト等、40%）、期末試験もしくはレポート（60%）を基本として総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。マス・メディアと自分の日常的なかかわりについて意識しておいてください。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『マスメディアとは何か』、稲増一憲、中公新書、880 円（税別）、ISBN978-4-12-102706-1（購入の必要なし）
『２１世紀メディア論 （改訂版）』水越伸、放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-14027-3（購入の必要なし）
『マス・コミュニケーションの世界』、伸川秀樹、ミネルヴァ書房、2500 円（税別）、ISBN978-4-623-08541-5（購入の必要なし）
『入門 メディア・コミュニケーション』、山越修三編著、慶應義塾大学出版会、2500 円（税別）、ISBN978-4-7664-2444-7（購入の必要なし）
のほか、授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア・リテラシー論						
教員名	見城　武秀						
科目№	125434400	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
皆さんは「メディア・リテラシー」という言葉を聞いたことがあるでしょうか?「メディアと主体的・批判的につき合う能力」といった説明がされることの多いこの言葉ですが、実はメディアという存在をどのように捉えるかによって、そこから導かれるメディア・リテラシー観も大きく違ってきます。
この授業ではまず、メディア・リテラシーを理解するための前提となる基礎概念（＝メディアの文法性、／メディアの文脈依存性／メディアに対する批判性）について、映像を中心とした実際のメディア作品を題材として解説します。次に、メディアの役割を「現実の反映」と見る立場から導かれる「反映主義的メディア・リテラシー観」と、メディアの役割を「現実の構成」と見る立場から導かれる「構成主義的メディア・リテラシー観」とを対比させることで、両者にとって「メディア批判」がもつ意味がまったく異なることを明らかにします。このような作業を通じて最終的にメディア・リテラシーについて論ずる上での「落とし穴」の存在に気づいてもらうことが、この講義の目的です。

〔到達目標〕
DP１-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。）、DP2-1（人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる）を達成するため、次の 2 点を到達目標とします。
（１）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解すること。
（２）（１）の理解に基づき、現実におこなわれている「メディア批判」における「批判」の意味を反省的に捉え直す視点を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第２回	メディア・リテラシーとは何か	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第３回	メディアの文法性–登場人物の「心の声」はどう表現される？	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第４回	メディアの文脈依存性–なぜ変身アイテムはくり返し壊れるのか？	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第５回	２つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（１）	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第６回	２つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（２）	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第７回	メディアに対する批判性とは何か（１）―ナマ信仰／リアル信仰の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第８回	メディアに対する批判性とは何か（２）―反映主義的メディア批判と構成主義的メディア批判	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第９回	ドキュメンタリーは嘘をつく	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１０回	メッセージを意味づけるフレームの多層性	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１１回	なぜ「やらせ」は繰り返されるのか？―「事実主義」および「中立・公正・客観主義」の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１２回	フェイクニュースとファクトチェックをめぐる議論の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１３回	1964 年東京／2012 ロンドン／2016 リオ・デジャネイロ―３つのオリンピックにおける映像メディアの役割を比較することで見えてくること	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１４回	まとめ	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60

〔授業の方法〕
講義形式。毎回、授業内容に関連する課題を出します。

〔成績評価の方法〕

毎回の提出課題に基づく平常点 100%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。
（1）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解しているか。
（2）反映主義的メディア観に基づくメディア批判と構成主義的メディア観に基づくメディア批判が混在していることから生ずるメディア・リテラシー論の落とし穴を理解できたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、メディア・リテラシー演習Ａ、メディア・リテラシー演習Ｂ。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ジャーナリズム論						
教員名	石堂　彰彦						
科目№	125434450	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
今日、世界の多くの国や地域において、人びとは分断と対立、格差、憎悪、そして権力の専横にさらされています。それは日本も例外ではありません。このような状況において、人びとに事実を伝えるジャーナリズムの重要性は日ごとに増大しています。しかしジャーナリズムは同時に、さまざまな批判にもさらされています。ジャーナリズムはその役割を十全に果たしているといえるのでしょうか。本講義では、現代社会においてジャーナリズムが直面する問題と、ジャーナリズムが果たしてきた役割について、実際の報道事例を参照しつつ検討していきます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①ジャーナリズムに求められる役割と、それが重要とされる理由や背景を説明できる。
②ジャーナリズムが直面する問題と、それが問題とされる理由や背景を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の全体像や進め方などについて説明する。ジャーナリズムにかんするアンケートも実施する予定。	【予習】シラバスを読み、授業の概要を把握する。	30
第２回	ジャーナリズムの歴史と役割 ・ジャーナリズムはなぜ必要とされるのか、その歴史を振り返りつつ考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第３回	ニュースとは何か ・ジャーナリズムが報じる「ニュース」について、その実態と問題点を考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第４回	ネット時代のニュース環境 ・スマートフォンの普及によって劇的に変化しつつあるニュース接触環境について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第５回	新聞ジャーナリズムの基本 ・新聞ジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第６回	新聞ジャーナリズムの実際 ・新聞ジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第７回	テレビジャーナリズムの基本 ・テレビジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第８回	テレビジャーナリズムの実際 ・テレビジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第９回	ジャーナリズムと情報公開 ・ジャーナリズムにおける公文書などの「情報」の重要性について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１０回	雑誌ジャーナリズムの基本と実際 ・雑誌ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１１回	オルタナティブ・ジャーナリズムの基本と実際 ・既存ジャーナリズムとは異なるオルタナティブ・ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１２回	ジャーナリズム・リテラシー ・ここまでの議論を整理しつつ、われわれはジャーナリズムとどのように付き合っていけばよいのかを考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１３回	到達度確認テスト ・授業の到達目標に達しているかどうかを確認する。	【予習】授業全体を振り返り、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	テストの講評とまとめ	【復習】到達度確認テストを振り返り、自らの到達度を確認する。	60

〔授業の方法〕
・配付資料を中心に講義形式で進行します。毎回実施するコメント（リアクションペーパー）によって、受講生の理解を確認しつつ進めます。情勢の変化や授業の進捗状況等に応じて内容を変更することがあります。
・授業中も質問できるようにするため、スマートフォンや PC から匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。これにより、授業中に生じた疑問や要望を、リアルタイムで教員に伝えて回答を得ることが可能になります。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①ジャーナリズムに求められる役割と、それが重要とされる理由や背景を、具体的な事例に即してわかりやすく説明できるか。
②ジャーナリズムが直面する問題と、それが問題とされる理由や背景を、具体的な事例に即してわかりやすく説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・予備知識は不要ですが、日頃接するニュースについて、その背景や意味を考えるようにすることで、ジャーナリズムの役割や問題をより身近なこととして理解できるようになるでしょう。
・関連科目は、メディアやジャーナリズムに関する科目全般。

〔テキスト〕
特になし。講義レジュメを毎回配付します。

〔参考書〕
原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書（新赤版 1170）、2009 年、ISBN 9784004311706（購入の必要なし）
その他の参考書は初回授業時に提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・授業終了後に教室で受け付けます。
・CoursePower でも随時受け付けます。
・なお、「授業の方法」にも記したとおり、授業中も質問できるようにするため、匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	出版メディア論						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125435100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本講義の目的は、日本の出版の歴史をたどりながら、本、雑誌などという文字にかんするメディアが作り出してきたものについて考察することである。それは、たんに一つの本・雑誌が生み出され、忘れられていったことを追うのではない。それだけでなく、一つの本・雑誌が生み出された社会のありようを明らかにし、また、一つの本・雑誌が作り出した社会のありようを明らかにすることでもある。ひいては、人が文字にかんする文化、文字が紡ぎだす世界をどのようにとらえてきたかを明らかにすることでもあるのである。本講義では、一つひとつの本・雑誌の誕生と忘却とともに、それらをめぐる社会のありようを考察し、そのような問いに取り組んでいくことにしたい。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
出版の歴史を把握するとともに、出版が社会のなかで果たしてきた役割について把握することができる。
文字にかんする文化、文字が作り出す世界について考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	出版文化をどのようにとらえたらよいのか	【復習】配布プリントと参考文献を読む	90
第２回	総合雑誌（１） ――学歴貴族と教養主義（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第３回	総合雑誌（２） ――学歴貴族と教養主義（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第４回	総合雑誌（３） ――学歴貴族と教養主義（３） 婦人雑誌（１） ――「主婦」と新しい家族（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第５回	婦人雑誌（２） ――「主婦」と新しい家族（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第６回	婦人雑誌（３） ――「主婦」と新しい家族（３）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第７回	婦人雑誌（４） ――「主婦」と新しい家族（４） 大衆雑誌（１） ――反教養主義（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第８回	大衆雑誌（２） ――反教養主義（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第９回	大衆雑誌（３） ――反教養主義（３） 「少年文学」叢書と愛子叢書（１） ――近代の子ども（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１０回	「少年文学」叢書と愛子叢書（２） ――近代の子ども（２） 少年少女雑誌（１） ――都市新中間層の子どものジェンダー（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１１回	少年少女雑誌（２） ――都市新中間層の子どものジェンダー（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１２回	少年少女雑誌（３） ――都市新中間層の子どものジェンダー（３）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１３回	『赤い鳥』『少年戦旗』（１） ――童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１４回	『赤い鳥』『少年戦旗』（１） ――童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学（１） 戦後の少年少女雑誌 ――戦後の異性愛文化と雑誌 ――少年少女雑誌	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90

〔授業の方法〕
講義形式。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
今田絵里香『新装版「少女」の社会史』勁草書房、2022 年。
今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	映像メディア論						
教員名	西　兼志						
科目№	125435150	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
メディアは、映し出されたり語られたりする対象（オリジナル）を複製（コピー）します。このオリジナルとコピーの関係は、これまで「アウラの喪失」「疑似イベント」「シミュラークル」「不気味なもの」などといったかたちで論じられてきました。この講義では、この関係を類似性（「○○っぽさ」）という観点から捉え直すことで、メディア（論）の展開を再考してみたいと考えています。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：
類似性という観点から、メディア（論）の展開について学修することを通じて、各自が、身近なメディアを捉え返せるようになることを目指します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第２回	言語学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第３回	認知科学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第４回	行動経済学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第５回	脳科学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第６回	精神分析学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第７回	文化産業論の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第８回	消費社会論の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第９回	マーケティングの観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１０回	ネオ TV 化の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１１回	リアル化の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１２回	フェイクニュースの観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１３回	人工知能の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
また、単位取得にあたっては、講義資料のアクセスが必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、講義内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕
平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの内容＝50%）。
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・メディア（論）の展開を理解できているか。
・その上で、各自の身の回りのメディア現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：「メディア論入門」「情報社会論」

〔テキスト〕
CoursePower を通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	広告論						
教員名	片山　淳						
科目№	125435200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
広告とは、時代や人間のさまざまな側面を反映しながら社会に浸透した、コミュニケーション形態のひとつ。人間心理や世の中の普遍性を描き出す一方で、技術の進化や産業の変化にも敏感に呼応する、いわば「社会の鏡」ともいえる存在です。本講義では、講師の実務経験を活かして広告という事象を読み解き、学術と実践の両者を視野に入れながら理解を深めていきます。
※各テーマの内容や順番は、進捗および社会状況を考慮して変更する場合があります。

〔到達目標〕
DP1-1（専門分野の知識・技能）2-1（広い視野での思考・判断）を実現するため、次の 3 点を到達目標とします。
①広告活動全般における用語や概念を正しく理解できる。
②広告施策における背景や構造を多面的に読み解くことができる。
③現代社会学の一環として、他分野にも通じる普遍的な視座を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「広告論」のガイダンス ・講義の意味と目的について考えるとともに、内容と進め方、評価方法などについて説明します。	【予習】シラバスを読み、講義のテーマと内容について考えておく。 【復習】資料を読み返し、疑問点および講義に臨んでの自身の目標を整理・確認しておく。	100 分
第２回	広告の歴史 ・広告の発祥から現在までを概観しつつ、事例を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第３回	広告の定義 ・広告の定義とその背景にあるさまざまな視座について、事例を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。次回のグループワーク用課題に回答する。	100 分
第４回	広告の「つくられ方」 ・前回の課題に基づきグループワークを行います。 ・広告の企画・制作における基本的なプロセスとその目的について学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第５回	広告におけるマーケティングの視点 ・広告の企画・制作におけるマーケティングの基礎を、文献等を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第６回	広告におけるコピーの仕事（講義） ・企画から制作を通じて広告の「軸」となるコピーについて、事例を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。次回のグループワーク用課題に回答する。	100 分
第７回	広告におけるコピーの仕事（グループワーク） ・課題として書いたコピーの分析・検討を通じて、広告への視点を広げていきます。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第８回	「広告賞」というメッセージ ・内外の広告賞事例を中心に、その役割や意味合いを考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第９回	「公共広告」というコミュニケーション ・公共広告の目的や意味合いについて、事例を参照しながら考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第１０回	広告とグローバリズム ・前回の課題に基づきグループワークを行います。 ・グローバル視点からの広告ミュニケーションについて、事例を参照しながら考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。次回のグループワーク用課題に回答する。	100 分
第１１回	広告の「現場」から（ゲスト講義） ・実務に関わるゲストスピーカーの登壇を予定しています（調整中）	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第１２回	広告を考える―企画書の作成（講義） ・広告の設計図としての「企画書」について学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分
第１３回	広告を考える―企画書の作成（グループワーク） ・課題として作成した企画書の分析・検討を通じて、広告への視点を広げていきます。 ・期末レポートを出題し、振り返りの機会とします。	【予習】これまでの講義資料やメモを参照して内容を確認しておく。	100 分
第１４回	「広告論」の総括 ・期末レポートからの知見や学びを共有しつつ、講義全体を振り返ります。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。講義についての小レポートに回答する。	100 分

〔授業の方法〕
・各回ごとのテーマに沿って講義形式で進めます。適時、映像等の資料を参照します。
・随時発言や議論の機会を設けます。積極的な参加を希望します。

〔成績評価の方法〕

・平常点（授業への参加状況や小レポートの提出状況）50%
・グループワーク用課題（提出状況および内容）30%
・期末レポート（提出状況および内容）20%
※ただし期末レポートの提出は必須。諸事情で欠席の場合は相談・検討のうえ考慮します

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠し、主に下記の点を考慮して評価を行います。
・広告という事象についての基本的な知識を修得し、社会との関係性の中での理解ができているか
・レポートや発言等を通じて講義における知の共有に寄与できているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありませんが、日々の生活で接する広告メッセージの意図や背景について意識的であることを望みます。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
講義中および終了後に教室で受け付けます。またメールでの質問・相談も可能な限り対応します。
（メールアドレスは講義時に通達します）

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	デジタル・メディア論						
教員名	石堂　彰彦						
科目No.	125435250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
今日、デジタルメディアは社会の隅々にまで入り込み、私たちの生活に欠かせないものとなっています。そこでデジタルメディアと社会の関係について、関連する理論・歴史・技術的背景をふまえたうえで、人間関係や社会課題などの側面から検討していきます。デジタルメディアと社会の関係を社会学的な観点から理解することが授業の目的です。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
① デジタルメディアと社会の関係について、具体的な事例や現象をもとに社会学的な観点から説明することができる。
② ①を前提としたうえで、その事例や現象を社会学的な観点から批判的に論じることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【予習】シラバスを読み、授業の概要を把握する。	30
第２回	デジタルメディアを捉える視点	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第３回	アナログメディアからデジタルメディアへ	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第４回	スマートフォンとソーシャルメディア	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第５回	コミュニケーション	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第６回	社会運動	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第７回	フェイクニュース	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第８回	世論	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第９回	アーキテクチャ	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１０回	プライバシー	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１１回	プラットフォーム	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１２回	デジタルメディアの未来	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１３回	到達度確認テスト	【予習】授業全体を振り返り、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	テストの講評とまとめ	【復習】到達度確認テストを振り返り、自らの到達度を確認する。	60

〔授業の方法〕
・配付資料を中心に講義形式で進行します。毎回実施するコメント（リアクションペーパー）によって、受講生の理解を確認しつつ進めます。情勢の変化や授業の進捗状況等に応じて内容を変更することがあります。
・授業中も質問できるようにするため、スマートフォンや PC から匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。これにより、授業中に生じた疑問や要望を、リアルタイムで教員に伝えて回答を得ることが可能になります。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
① デジタルメディアと社会の関係について、具体的な事例や現象をもとに社会学的な観点から説明することができるか。
② ①を前提としたうえで、その事例や現象を社会学的な観点から批判的に論じることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・予備知識は不要ですが、日頃何気なく利用しているデジタルメディアについて、なぜ、どのようにそれを利用しているのか、その背後にある仕組みは何か等を考えることで、デジタルメディアが私たちに及ぼしている影響をより身近なこととして理解できるようになるでしょう。
・関連科目は、メディアに関する科目全般。

〔テキスト〕
特になし。講義レジュメを毎回配付します。

〔参考書〕
各回の授業時に提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・授業終了後に教室で受け付けます。
・CoursePower でも随時受け付けます。
・なお、「授業の方法」にも記したとおり、授業中も質問できるようにするため、匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用います。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	情報デザイン論						
教員名	高橋　裕行						
科目№	125435300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
「自分が他の人とどう違うのか知りたい」「就職後にも役に立つスキルを身につけたい」
そんな風に思っているひとのための講義です。
情報が人間の尺度を超えて膨大に増え続けている現在、
必要なときに必要な情報を手に入れ、編集し、そこから新たなアイデアを生み出し、
オリジナルな価値をもったものとして発信する「情報デザイン」が強く求められています。
この授業では、情報デザインの諸手法（収集/編集/発信）を紹介します。
演習やグループワークを通じて、実践的なスキルが身につくようにします。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、
1. 情報デザインの概略を理解する。
2. 情報の収集（インプット）、編集（プロセス）、発信（アウトプット）に関わる諸手法の基本概念と特徴を理解する。
3. 上記の諸手法を実践するための知識とスキルを身につける。

なお、授業は以下の「21 世紀スキル」の 10 のスキルの習得を念頭において構成されている。
1. 創造性、イノベーション
2. 批判的思考、意思決定、問題解決
3. 学び方の学習、メタ認知
4. コミュニケーション
5. コラボレーション
6. 情報リテラシー
7. ICT リテラシー
8. 市民性
9. 人生とキャリア
10. 個人的、社会的責任

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	インプット手法 1（情報の収集） 課題：「吉祥寺の隠れた魅力」（グループワーク） 手法：文献調査、フィールドワーク、インタビュー	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第２回	インプット手法 2（情報の収集） 課題：「吉祥寺の隠れた魅力」（グループワーク） 手法：文献調査、フィールドワーク、インタビュー	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第３回	プロセス手法 1（情報の整理と発想） 課題：「ピーチ君を有名にする方法」など（グループワーク） 手法：ブレインストーミング、KJ 法、収束技法	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第４回	プロセス手法 2（情報の整理と発想） 課題：「豊かな休日の過ごし方」など（グループワーク） 手法：CPS ライティング、パターン・ランゲージ	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第５回	アウトプット手法 1（情報の表現） 課題：「私のお店」（個人）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第６回	アウトプット手法 2（情報の表現） 課題：「私のお店」（個人）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第７回	ゲストトーク 先輩のお話：成蹊大学卒業生サイバーエージェント酒井様（予定）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第８回	ワークショップデザイン 1（概論：ワークショップとはなにか）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第９回	ワークショップデザイン 2（問いのデザイン）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１０回	ワークショップデザイン 3（遊びのデザイン）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１１回	ワークショップデザイン 4（問いと遊びの接合）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１２回	ワークショップデザイン 5（設計）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１３回	ワークショップデザイン 6（実施） 課題：「ワークショップをつくろう」（グループワーク）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１４回	ワークショップデザイン 7（実施） 課題：「ワークショップをつくろう」（グループワーク）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分

〔授業の方法〕

・スライドを使った講義と、学生による発表を交互に行います。
・グループワークを行います。
・授業資料は、成蹊ポータル等で配布します。

〔成績評価の方法〕
・リアクションペーパーへの記入 50%、課題発表 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室もしくはメールで受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディアの理論						
教員名	西　兼志						
科目№	125435350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、メディア論の最重要概念のひとつである「メディエーション（媒介作用、メディア作用）」について、関連する諸概念（コミュニケーション、伝達、個体化、感染など）との関係を考察することで、より深く理解できるようにしていきます。それによって、現代社会におけるメディアのありようについて考えるための視座を提供したいと思います。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：
メディアの理論の学修を通じて、各自にとって身近なメディア現象を、各自で捉え返せるようになることを目指します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第２回	メディエーションとは（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第３回	メディエーションとは（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第４回	メディエーションと言語	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第５回	メディエーションとコミュニケーション（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第６回	メディエーションと伝達（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第７回	メディエーションと個体化	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第８回	メディエーションと感染	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第９回	メディエーションとアテンション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１０回	メディエーションとマス・コミュニケーション（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１１回	メディエーションとマス・コミュニケーション（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１２回	メディエーションとコミュニケーション（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１３回	メディエーションと伝達（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
単位取得にあたっては、講義資料のアクセスが必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、講義内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕
平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの内容＝50%）。
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・メディア（論）の展開を理解できているか。
・その上で、各自の身の回りのメディア現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：「メディア論入門」

〔テキスト〕
CoursePower を通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.
『アイドル/メディア論講義』東京大学出版会、2017.
その他、随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	サブカルチャー論						
教員名	飯塚　邦彦						
科目№	125435400	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、「おたく文化」（アニメ、マンガ、ゲームを軸とした文化）を題材に、70 年代後半以降の日本のサブカルチャーが、どのように成長・変化したかをみていく。
「おたく文化」は、現在では日本を代表する文化の一つであり、文化輸出の面でも重要視されている「メインストリームカルチャー」である。しかし 70 年代半ばの成立期には、限られた若者だけが楽しむ「サブカルチャー」であった。また 80 年代末から 90 年代半ば、バブル文化が急成長した時期には、激しいバッシングの対象になった。
かつてはサブカルチャーであったおたく文化は、なぜ、どのような経緯でメインストリームカルチャーになっていったのか。本講義ではこの経緯をみていき、変化の背後にあった経済、社会、文化の変化を考えていく。また現在のおたく文化のあり方と抱える問題点について、チャットなどを使って意見交換していく。そして最終的に、こうした変化や現状から見えてくる、現在の日本の文化や社会のあり方を考えていく。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の２点を到達目標とする。
①文化の歴史的流れをつかみ、それを理解するための主な理論を説明できるようになる。
②文化の歴史的流れと政治・経済の関わりを知り、そこから現在の文化・社会のあり方を考えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクションと定義 ・本講義の目的 ・成績評価について ・言葉の定義と文化を研究する理論枠組みを紹介	「サブカルチャー」とはなにかを、辞典などで調べておく 過去、現在の「サブカルチャー」には何があるかを調べておく	60
第２回	全共闘運動とマンガ文化の勃興（1965～74） ・文化運動としての全共闘運動 ・マンガ、音楽、映画、演劇、SF などが若者文化として成長 ・マンガが若者の表現手段となる	（全体の予習）Teams に提示する動画を見て、分かったことや疑問点をメモしておく。その上で授業に臨む（以下同様）。 （全体の復習）理解できた点、質問したい点をまとめ、リアクションフォームに記入する。質問もフォームに記入する（以下同様）。 （この回の予習）「全共闘運動」について調べる。「左翼」「新左翼」との違いを調べておく。	60
第３回	コミックマーケットの発足と成長（1975～78） ・コミックマーケット発足に至る流れ ・映画「宇宙戦艦ヤマト」公開前後、アニメに注目する若者が現れ、アニメ雑誌が成立	（予習）ビデオに示された作家の作品を、図書館などで借りて読んでみる。また「マンガ同人誌　通販」で検索し、マンガ同人誌を買えるサイト、業者がどれぐらいあるか確認する（アダルト情報もあるので注意）。	60
第４回	「機動戦士ガンダム」の衝撃（1979～85） ・若者向けのアニメが増加し、アニメブームが起こる。アニメが急速に大きな市場になる。 ・アニメを題材にした同人誌が急増し、同人誌市場が形成される。 ・1983 年、中森明夫によって「おたく」という言葉が作られる。	（予習）この時期どのようなアニメが放送されているか、調べてみる。可能なら配信などで「機動戦士ガンダム」「超時空要塞マクロス」第１話を見てみる。	60
第５回	「キャプテン翼」ブーム（1985～89） ・同人誌では「キャプテン翼」ブームが起き、女性を中心に同人誌関連産業が爆発的に成長する。 ・次第に「おたく」という言葉がネガティブな意味で広まっていく ・バブル経済が始まる	（予習）「キャプテン翼」を調べ、この作品が世界においてどのように受け取られているかを調べる。	60
第６回	バブル文化とオタクバッシング、「サブカル」の成立（1989～95） ・バブル文化がメインストリームカルチャーとなる ・東京・埼玉連続幼女誘拐殺人事件により、激しいオタクバッシングが起こる ・バブル文化に対抗する形で、「サブカル」と呼ばれる文化グループが成立していく	（予習）「バブル文化」がどのようなものであったか、書籍などで調べる。またそれが現在の文化にどのように継承されているか、考えてみる。	60
第７回	「エヴァ」放送開始とネット文化の萌芽（1995～2000） ・「新世紀エヴァンゲリオン」の放送が始まり、社会現象になる ・Windows95 が発売され、パソコンが急速に広まる。98 年頃からインターネットも広まり、ネット上にコミュニティが作られ始める。	（予習）可能なら配信などで、テレビ放送版「エヴァンゲリオン」を何話か見てみる。	60
第８回	ネットの成長と「公式」化されるおたく文化（2001～2010） ・「2 ちゃんねる」が急成長、「匿名性を背景としたコミュニティ」ができる ・「ニコニコ動画」がユーザー製作のコンテンツの発表の場となる ・2004 年のヴェネツィア・ビエンナーレ建築展でおたく文化が本格的にヨーロッパに紹介される	（予習）VOCALOID の曲で、好きな曲はないか探してみる。	60
第９回	スマホ時代のおたく文化、グローバル化したおたく文化（2010～現在） ・スマホの急速な普及により、テレビは地位を低下させる。	（予習）現在自分が使っている SNS を確認し、どのように使っているかを考える。また購読している YouTube チャンネルがいくつあるか、どのようなチャンネルを購読してい	60

	YouTube、SNS、配信がメディアの主役へ。 ・スマホの普及により、おたく文化のグローバル化は加速する	るかを書き出してみる。	
第１０回	文化理論からみたおたく文化 ・カルチュラル・スタディーズ、ファンカルチャー論、メディア論、政治学などから考える	（予習）「ソフト・パワー」について調べておく。また、現在の日本の「ソフト・パワー」には何があるか、調べてみる。	60
第１１回	討論１　ジェンダーをめぐって ・おたく文化の中で表象されるキャラクターや物語は、日本におけるどのようなジェンダー観を反映しているのか。またそれがどのような問題をはらんでいるか、討論する。	（予習）これまで学んだジェンダーに関することで、おたく文化に関係するものを探してみる。	60
第１２回	討論２　政治をめぐって ・おたく文化は「政治と距離がある」と考えられてきたが、今やおたく文化の利害を代表する政治家が現れている。 ・おたく文化は政治とどう関わっていくべきか、また政治をどのように表現するのか、討論する。	（予習）好きなミュージシャンやアーティストが政治的な発言をした例を探し、それがどんな反響をもたらしたかを調べる。アニメ、マンガ、ゲームにおける政治的表現の例も調べてみる。	60
第１３回	討論３　ソフト・パワーとポリコレをめぐって ・おたく文化は日本の国際的地位を高める「ソフト・パワー」として認識されているが、それはおたく文化の表現に影響するのではないか。また国際的に流通させることが前提となるため、ポリティカル・コレクトネスが求められるが、それもまた文化の表現に影響するのではないか。世界進出における文化の変化を討論する。	（予習）海外において、日本のアニメ、マンガ、ゲームはどのように受け入れられているかを調べる。またおたく文化系のイベントがどれぐらいあるかを調べる。	60
第１４回	まとめ ・おたく文化は、未だにサブカルチャーだった頃の表現方法を強く引きずっており、メインストリームになりきれない部分を持っている。そこから見える「日本社会・日本文化の姿」を考える。	（予習）これまでの授業・動画でわかったことをまとめ、「おたく文化はなぜ変化してきたのか」「その変化は私たちの社会の変化とどう関係するのか」について、考えをまとめておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行なう。あらかじめ授業に関する動画（30 分程度）を用意しておくので、それを見て、分かったこと、疑問点をまとめた上で、授業に臨む。授業の終わりには質問に答える時間を設ける。第 11 回から 3 回は、チャットを使って匿名で討論していく。授業中 Discord で自由にチャットできるようにしておくので、授業を聴きながらネット上で話し合ってもよい。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況、毎回のリアクションフォームの提出状況など）　30%
期末レポート　70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文化社会学

〔テキスト〕
特になし　購入の必要なし

〔参考書〕
『おたくの起源』、吉本たいまつ、NTT 出版、978-4757142091　絶版のため、無理に購入する必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の最後、授業終了後に教室で受け付ける。フォーム、Teams でも受け付ける。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング（反転授業）

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディアとアート						
教員名	小川　希						
科目№	125435450	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
現代アートとはいったい何か？　そこで用いられるメディアに着目することで、現代アートがこれまで投げかけてきた様々な問いについて学ぶ。

〔到達目標〕
現代アートで展開される表現を、メディアごとに分類・分析することで、それぞれの表現を理解するための基本的な知識や態度を獲得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 教員紹介及び本講義の説明 現代美術についてイメージする	特になし	0
第２回	コンセプチュアルアートとは? 現代アートを学ぶ基本姿勢 前編	前回の講義の復習	60
第３回	コンセプチュアルアートとは? 現代アートを学ぶ基本姿勢 後編	前回の講義の復習	60
第４回	現代アートにおける絵画表現とは? 絵画というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第５回	現代アートにおける絵画表現とは? 絵画というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第６回	現代アートにおける彫刻表現とは? 彫刻というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第７回	現代アートにおける彫刻表現とは? 彫刻というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第８回	現代アートにおける映像表現とは? 映像というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第９回	現代アートにおける映像表現とは? 映像というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第１０回	現代アートにおけるパフォーマンス表現とは? 身体というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第１１回	現代アートにおけるパフォーマンス表現とは? 身体というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第１２回	ゲストアーティストによる講義 現在進行形で活動する作家の話を聞く	前回の講義の復習	60
第１３回	現代アートにおけるソーシャリー・エンゲージド・アートとは? 社会関与というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第１４回	現代アートにおけるソーシャリー・エンゲージド・アートとは? 社会関与というメディア 後編	前回の講義の復習	60

〔授業の方法〕
スライドを用いての講義形式の授業

〔成績評価の方法〕
授業の参加態度：60%
授業への感想及びコメント：40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
特になし

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会研究Ｂ						
教員名	那波　泰輔						
科目№	125437150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本授業では、現代社会については、歴史的な知識を学習しながら、質的調査を用いて明らかにしていくことを目指す。卒業論文の執筆において重要ととなる質的調査の基礎を身に着けながら、レポートを執筆していく。

〔到達目標〕
下記①～③を通じて、DP2【教養の修得】、DP4【表現力、発信力】、DP5【多様な人々との協働】を実現する。
①現代社会が持つ特徴いついて、自分の言葉で説明できるようにする
②事象から、現代社会の問題などを捉え、表現・発信できるようにする
③発表に対するコメントから自身の研究をブラッシュアップできるようにする

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	【ガイダンス】 講義の概要について説明する。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第２回	【文献の調べ方 1】 現代社会を分析するために、研究手法について学習する。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第３回	【文献の調べ方 2】 現代社会を分析するために、研究手法について学習する。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第４回	【文献の調べ方 3】 現代社会を分析するために、研究手法について学習する。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第５回	【文献の調査】 自分の問題関心に沿って文献を調査する。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第６回	【発表 1】 これまでの調査の発表をおこなう。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第７回	【質的調査の手法 1】 質的調査の手法について学習する。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第８回	【質的調査の手法 2】 質的調査の手法について学習する。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第９回	【質的調査の手法 3】 質的調査の手法について学習する。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１０回	【調査の実践】 自分の問題関心に沿って質的調査を実施する。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１１回	【発表 2】 これまでの調査の発表をおこなう。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１２回	【質的調査と量的調査 1】 質的調査と量的調査の手法について、研究事例からその差異を確認していく。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１３回	【質的調査と量的調査 2】 質的調査と量的調査の手法について、研究事例からその差異を確認していく。	【予習】講義で扱う内容をシラバスから把握しておく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１４回	【まとめ】 これまでの学習内容をふまえて質的調査を概観する。	【復習】これまでの授業全体を振り返り、重要なポイントを整理する。今後の自分の調査研究への応用を考えてみる。	60

〔授業の方法〕
本授業は毎回の授業で小テストをおこない習熟度を確認していく。
中間発表において学習内容を実践する場を設ける。

〔成績評価の方法〕
授業内課題 30%
中間発表 30%
期末レポート 30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠している
・質的調査の基本的な知識を説明できるか
・学習した質的調査の方法を用いて分析が可能か
・適切な研究テーマの選択や研究計画を立てることができるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会研究 C						
教員名	バラニャク平田　ズザンナ						
科目№	125437200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
映像文化は、人間の考え方、価値観や世界観を映し出し、社会を映す鏡である。近年、ジブリ映画のような日本の映像文化は世界中の注目を集め、多くの外国人観光客が来日する動機ともなっている。本授業では、日本の映像文化とその多様な表象を考察し、その国内やグローバルな受容について探っていく。歴史的な発展と基礎的概念を紹介したうえ、ジブリスタジオ、宝塚歌劇団と近年に人気を集める 2.5 次元の作品といった３つの事例を通じて、日本に映像文化の特徴について理解を深める。
※授業の内容やスケジュールは変更することがある。

〔到達目標〕
DP2【教養の修得】と DP3【課題の発見と解決】を達成するために、以下の目標を設定する。
①日本の映像文化とその多様な表象について、基礎的な特徴、概念や用語をつかまえ、説明できること。
②日本国内とグローバルな視点を用いながら、映像資料の考察で批判的思考と分析能力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	シラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握する。	60 分
第２回	日本の映像文化の基礎概念	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第３回	デジタルメディアと現代映像文化	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第４回	グローバルな視点と映像文化	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第５回	映画の世界観：スタジオギブリ	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第６回	スタジオジブリの映像作品①「千と千尋の神隠し」（前半）	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第７回	スタジオジブリの映像作品②「千と千尋の神隠し」（後半）	授業内容を復習し、理解を深める。前回の作品内容を振り返る。	60 分
第８回	少女文化とジェンダー：宝塚歌劇団	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第９回	宝塚歌劇団の舞台映像作品①TBD	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第１０回	宝塚歌劇団の舞台映像作品②TBD	授業内容を復習し、理解を深める。前回の作品内容を振り返る。	60 分
第１１回	映像文化の今：メディアミックスと 2.5 次元	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第１２回	2.5 次元の舞台映像作品①「進撃の巨人-the Musical」（前半）	授業内容を復習し、理解を深める。	60 分
第１３回	2.5 次元の舞台映像作品②「進撃の巨人-the Musical」（後半）	授業内容を復習し、理解を深める。前回の作品内容を振り返る。	60 分
第１４回	まとめ	第１～１３回の授業内容を復習し、理解を深める。	60 分

〔授業の方法〕
授業は主に講義形式で行い、パワーポイントと映像資料を用いるが、質疑応答やディスカッションも取り入れる予定である。この授業では、①リアクションペーパー（≠出席）と②期末レポートを課す。
①リアクションペーパーでは、授業内容を踏まえた上で自分の感想・考えと質問・コメントを求める。
②期末レポートでは、授業内容の正確な理解度と映像資料の批判的思考を評価する。

〔成績評価の方法〕

下記の 2 点により総合的に評価する。
①平常点：リアクションペーパー（50%）
②期末レポート（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
授業中に随時指示する。
※購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
初回の授業で指示する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	トピック・セミナーB						
教員名	高嶋　由布子						
科目№	125511250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、手話とろう者に関する問題を入り口に、手話にまつわる社会的・言語的な問題について、以下の観点から学びます。
・社会的・言語的マイノリティ
・情報保障と合理的配慮
・手話の種類：言語学的・発達的な問題
・国際条約と国内外の手話にかかわる言語政策
言語的マイノリティ、障害者、家族の中でのマイノリティという側面を通して、社会の受け止め方や支援のあり方について議論します。

〔到達目標〕
(1) マイノリティのことを理解できる。
日本と世界のろう者の置かれた状況について学ぶことで、言語的マイノリティの置かれた状況について理解を深め、議論することができる。
(2) 個人的なことと政治的なことについて考察できる。
国内外で見られる手話に関する情報を収集し、それと専門知や国際条約がどのような乖離を見せるか分析することで、個人と政治の関係について考察を広げることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：ろう者とは誰か	「ろう者」について調べる	60
第２回	日本語と日本手話の関係	マイノリティ言語について調べる	60
第３回	ろう者と家族	ディナーテーブル症候群について調べる	60
第４回	ろう者と仕事	障害者雇用促進法、合理的配慮について調べる	60
第５回	手話通訳：ボランティア活動から国際手話のろう通訳まで	手話通訳について調べる	60
第６回	手話の歴史（1）：聾学校，ニカラグア，手話の発生	聾学校の歴史について調べる	60
第７回	手話の歴史（2）：口話教育・人工内耳まで	聴覚障害児教育について調べる	60
第８回	マイノリティ言語としての手話の確立	Deaf President Now や「ろう文化宣言」について調べる	60
第９回	ろう文化	ろう文化にまつわる発信について調べる	60
第１０回	デフアート	ろう者の映像作品について調べる	60
第１１回	手話言語学：手話が言語だと発見される	手話の学習方法について調べる	60
第１２回	手話言語学と障害者権利条約	国連障害者の権利条約について調べる	60
第１３回	手話とジェスチャー	手話とジェスチャーの違いについて調べる	60
第１４回	まとめとディスカッション	授業で学んだことを参考に、自分で調べたことをまとめる。	60

〔授業の方法〕
授業はパワーポイントを利用した講義形式で行います。理解を深めるために教員が資料を用意し、提示します。
受講生は、毎回講義内容に関するリアクションペーパーを提出してください。

〔成績評価の方法〕

毎授業のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
丸山正樹『デフ・ヴォイス』文藝春秋社, 2011 年（2015 年） 購入の必要なし
その他授業中に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ラテン語						
教員名	井上　秀太郎						
科目№	125512100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
ラテン語はキリスト教やローマ法と共にヨーロッパ文明の基底をなすものである。ラテン語に関する知識があるか否かは、ヨーロッパの文化・芸術を理解するうえで今でも重要な要素となっており、その点にこそラテン語を学ぶ意義があると言える。この授業では初級文法を半年かけて学び、辞書を使って独力で簡単なラテン語文を読むことが出来るようになることを目指す。

〔到達目標〕
DP2【教養の修得】を実現するため、次の 3 点を到達目標とする
（1）　ラテン語の基礎的な文法事項を理解する
（2）　単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る
（3）　単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文字と発音（母音の長短・アクセントの位置）	【予習】教科書の序章を熟読 【復習】教科書序章の単語を声に出して音読	90 分
第２回	動詞の活用（第 1～4 活用）	【予習】教科書第 1・2 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第３回	名詞と形容詞（第 1・2 変化の名詞と形容詞）	【予習】教科書第 3 課を熟読 【復習】名詞・形容詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第４回	動詞（未完了過去と未来）	【予習】教科書第 4・5 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第５回	前置詞と名詞（前置詞の格支配と名詞の第 3 変化）	【予習】教科書第 6・7 課を熟読 【復習】名詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第６回	動詞（完了形）	【予習】教科書第 8 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を音読	90 分
第７回	形容詞と名詞（第 3 変化形容詞と奪格の用法）	【予習】教科書第 9・10 課を熟読 【復習】形容詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第８回	不定詞（対格＋不定詞の構文）	【予習】教科書第 11 課を熟読 【復習】例文を繰り返し音読	90 分
第９回	比較の表現（形容詞の比較級と最上級）	【予習】教科書第 12 課を熟読 【復習】比較級・最上級の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１０回	代名詞（指示代名詞と関係代名詞）	【予習】教科書第 13 課を熟読 【復習】関係代名詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１１回	受け身の表現と特殊な動詞（受動態の現在形と能動形欠如動詞）	【予習】教科書第 14・15 課を熟読 【復習】受動態および能動形欠如動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１２回	受け身の表現と分詞の用法（受動態の完了形、現在分詞と絶対的奪格）	【予習】教科書第 16・17 課を熟読 【復習】現在分詞の活用表と絶対的奪格の例文を繰り返し音読	90 分
第１３回	接続法（接続法の活用と用法、動形容詞）	【予習】教科書第 18 課を熟読 【復習】接続法の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１４回	接続法の用法（間接話法、間接疑問文、条件文）	【予習】教科書第 19・20 課を熟読 【復習】接続法の例文を繰り返し音読	90 分

〔授業の方法〕
授業は講義形式で文法事項および例文の解説を中心に進めていく。折に触れて練習問題も解説を交えつつ取り組んでいく。

〔成績評価の方法〕
授業への取り組み（予習や授業中の質疑応答）（50%）、授業内で実施するテスト（50%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する
（1）　ラテン語の基礎的な文法事項を理解する
（2）　単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る
（3）　単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に無し

〔テキスト〕
岩崎務（著）『ニューエクスプレス　ラテン語（CD 付）』白水社　2011 年　ISBN 978-4-560-08580-6

〔参考書〕
特に無し

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
メールアドレスは授業時に伝達する。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古典ギリシア語						
教員名	水元　彬人						
科目№	125512150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、古典ギリシア語の文字、発音、初級文法を扱う。本講義で扱う初級文法は主に、名詞の格変化、時制などによる動詞変化である。名詞や形容詞が文中での働きに応じてどのような形になるのか、そして動詞が時制、法、相、人称や数によってどのように変化するのかを、具体的に理解し覚えていってもらいたい。予備知識は特に必要としない。

古典ギリシア語を学ぶことの目的や意義はもちろん人それぞれだろうが、西洋文化と関わりがある人全てにとってこの言語は学んでおきたいものかもしれない。たとえば、古典ギリシア語で書かれた作品は様々な分野において重要な位置づけにあるため、それらの作品の原文を読めるようになりたいと思う人や、読めると便利かもしれないと考える人たちにとって、広く本講義は役立つだろう。古典ギリシア語で書かれた作品として、たとえば文学に興味がある人はギリシア悲劇や喜劇（またはそれらの中に色々な形で現れるギリシア神話）を思い浮かべるかもしれない。また、哲学に興味がある人はプラトンの対話篇やアリストテレスの著作を思い浮かべるかもしれないし、歴史に興味がある人はヘロドトスやトゥキュディデスによる歴史書、弁論作家による法廷弁論などを思い浮かべるかもしれない。これらの作品は、ジャンルは多岐にわたるものの、いずれも原文で読むためには古典ギリシア語の初級文法を最低限理解していなくてはならない。

また、言語全般に興味を持っている人にとっても、古典ギリシア語の学習は大いに役立つだろう。様々な言語の文字や発音、文法に興味があるという人や、現代ギリシア語をより深く理解したいという人、文法や語を通じて西洋文化の源に触れたいという人にとって、本講義で扱う各事項は具体例として参考になるはずである。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）を実現するため、
①古典ギリシア語の文字や発音を身につける
②古典ギリシア語の格変化や動詞の変化に慣れる
③古典ギリシア語の学習を通じて、西洋文化についての理解を深める

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・ガイダンス（授業の内容や進め方、予習復習の仕方について） ・ギリシア語文字、発音、アクセントについて学ぶ	予習：教科書 I-II 章 復習：教科書 I-II 章	90 分
第２回	・ギリシア語文字、発音、アクセントの再確認	予習：教科書 I-II 章 復習：教科書 I-II 章	90 分
第３回	・動詞の現在直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 III 章 復習：教科書 III 章	90 分
第４回	・第一変化名詞の変化を学ぶ（1） ・第一変化名詞の変化を学ぶ（2）	予習：教科書 IV-V 章 復習：教科書 IV-V 章	90 分
第５回	・小テスト（一回目） ・動詞の未来直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 VI 章 復習：教科書 VI 章	90 分
第６回	・第一変化の名詞を学ぶ（3） ・第一変化の男性名詞を学ぶ	予習：教科書 VII-VIII 章 復習：教科書 VII-VIII 章	90 分
第７回	・動詞の未完了過去直説法能動相を学ぶ ・第二変化名詞の変化を学ぶ	予習：教科書 IX-X 章 復習：教科書 IX-X 章	90 分
第８回	・第一第二変化の形容詞を学ぶ	予習：教科書 XI 章 復習：教科書 XI 章	90 分
第９回	・小テスト（二回目） ・前置詞を学ぶ	予習：教科書 XII 章 復習：教科書 XII 章	90 分
第１０回	・動詞のアオリスト直説法能動相を学ぶ ・動詞の現在完了、過去完了直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 XIII-XIV 章 復習：教科書 XIII-XIV 章	90 分
第１１回	・指示代名詞、強意代名詞を学ぶ ・直説法能動相本時称、副時称の人称語尾を学ぶ	予習：教科書 XV-XVII 章 復習：教科書 XV-XVII 章	90 分
第１２回	・μι 動詞の直説法現在を学ぶ ・疑問代名詞、不定代名詞を学ぶ	予習：教科書 XVIII-XIX 章 復習：教科書 XVIII-XIX 章	90 分
第１３回	・小テスト（三回目） ・動詞の直説法中動相・受動相を学ぶ	予習：教科書 XX 章・XXV 章 復習：教科書 XX 章・XXV 章	90 分
第１４回	・接続法・希求法について学ぶ ・授業のまとめ	予習：教科書 XXXIV・XLIII 章 復習：教科書 XXXIV・XLIII 章	90 分

〔授業の方法〕

授業では、まずは講師が前の週のコメントシートの内容に触れ、全体で共有すべき感想や疑問は講師の回答も含めて共有する。その後、参加者はその日扱われる文法事項について講義を聞き、さらに練習問題（演習）を通じてその事項に慣れ、最後にコメントシートに感想や疑問を記入し提出する。取り扱われる文法事項の順番は基本的にはテキストに沿う。古典語は難しそうだと感じている人もついていけるよう、英文法等がこまめに比較対象に出されつつ、講義や練習問題の解説は進む。

自分の理解や暗記がうまく進んでいるかを参加者が把握できるように、授業 4 回につき一度ほどのペースで、基礎的な問題を用いた小テスト（15 分程度）が実施される。小テストの出題範囲は、一回目：第 1 回～第 4 回、二回目：第 5 回～第 8 回、三回目：第 9 回～第 12 回となる。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業・演習への参加状況：60%、授業内小テスト 3 回分：40%）による総合評価。
学期末試験は実施しない。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典ギリシア語の文字の読み書きができる。
②各文法事項を理解する。
③各語形変化を習得する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本語と英語/特になし/ラテン語, 西洋史, 欧米各国文学

〔テキスト〕
田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 新装版』（岩波 2012 年）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問は基本的には授業終了後に教室で受け付けるが、コメントシートで質問することもでき、Course Power に掲載するメールアドレスに質問を送ってもよい。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化政策学						
教員名	槇原　彩						
科目№	125541100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本科目では「文化政策の入門」をテーマに、海外の文化政策を視野に入れつつ、日本国内の文化政策の歴史を概観します。そして、世界各国の文化政策を比較することにより、それぞれの国の歴史や社会、文化と密接に関与し、それを反映しながら発展する文化政策の動的な性質に着目します。 また、授業では文化政策の対象とその意義を理解するとともに、日本の文化政策の歴史を主体別に分けつつ考察します。 各国がどのような理念のもと文化政策を行い、どのような施策・事業を実施しているのか、その政策目的や手段の違い、あるいは共通点を比較検討することにより、文化政策の多様なあり方についての理解も深めます。

〔到達目標〕
日本の文化政策のみならず、海外の文化政策を知り、相対的、客観的な視点から、文化政策を考察できるようになるために、以下の視座を獲得することを目指します。
①日本の文化政策の歴史と主体別の特徴を理解し、自分自身もその主体であることを自覚する。
②各国の文化政策の目的やその変遷、具体的な政策手段の特徴が分かる。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP2 および DP3 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、本授業で扱う「文化政策」の概念等について説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	諸外国の文化政策（１） 【内容】 フランスの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、フランスの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	諸外国の文化政策（２） 【内容】 イギリスの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、イギリスの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	諸外国の文化政策（３） 【内容】 ドイツの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、ドイツの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	諸外国の文化政策（４） 【内容】 アメリカの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、アメリカの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	諸外国の文化政策（５） 【内容】 韓国の文化政策	【予習】教科書や資料を読み、韓国の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	諸外国の文化政策（６） 【内容】 グループワーク：世界各国の文化政策	【事前準備】講義でとりあげた国以外の、諸外国の文化政策についてグループで調べ、発表資料を準備しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第８回	諸外国の文化政策（７） 【内容】 グループワーク：世界各国の文化政策	【事前準備】講義でとりあげた国以外の、諸外国の文化政策についてグループで調べ、発表資料を準備しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第９回	諸外国の文化政策（８） 【内容】 グループワーク：世界各国の文化政策	【事前準備】講義でとりあげた国以外の、諸外国の文化政策についてグループで調べ、発表資料を準備しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第１０回	日本の文化政策（１） 【内容】 国家による関与の時代	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	日本の文化政策（２） 【内容】 地方自治体が独自性をめざした時代	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60

第１２回	日本の文化政策（３） 【内容】 NPO の可能性が模索された時代	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	日本の文化政策（４） 【内容】 文化政策の現在	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１４回	これからの文化政策 【内容】 理想の文化政策について考える	【予習】全授業を振り返り、疑問点を整理しておく。 【復習】本授業を通して学んだ諸外国、そして日本の文化政策の全体像を復習しつつ、自身がその主体であることを自覚する。	60

〔授業の方法〕
授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
グループワークを通して調査研究や比較研究の実践を経験する。
毎授業の最後には小テストを実施し、知識の定着度を確認する。
最終的に期末レポートを執筆し、自身の考察を論理的に整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
※学生証の不正利用（複数所持、貸し借り）、アカウントの不正使用、テストにおける不正が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%
グループワーク：20%
小テスト：10%
期末レポート：20%
※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。
※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/univer

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①日本の文化政策の歴史と主体別の特徴を理解し、説明できるか。
②各国の文化政策の目的やその変遷、具体的な政策手段の特徴を理解し、説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『アーツ・マネジメント概論』、小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、本体 3,000 円＋税、9784880652191
『みんなの文化政策講義―文化的コモンズをつくるために』、藤野一夫、本体¥2,700＋税、9784880655192
文化庁「諸外国の文化政策に関する調査研究」、https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kaigai_seisaku.html
※購入の必要なし
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アート・アドミニストレーション						
教員名	槇原　彩						
科目№	125541110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本科目では、日本におけるアート・アドミニストレーション（以下、アートマネジメント）の歴史や、その諸領域、存在意義、適用範囲について概説します。また、芸術文化組織を取り巻く環境とその組織特性に着目し、行政や企業、実演団体、中間支援組織、アート NPO などの実例を紹介しながら、日本のアートマネジメントの現状と課題について考察を深め、アートマネジメントの基礎的知識を学びます。

〔到達目標〕
アートマネジメントの基礎知識を身につけ、以下の視座を獲得することを目指します。
①芸術文化にかかわる組織とそれらを取り巻くさまざまな関係性や制度を理解できる。
②その運営に必要となる基礎知識を得る。
③自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化する。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP3、および DP5 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方について説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	アートマネジメントとは（１） 【内容】 アートマネジメントの具体的な展開と今日的な意義について概観する。	【予習】アートマネジメントとは何か、自分なりにイメージしてみる。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	アートマネジメントとは（２） 【内容】 芸術・人間・社会の関係性について、歴史的に概観する。	【予習】身の回りの「アートマネジメント」を探してみる。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	芸術文化と市場経済 【内容】 経済活動としての芸術文化について概観する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	芸術文化と組織経営 【内容】 アートマネジメントと非営利組織の関係性について概観する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	推進・支援組織とアートマネジメント（１）：行政と文化財団 【内容】 アートマネジメントを取り巻くさまざまな非営利組織の特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	推進・支援組織とアートマネジメント（２）：中間支援組織 【内容】 アートマネジメントを取り巻くさまざまな非営利組織の特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第８回	推進・支援組織とアートマネジメント（３）：アート NPO 【内容】 アートマネジメントを取り巻くさまざまな非営利組織の特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	推進・支援組織とアートマネジメント（４）：企業 【内容】 アートマネジメントを取り巻くさまざまな営利組織の特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	アートマネジメントの実践事例（１）：ミュージアム（博物館・美術館等） 【内容】 ミュージアムの概要と推進・支援組織について概観し、その実践事例について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	アートマネジメントの実践事例（２）：公立文化施設 【内容】 公立文化施設の概要と推進・支援組織について概観し、その実践事例について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１２回	アートマネジメントの実践事例（３）：アートプロジェクトや芸術祭 【内容】 アートプロジェクトや芸術祭の概要と推進・支援組織について概観し、その実践事例について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	到達度確認テスト 【内容】 授業で扱った内容に関するテストを実施する。	【予習】授業で扱った内容について復習してテストに備える。 【復習】テストで解答できなかった問題について、該当授業資料や講義内容のメモ等で復習する。	120

第１４回	到達度確認テストの振り返り・解説 【内容】 テストの解答について振り返りと解説をおこなう。	【予習】テストで解答できなかった問題について、該当授業資料や講義内容のメモ等で再確認する。 【復習】興味関心をもった推進・支援組織について調査し、レポート執筆をおこなう。	120

〔授業の方法〕
授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
授業内で到達度確認テストを実施し、知識の定着度を確認する。
最終的に期末レポートを執筆し、自身の考察を論理的に整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
※学生証の不正利用（複数所持、貸し借り）、アカウントの不正使用、テストにおける不正が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%
平常点（到達度確認テスト）：20%
期末レポート：30%
※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。
※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/n

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①芸術文化にかかわる組織とそれらを取り巻くさまざまな関係性や制度を理解できているか。
②その運営に必要となる基礎知識を得ているか。
③自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
身の回りの芸術文化を取り巻く組織や制度などに目を向け、アートマネジメントの実例を探してみる。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『アーツ・マネジメント概論』、小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、本体 3,000 円＋税、9784880652191
※購入の必要なし
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地方自治体の文化行政						
教員名	槇原　彩						
科目№	125541120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本科目では、地方自治体の文化行政をテーマに、日本において各地方自治体がどのような文化行政をおこなっているのかを歴史的に振り返り、その基礎的知識や理解を深めます。また、各地方自治体の芸術文化振興条例や計画、それに基づく取り組みなどを概観し、なぜ芸術文化を振興するのか、「公」と芸術文化の関係性を紐解きます。

〔到達目標〕
地方自治体の文化行政が対象とする領域を理解し、芸術文化活動と地方自治体の関係性について考察を深め、以下の視座を獲得することを目指します。
①行政による取り組みを知る。
②文化行政の内容を理解する。
③行政と市民、そして芸術文化のより良い関係性の構築について考察する。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP2、DP3 および DP5 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、「地方自治体文化行政」の概要等を説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	地方自治体の基礎 【内容】 行政とは、地方自治とは	【予習】地方自治体の文化行政について考える。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	地方自治体の文化行政（１） 【内容】 国による文化政策との関係	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	地方自治体の文化行政（２） 【内容】 社会教育と芸術文化、教育委員会と首長部局	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	地方自治体の文化行政（３） 【内容】 地方の時代・文化の時代、行政の文化化	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	地方自治体の文化行政（４） 【内容】 社会の基盤としての文化	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	地方自治体文化行政の現在（１） 【内容】 地方自治体と外郭団体	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第８回	地方自治体文化行政の現在（２） 【内容】 地方自治体と文化施設（博物館、美術館、劇場等）、指定管理者制度	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	地方自治体文化行政の現在（３） 【内容】 地方自治体と芸術祭（アートプロジェクト）	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	地方自治体文化行政の現在（４） 【内容】 地方自治体と文化振興条例・計画	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	ディスカッション 【内容】 「地方自治体（公）と芸術文化の関係性」に関連するテーマについてグループでディスカッションする。	【予習】今までの講義内容のメモを振り返り、ディスカッションで自身の考えを述べられるよう知見を深めておく。 【復習】ディスカッションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１２回	グループワーク（１） 【内容】 地方自治体の文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションでグループと自身の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１３回	グループワーク（２） 【内容】 地方自治体の文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションでグループと自身の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120

第１４回	グループワーク（３） 【内容】 地方自治体の文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションでグループと自身の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120

〔授業の方法〕
授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
また、グループワークを通して、調査研究の実践を経験し、プレゼンテーションのノウハウを獲得、知識の定着を図る。
最終的に期末レポートを執筆し、自身の考察を論理的に整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
※学生証の不正利用（複数所持、貸し借り）、アカウントの不正使用における不正が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：40%
グループワーク：30%
期末レポート：30%
※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。
※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_to

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①行政による取り組みを理解できているか。
②文化行政の内容を理解できているか。
③行政と市民、そして芸術文化のより良い関係性の構築について考察し、自らの考えを言語化できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
生まれた地域や、育った地域などの自治体について改めて振り返ってみる。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『アーツ・マネジメント概論』、小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、本体 3,000 円＋税、9784880652191
『自治体文化行政レッスン５５』、小林真理 監修・編、美学出版、本体 2,200 円＋税、9784902078701
『分権時代の自治体文化政策―ハコモノづくりから総合政策評価に向けて』、中川幾郎、勁草書房、本体 2,400 円＋税、9784326301416
『基礎自治体の文化政策―まちにアートが必要なわけ』、藤野一夫/文化・芸術を活かしたまちづくり研究会 編著、水曜社、本体 2,700 円＋税、9784880654782
『芸術祭と地域づくり―“祭り”の受容から自発・協働による固有資源化へ』、吉田隆之、水曜社、本体 2,700 円＋税、9784880654720
『芸術祭の危機管理―表現の自由を守るマネジメント』、吉田隆之、水曜社、本体 2,500 円＋税、9784880654874
※購入の必要なし
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化政策と法						
教員名	小林　真理						
科目№	125541130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
近年（2017 年、2018 年）、文化政策に関する重要な法律に関して改正が立て続けに行われた。文化芸術基本法、そして文化財保護法の一部改正は、文化そのものの振興、指定文化財の保存だけでなく、福祉や教育、観光、外交といった幅広い分野との連携が期待されている。この改正は、これまでの法律とどのような点が異なり、どのような点が変わらず維持されていることなのか。文化に関わる個別法は、戦後文化財保護法を筆頭として、それぞれの領域の課題を解決するために制定され、改正されてきた。文化政策は、国および地域（あるいは人類）の文化を振興（そのために保護）することを通じて国民を豊かにすることを目的とするものであり、文化の創造・振興（普及）・保護を対象とする政策領域である。これらを実現していくために、様々な関連の法律が存在している。法律は、単なる規範ではなく、よりよい文化社会の実現に資するものでなくてはならない。法律を十分に使いこなしていく、あるいは、実態とかけ離れていることがあれば改正をしていく必要もある。先にあげた今回の法律改正を契機に、改めて文化政策に関連する法律が、これまでどのような意味を持ち（どのような問題を孕み）、これからどのような方向性が目指されていくのかということを体系的に明らかにするのが本講義の目的である。

〔到達目標〕
公共政策における文化政策がどのような法律や、そこに含まれる原則や価値によって動いているのかを理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	本講義の受け方と知っておかなければならない基本的な知識（法律の構造と、法律の読み方）、憲法と国際条約の枠組みを知る。	法律に使われる用語等について、基本的な知識を復習する。	120
第２回	文化政策の基礎となる法 1−（1）文化芸術基本法（1）	文化芸術基本法が制定される経緯について、学び復習する。	60
第３回	文化政策の基礎となる法 1−（2）文化芸術基本法（2）	文化芸術基本法の内容について、理解を深める。	60
第４回	文化政策の基礎となる法 2−（1）著作権法（1）	著作権法の法律の全体像を理解する。	60
第５回	文化政策の基礎となる法 2−（2）著作権法（2）	著作権法の現代的課題について理解する。	60
第６回	文化政策の基礎となる法 3−（1）文化財保護法（1）	文化財保護法が制定される経緯について理解した上で、法の全体像を理解する。	60
第７回	文化政策の基礎となる法 3−（2）文化財保護法（2）	文化財保護法の展開について、現代的課題を理解する。	60
第８回	文化政策の場・組織を支える法 1 文化政策における法人論	文化政策を担う法人がどのおような法律によって規定されるかを理解する。	60
第９回	文化政策の場・組織を支える法 2 公立文化施設に関する法ー PFI、指定管理者制度、コンセッション等	公立文化施設に関する法についての多様な法律を理解する。	60
第１０回	文化政策の場・組織を支える法 3 社会教育関連法ー公民館、図書館に関する法律	公民館、図書館に関する法律について理解をする。	60
第１１回	文化政策の場・組織を支える法 4 博物館に関する法律	博物館法、その他関連法について理解する。	60
第１２回	文化政策の場・組織を支える法 5 興行場法、劇場法	舞台芸術関係を扱う施設に関する法律を理解する。	60
第１３回	社会の多様性と向き合うための法 1 障害者文化芸術活動推進法、日本語教育推進法	障害者文化芸術活動推進法・日本語教育推進法成立の経緯と運用について理解する。	60
第１４回	社会の多様性と向き合うための法 2 アイヌ施策推進法	アイヌ施策推進法が制定される経緯と運用について理解する。	60

〔授業の方法〕
講義形式で、理解度を測るためのコメントシートの提出、小テストや小レポートを課します。なお、法律の条文を参照することが必要になるので、それらを参照するための準備は必要になります。インターネットにアクセスできる状態か、あるいは事前に次回扱う法律名を伝えますので法律の条文が参照できるように準備をしてほしいと思います。なお、授業の進捗によっては、扱う法律が前後する場合があります。

〔成績評価の方法〕

コメントシート等、平常での課題の提出状況 50%。最終的な試験を 50%で評価をします。履修人数が少ない場合は、最終試験をレポートに変更することがあります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
一般教養として、法学の授業を受けたことがあることが望ましい。

〔テキスト〕
小林真理、小島立他『法から学ぶ文化政策』（有斐閣）
定価 2,640 円（本体 2,400 円）
ISBN 978-4-641-12630-5

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	舞踊論						
教員名	外山　紀久子						
科目№	125541140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
舞踊（ダンス）は「諸芸術の母」と言われることもあるように、他の芸術と関わりながら、太古から広く人々の間で営まれてきました。他方、現在では狭義の芸術、ハイ・アートの一部というだけではなく、むしろ芸能、娯楽、教育、セラピーといった様々な領域に連なるハイブリッドな営みとしてその命脈を保っています。したがって舞踊研究には、様々な方向・方法によるアプローチが求められるでしょう。
この授業では、生命論的観点から舞踊をめぐる諸問題に取り組んでいきます。舞踊の多様な現れ、その隣接領域との関わりを参照しながら、舞踊とは何か、私たちにとってどのような意味を持つのかについて、以下のトピックを中心に考えていきます。
⑴気（微細エネルギー）の身体論　⑵シアター・アートとしての舞踊　⑶舞踊と社会／反社会

〔到達目標〕
舞踊についての基本的な概念を検討し、芸術および社会全般の中での舞踊の位置について理解を深めます。
芸術としてのダンス（dance for art）とともに、生きるためのダンス（dance for life）の意義を考える視野を獲得します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション（概要紹介）：舞踊（ダンス）とは何か、「生命論的アプローチ」の意味	事前にシラバスに目を通しておくこと。授業後には授業内容を振り返り、疑問点をまとめておく。	６０分
第２回	気（微細エネルギー）の身体論⑴「気」って、、、何ですか？？	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第３回	気（微細エネルギー）の身体論⑵　芸能の起源神話：鎮魂（タマフリ・タマシヅメ）	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。適宜授業時に視聴した動画を確認する。	８０分
第４回	気（微細エネルギー）の身体論⑶　「気の身体」「ダンス状態」への転換はどのように可能か	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。適宜授業時に視聴した動画を確認する。	６０分
第５回	気（微細エネルギー）の身体論⑷　トランス（神懸かり、憑依）とパフォーマンス（ふり、演技）	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第６回	シアター・アートとしての舞踊⑴　観客／聴衆の役割：同期的コミュニケーションとは	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。適宜授業時に視聴した動画を確認する。	８０分
第７回	シアター・アートとしての舞踊⑵　演者の意識：無心／離見	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。講義前半を通しての質問を用意する。	６０分
第８回	シアター・アートとしての舞踊⑶　近さと遠さ／在と不在：「現前」の効果について	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第９回	シアター・アートとしての舞踊⑷　他界／異界の呼び出し、幽霊的なものの意味	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。適宜授業時に視聴した動画を確認する。	６０分
第１０回	舞踊と社会／反社会⑴　舞踊の社会的地位：聖と賤、神様と奴隷	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第１１回	舞踊と社会／反社会⑵　統制・規律・飼い慣らし、解放力・カウンター生権力（子ども身体問題）	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第１２回	舞踊と社会／反社会⑶　「性愛の練習」から脱エロス化の要請へ？	授業時に紹介した動画を視聴し、適宜感想や疑問点をノートする。	６０分
第１３回	舞踊と社会／反社会⑷　ポスト・ヒューマンの舞踊論は可能か（動物身体問題）	授業の内容を振り返り、疑問点を明らかにする。授業時に紹介した動画を視聴ないし確認し、適宜感想や疑問点をノートする。	６０分
第１４回	まとめと補い	講義全体について振り返り、授業時に質問する準備をする。授業後は課題レポートに着手する。	１２０分

〔授業の方法〕
講義形式。受講者の人数や希望に応じて、可能であれば適宜小グループでのディスカッションを行います。進行状況に即して、リアクション・ペーパーやアンケートの提出を求める場合があります。
期末レポートは授業に関連する範囲で自由にテーマを設定して論述する方式となります。発想、論理展開、構成、書誌情報の記載などが評価されます。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業時に随時行うアンケートへの回答やリアクション・ペーパーなど、授業への参加状況）（３０%）、期末レポート（７０%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
購入の必要なし（随時プリント資料を配布します)。

〔参考書〕
購入の必要なし（授業時に紹介します）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	上演芸術論						
教員名	李　知映						
科目№	125541160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
本科目では、近代から現代にかけての日本演劇をテーマに、授業では明治維新以降から現代に至る日本の舞台芸術作品を講義と映像を通して概観します。多様な日本の演劇作品を参照しながら、現代の舞台芸術について理解を深めます。

〔到達目標〕
DP2 及び DP 6 を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解を深める。
②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション ・授業の全体像、進め方、学習・復習の仕方等を説明する。 ・舞台芸術の魅力とは？	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	30
第２回	開国、明治時代：「西洋演劇」の輸入	【予習】文化芸術に係る法律について調べる 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	新劇の誕生	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	宝塚	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	1960 年代　寺山修司	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	1960 年代　暗黒舞踏	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。	120
第７回	小テスト① 現代演劇と伝統芸能	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第８回	1970 年代　高度経済成長：つかブームほか	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	1980 年代　バルブ経済の時代：野田秀樹の登場	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	1990 年代　バブル崩壊：静かな演劇？	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	2000 年代　ロスト・ジェネレーション世代の演劇	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１２回	2010 年代　１０（テン）世代の演劇	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	上演芸術の未来	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。	120

第１４回	小テスト② まとめ及びフィードバック	【予習】7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】授業全体の内容を振り返る。	90

〔授業の方法〕
授業は講義式を中心に進めるが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。また、2回の小テストと 1回の課題の実施を通じて、知識の定着を図る。
＊外部からの実演家を招聘することも検討している。

〔成績評価の方法〕
成績は平常点によるもの。具体的には小テスト（2 回：30%）や課題（20%）、授業への参加度・積極性等（50%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解しているか。
②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にないが、上演芸術に興味を持っていること。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。さらに、授業のなかで関連資料を配る乃至コースパーワに上げておく。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	芸術文化行政特講 A						
教員名	平山　美樹子						
科目№	125541170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、近代日本における博物館の歴史を概観します。江戸時代の物産会などの博物館前史ともいうべき例を概観したのち、近代における「博物館」の勃興、現代の博物館が直面する課題について考察します。未来の芸術文化行政に携わる皆さんが、日本の博物館がたどった歴史の分析を通じて現代社会とアートの関係性についての理解をより深め、将来の文化活動の実践に役立てることを目標とします。

〔到達目標〕
本講義では、DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とします。
１．日本における博物館の成立に関する基礎的な知識を身につける。
２．授業で得た知識と博物館の実見から得た知見とを総合し、文章にまとめる。
３．１～２を踏まえた上で、現代日本の博物館が持つ課題についての理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第２回	博物館の語源・定義	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第３回	欧米における博物館発達史	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第４回	近世日本における「博物館」とは？（１）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第５回	近世日本における「博物館」とは？（２）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第６回	近世日本における「博物館」とは？（3）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第７回	中間テスト	【予習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、テストの準備をする。	120
第８回	近代的博物館の誕生とその成熟（１）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第９回	近代的博物館の誕生とその成熟（２）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第１０回	近代的博物館の誕生とその成熟（３）	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第１１回	博物館レポート	【予習】レポート用に与えられた課題を読み、各自が博物館を訪問してレポートを作成する。	120
第１２回	現代の博物館とその課題	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第１３回	『わたしたちの国立西洋美術館 奇跡のコレクションの舞台裏』鑑賞	【予習】参考資料を読み、質問がある点や関心がある点についてメモを取る。 【復習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、重要な事項について自分の考えをまとめておく。	60
第１４回	期末テスト	【予習】授業メモとパワーポイントを再読・再見し、テストの準備をする。	120

〔授業の方法〕

授業は基本的に講義形式ですが、毎回学生の発言を促しますので、予習は必ず行ってください。

〔成績評価の方法〕
①中間テスト＝　　20 点
②博物館レポート＝　40 点
④期末テスト＝　　40 点
計：100 点満点

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
『日本博物館成立史　普及版』　椎名 仙卓　雄山閣　３，３００円　　9784639028123　2022 年
（購入の必要なし）

〔参考書〕
授業回ごとに提示しします。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業に関する質問・相談は、オフィスアワーおよびオンライン（メールや CoursePower 等）で随時受け付けます。

〔特記事項〕
・アクティブ・ラーニング
【重要】AI の使用について
成績評価の対象となる論文、レポート、作品及びその他の課題において、ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_topics/2023/15058.html ）を参照のこと。

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	写真論						
教員名	調　文明						
科目№	125541190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
インターネットや SNS の普及により、写真はコミュニケーションツールのひとつとして私たちの日常生活に欠かせない「お手軽」なメディアとなっています。しかし、その一方で、写真誕生から 200 年弱の比較的短い歴史ながら、写真が担い果たしてきた役割や機能はきわめて「重厚」でもあります。そこで、本講義では写真の歴史に沿いつつ、写真（論）の基本的な要素（光化学/機械/複製/身体/私など）について各回テーマを設定し、具体的な写真映像を様々に挙げながら詳しく検討していきます。

〔到達目標〕
DP2（教養の修得）を達成するために、19 世紀前半から始まる写真の歴史についての基礎知識を習得しつつ、写真（論）の基本的な要素について具体的な写真映像の分析・考察も交えながら学ぶことで、写真映像一般についての教養と実践的な力を身につけることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 授業キーワード：初回授業はなし	【予習】シラバスを通覧したうえで、関心を抱いたテーマや内容について図書館やインターネットを利用して事前に調査しておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	60 分
第２回	新しい象り方：手から光へ 授業キーワード：ネガティブ・ハンド/聖骸布・聖顔布/『博物誌』	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第３回	光の装置：カメラ・オブスクラとマジック・ランタン 授業キーワード：小穴投影/一眼レフカメラ/ファンタスマゴリア	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第４回	写真の一多性：ダゲレオタイプとカロタイプ 授業キーワード：ハロゲン化銀/ダゲールとタルボット/ネガポジ法	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第５回	記録としての写真：国益の視点から当事者の視点まで 授業キーワード：ロジャー・フェントンとクリミア戦争/ルイス・ハインと児童労働/SNS の現場写真	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第６回	表現としての写真：画家の目と機械の眼 授業キーワード：シャルル・ボードレール「1859 年のサロン」/写真は光の造形である/フォト・アウゲ（写真眼）	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第７回	写真論小史Ⅰ 授業キーワード：アウラの消失/コードなきメッセージ/中間芸術	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第８回	写真と複製：現代アートと複製技術の交叉 授業キーワード：マルセル・デュシャンの《泉》/アンディ・ウォーホルとシルクスクリーン/シミュレーショニズム	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第９回	写真と複製：御真影とうつし 授業キーワード：寿像と遺像/六大巡幸/エドアルド・キヨッソーネ	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１０回	写真と身体：ファッション誌における女性表象 授業キーワード：『Harper's BAZAAR』と『VOGUE』/ストリートファッション・スナップ/SNS のセルフィ―	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１１回	写真と身体：肖像と生＝性 授業キーワード：ケネス・クラークの nude と naked/身体とLGBTQ/《イントラ・ヴィーナス》とセルフヌード	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１２回	写真と私：私写真とはなにか 授業キーワード：私小説と私写真/深瀬昌久と荒木経惟/洋子と陽子	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１３回	写真と私：なりきること 授業キーワード：オリジナルとコピー/ジャン・ボードリヤール『シミュラークルとシミュレーション』/ヴァナキュラー写真	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１４回	写真論小史Ⅱ 授業キーワード：プンクトゥムと個別学/アラン・セクーラ「身体とアーカイブ」/デジタル写真	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておい	90 分

		てください。	

〔授業の方法〕
対面による講義形式を中心に、WebClass もしくは Discord といったソーシャルネットワークツールを用いて授業内の質疑応答も交えながら授業を行う予定です。各回ごとに事前に授業資料を配布し、授業の最後にはリアクションペーパーを提出してもらいます。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパー、授業内の質疑応答）：30%
期末レポート：70%
上記を基準に総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
写真論の基本的な要素を理解したうえで、様々な時代、国、領域などに登場する写真映像を分析する際に、そうした要素を的確に召喚し考察の手立てとすることができるのか、その理解度・達成度を軸に評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。
授業資料を配布します。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教育概論						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
「日本語教員養成コース」への入り口の一つとして、日本語教育科目全体を俯瞰（ふかん）する。　コミュニケーション能力・対人スキルを高め、学習における自主性、自律性を促すために、グループ活動を多用する。授業への出席は義務であるため、公欠に該当しない理由で欠席しないように自己管理に努めること。

〔到達目標〕
DP4-1（自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ味わい深く発信できる豊かな表現力を身に付けている。）DP5-1（多様な人々と協働して課題解決に取り組んだ経験を通じて、多様な価値観を受容し、協調性やコミュニケーション力を身に付け、チームの中で自分の役割を的確に果たすことができる。）
・日本語教育の現状、日本語教育が目指すもの、日本語学習者について簡単な説明ができる。
・外国語としての日本語の特徴について簡単な説明できる。
・教室で指された時、発表する時は、聞き手の顔を見て、教室にいる者全員に届く声で話す「先生モード」に切り換える。
・日本語教員養成コースを修了するまでの心構えを構築できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション；日本語教員に求められる資質；国内の日本語教育；外国人の受入れ	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第２回	海外の日本語教育；言語政策の現在・過去・未来	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第３回	日本語教育の教材；日本語試験；市販教材の著作権	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第４回	移民先進国の取り組み；グローバル・コミュニケーション計画	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第５回	異文化間コミュニケーション論（１）マイクロアグレッション・差別・偏見	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第６回	異文化間コミュニケーション論（２）U 字曲線；文化のカテゴリー化	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第７回	自分の外国語に見る言語知識・技能の獲得；学習者の日本語	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第８回	日本語の音声（１）声帯振動・子音の調音点・子音の調音法	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第９回	日本語の音声（２）アクセント・イントネーション・プロミネンス	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第１０回	日本語の文字・表記：50 音と拡大 50 音	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第１１回	日本語の形態論：語内部の構造	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第１２回	日本語の統語論：句内・文内の構造	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第１３回	日本語の意味体系	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第１４回	日本語の語用論	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60

〔授業の方法〕
グループワークを中心とした参加型の授業です。受講者が主体的に学び、講師はその手助けをします。

〔成績評価の方法〕
平常点　　２０％
小テスト　　６０％
ピア評価　　１０％
グループ評価　１０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第 5 版（2021）ヒューマンアカデミー ¥3,520
ISBN-10 ： 4798167193
（本テキストは、「日本語教授法」の使用テキストを兼ねている。）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
Course Power で周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教育方法論						
教員名	小田切　由香子						
科目№	125551120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
テーマ：日本語教育に必須の知識を実践を通じて理解する
毎回授業の 45 分間、オンラインで初級外国人学習者に 1 対 1 または 1 対 2 で日本語会話指導を行う。
授業の残りの時間は指導に関わる知識、理論、技術を必要に応じて学び、同時に教師の成長に必須の
「省察力」を養うために「ふりかえり」を実施。また、提出を指定されて書く「ふりかえり」では第三者である担当講師が
コメントなどによりプロの実践家として関わり,学生の「教師としての成長」を支援する。
＊オンライン会話指導はクラスを 14 名のグループに分け、14 名がペアとなり 7 名の学習者に 2 対 1 で指導。
1 つのグループは 3 回連続して指導する。ただし、協力してくれる外国人学習者の数により変更することが
ある。2024 年度は、履修学生が少なかったため全 14 回の指導となった。

〔到達目標〕
DP1-1（専門分野の知識・技能）、DP4-1（表現力、発信力）、DP-5（多様な人々との協働、コミュニケーション＋協調性＋チームワーク）
上記を目的として、以下のことができるようになる。
・学習者とのコミュニケーションを通じて日本語を教えるという日本語教育の特性を理解できる
・日本語教育の実践に関わる諸事情（授業の組み立て、教材分析と作成など）を理解し日本語教師養成段階に必要な資質・技術・態度を身につけることができる。＊必要な資質、技術、態度の詳細については「日本語教師養成・研修のある方　改訂版」を参照のこと。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	コース・オリエンテーション 日本語教員に期待される役割等について	予習：文化庁資料「養成・研修のあり方」の養成に必要な資質、技能、態度を読んでおく	60 分
第 2 回	第 1 回によるオンライン会話指導 1 グループでふり帰り 学習者が理解できる文法、語彙を知る	予習：学習者が学ぶ教科書『みんなの日本語初級』で、学習者が勉強した課までに出ている語彙、文法を自分でチェックする。	60 分
第 3 回	第 1 回オンライン会話指導 2 ・アクションリサーチと会話分析につてい	予習：アクションリサーチについて調べておく	60 分
第 4 回	第 1 回オンライン指導 3 ・日本語参照枠について	予習：日本語参照枠について調べておく	60 分
第 5 回	第 2 回オンライン指導 1 ・異文化トレランスについて	予習：異文化トレランスについて調べておく	60 分
第 6 回	第 2 回オンライン会話指導 2(自分の指導を録画して、3 分間の会話を切り取り文字に起こす) ・技能別言語運用能力と指導について	予習：技能別言語指導について調べておく	60 分
第 7 回	第 2 回オンライン指導 3 ・訂正とフィードバックについて	予習：学習者の間違いの訂正の方法について調べておく	60 分
第 8 回	第 3 回オンライン会話指導 1 学習者が理解できる文法、語彙を知る	予習：学習者が学ぶ教科書『みんなの日本語初級』で、学習者が勉強した課までに出ている語彙、文法を自分でチェックする。	60 分
第 9 回	第 3 回オンライン会話指導 2 ・ARCS モデルについて	予習：ARCS モデルについて調べておく	60 分
第１０回	第 3 回オンライン会話指導 3 ・外国語教授法と実践への応用	予習：外国語教授法について調べておく	60 分
第１１回	第 4 回自作教材によるオンライン会話指 1 ・シラバスについて	予習：シラバスについて調べておく	60 分
第１２回	第 4 回自作教材によるオンライン会話指 2 ・評価について	予習：評価について調べておく	60 分
第１３回	自作教案と教材によるオンライン会話指 3 ・自作教材のふりかえり	予習：日本語教材に関連する資料を読む	60 分
第１４回	第 4 回オンライン会話指導 1 ・オンライン指導で実践したこと、学んだことをワークシートでふりかえりながら整理する。	予習：これまで自分が書いてきた「ふりかえり」を読み直す。授業のノートを読み直す。	60 分

〔授業の方法〕
zoom によるオンライン会話指導をしますから、指導担当者は必ず PC を準備してください。
指導見学者はスマホでも構いません。
知識・理論学習はグループワークも含みます。
指導担当者は指定された時のみ「ふりかえり」を書いて提出します。見学者も見学シートを書きます。
指定日は、基本的に各回の最後の指導日ですが、不正を避けるため「ふりかえり」提出日を変更することがあります。

テストはありません。

〔成績評価の方法〕
ふりかえり　30%, 宿題 30%, ワークシート等 20%, 平常点 20%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。時間がある人は日本語の教科書『みんなの日本語初級』I と II、英語文法解説を読んでおいてください。

〔テキスト〕
必要に応じてプリントを配布

〔参考書〕
ヒューマンアカデミー著「日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第５版」SHOEISHA、文化庁資料、法務省資料
アルク日本語編集部編,2024「日本語教員試験　まるわかりガイド」アルク

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。
メールも受け付けます

〔特記事項〕
zoom によるオンライン指導の方法を学ぶ、現場に合ったやさしい日本語運用方法を学ぶ

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教育事情						
教員名	小田切　由香子						
科目№	125551140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
毎回授業の 45 分間、オンラインで初級外国人学習者に 1 対 1 または 1 対 2 で日本語会話指導を行う。
授業の残りの時間は指導に関わる知識、理論、技術を必要に応じて学び、同時に教師の成長に必須の
「省察力」を養うために「ふりかえり」を書く。この「ふりかえり」には第三者である担当講師が
コメントなどによりプロの実践家として関わり学生の「教師としての成長」を支援する。
＊オンライン会話指導はクラスをグループまたはペアに分け、学習者に 2 対 1 （または 3 対 1）で指導。 1 つのグループ／ペアは 3 回連続して指導する。＊協力してくれる外国人学習者の数により授業を変更することがあります。
毎回の授業に PC を持ってきてください。

〔到達目標〕
DP1-1(専門分野の知識・技能）DP4-1（表現力・発信力）DP-5（多様な人々との協働　コミュニケーション+協調性＋チームワーク）
上記を目的とし、以下のことができるようになります。日本語教育の実践に関わる諸事情（コースの準備、授業の組み立て、授業の展開、評価）を理解し養成段階に必要な資質・技術・態度を身につける。
・コミュニケーションを通じてコミュニケーションを教える技術を習得する。
・日本語および学習者の言語・文化に対する知識を得て、それを教材作成に反映させ文化を双方向的に学ぶ技術を習得する。
・内省的実践家としての教師がどのようなものか理解する

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第 1 回	コース・オリエンテーション： 日本語教員に期待される役割、共に学ぶ姿勢について 授業実施サイクル、構成、目標設定、 教案と教材について	予習：日本語教員の役割について調べる。教案について調べる、zoom について調べる	60 分
第 2 回	第 1 回オンライン会話指導 1 『みんなの日本語初級』を分析して学習者の既習項目について把握する。	予習：『みんなの日本語初級』を読んで、学習者が学んだ文法、語彙を把握する	60 分
第 3 回	第 1 回オンライン会話指導 2 特定技能実習制度について	予習：特定技能実習制度について調べる、学習者が働く日本の場所について調べる	60 分
第 4 回	第 1 回オンライン会話指導 3 「初級・中級・上級」について 日本語参照枠	予習：日本語参照枠について調べる	60 分
第 5 回	第 2 回オンライン会話指導 1 技能実習生への日本語教育について	予習：技能実習生について調べる	60 分
第 6 回	第 2 回オンライン会話指導 2 web 教材について	予習：文化庁の日本語教材コンテンツを読む	60 分
第 7 回	第 2 回オンライン会話指導 3 地域日本語教育について	予習：地域日本語教育について調べる	60 分
第 8 回	第 3 回オンライン会話指導 1 会話教材について	予習：会話教材について調べる	60 分
第 9 回	第 3 回オンライン会話指導 2 日本事情を扱う教材について	予習：日本事情について調べる	60 分
第１０回	第 3 回オンライン会話指導 3 ワークショップ「外国語教授法と実践への応用」	予習：外国語教授法について調べる	60 分
第１１回	第 4 回自作教材によるオンライン会話指導 学習者のニーズとシラバスについて	予習：ニーズとシラバスについて調べる	60 分
第１２回	第 4 回自作教材によるオンライン会話指導 日本語教育で使われるテストについて	予習：日本語能力試験について調べる	60 分
第１３回	第 4 回自作教材によるオンライン会話指導 コミュニケーション能力評価について	予習：文化庁報告書で「技能実習生に教える日本語教員に必要な知識・技能 態度」の表を読む	60 分
第１４回	第 5 回オンライン会話指導 1 日本語教育能力検定と日本語教員試験	予習：日本語教育能力検定と日本語教員試験について調べる	60 分

〔授業の方法〕
zoom を使ったオンライン日本語会話指導を毎回します。指導担当者は指導後「ふりかえり」を書きます。
指導見学者もこちらの指示が出た時に見学シートを書きます。
テストはありませんが、第 11~13 回授業では自分で授業計画をたて、教材も準備して指導にあたります。
どこまで丁寧に指導に取り組めるかが評価の大きな観点となります。
テストはありません。

〔成績評価の方法〕
ふりかえり 40%、宿題 20%、プリントワークシート 20%、平常点（どこまで指導に丁寧に取り組んだか、授業での気づきを実践しているか等）20%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません

〔テキスト〕
必要に応じてプリント配布

〔参考書〕
必要に応じて紹介します

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
実践的、zoom を通じたオンライン会話指導、やさしい日本語創出力、チームワーク

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	言語学講義（言語と社会）						
教員名	川橋　葉子						
科目№	125551150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
教師として必要な言語学についての知識を日本語教育の視点から学習、習得する。
授業ではディスカッションを通し、理解を深め、普段何気なく使用している日本語を学問的な視点から分析できることを目指す。

〔到達目標〕
1．言語学に関する知識を得ることができる
2．実際の日本語教育現場における問題点に関する知識を得ることができる
3．グループワークを通し、仲間とのコミュニケーション技術、協働作業の方略を得ることができる
4．自分がこれまでに得た経験や知識を日本語教育に活かす技術が身に付く

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス 言語学について 一般言語学（1）	事前にシラバスと Course Power で課題を確認し、準備を行う	60 分
第2回	一般言語学（2）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第3回	対照言語学（1）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第4回	対照言語学（2）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第5回	意味論（1）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第6回	意味論（2）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第7回	語用論	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第8回	待遇・敬意表現（1）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第9回	待遇・敬意表現（2）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第10回	社会言語学（1）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第11回	社会言語学（2）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第12回	日本語教育と ICT（1）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第13回	日本語教育と ICT（2）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第14回	まとめ	事前課題を読み、自分の意見をまとめる	60 分

〔授業の方法〕
グループワークを行います。
毎回課題があります。
履修者の興味関心分野や理解度、人数により、授業内容や活動内容に変更の可能性があります。

〔成績評価の方法〕
平常点（毎回の授業後に課される課題の提出状況と授業中のディスカッションへの参加態度）　50%
課題提出（学期に 1 回グループでの発表）　30%
小テスト　20%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
『言語学入門』、佐久間純一・加藤重広・町田健、研究社、1,980 円、ISBN：978-4-327-40138-2

〔参考書〕
『よくわかる言語学』、窪薗晴夫、ミネルヴァ書房、2,860 円、ISBN：9784623086740
購入の必要はありません。
その他、使用する資料、参考書などは適宜授業で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語の学習と習得						
教員名	川橋　葉子						
科目№	125551160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 オンライン（後期）

〔テーマ・概要〕
日本語教育に関して、教師として必要な習得、言語に関する知識を扱います。また、日本国内の日本語教育事情だけでなく、海外の日本語教育についても触れます。

〔到達目標〕
1．学習や第二言語習得に関する知識を得ることができる
2．実際の日本語教育現場における問題点に関する知識を得ることができる
3．オンライン上の意見交換を通し、仲間とのコミュニケーション技術、協働作業の方略を得ることができる
4．自分がこれまでに得た経験や知識を日本語教育に活かす技術が身に付く

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス 日本語教育について	宿題：課題提出	60 分
第2回	言語習得と発達（1）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第3回	言語習得と発達（1）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第4回	言語習得と発達（2）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第5回	日本語の構造（1）　日本語分析	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第6回	日本語の構造（2）　音声・音韻	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第7回	日本語の構造（2）　音声・音韻	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第8回	日本語の構造（3）　文字・表記	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第9回	日本語の構造（3）　文字・表記	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第10回	日本語の構造（4）　語彙	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第11回	日本語の構造（4）　語彙	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第12回	海外の日本語教育（1）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第13回	海外の日本語教育（2）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第14回	まとめ	事前課題を読み、自分の意見をまとめる	60 分

〔授業の方法〕
オンライン
毎回課題があります。

〔成績評価の方法〕
平常点（Course Power、Excel 上に提示される毎回の課題）　50%
課題提出（学期中に 1 回課題発表）　20%
小テスト（Course Power 上の確認テスト）　30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
Course Power で適宜、提示します。

〔参考書〕
Course Power で適宜、紹介、提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
ICT 活用

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	言語の構造						
教員名	吉田　昌平						
科目No.	125551170	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
この科目では、科学的な理論にもとづいたヒトの「コトバ」の仕組みについて学べます。授業形態は、学習における自主性、自律性を促すために、グループ活動を多用する。授業への出席は義務であるため、公欠に該当しない理由で欠席しないように自己管理に努めること。なお授業内容には、本年度前期開講の「対照言語学」と共通した項目があるが、本授業ではより高度の内容を取り上げる。

〔到達目標〕
DP1-1 【専門分野の知識・技能の修得】(各学科、各専攻の) 専門分野に関する知識・技能を修得している。
具体的には・・・・
・記述言語学の主要分野のいくつかを知ることができる。
・日本語教員に求められる言語一般に関する洞察力を身に付けることができる。÷
・日本語が多言語と共有する普遍性と多言語と一線を画す特質について簡単な説明ができる。
・学習者の母語についての観察力、洞察力を高めることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション；アイスブレーキング（私のストラテジー）	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第２回	社会言語学（１）言語、方言、クレオール、ピジン	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第３回	社会言語学（２）ダイグロシア；待遇表現；非言語活動	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第４回	音声学（１）国際音声記号の産出と認識	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第５回	音声学（２）声帯振動；調音点；聴音法	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第６回	音声学（３）50 音と日本語音声学	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第７回	音韻論（１）音素と異音；音韻規則；弁別素性	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第８回	音韻論（２）音韻規則による般化の練習	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第９回	音韻論（３）音節とモーラ；弁別素性；音節構造に関する標準理論	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１０回	音韻論（４）弁別素性理論・標準音節理論に対するエレメント理論と厳密 CV 理論	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１１回	形態論（１）形態素；樹形図	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１２回	形態論（２）３言語への応用	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１３回	統語論（１）構成素；句構造規則；樹形図	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１４回	統語論（２）３言語の樹形図	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	30

〔授業の方法〕
理論を理解するために、実践的演習としてのグループ活動を多く行う。

〔成績評価の方法〕
平常点　　２０％
小テスト　　６０％
ピア評価　　１０％
グループ評価　１０％

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/ A letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	対照言語学（言語の普遍性と多様性）						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期

〔テーマ・概要〕
文法体系、音韻体系が著しく異なる日本語（語族不明）、英語（印欧語族ゲルマン語派）、アラビア語（アフロ・アジア語族セム語派）を比較・対照する。授業形態は、学習における自主性、自律性を促すために、グループ活動を多用する。授業への出席は義務であるため、公欠に該当しない理由で欠席しないように自己管理に努めること。なお授業内容には、本年度後期開講の「言語の構造」と共通した項目があるが、本授業では日本語への応用を重視し、紹介する理論は安易なものに留めている。

〔到達目標〕
DP1-3 言語学の基礎的な概念及び理論を修得し、言語学の方法論を用いて英語や比較としての他言語の仕組みを分析し理解することができる。
DP2-2 日本語及び日本文学に関し、学科教育の基盤をなす諸学問分野の視点を組み合わせ、必要に応じさらに幅広い分野の知見を加えて、学際的かつ総合的に理解する力を備えている。
・記述言語学の主要分野のいくつかを知ることができる。
・日本語教員に求められる言語一般に関する洞察力を身に付けることができる。÷
・日本語が多言語と共有する普遍性と多言語と一線を画す特質について簡単な説明ができる。
・学習者の母語についての観察力を高めることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション；対照言語学とは；アイスブレーキング（私のストラテジー）	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第２回	音声学入門（国際音声記号・声帯振動・調音位置・調音法）	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第３回	歴史言語学（比較言語学）（１）インドヨーロッパ語族の発見；英語	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第４回	歴史言語学（比較言語学）（２）アフロ・アジア語族セム語派；アラビア語	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第５回	歴史言語学（比較言語学）（３）ジャポニカ語起源の諸説：日本語	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第６回	音声学（１）英語；アラビア語	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第７回	音声学（２）日本語の 50 音と拡大 50 音	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第８回	社会言語学（１）言語、方言、クレオール、ピジン	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第９回	社会言語学（２）ダイグロシア；待遇表現；非言語活動	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１０回	音韻論（１）音素と異音	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１１回	音韻論（２）音韻規則	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１２回	形態論（１）形態素；樹形図	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１３回	統語論（１）構成素；句構造規則；樹形図	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１４回	統語論（２）３言語の樹形図	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60

〔授業の方法〕
原則として講義形式で行うが、グループ活動もふんだんに行う。

〔成績評価の方法〕
平常点　　２０％
小テスト　　６０％
ピア評価　　１０％
グループ評価　１０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブラーニング

25/2/12 20 時 3 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教授法						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期

〔テーマ・概要〕
日本語教授法の知識を得ることを目的としている。同時に日本語教員の役割も理解する。
実際に日本語教員が関わるショートビジットの留学生への対応などを課題として、
より実践的に日本語教育能力県的試験に出題される知識を学ぶように活動が組み立ててある。
さらに、知識を得ると同時に日本語教員に重要なコミュニケーション力を身につけられるように参加型の授業になっている。
また、本授業と海外の日本語教室を Zoom でつないで実習を行う可能性が強い。実施する場合は、受講生２～４名がチームとなって 1 名の学習者を教えることになる。その場合、実施回数に応じて本シラバスを変更することになる。

〔到達目標〕
PD1-1(専門分野の知識・技能)、PD4-1（表現力・発信力)、PD5-1（多用な人々との協働　ミュニケーション＋協調性＋チームワーク）を実現するために、以下の項目を到達目標とする
1. 教授法に関する重要な用語を理解し覚えている。
2. 教授法について自分の意見が言える。
3. 学習者の目的に合わせて、適格な教授法、教材、学習環境を使った授業を計画することができる。
4. グループ活動で他人にまかせず、自分から積極的に動くことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション；直説法と媒介語の使用	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第２回	言語形式の理解；語用論；談話	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第３回	外国語教授法の歴史	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	120 分
第４回	日本語教育に採用された諸理論	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第５回	日本語教員の役割；インストラクション・デザイン；日本語の試験	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第６回	日本語の音声教授法	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第７回	日本語の文字と語彙の教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第８回	日本語の文法の教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第９回	日本語を聞き理解するための教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１０回	日本語を話すための教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１１回	日本語を読むための教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１２回	日本語を書くための教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１３回	学習者の評価方法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１４回	教師の自己改善；教材開発	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分

〔授業の方法〕
グループワークが中心の参加型授業です。意見を交換たり、課題に取り組むことで日本語教員に必要なコミュニケーション力と協働技術を学びます。
教授法は日本語教員の資格試験である日本語教育能力検定試験にも出題される項目なので、言葉の説明だけでなく実際に体験しながら理解した上で覚るようにします。
日本語教員は、産業としての日本語教育の中でも最も重要な商品です。学習者以上に、何があっても時間通りにクラスに現れることが要求され、何があっても明るく教育・学習活動をクリエイトし、クライアントである学習者が満足するように努めることが要求されます。授業は、この精神にもとづいて実施します。
海外の日本語教室とリンクさせて行う実習の実施の有無について、また実施に伴うシラバスの変更については初回授業で発表します。

〔成績評価の方法〕

平常点　　２０％
小テスト　　６０％
ピア評価　　１０％
グループ評価　１０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
特に以下の点に注目して評価します。
1. クラスでの課題が円滑にいくように宿題や予習をしているか。
2.　ペアまたはグループ活動で沈黙せず、積極的かつ的確に自分の意見を伝えているか。
3.　教授法の特徴や関連重要用語を理解し覚えているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第 5 版（2021）ヒューマンアカデミー
（本テキストは、「日本語教育概論」の使用テキストを兼ねている。）

〔参考書〕
必要に応じてお知らせします。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。Course Power で周知します。

〔特記事項〕
アクティブラーニング